

京女で学ぶ現代社会
2024

京都女子大学現代社会学部

目次

目次	i
第1章 自己紹介をしよう！（嘉本伊都子）	1
第2章 大学で何を学ぶのか：大学における学びの作法（森久聡）	8
第3章 読書ノートの作り方：本を読むコツを身に付ける（森久聡）	18
第4章 On Learning English (Tim Kawanishi-Young)	26
第5章 正しいレポート・レジュメの体裁（江口聡）	29
第6章 引用・参照した文献の書き方（江口聡）	33
第7章 剽窃を避ける（江口聡）	39
第8章 「社会を見る目」を鍛えよう！（奥井亜紗子）	51
第9章 ロジカル・シンキングに挑戦しよう！（嘉本伊都子）	59
第10章 インターネット通信量からみる社会（中山貴夫）	68
第11章 安定結婚問題（宮下健輔）	76
第12章 思春期青年期のメンタルヘルスリテラシーについて：ひきこもり予防を中心に（濱崎由紀子）	82
第13章 生命の始まりと終わりへの介入はどこまで許されるか（霜田求）	87
第14章 現代社会における宗教（藤井隆道）	93
第15章 SNSを心理学する（正木大貴）	101
第16章 ポップ音楽オタクになろう！（江口聡）	110
第17章 メディア研究の視座から音楽聴取のプラットフォームを考える（日高良祐）	122
第18章 都市計画とまちづくり：市民活動の現場から学ぶ（森久聡）	129
第19章 電力と電力会社とわたしたち（諏訪亜紀）	138

第 20 章	子供をもつという選択：少子化のゆくえ（坂爪聡子）	150
第 21 章	今日の日本経済：経済学事始め（鳥谷一生）	158
第 22 章	カネの面から会社をみてみよう（掛谷純子）	165
第 23 章	児童労働を考える（戸田真紀子）	173
第 24 章	政治からみた東アジア：どこが似ていて、どこが違っているのか？（松本充豊）	180

第1章

自己紹介をしよう！（嘉本伊都子）

はじめに

変化の激しい21世紀、COVID-19によって、人類はどこにいても「あたりまえ」のことが「あたりまえ」でなくなることを経験している。リモート授業となり、デジタル後進国の日本では、先生も生徒も初めてのことで試行錯誤の連続であった。就職活動もオンラインでのウェブ面接となった。

高校まではほぼ同じメンバーで同じ先生に習い、自己紹介することもなかったであろう。だが、大学や社会は、ほぼ初対面の人と「何かをやっていく」ことの連続である。高校までは決められた時間割があり、決まった先生が教科を教えてくれていた。だが大学は自分で授業を選択する。

これからの人生、すべてあなた自身の「選択」によって決まる。カリキュラム選択も、ゼミ選択も、就職活動も、配偶者選択も。選択を「主体的」におこなう自分が何者なのか。自分が何を欲し、何を学びたいのか、どんな職業につきたいのか、考える機会がなかった。あるいは、「まだわからない」から現代社会学部に入学したのかもしれない。

筆者が専門とする国際結婚の社会学では、いわゆるハーフと呼ばれる子どもたちにも言及する。父と母が別の国出身であるゆえに、ある時は日本人ではないと言われ、ある時は日本人として英雄視される。テニスで活躍する大阪なおみさんは「何人（なにじん）」なのかを日本にいれば常に問われ続けた。一方、アメリカでは日本人かどうかよりも黒人であることが問われる。2020年の全米オープンテニスで「一人のアスリートである前に、一人の黒人女性です」と差別が繰り返される現状に異議申し立てをした。黒いマスクに、命を奪われた方々の名前を一人一人記すことによって、優勝するまで戦いつづけた。

自分は何者なのか？自己紹介は、選択をする自分とは何者なのかを自ら問い、他者へ伝えることである。

自己紹介は、就職活動の面接を想定して行ってほしい。つまり、あなたを知らない初めてあなたに会う人に、どうしたら自己紹介が上手くできるかを考えてほしい。そして実践をしてみよう。うまくいかないとき、あるいはもっとうまく自己紹介をしたいとき、どうしたらよいかをこの章ではアドバイスする。

1 ゼミ選択と人生の選択 それはカリキュラム選択から始まっている

高校は定められたカリキュラムを履修しなくてはならないが、大学の場合、講義科目であれ、ゼミであれ、自分の頭で考えて「主体的に選択」をする余地が大きい。常に自分がカリキュラムを組み立

て、必要単位数や必須科目をにらめっこしながら、科目を選択していく。

1年生のうちに取っておかなければならない単位だけを考えるのではなく、「上級生になったら、この専門科目は学びたいな」、「この先生のゼミで学びたいな」と思うものにマーキングしていこう。すると、その科目を履修する前に1年生のうちに履修しておくべき科目は自動的に決まっていく。行きたいゼミの先生がどのような科目を教えているのかも要チェックである。さらに、苦手だなと思う科目も2, 3入れておくといい。案外食わず嫌いだったということになるかもしれない。「やらない」理由を探すのではなく「やってみる」。ダメなら手放す。方向転換する。

現代社会学部では1年生の前期はゼミの配属に自由がなく学生証番号順で割り振られる。後期からはゼミ選択をせまられる（6月下旬から7月ごろ）。高校の学びと、大学の学びの違いは、演習科目、一般にゼミと呼ばれる少人数クラスである。大学において少人数クラスの演習科目は、ゼミナール、略してゼミと呼ぶ。定員規模が大きいいわゆるマンモス大学であれば、必然的にゼミの人数は30人近くになるが、国立大学あるいは女子大のように小規模校であれば1クラス15人前後である。学生1人あたりの発表の機会は、ゼミの人数が少なければ少ないほど多くなる。授業料もその分お得であろう。

人生は選択の連続である。ゼミ選択と同様に、就職活動（略してシュウカツと学生は呼ぶので、以下就活）も自分で企業を選択して、入社試験を受けなければならない。コンカツ、すなわち結婚活動も、「主体的選択」が重視される恋愛結婚では、どんなに自分の希望を並べても、相手の希望と齟齬があれば、選択されないこともある。ゼミ選択も就職活動も実は同じである。

「やりたいことがわからない」とゼミ選択でも企業選択でも言い訳をする学生がいるが、面接を「D O = やって」みなければわからない。「やってみたいです」は高校生まで、大学は「何々をやっています」と答えられるようになる。

嘉本ゼミではゼミを本格的に始めるまえに徹底して自己紹介の訓練をする。自己紹介にダメ出しもする。なぜダメ出しをするのか？就活で、自分ではうまくいったと思う面接でも落とされることもあるからだ。だが、誰もダメ出しをしてくれない。お祈りメールという不合格通知とともに、あなたの幸せをお祈りされるメールが企業から届くだけである。「嘉本先生って、自己紹介でダメ出しするらしいよ。」「ありえない、まじ無理〜」という嘉本ゼミをとったことのない学生さんが噂していた。エレベーターの中で私が隣にいたが、彼女たちは私に気づかない。自己紹介にダメ出しをするような大学の先生は、絶滅危惧種ぐらい少ないので、当然の反応であろう。だが、ダメ出しを受けた学生は、最初はきつなくても「ダメ出しをしてもらえるほうがありがたい」と思うようになる。

「まじ無理〜」と言っていた学生は、就活中にやがてお金を払って就活の模擬面接を受けることになるだろう。私からダメ出しを受けた後、学生は修正し、もう一度チャレンジする機会がある。失敗からどう立ち直るかは就活で必ず聞かれる質問であるが、自己紹介からそのチャンスを与える。アドバイスを無視して前回と全く同じ自己紹介をする学生もいれば、工夫してくる学生もいる。最初からレベルの高い自己紹介ができた学生には、同じネタではなく別のネタで自己紹介するよう1回目アドバイスをする。企業面接ですら1回では終わらない、最終選考までに複数回受けるのであるから、「ネタ」は多いほうがいい。このように授業で自己紹介を徹底して行うことで、その学生のそのゼミの成績はおおよそ予測できる。

ゼミ選択も、自分が何者なのか、自分が何を学びたいかを「ことあげ」（＝言葉に出す）することに他ならない。適当にゼミ選択をすると、卒業論文（以下、卒論）を書くゼミ（3～4年生の2年間同じ先生に指導を受ける）を選択する2回生後期に「自分が何をしたいのかわからない」「どのゼミにいったらいいかわからない」学生が発生する。これでは高校生から何一つ成長しなかったことになる。なかには、行く先がなく定員に余裕のある嘉本ゼミに面接を申し込んでくる学生もいる。このよ

うな症状のある学生さんは、嘉本ゼミを「まじ無理～」とあって避けてきた学生である。「自ら主体的に選択する」という練習が圧倒的に足りていない。新聞記事を1月から3カ月毎日1つ選択し、なぜその記事に自分が興味をもったのか「ことあげ」（＝レポートにする課題）の練習を入ゼミ前にしてもらおう。

毎回のゼミ選択は、就活と同様、真剣にやっていただきたい。卒論ゼミまでに3回はゼミを「主体的に」選択できる。ぜひ、**全部異なる先生**を選択してほしい。同じ先生を選択し続けることは、楽かもしれないが人生の選択肢を狭めている。「自分が何をしたらいいかわからない」学生の多くは、やさしい先生を何回も選んだ末に、卒論ゼミを決めなくてはならない大事なゼミ選択時に選抜してもらえないことがある。なぜなら先生が優しくて人気のゼミには人数が集中するからだ。企業も同じである。人気のある企業の採用人数と、その男女比を調べるとよい。そして大学は700校ある。よほど優秀でなければ人気の企業から内定がもらえるとは限らない。ゼミ選択と同じである。しっかりゼミを選択し、「何かできるようになる」ことを増やしていくのが大学の学び。「何かできるようになる」かは、ゼミによって多少異なるので、情報収集が大事だ。

大学での学びは、正解を時間内にすばやく答えることではない。困難であることに挑み、自分の思考を深め、ロジカルに表現するという胆力を鍛える場である。特にゼミで書く卒業論文＝卒論は、先生が「正解」を求めるのではない。卒論を書くあなた自身が「正解」を導きだすプロセスを、失敗を繰り返しながら学んでゆく。卒論やレポートにはルールがあるので、そのルール内で自己表現をするということでもある。一人では人間、何もできない。同じ学びを深めたい仲間とともに切磋琢磨し、お互い思考を深めることに「面白さ」を発見できるゼミを選択できたなら、あなたはラッキーである。大学や先生に頼るのではなく、「仲間」を大事にすること。そして「仲間」とともに作り上げる卒論は、卒業後の人生のよりどころになる。卒論は自分自身なのだから。

自己紹介も同じ、本当の「自分」を問い、表現する行為である。だが、「自己」は「重要な他者」のような他人とのかかわりにおいて、何者かがわかる仕組みになっている。自分一人で悶々と悩んでも、本当の「自分」なんかでてこない。もしかすると本当の「自分」なんて、無いのかもしれない。このような困難な問いに根気よく挑戦していく贅沢な時間を過ごすことができる。それが大学4年間である。肩書のない時代に、お腹を見せ合える、すなわちカッコ悪い自分も見せ合える、認めあえる「仲間」に出会うことは人生の宝になる。

あなたが、何を、なぜ、どう望むか、そして挑戦（＝Do）するか。そのためにも、自分はどのような人間かを**自己紹介**し、「ことあげ」しておくことだ。その「ことあげ」は「仲間募集！」という自分の広告でもある。自己紹介を意識的3年間挑戦し続けたならば、就職活動の面接など怖くなくなるはずである。

「どこでもいい、どこか企業に選んでほしい」という受身の学生は、結局選ばれない。ゼミ選択も同じで「入れてくれるならどこでもいい」という学生は、選ばれない。なぜなら「どうでもいい」人生を選択しようとしているからだ。あなたがどのような人生を送りたいか自己紹介できないと、具体的なゼミも企業も決まらない。

大学が、ぼかんと口を開けていたら、知識を突っ込んでくれると思ったら大間違いである。自ら調べ、自ら学ぶ場であるから。就職活動も結局は同じだ。しっかりと企業についてリサーチを事前にする人は、自分がどのような働き方をしたいか、という明確なビジョンがあるから、目的をもってリサーチできる。そして、それが実現可能な企業を選ぶ。選ばれるのではない。選んでいるからこそ、リサーチする＝調べるのである。ゼミ選択も、科目の選択も同じである。このようなことが学びたいから、今「やる」。

自分が何を欲しているかを、「ことあげ」してみよう！

2 自己紹介—相手にわかりやすく具体的に〈自分〉を伝える

2.1 ウォーミングアップ

最初は、お絵描きから始める。自分がなりたい「生き物」憧れる「生き物」を絵に書いてみよう。下手でも問題ない。なんなら、みんな下手に書くために利き手ではないほうで書いてもらってもいい。ただし、ペットで飼っている犬猫ウサギの類は禁止する。なぜなら、猫ちゃん、ワンちゃんだらけになるからだ。それでは、面接では差異化できない。自己紹介とは、いかに自分を覚えてもらうかだ。企業で100人の面接が同じことをしたとしよう。猫と犬が半分もいたら、面接官も飽きる。猫がアルバイトの話で、犬がサークルの話と置き換えてもいい。大半の学生が言うことを同じように言うのでは、企業も選びようがないであろう。

私が経験したなかで一番ユニークなのは「ツチノコ」である。正解がないという意味では「正解」なのかもしれない。でもツチノコの色は何色？匂いは？鳴き声は？なぜ「生き物」に例えさせるか？それは五感を刺激できるキィ・ワードを入れやすく、ビジュアルとして伝わりやすいからである。ウォーミングアップで「生き物」シリーズを軽くやる理由は映像化しやすいからである。

自己紹介とは、自分がどんな「生き物」かを伝えること。聞いていた人の頭の中にどんな「生き物」が映像化されるかは、あなたの表現力にかかってくる。

リモート生活で、ますます YouTube を使って発信する人が増えたとし、見る人も増えた。誰でも YouTuber になれるが、長いと飽きられてしまう。面白くないと途中で別の YouTuber に飛んでいかれる。数分で人を惹きつけることができるか。YouTuber になったつもりで、工夫してみるといいだろう。

ゼミやサークルで自己紹介をする機会が増えると思うが、チャンスだと思って毎回、意識的にチャレンジして欲しい。

2.2 3つの輪

ゼミで重視するプレゼンテーションやレポート作成のポイントは、初めて聞く相手にわかりやすく！である。いかに具体的に〈自分〉を表現するかがポイントとなる。

「3つの輪」は、『就職ジャーナル』というリクルート社が出している雑誌にも、毎年就職活動の第一歩として必ず自己分析する際に紹介されている。「3つの輪」「自己分析」というキーワードを入れてインターネットで検索すると、動画解説付きでいくらでもでてくるので参考にするのもいいだろう。3つの輪はそれぞれ図1「3つの輪」で示したように、過去、現在、未来や、CAN、MUST、WILLとして紹介されている。

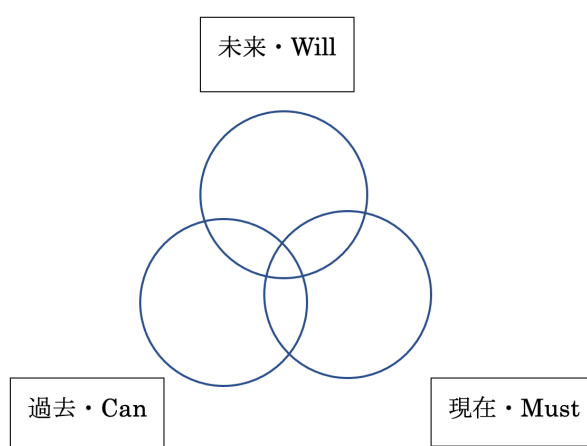


図1 3つの輪

- ☞ 新入生は、過去、現在、未来でやってみよう。
- ☞ 就職活動が始まる3回生には、3つの助動詞を使ってやってみよう！

将来何がしたいか（I will do ～）、それをするために今何ができるか（I can do ～）、「できる」ためには、今なにをなすべきか（I must do ～）を入れてみよう。

自己紹介だけでなく、ものごとを考えるときに1つではなく、3つぐらい考えるクセをつけよう。さらに、3パターンぐらい「ネタ」を用意しておくことだ。企業での面接は、1回では終わらない。複数の企業を同時に受けに行くであろうし、1社でも最終選考に近づく度に、自己紹介のレベルをあげて、ネタを変えていかなければならない。自己紹介のたびにネタ帳をつくって、本日の反応と改善点を書いておくのもいい。新しいことに挑戦してみよう。やってみなければ、何か相手の「心」を揺さぶるかわからない。常に聞いている人はあなたを知らない、初めての人であるという前提を忘れないでほしい。あなたを知っている人には「あたりまえ」でも、初めての人には「あたりまえ」が通じない。この「あたりまえ」からの脱却はなかなか難しい。

将来何がしたいかまだわからない1年生には、好きな事、何なら自分は没頭できるのか、何に自分の「心」が動くのかを考えてみるといい。

Let's try! さあ、とりあえずやってみよう！

☞ 3分で自己紹介してみよう

文章を書いてしまうと、書いた紙を読むために顔が下がるので、なるべくキィ・ワードをそれぞれの輪に書き入れて、それを手がかりに話してみるといいだろう。1つの輪につき、1分、合計3分。タイマーをセットして3分後にアラームが鳴る。だが発表者が、話の途中ならそのまま続けるようにうながす。早く終わった学生には「あと15秒も残っているよ、頑張れ」といって、3分はどれくらいかを体でわからせる。

よくできた学生には、同じネタではなく別のネタを仕込むようアドバイスをする。自己紹介が得意だという学生には、3つの輪がバラバラのエピソードにならないように、起承転結を意識してストーリーを考えようとアドバイスをする（これは新入生にはかなり高度です）。

3 アドバイス篇：5W1H と五感の刺激

3.1 具体的に！とは？

「具体的に！」。ゼミ生の耳にタコができるほど、アドバイスする言葉である。最初は具体的にって何？になるので、例を具体的にあげておこう。

例

新入生：「岡山出身です。音楽が好きです」

就活生：「海外の経験をいかした仕事がしたいと思います」

これらの自己紹介には間違いなくダメ出しがくる。あなたの頭にどんな音楽が鳴りましたか？あなたの脳裏に、この人がどの国でどんな仕事をしているかイメージできましたか？何もビジュアルなイメージもでてこない、色もない（視覚）、音もない（聴覚・触覚）、匂いもしない（嗅覚）。こんな自己紹介、全くおいしくない。新型コロナでも大事な味覚！ウォーミングアップでおこなった「生き物」は、誰でも知っているのでイメージしやすいが、「あなた」という人間は、誰もが知っているわけではない。具体性がないと何も伝わらない。

人の五感を刺激する、キィ・ワードを一言入れるか入れないかで全くかわってくる。先ほどの例に、具体性を足してみよう。

新入生：「藤井風の曲が好きです。おすすめの曲は私の出身地岡山弁でカッコよく歌うnannan？です。聞いてみてください。よかったら一緒に夏フェスいきましょう！」

就活生：「スペインに5年いました。パエリアが大好きです。スペインは太陽をたっぷり浴びた野菜、魚介が豊富なので日本人の舌にも合うシンプルな料理が多いです。まだ知られていないスペインの魅力を伝えるお仕事してみたいです」

新入生でも就活生でも趣味の欄に「音楽」とだけ書く人がいるが、全くもって具体性に欠ける。音楽にもクラシックから、ヘビメタまで様々な分野がある。アイドルグループだって、その中の「推し」

はだれかを入れるだけでも、「あ！私も！」っという聞き手の心を揺さぶることができる。コミュニケーションが生まれるきっかけは、具体性である。自己紹介とは自分が言い放つだけでは、一方的なコミュニケーションで終わる。ボールを投げただけで、永遠にそのボールはあなたには返ってこない。聞いていた人がつい「他にどんな曲知ってる？」、「スペインといえばサッカーよね」とボールを投げ返してくれるような、キャッチボールができる自己紹介が重要なのである。どんなに言いたいことを完璧に丸暗記してみたところで、それは文字どおり「独壇場」で終わる。自己紹介は「青年の主張」ではない。コミュニケーションの手段なのだ。自称「コミュ障」（コミュニケーション障がい）の人は、自己紹介の1つ1つを大切に。

「この人と友達になってみたいな」、「この人となら仕事一緒になると楽しいな」と聞き手の心が動くような自己紹介をすると、ゼミ仲間、仕事仲間として採用されるであろう。また、会社に入っても、仕事を円滑にすすめることができるであろう。困ったときは何に困っているか具体的に言わなければ、誰も助けてくれない。ただ泣いているだけでは、ただの子どもである。困ったときには具体的に助けを呼べる人こそ、大人なのである。

3.2 推理小説作家になったつもりで自分をプロデュース！5W1H

現在、過去、未来の順番に1年生に自己紹介をしてもらおう。なぜなら時系列に並べたほうが、伝わりやすいからである。

ところが、上級生に will, must, can で自己紹介に挑戦させると、時系列（起こった順番にならべること）ができない学生がでてくる。事件は起こった順番が大事。推理小説作家になったつもりで、とアドバイスをする。なぜなら推理作家も主人公の探偵他、配役を具体的に決めなければ事件は起こらない。事件（= what）を起こす犯人像（who）も、なぜ（why）犯人がそのような事件を起こすのかという動機も、どのように（how）犯行に及ぶかも、そして被害者（whom）はどこで（where）に事件に巻き込まれるのか、きちんと書かないと読者（視聴者）は混乱してしまう。

推理小説はすぐ犯人がわかるとつまらない。だが自己紹介は言いたいことを先にもってきた方が効果的である。

具体性とは、基本中の基本である **5W1H (When, Where, Who, What, Why, and How)** を言語化することである。5W1H のなかでもっとも重要な疑問詞は何か。それは「なぜ？」= Why? である。なぜあなたがそのゼミを選択するのか、なぜあなたが同じ業界にある A 社ではなく B 社を選択するのか。5W1H に気をつけてロジカルに説明できる癖をつけたければ第9章「ロジカル・シンキングに挑戦しよう！」をやってみてほしい。

読書量と教養は自己紹介させると、確実に露呈する。読書は、就職してからその重要性をさらに実感することになる。いい文章を読んできた学生は、語彙力が豊富で、何をどう具体的に説明すると効果的か読書でもって体験しているからだ。レポートや卒論を書かせると、手に取るようにわかる。あなたが何を考えてきたか、あるいは考えてこなかったか。

あなたが新生であるなら、まだ間に合う。この4年間「考える」時間、「考えたことを表現する」時間、を作るも作らないもあなた次第なのだから。

ちなみに「悩み続ける」と「考え続ける」ことは別である。「悩み続けることで考えない」こともできる。「どうしよう、どうしよう」と悩み続けたところで、「何かやってみよう」と考えて、アクションを起こさなければ、やってみなければ、何も始まらない。4年なんて、「あっ」という間。失敗をおそれず、やってみましょう！

まず、自己紹介から。はい、どうぞ。

第2章

大学で何を学ぶのか：大学における学びの作法（森久聡）

はじめに

大学の教員を英語で professor と呼ぶが、もともとの意味は「前で (pro) 話す (fes) 人 (or)」という意味である。中世ヨーロッパでは、何か特定のテーマ（法律や宗教など）について学びたい人が集まり、それに詳しい人物を教師として招待した。これが大学のルーツだといわれている。だから大学の教員は professor なのである。したがって大学とは、「何かを学びたいという意欲を持つ人が自主的に集まってできた組織」ということが根底にあるのだ。

現代では、何となく進学した人もいれば、大学で学ぶことに強い意欲を抱いて大学に入学した人もいるであろう。シラバスや時間割を見て、高校までの授業科目名とは全然違う名前の講義のタイトルに期待を持っている人もいるであろう。しかし、実際に講義を受けてみたら高校や予備校のようにはっきりと正しい答えを出してもらえず、何をどうすべきかも教えてくれなくて、もやもやした気持ちになることが多い。そのため、入学時に高いモチベーションを持っていた人でも、次第に「大学の授業ってこんなものなのか」という気持ちになってしまう人は意外と多い。

そうやって大学生活の多くをアルバイトとサークル活動や友人と遊ぶことばかりに時間に費やすようになってしまうのはもったいないと思う。日本社会では、大学を卒業した後に別の分野の大学に進学したり、社会人を経てから大学で学び直す人はほとんどいない（欧米ではそれは良くあることなので、様々な年齢層の学生が学んでいる）。学び直しができない社会の在り方に問題があることは確かであるが、日本では、ほとんどの人にとって大学の学びは人生に一度しかない経験ということになる。したがって、もし大学でしか学べないことを学ばずに卒業したら、それを学ぶ機会が失われてしまうことになる。では、この大学という学びの場を有意義なものにするためにはどうしたらよいのだろうか。そのための第一歩が、高校までの学びと大学での学びは大きく質が異なっていることに気が付くことである。

1 大学で何を学ぶのか

高校までの学びと大学での学びを区別するために、このテキストでは、高校までの学びを「勉強」と名付け、大学での学びを「研究」と名付けておきたい。高校の勉強の特徴は、基本的には知識を身に付けることが優先的な課題になっていることと、「正解」が明確に定められていることである。典型的なのが、世界史や日本史の科目で、ひたすら歴史的な事件や出来事を覚えた経験をした人は多い

だろう。そしてテストでは、穴埋めや記号などで回答し、○か×のどちらかが付けられ点数が計算された。

これに対し大学では、基本的な知識を身に付けることだけではなく、その知識を使って自分なりに考えをめぐらせ、そうやって考えたことを他者に伝えるところまでが求められる。そして大学の学びの集大成となる卒業論文では、自分でテーマを決定する。つまり、問題そのものも自分で設定するのである。このように、大学での学びである「研究」とは、自分で問いを設定し、その問いに自分なりの答えを出すものなのだ。だから、大学では、問題に対する答えに必ずしも「正解」があるわけではない。各自が正解と思うものを主張し、その主張の論理的な正確さや説得力の高さが評価の対象になるのである。

こうしてみると「研究」とは、授業を受けたり、本を読んで知識を頭に詰め込むことではないことが分かるだろう。「研究」とは、身に付けた知識を使って自分なりに考えたことを表現する営みで、新しい知識を生み出すことと言い換えることができる。その意味で大学の「研究」は、とてもクリエイティブな世界なのである。小学生の時、夏休みに自由研究に取り組んだ人は多いことであろう。自由研究という名前が示している通り、自分で好きな課題を設定し、それを成果としてまとめたと思う。大学の研究も同じで、自分でテーマを決めて成果をまとめるものである。

このことは他のクリエイティブな世界と比較すると良く分かる。たとえばアートの世界である。アートの場合は、自分の抱いた感情や気持ちを深く掘り下げていき、そこで得たインスピレーションを絵画や彫刻、音楽あるいは文学作品などを通じて他者に伝える。それと同じように「研究」も社会に対する疑問や違和感を出発点にして、文献を読んだり、調査したりして深く掘り下げ、そこで得た知見を「論文」という形式で他者に伝えるのである。

そして、「研究」にはクリエイティブな世界を根幹から支えるルールが存在している。それは「自分なりに生み出したオリジナルの考えを示す」というルールである。アートの世界で盗作は最大の罪であるのと同じように、「研究」の世界でも盗作（剽窃）は学問の根幹を裏切る最大のルール違反である。学生が他人の書いたものをコピー&ペーストしたレポートや論文を提出すると、その教員は単位を認めないどころかその学生を呼び出して厳しく説教までするのは、そういった事情からである。たとえどんなに上手に表現できなくても、自分の言葉で表現する姿勢を忘れてはならない。

ここまでの話をまとめると、大学で学ぶ学問とは、世界を見て考えるための性能のいい「道具」であり、大学で学問を学ぶということは、「知識」を得ることではなく「考える道具」をみつけることなのである。大学の学びを通じて、学問という考える道具を使って目の前の現実を理解し、新しい知識を生み出すことができるようになってほしいのだ。

では、この大学で学んだ学問は役に立つのだろうか。卒業論文を例にあげて考えてみよう。卒業論文の完成に至るプロセスを簡単に辿ると次のようになる。まず、研究するテーマや題材を決定し（問題の設定）、それに関する本や論文を読んで知識を獲得していく。そして現地で調査を行ったり、新聞記事などの資料を探して読んだりして得た情報であったり、時には友人や自分自身の実体験を振り返ることもあるかもしれない（情報の収集）。そうやって集めた情報をこれまで読んだ本や論文と比較したりして研究テーマについて深く掘り下げていく（分析と考察）。そして次に研究テーマを掘り下げた結果として自分なりの考えや知見を論文としてまとめて、提出する（表現と説明）。文系学部 of 平均的な卒業論文はだいたいこのようなプロセスを辿るであろう。

ところが、この一連のプロセスは卒業論文だけではなく、ビジネスでもみることができる。たとえば、あなたはアイスクリームのメーカーに勤めていて、あるフレーバーのアイスクリームの売り上げが伸びずに悩んでいるとしよう。すると上司はあなたにこの商品の売り上げを伸ばす対策を考えるように指示をした（問題の設定）。そこであなたは、この商品について消費者がどう思っているのか、

アンケートをとったりインタビューをしたりするかもしれない（情報の収集）。次に、その結果を元に何が売れない原因か探っていくと、どうやら原因はパッケージのデザインにあって、魅力あるパッケージにすることが必要だと分かった（分析と考察）。そこで会議では上司に対してパッケージの変更を改善策としてプレゼンテーションする（表現と説明）。

このように、卒業論文を書くこともアイスクリームの売り上げを伸ばすことも、(1) 問題を設定し、解明するのに必要な情報を収集する、(2) 集めた情報を元に分析や考察を加え、新たな情報を生み出す、(3) 得られた知見を文章で表現したり、人に説明する、というプロセスを経ていることが分かる。つまり、卒業論文を書くこともアイスクリームの売り上げを伸ばすことも骨格は全く同じ方法で取り組むものなのである。確かに卒業論文を書くために学んだ知識が実社会で役に立つことは少ない。だが、卒業論文を書くプロセスで身に付けて欲しいことは、知識ではなく「考える方法」なのだ。「考える方法」を身に付けることで、私たちはどんな時でも色々な問題について深く考えることができるようになる。これが大学で学問を学ぶ意義なのである。

以上の話で、大学で何を学ぶことの意義が少しは明確になってきたと思う。そこで、次に具体的にどのような姿勢で大学の授業に臨めば良いのか述べていきたい。大学の授業には様々な形式のものがあるが、大きく分けると講義・演習・実習の3つに分けることができる。

【問い】

Q-1 もし今から卒業論文を書くことになったら、どんなテーマにしますか？

Q-2 あなたの好きなアート作品を取り上げ、それが何を表現しているのか考えてみよう。

2 大学における主な学びの形式

2.1 講義とは何か

講義というと、大きな教室でたくさんの学生を相手に教員が一人で話をする形式の授業をイメージすることだろう。そのイメージ自体は間違っていないが、ではなぜこのような形式で授業をするのだろうか。それは、その学問分野を学ぶのであれば誰もが基本的に理解しておくべき事柄というのは存在しており、それを効率良く多くの学生に教えることができる形式だからである。

先ほど、大学での学びは「研究」であると述べたが、大学教員は学生にレクチャーをする教師という役割のほか、研究者という肩書きも持っている。そのため、大学教員は、授業をしていない時間になると、卒論に取り組む4年生と同じように自分の研究テーマに取り組んでいるのである。その意味で大学という組織では、教員も学生も同じ「研究」という目標を持っているのである。とはいえ、大学に入学したばかりの学生がいきなり研究できるものではない。そこで、たまたま研究することに関しては先輩である大学教員が、初学者の人を集めて、自分が研究してきた内容とその分野の基本的な事柄をレクチャーするのである。これが講義の役割なのである。そして講義する内容は大学教員が研究してきた内容であるから、それは大学教員が身に付けた知識を使って自分なりに考えたことを表現していることになる。したがって、教員の見解が必ずしも唯一の「正解」となるわけではない。様々な見解もありうるし、同じ意見でもそこに至る過程が違うこともある。これで大学の講義が正解をはっきりと言わない理由が分かったと思う。

「あの先生の講義は面白くない」という学生の声は良く耳にする。その原因が教員の力量であることは少なくない。しかし忘れて欲しくないのは、教員の力量だけが講義の善し悪しを左右するわけではないということである。筆者が学生の時に受けていたある講義は非常に評判が悪かった。世界の

国々の給料に対する意識の違いを明らかにする内容であったが、先生の声が小さい、説明が分かりにくい、私語を注意しない、教科書をなぞっているだけ…、そうした不満の声でいっぱいだった。そしてそれらの不満は間違いではなく、本当のことだった。そのような講義をたまたま教室の端っこで1人で受けていた筆者は、先生の話聞きながらふと思った。たしかに話し方は面白くないけど、話している内容は興味深いぞと。

その時に気が付いたのは、教員はエンターテイナーではないという当たり前のことである。講義はテレビ番組や人気の YouTuber の動画とはまったく異なる性質の場である。そしてエンタメの世界では、出演者や制作スタッフが視聴者を少しでも楽しませようと必死に努力しており、その努力の集大成がコンテンツとなって提供されているのである。かたや大学教員はそうではない。エンタメのコンテンツ制作をする努力と同じくらい努力して研究をしてきた人たちである。だから、テレビ番組や YouTuber の動画と比べてつまらないのが当たり前なのである。

そして、受講する学生の勉強不足も要因になりうることに気が付いた。大学を卒業するときに、同級生が「今の知識で1回生から講義を受け直すことができるなら、もっと興味深く講義を聴くことができるのに」と話していた。このような感覚を持つ人は少なくないようで、この言葉にうなずく学生もいたし、同じことを話して卒業していく学生にも出会った。この言葉のポイントは、1回生では、それほど知識と経験がなかったから講義が十分に理解できず、だからつまらなく感じたということである。

とはいえ、急に4回生と同じ知識と経験を持つことはできない。では、どうしたら良いだろうか。講義に興味深いものにするコツは色々あると思うが、筆者の考えるものは、自分の問い＝「研究テーマ」を持つことではないかと思う。自分が探求したい「研究テーマ」を持つことで、講義の中で自分の研究に参考になる部分を見つけたり、関連した知識を得ることができれば、講義が興味深いものになるのではないだろうか。

講義とは、その学問分野について基本的な事柄をレクチャーする場であると述べたが、言い方を変えれば、学生が自分で「研究」ができるように基礎的な知識と考え方を身に付ける場でもある。それが講義の役割なのである。そう考えると、講義を聴く時には、さまざまな問題や出来事に対して、先人たちが、どういうところに着目していったのか（視点）、どのように解釈したり理解していったのか（分析）、そして何を発見し何を知識として得たのか（知見）、といったように研究を「追体験」していくものであると言えるだろう。そのなかで（あるいは講義が終わってから）、研究テーマを念頭に置きながら、自分の問題関心や興味がある題材のどこに着目したら良いのか、どのように分析できるのか、何が見えてくるのかについて考えてみると、講義の理解がより深まることだろう。

それでも、入学したての学生の場合には、自分が何を探求したいのか良く分からないという人も多いだろう。その場合には、今すぐ研究テーマを決めることができなくても構わない。大切なのは自分が探求したいことが何か常に意識して考えてみることで、今から卒業論文を書くとしたら何を書こうかな、と気楽な気持ちで考えてみたり、さしあたり今年度の研究テーマはこれというくらいの気持ちで考えてみたら良いだろう。

2.2 演習とは何か

次に説明するのは「演習」という形式である。演習は授業科目名であるがゼミとも呼ばれ、だいたい同じような意味で使われている。ゼミという言葉の使い方としては、その演習を受講している学生と教員をまとめて「〇〇（教員の名前）ゼミ」ということもある。

呼び方はともあれ大事なものは、自分が所属する演習（ゼミ）は、おそらく大学で学ぶうえで日々の

勉強の中心となるところだということである。高校までの教育システムで言えば、自分のクラスに近いものである。学生全員がどこかのゼミに配属され、15人前後で構成されることから、その学年全体の大切な連絡事項はゼミを通じて告知されたり、学生生活に関する個別の相談もゼミの先生が窓口になることが多い。3回生から配属されるゼミは卒業までメンバーが変わらず、卒業論文の指導がおこなれる。そして、ゼミの先生が卒業論文を審査し、卒業式の後の卒業パーティーもゼミごとに着席する。それくらいゼミは学生生活の中心になるのだ。

では、この演習はどういった学びの場なのか。演習によって、取り扱うテキストも違えば、なかには大学のキャンパスを出て現地見学やインタビュー調査する演習もあったりする。演習を担当する教員の専門分野と学生の興味関心によって内容は様々であるが、ほとんどの演習で取り組まれているのが、プレゼンテーションの課題である。これは、プレゼンする日程を設定し、その日までに授業のない時間を使ってプレゼンの準備をして、当日にプレゼンを行い、その内容について先生からコメントやアドバイスをもらったり、ゼミ生も交えてディスカッションするといったものである。

ここで大切なのは、プレゼンする当日までの準備こそが学びの成長過程であるということである。プレゼンのために色々と調べたり、試行錯誤して準備を進めていくわけだが、プレゼン当日の演習はその試行錯誤の成果を示し、次の課題に向けてアドバイスをもらう機会なのである。したがって、プレゼンの準備や取り組みが、手を抜いていたり、いい加減なものであれば成長しないし、アドバイスもそれまでの成長段階に応じた内容にとどまってしまう。つまり、初心者レベルのプレゼンをしたら初心者レベルのアドバイスしかもらえないということである。お寺の鐘と同じように、力を込めて叩かないと鐘の音は強く響かないのだ。

そしてもうひとつ大切なことがある。それは演習とは教員が学生を指導するだけではなく、学生同士がお互いにアドバイスする場でもあるということである。その日、自分がプレゼンする日ではないからといって、ただ座って先生の話やプレゼンを聴いていれば良いということではない。自分も先生のように積極的にアドバイスする役割があるのだ。自分の課題をこなすことも大事だが、他の人の課題を支えることも大事なのである。学生同士がお互いに助け合うことで、飛躍的に学びの質が高まるからこそ、教員は学生と一緒に学ぶ環境を用意しているのである。

2.3 文献購読とは何か

以上を踏まえて、もう少し具体的なイメージがもてるように、多くの演習で課題となることが多い「文献購読」について解説をしておきたい。

文献購読の「購」は集まるという意味がある。すなわち文献購読とは、みんなで同じ本を読んでから授業で集まり、難しく理解できなかった点、ピンと来なかった点についてお互いに教えあったり、すごく納得できた点、読んでいて感心した点、書いてあることが違うと思ったり、間違っている気がした点などについてディスカッションしたりするものである。したがって、最低でも授業の準備として課題のテキストをしっかりと読むことが必要である。そして、課題のテキストを読んでもらうだけでなく、できる限り上記の内容についてディスカッションできるようにメモやノートを作成して文献購読に参加することが望ましい。他にも準備できることとして、いろいろなメディアを使って関連する情報を集めるのもよい。課題文献だけ読んでいても理解は浅くなりがちなので、テキストに関連した本や論文を読んでみたり、新聞や雑誌の記事を探すのもよい。映画や小説、漫画なども参考になる場合がある。課題のテキスト以外に読んではいけないというルールはない。積極的に情報を集めてみよう。

ディスカッションでは、積極的に発言していこう。自分が分からなかったところは他の人も分から

なかった場合も多い。課題のテキストだからといって全て理解できるわけではないし、教員はそのつもりで課題のテキストを選んでいる。だから、積極的に質問をして構わない。質問する際には、教員に尋ねるのではなく、みんなに見解を求めるのが良い。読んだ時に分かった気になっていても、いざ説明しようとするとなんか分かっていないことに気が付くからである。大学では、分からない、知らないことは恥ずかしいことではない。それを放置することの方が自分の成長につながらず好ましくないことなのだ。また、ディスカッションでは意見が異なることが大事である。テキストの内容に納得できなかったり、違和感を感じたら、そのことを示すべきである。大学のテキストは全て正しいことが書いているわけではない。テキストの中に考え方を変えるべき見解があったら、なぜそれを変えるべきか主張すれば良いのである。

このように文献講読のやり方を説明すると、なんだか難しいことをしているように思うかもしれないが、そんなことはない。私たちが映画を観たり、小説や漫画を読んだりしたとき、それらの作品について「おしゃべり」や「雑談」することがあるだろう。あのシーンの主人公の言動はカッコ良かったとか、あの場面でのあの判断は理解できなかったとか、もう少しこういったストーリーにした方が面白くなったのではないかといった内容のおしゃべりである。私たちが日常生活でエンタメ作品の「おしゃべり」や「雑談」をするのと同じように、文献講読では、本や論文の内容について「おしゃべり」や「雑談」をするのである。この著者の分析はとても理にかなっていて鋭い指摘であるとか、著者はこの社会現象の若者心理を誤解しているのではないか、といったようにである。演習でのディスカッションとは、いわば「学問のおしゃべり」である。

もうひとつ補足すると、この文献講読は教員がいなくても文献講読をすることが可能である（そのような集まりを読書会と言う）。授業の前に学生だけでディスカッションをして、難解なところを教え合ってみても良い。1人で読んだときに理解できなかった部分があっても、文献講読で補うことができるだろう。あるいは、似たような興味関心を持つ人と読みたい本や論文が共通している場合には読書会をするのも良い方法だ。読みたい本や論文があるけど、難しくて1人ではくじけてしまいそうなとき、読書会を開催してみたい。

以上を踏まえて、演習に参加する時の「心得」を挙げておきたい。自分が発表者になった時、あるいはオーディエンスとして演習に参加する時、どういった心構えで参加すると良いのか。ありがたい失敗やちょっとしたコツをまとめてみた。

発表者の心得

- 発表の担当することは、その日の主役を務めることと同じ。絶対に遅刻欠席はしてはいけない。
- 前日に徹夜で頑張って準備した！→少し時間があるから仮眠しよう…→寝坊！の罠に注意。
- ペースを守ってコツコツと継続的に研究する計画性とギリギリまでやり抜く粘り強さの両方が必要。
- しかしながら、締め切り（提出する日や発表の日）は時間に余裕をもって取り組むこと。もし中間報告の機会があれば、そこで粘りまくる。中間報告だからと手を抜く人が多いが実は生産的ではない。
- 自分の考えを理解してもらうために根拠を示しながらオーディエンスを説得するのが目標。
- プレゼンと論文執筆の積み重ねで、物事を論理的に考え、他者を説得するチカラを身に付ける
- 準備をサボった人間にはその程度のアドバイスしか得られない。強く叩かなければ大きく響かない。

オーディエンスの心得

- 遅刻欠席はその日の主役に失礼。
- 他の人が発表する回は「休み」ではない。発表者および他の受講者と議論をする役割がある。
- 居眠りは発表者のモチベーションを傷つけるもの。「眠かったら寝てて良いよ～」は優しいウソ。
- ゼミで一言も発言しないのは欠席したのと同じという気持ちでゼミに臨んでほしい。
- 仲間の研究発表に対しては、自分がそのテーマで研究しているつもりになってアドバイスをしよう
- 自分ことは棚に上げて構わない。自分の研究じゃないからこそ見えてくることがある。
- 参加者は、あえて物分りの悪い人間になることが必要。そう簡単に発表者に説得されてはいけない。異論をだす・反論をするくらいのもつりて聞く姿勢を持つことも必要。
- とはいえ、時には発表者が言いたい事をすくい取る気持ちで話を聞く必要もある。あなたが言いたい事はこういうこと？と発表者に尋ねてみよう。そして、「それなら、こうすればもっと説得力がある」とアドバイスできると理想的。

ディスカッションの心得

- 先生に話すのではなく、全員に向かって話をする。同じ話題を全員で共有しながら議論すること。
- 誰かが話しているときに隣同士で勝手にこそこそ会話をするのは無礼である。
- 尋ねたいことが出てきたら発言のキリが良いときや話し終わったときに尋ねるべし。
- 話を聞き逃したら隣の人に尋ねるのではなく、話し手にもう一度話してもらおうように頼むこと。
- 議論している話題がつまらないのであれば、自分が興味を持てる話題を提供すること。
- 議論が退屈に感じたら、それは教員や他の受講者の責任ではなく自分の責任である。自分にとって興味深い話題を議論するように周りをリードできなかった自分の力量不足を反省すべき。
- 議論している話題から多少は脱線しても大丈夫。議論が大きくズレたら先生が軌道修正してくれるので、細かいことは気にせず発言してみよう。
- 上から目線で世の中を論評してみせることが大事。自分ことは棚に上げて構わない。
- 立派なことを言う必要はない。素直に自分の言葉で分からなかったところや納得できなかった箇所、感心した点を話して良い。
- なにはともあれ「おしゃべり」「雑談」に参加する、という姿勢を持つこと。おしゃべりが得意な人は、司会者のように苦手な人に話を振ってあげることも考えよう。
- 受講者が黙っていれば、教員が好きなことを話しまくるだけで受講者にとっては退屈な時間になる。

2.4 実習とは何か

3つ目の授業の形式として、実習について解説をしておきたい。実習系の授業はそれほど多いわけではないが、おそらく卒業するまでに必ず何がしかの実習系の授業を履修することがあるはずであ

る。実習科目の特徴は、その授業時間のなかで課題や作業内容が提示され、それに各自で取り組んだりあるいはグループなどで一緒に取り組むというところにある。そして、課題に取り組んでいる最中に必要に応じてアドバイスをもらう形式であるといえるだろう。高校までの「調理実習」と同じ形式であるといえばイメージしやすい。調理実習では課題が料理をすることであるが、パソコンの授業であればアプリケーションの扱い方であったり、社会調査法の実習科目であれば、実際に学生がインタビューをしたり、アンケートを取ったりするといった内容になる。

このような実習科目においては、毎回の授業ごとに課題や作業内容が設定されており、それを毎回クリアしていくことで段々とステップ・アップしていきけるように授業が計画されている。したがって、遅刻はもちろんだか、欠席するとステップ・アップできずに、授業についていけなくなってしまう。たいていの実習科目で出席を重視するのはそのためである。また、授業で設定されている課題や作業内容は最低限の合格ラインであることが多い。最低限の合格ラインを目指しているだけだと、評価は上がらず身に付くことも少ないばかりか、落第のリスクも高まる。自分なりに自習したり練習してプラスαを目指そう。

なお、演習の中には実習のように授業中に課題に取り組むスタイルのものも存在している。それでも学びの基本はほとんど変わることはない。それぞれ学問分野や先生の教育方法によって、演習のスタイルは様々なものが存在している。大切なのは、授業の主役は学生であることを自覚し、受け身で授業を受けるのではなく、自ら学び成長しようという意欲を持って授業に臨むことである。

【問い】

- Q-3 友達と小説や映画、漫画、アニメなどの作品について感想を話し合ってみよう。
- Q-4 読んだ本のブックレビューをお互いに紹介する「ビブリオバトル」に挑戦するのもよいでしよう。
- Q-5 講義の後、感想や意見、分からなかった点を話し合ってみよう。講義の理解が深まります。

3 なぜ？と問いかけてみよう：研究テーマを見つけるコツ

これまで講義・演習・実習の授業の受け方について述べてきた。これらの授業形式にはそれぞれの特徴があるが、いずれの授業形式であっても、大学での学びで中心となるのは、それぞれの授業の前後に自分で学び、課題に取り組む時間にある。授業を受けている時間だけが大学での学びの時間なのではない。そして、授業以外の時間に自分で意欲的に学ぶ意識を高めたり、授業を少しでも自分にとって有意義なものにするためには、自分が探求していきたい研究テーマを持つことが大切である。研究テーマを見つけることが、大学での学びを有意義にする第一歩なのである。

では、どのようにしたら研究テーマを見つけることができるだろうか。そのためのポイントは様々なことに疑問を抱く姿勢を忘れないということである。いわゆる文系の学問分野では、多くの研究が「なぜ」という疑問を抱くところから出発している。現代社会の生きる私たちが見聞きする様々な出来事や現象を当たり前のこととして受け止めるのではなく、「なぜそうなの？」「どうしてなの？」といった立ち止まって考えるクセを身に付けて欲しい。たとえば、結婚するとほとんどの女性が男性の姓に変更する。女性は男性の姓にするのが当たり前と思うのではなく、なぜそうなのか疑問を持って欲しいのである。このような疑問が研究テーマに結びついてくるのだ。

この時に気をつけて欲しいのは、「～べきだ」と簡単に結論を出そうとしないこと。たとえば、再生可能エネルギーと原子力エネルギーのバランスという社会的な課題に対して、「原発をやめて再生

可能エネルギーを普及させるべきだ」や「もっと安全な原発を開発すべきだ」などと結論を出すことは避けた方がよい。というのは、このような「～すべきだ」といったことは、現状を良く知らなくても、いい加減な知識しか持っていなくても論じることができる内容だからである。原発の安全技術の開発コストを知らなくても、もっと安全な原発を開発すべきだと主張することはできてしまう。それに対して、「なぜ再生可能エネルギーが普及しないのか」「どうして安全な原発を開発できないのか」といったように「なぜ?」「どうして?」と問うてみると、その問いの答えるためには現状を良く調べ、キチンとした知識を得ないと答えられないことが分かる。つまり、「なぜ?」「どうして?」と問題設定をすることで、物事をより深く認識しようとする構えが生まれるのである。

似たような症状でも、原因が風邪であるのに花粉症の薬を飲んでも風邪は治らない。このように、医者が病気の人を診察した時に、キチンとした検査結果に基づいて正確な診断を下すことができなければ、誤った治療方法を用いてしまう。それと同じように、現代社会の正確な現状認識ができなければ、誤った解決策や政策を用いてしまうのだ。

そして「なぜ?」「どうして?」という問題設定であれば、何でも研究テーマになるわけではない。大学の学びとして研究するからには、大学という公共的な社会空間に相応しいテーマでなければならない。つまり、その研究テーマが、私たちの社会にとって意義のあるテーマであることが必要なのだ。言い換えると、研究テーマとしては、少しでも多くの人に関心を持つべきテーマであることが望ましいのである。その意味で、社会にとって深刻な問題であるほど、研究テーマとして取り組みやすいことが多い。深刻な問題ほど既に多くの人々が研究しているため、たくさんの本や論文を参考にしたリ、様々なメディアで資料を集めることができる。また誰もが問題だと思うテーマであれば、社会的な意義について説明するのがそれほど難しくはならない。それに対して、一見すると身近で親しみやすい題材ほど、それを客観的な視点から捉え直したり、疑問を投げ掛けることが難しい。しかも、その研究テーマの意義を説明するのが難しくなってくるのだ。たとえば、子ども食堂を通じて子どもの社会的貧困について研究することとなぜディスニーランドは人気があるのかというテーマで比較すると理解できるだろう。

おわりに：有意義な大学生活に向けて

ここまで長々と述べてきたが、そのほとんどが大学でしっかりと学びなさいというメッセージであった。では、筆者はすべての学生にガリ勉になって欲しいのかというとそうではない。大学のキャンパス以外にも学びの場はたくさんある。アルバイトやサークル活動、インターン・シップなどで学ぶこともたくさんあるだろう。それらも貴重な学びの場である。むしろ、キャンパスに閉じこもらず、積極的に外に飛び出して、いろいろな世代の人たちと出会い、さまざまな立場の人たちから学ぶ姿勢を持って欲しいと思っている。

「よく学び、よく遊べ」と言われているように、「遊び」のない人生ほどつまらない人生はない。しかし学ぶことをしなければ、遊びの面白さも半減してしまうことも多い。たとえば、イギリスの映画を観る時に、イギリス社会の歴史や文化について知らないことが多いと映画の内容が十分に理解できず映画を楽しむことができない。炭に火を付ける方法を知らなければ、バーベキューで肉を焼くことができない。そして「遊び」のなかにも学べるものを見つけることができるので、いつも学ぶ姿勢を忘れないで欲しい。

おそらく一生に一度の大学生活である。そのなかで、できるかぎりたくさんの本を読んだり、さまざまな体験をしたりして見聞を広めてほしい。そのなかで色々な人と出会い、そうした体験を互いに語ることによって豊かなボキャブラリーを獲得し、自分を表現する能力が磨かれる。大学生にとって

おしゃべりも大切なことなのだ。どんなに立派なことを考えていても、それを他人に伝えられなければ何も考えていないのと同じである。たとえば、友達と旅行に行く相談をしている時、訪れたい場所があるのに黙っていたら、行先がそこになることはないし、周りの人はどこに行っても良いと思っていると判断してしまう。だから積極的に自分の考えを表現できるチカラを身に付けて欲しい。高校まではインプット中心の勉強だったが、大学からはアウトプットも身に付けなければならない。

最近の大学生の就職活動をめぐる周囲の声に焦る気持ちがあると思うが、就職することだけが大事なのではない。大学を卒業してからも長期的に多方面で活用できる〈基礎的な地力〉を身に付けることも、「大学で学ぶべきこと」のひとつである。大学での学びとして身に付けた研究する能力は、〈基礎的な地力〉そのものと言っても過言ではない。また、社会人として必要な「コミュ力」とは、人の話に調子よく合わせることができる能力ではない。言葉や文章を介して、相手の考えをしっかりと理解したうえで、自分の考えを正確に伝える能力のことである。そしてそのようなチカラは、講義や演習、実習、卒業論文などにじっくりと取り組まなければ身に付かないチカラである。就職活動の対策も大事だが、大学の学びを通じて就職してから活用できるチカラを身に付けて欲しい。

大学での学びは「山登り」に似ている。自分で挑戦する山（研究テーマ）を選び、ルートや天候を調べて、山の特徴に合わせた訓練を重ねていく（講義・演習・実習など）。そうやって準備を整えたうえで、最後は自分の力で山頂を目指すのだ（卒業論文の執筆）。大学教員は山登りのコツや登山道具を提供することはできるが、実際に山に登るのは学生自身である。山頂に向かう途中、順調に進むこともあれば、険しい斜面や悪天候で苦しむこともあるだろう。けれど、同じ目標を持った仲間とお互いにアドバイスをしながら、たくさんの挑戦と苦勞、成功と失敗を何度も積み重ねた先に見ることができた山頂の景色は、きっと忘れられない経験となるだろう。

【問い】

Q-6 「なぜそうなの？」「どうしてなの？」と妙に気になった実体験や違和感を感じたエピソードはありますか？

Q-7 これは大事なことだな、深刻な問題だな、と思うニュースがあったら深掘りしてみよう。

参考文献

京都女子大学 FD 推進委員会・編『アカデミック・スキル 2024』（入学時に配布されたもの）

船橋晴俊，2012，『社会学をいかに学ぶか』弘文堂

田中共子・編，2009，『よくわかる学びの技法』，第2版，ミネルヴァ書房

白井利明・高橋一郎・編，2008，『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

野村一夫，1999，『社会学の作法・初級編：社会的リテラシー構築のためのレッスン』文化書房博文社

高根正昭，1979，『創造の方法学』講談社

荻谷剛彦，2002，『知的複眼思考法：誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社

第3章

読書ノートの作り方：本を読むコツを身に付ける（森久聡）

はじめに：「大学での学び」と読書の関係

大学に入学して一定の向学心と知的好奇心を持ちながらも、実際に何をやっていいのか分からなくて、ぼんやりと時間が過ぎてしまっている人は意外と多い。そして高校までと同じように、授業を受けて課題をこなすなかで、「面白くないけど、こんなものか」と思いながら過ごしている人も多い。そうした人の中には、もっと「大学での学び」で充実感を味わいたいが、どうしたら良いか分からない、なぜ充実感が得られないのか分からないという人もいるだろう。おそらく、そうした人の多くが、「大学での学び」とは何か理解していない場合や高校までの勉強と「大学での学び」の違いに気が付いていないように思える。

「大学での学び」とは、授業や読書を通じてスキルや教養を身に付ける＝勉強をするだけでなく、研究する方法を身に付けることにある。そして「研究する」とは、自ら問いを立て、それについて考察し、独自の答えを出すことである。つまり「研究」は、自分なりに問いと答えを出すクリエイティブでやりがいのあるものなのである。その意味で、アートと「研究」は似たところがある。アートは自分の抱いた感情や気持ちを深く掘り下げていき、そこで得たインスピレーションを絵画や彫刻、音楽あるいは文学作品などを通じて他者に伝えるものである。それと同じように「研究」も社会に対する疑問や違和感を文献を読んだり、調査して深く掘り下げ、そこで得た知見を「論文」という形式で他者に伝えるのである。

ではどうしたら、勉強ではなく「研究」をすることができるのか。それは調査報告書の論文やゼミ論文、卒業論文といった「論文」を執筆することを課題に設定することで可能になる。ここでいう論文とは「問いの設定」「問いに対する考察」「自分なりの答え」が備わった文章形式のことである。「研究」として論文執筆という課題に取り組むことを通じて、研究する方法を身に付ける、これが「大学での学び」なのである。したがって「大学での学び」として「研究」することと論文の執筆は表裏一体と言えるだろう。

「大学での学び」とは研究する方法を身に付けることであるが、その初発の段階では、授業や読書を通じて勉強することになる。というのは、研究で取り上げる題材に関して、基本的な知識や技法を身に付ける必要があるからである。また、自分の研究テーマに関連した知識や技法は授業を通じて身に付けることもできるが、授業で扱うのは基礎部分であるため、読書を通じてさらに深く勉強する必要もある。基本的な知識や技法を身に付け、研究を深めていく段階でも本や論文を読むことが多くのヒントを与えてくれる。問いの設定の仕方について参考にしたたり、問いに対する考察を深めたり、自

分なりの答えを導き出すきっかけを得ることができるからである。このように研究するためには、本や論文を読んで勉強することが不可欠なのだ。つまり、本や論文を読むことは、研究の一部であると言って良い。このように、研究の一環として本や論文を読む時、読書ノートを作成しながら読むことは、非常に効果的な読書の方法である。

1 なぜ本を読むのが苦手なのか：読書嫌いのスパイラルから脱するために

「大学での学び」＝研究する方法を学ぶことである。そして研究するためには本や論文を読むことが必要である。これらの2点について理解できても、読書に対するハードルは高い。おそらく読書は苦手だと感じている人の方が大半なのではないだろうか。読書に対する苦手意識は、本を読んでも内容が分からなかったり、理解できなかつたりした「失敗の経験」から生じていることが多い。しかし、良く考えてみると本を読んでも理解できない理由はいくつか存在する。

ひとつは、読み手の力量不足である。その本を読むにあたって必要な文章読解力やボキャブラリー、背景知識や予備知識が不足しているケースである。少し古い本を読むと現代ではあまり使わない言い回しや単語が出てくることが多いが、それが分からないと文章を理解することは難しい。また、その本が扱う内容について、読者がある程度の知識を持っていることを前提として書かれている場合、予備知識がないとその本を理解することが難しくなる（たとえば、イギリスの不良生徒について研究した本（P. ウィリス『ハマータウンの野郎ども』筑摩文庫）を読む時、イギリスの学校教育制度の基礎知識が必要である）。もうひとつが、内容そのものが難しい場合である。たとえば、哲学的な問題を探求したり、社会の根源的な構造を考察するようなテーマの本は、抽象的で難解な記述が続くことが多い。あるいは読者自身の生活スタイルやアイデンティティと離れたテーマは理解が難しくなることが多い。たとえば、LGBTQ+やエスニック・マイノリティについて書かれた本は、当事者でないとなりにくい部分もあるだろう。さいごに、書き手の力量不足である。本を書くこと、文章を書くことも様々なコミュニケーション技術の一つである。分かりやすい文章を書くことが上手な人もいれば下手な人もいる。

このように考えると、本を読んでも理解できない理由の多くが、読者の責任ではないことが分かる。つまり、本を読んで理解できなくても自分だけの責任ではないと開き直って良いのである。そして、読者にできることは、読み手としての力量を高めること、すなわち、文章読解力やボキャブラリーを身に付けたり、背景知識や予備知識を補うことだけなのである。

では、どうしたら読み手としての力量を高めることができるのか、逆説的だが、それは読書によることである。読書嫌いの人の多くが、一念発起して本を読んだものの、途中で挫折した経験を持つ。上記に挙げた3つの理由によってその本の内容を理解できず、つまらなくなって途中で投げ出してしまふのである。このような挫折した経験は恥ずかしいし、二度と経験したくない。そのために本を読まなくなる。本を読まないことで、文章読解力は鍛えられず、ボキャブラリーは増えていかない。また、他の本を読む時にも役に立つ知識を得ることができず、背景知識・予備知識が足りなくなるのである。その状態で、また本を読もうとすると十分に理解できず挫折してしまう。こうして読書嫌いのスパイラルに嵌ってしまうのだ。

この読書嫌いのスパイラルから脱するために、2つの工夫を提案したい。ひとつは、背景知識や予備知識を増やす工夫として、さまざまなメディアを活用するということである。たとえば、テレビのドキュメンタリー番組やニュース番組を見て勉強する。あるいは、関連した映画、小説といった作品

に触れる。新聞記事や雑誌記事を図書館で探して読んでも良いかもしれない。あるいは、小中学生向けの解説本（ブックレット）を読むのもオススメである。いきなり、難しい本に挑戦するのではなく、マスメディアの情報やブックレットなど理解しやすいものから手を付けていくのだ。そうやって外堀を埋めるように背景知識・予備知識を増やしていくと良いだろう。もうひとつは、全部読めなくても良いし、全部理解できなくても良いので、手当たり次第に目を通してみるという心構えを持つことである。真面目な人ほど書いてあることを全て理解しようとしてしまう。そして理解できない部分があると、他のみんなは理解しているものを自分だけが理解できないと思い込んで挫折する。その本の内容を全て理解できる読者などいないと思って良い。だから全部読めなくても、理解できなくても気にせず、他の本を読めば良いのである。関連した本を読み進めているうちに、理解できるようになる部分が増えていくことも多い。小中学生向けのブックレットでも読み切れば、それなりに達成感が得られる。まずはその達成感を大切にしたい。

正直に言えば、筆者自身も図書館で借り出しただけで、結局、1ページも読まずに返した本がたくさんある。あるいは目次を読んだだけで、本文はパラパラと流し読みしただけの本も少なくない。本を読むという行為は、生まれながらに誰もが上手にできるものではない。それなりにトレーニングが必要な行為なのである。料理の初心者に失敗がつきものであるように、読者の初心者も失敗がつきものである。そして、どんな頭のいい人でもまったく知らない未知の分野の本を読みはじめたころはそれなりに苦勞するものである。それでも、その分野に関連した本や論文を乱読多読を続けていけば、次第に理解しやすくなっていく。とにかくまずは乱読多読を続けて構わないと思う。

【課題1】

岩波新書のシリーズの中から、自分が興味を持った本を選んで、その本の内容に関連する新聞記事やニュース、ドキュメンタリー番組を探してみよう。小説や映画などを観ても良いでしょう。

2 読書ノートとは何か

ここまで読んで、読書嫌いという負い目を抱いていた気持ちが少しは軽くなったと思う。そこで、いよいよ「大学での学び」として読書をする際に、効果的な読書方法として「読書ノートの作成」を紹介したい。

読書ノートとは、本や論文を読みながらメモをとったノートのことである。ノートには、論文の内容を要約したり、大事な箇所を抜き出したりする。また、本を読みながら思い浮かんだ疑問点であるとか、その内容に対する批判点をノートにまとめたり、全体を通して考えたことや感想などを記録したものである。多くの学生が講義を受ける時、先生の話聴きながら大切だと思ったことをノートにメモしていくと思う。それと同じように、読書をしながらノートをとるのである。このように読書ノートを作成しながら本を読むことで、その本の内容に対する理解が飛躍的に高まることが多い。読書ノートをとらずに本や論文を読むのは、ノートも取らずに授業を受けているのと同じで、多くのことを身に付けることができないし、それらが経験として蓄積していかない。「大学での学び」として読書をする場合、学年があがるほど専門的な本や論文を読む機会が増える。初めて読むようなテーマの本や論文であったり、卒業論文などで専門的な本や論文を読む場合には、読書ノートを作成することは非常に有効な読書方法のひとつである。

読書ノートの作成方法としては人によって色々な工夫がなされているが、ここでは筆者の方法を紹介しよう。筆者が読書ノートを作成する場合には、以下の内容をノートにまとめることにしている。

- (1) 読んだ本の正確な書誌情報——和書の場合、本のタイトルや出版社などの書誌情報は「奥付」に書いてある（表紙ではないことに注意）。奥付は本の一番最後のページ（洋書の場合はたいいてい中表紙の次のページ）のことである。この奥付をみて、著者・タイトルとサブタイトル・出版社・刊行年をメモしておく。図書館の OPAC や書店の在庫情報は、この奥付の情報をもとにデータベースが構築されている。そのため、奥付から正確に情報をメモしておけば、後からその本を検索することができるようになる。特に図書館で借りた本の場合、本のタイトルを間違えてメモしていると再度借りようとした時にすぐに見つけることができないし、本屋で購入しようと思っても、見つけることが難しくなる。
- (2) その本の読書ノートに付けるタイトル——本のタイトルとは別に自分で考えて付ける。新聞記事の見出しのような役割を果たすので、その本を一言で集約して表現したものをタイトルにすると良いだろう。
- (3) 要旨——その本の全体の内容を説明する短い文章を書く。およそ 400 字～800 字程度の文章で本の内容をまとめる。
- (4) 要約メモ——読書ノートでもっとも大きな部分を構成するもので、本の記述に沿って箇条書きやメモ書きの形式で要約していったもの。要約メモを読めば、本の内容や論旨を振り返ることができるようになる。要点をまとめた「レジュメ」と思っても良い。大事なところは丁寧に細かくまとめ、そうでないところは簡潔にまとめてもよいだろう。目安としては、本の全体のページ数が 300 ページなら A4 × 10 ページ程度にまとめると、丁寧な読書ノートになる。
- (5) 論点および疑問点、感想などのメモ——本を読みながら思い浮かんだことをなるべくメモしておくとうい。これまで読んだ本と意見が異なっている点や見解が分かれる点（論点）をあげておく。読んで意味が分からなかったところ、難しく理解できなかつたり、ピンと来なかつた点を疑問点としてあげる。また著者の見解に納得できなかつた点や間違っていると感じた点を批判点としてあげることも大切である。逆にすごく納得できた点、読んでいて感心した点も挙げるのもよい。そして、本の全体を通じて感想をメモしておく。

以上が、読書ノートにまとめるべき内容ということであるが、実際に作業をする順番は(1)(4)(3)(2)、の順に取り組み、随時、(5)をすることが多い。具体的には、まず(1)書誌情報をメモして、本を読み始める。本を読みながら(4)大事な内容を論旨に沿ってまとめていく。本を読み終えたら、(4)を見返しながら(3)要旨の形式で本の内容を整理して、最後に(2)読書ノートのタイトルを付ける。(5)の論点・疑問点や感想は上記の作業をしている最中に思い浮かんだりするので、その都度、書き足していく。

このように本をまとめる作業をすることは、本という大きなサイズの情報を(2)は一行で、(3)は400字～800字程度の文章で、(4)はレジュメのサイズ、といったように3つのサイズの情報に加工することと同じである。そのため、本の理解を深めるだけでなく、情報の加工技術も身に付けることにもつながる。このように大きな情報を様々なサイズに加工する技術は、無意識に普段の生活でも行っているもので、社会人に必須のスキルのひとつである。たとえば、出張から帰ってきて上司に出張の成果を報告する場合、いつもゆっくりと丁寧に時間をかけて報告できるわけではない。時間が無い時にはほんの数秒で報告しなければならない時もあるのだ。出張で得られた様々な情報をその時に与えられた時間で説明できるサイズに加工する技術が必要なのである。このように読書ノートは、多くの情報（本の内容）を、小（タイトル）中（要旨）大（要約メモ）の3つのサイズにまとめる訓練にもなるのだ。

【課題2】

いろいろと調べて関連情報を得たら、その本を読んで読書ノートを作成してみよう。

3 読書ノートの作成と読書をするコツ

これまで読書ノートの作成方法について紹介してきたが、ここまで読んで読書ノートを作成することに不安を感じていたり、読書に対する苦手意識を持っている人もいるだろう。そこで最後に、読書ノートを作成するにあたって筆者なりにいくつかのコツを紹介したい。

大事な文章を引用するときは「」でくくり、一言一句違わず、正確に書き写す。忘れがちなのはページ数も必ず記載することである。これがないと後でレポートや論文を書く時に、引用箇所を探すので苦労する。また引用箇所を明示せずに引用すると盗用（剽窃）となってしまう。アートの世界で盗作（剽窃）は最大の罪であるように、「自分で問いを立て、考察し、自分なりの答えを出す」学問の世界でも同じように、盗作（剽窃）は最大の罪である。同じように、本の内容を要約した部分と自分で考えた論点・疑問点はハッキリと分けておく。本で学んだ内容を自分で考えたことであるかのように振る舞うことは、盗作（剽窃）したことと同じである。

難しくて分からなかった部分や理解できなかった部分もメモするが、その時に何がどう分からないのかメモしておこう。一度読んだだけでは十分理解できないケースはとても多い。また、他の本を読んでいるうちに、以前は理解できなかった部分が理解できるようになることもある。その時にメモを見直すことができる。メモを見直す場合に備えて、パソコンやスマホを使って読書ノートを作成するのもそれなりに有用である。手書きのノートでも構わないし、その方が読書しやすいという人もいるだろう。一方でパソコンやスマホを使って読書ノートを作るとノートの中身を検索できるだけでなく、読書ノートで書いたメモをレポートや論文に利用することも簡単にできるという強みがある。

勉強し始めたばかりや、初めて読むような分野の本、難解なテーマを扱った本、古典的な文献のように読むのが苦労しそうな本ほど丁寧にノートを作るとよい。読書ノートはそういった少し難易度が堅い本を読むのにきわめて有効な読書方法である。読書ノートを作成することに慣れてきたら、本の難易度によって簡略化した読書ノートと詳細な読書ノートに分けても良い。具体的には、よく知っているテーマの本や入門用の易しい本を読む場合には簡略化した読書ノートにして、重要な文献であったり、難解な文献の場合には詳細な読書ノートを作成する。

図書館で借りた本で読んでみて、良い本・大切な本だと確信したら、思い切って買って本棚に置こう。本棚は知識をストックしておく場所である。図書館で借りた本は返却してしまえば、後から読みたくなったり、確認したくなったりした時、すぐに読むことができない。良質な本ほど、何度も読み返すたびに発見があったり理解が深まったりするものである。本棚とは「知識の履歴書」である。それともし、本や論文をコピーするときは、本文だけではなく、表紙+目次+本文+注・文献リスト（+資料編+索引）+奥付、を忘れずにコピーする。これらがないと正確な書誌情報が分からなくて、卒論、ゼミ論やレポートを書いた時に参考文献としてリストアップできない。

乱読多読で良いといっても、次に読む本はどうやって探したらよいか疑問に思った人もいるだろう。そこで次の本を探す場合には「芋づる式」に本を探すことをオススメする。まずは図書館などで直観で本を選んだり、身近にある本から読んでみることになるが、その本の本文の注や文献リストには、関連した本や論文が挙げられている。その中から、さらに自分の関心に沿った本や論文を読むのが堅実な方法である。同じ著者が書いた本や論文などを検索して手に入れるのも良いだろう。図書館の書架に行く場合や大型書店に行く場合、目当ての本が置かれた書架を一通りチェックするのも良

い。意外なことに、目当ての本の近くにもっと読みたい本が置いてあることが多い。

どんな分野でも50冊くらい読み比べれば良い本と悪い本が分かるようになる。まずは精読しなくても良いので、次々と読み比べてみよう。そうするとどの本でも評価の高い古典、定評のある著者が見えてくる。ある程度めどが立ったら、重要そうな本を精読していくのがよい。そのテーマについてたくさんの本を読み比べていけば、表紙、目次、序章、索引、著者、出版社といったところから判断できるようにもなる。特に評価の高い本や論文は、「序章」や「序」「はじめに」などで本の内容をコンパクトにまとめて説明していたり、鋭く明快な問いを設定していることが多い。

分厚い本を読むコツは「1日最低1章以上」というようにペースをつくってそれを守り切ることである。丸一日たっぷり時間を作ってまとめて読もうとすると意外と集中力が続かないものである。何時間も集中して読書ができる人はそれでよいが、そうではない人は、ひとまず短い量を集中して読むことから始めてみるとよいだろう。大学まで往復する電車の中で本を読むことにするのも良いし、毎晩、布団に入って本を読んでから寝ることにすれば、すぐに眠れるに違いない。こうして読むペースを決めれば、10章で構成された本なら、必ず10日以内に読み終えることができる。また、レポートなどの課題として締切までに本を読まなければならない場合、こうやって分割してみれば、いつごろから読み始めれば良いのかが分かって、スケジュールもたてやすくなるのである。そして、毎日少しずつ本を読むことが習慣になれば、どんなに分厚い本も読み終えることができるようになる。さらにこれを応用すれば、日本語訳されていない外国語の本を読み終えることも夢ではない。300ページの洋書を毎日2ページずつ読んだら半年で読み終わることができる。もし、卒業までに数冊でも洋書を読み終えたら大きな自信になることだろう。

【課題3】

その本のなかで紹介されている本やその本が参考にした本のなかから、自分が関心を持った本を選んでください。また、その本の著者が他にどのような本を書いているのか検索してみよう。

おわりに：読書ノートの実際の例

読書ノートの作成方法についての解説は以上である。ここで述べた読書ノートの作成方法は、筆者のこれまでの読書経験から生み出した方法である。最後に、例として筆者が作成した読書ノートの一部を示しておくので、これを参考に自分なりの読書ノートの作成方法をアレンジしたり、編み出していくとよいだろう。

■読書ノートのサンプル

作成：061120Mon.

タイトル→ 米国における多元的な統治システムの成立過程の歴史分析 ⇨ 自分で考えたタイトルを付ける

書誌情報→

■文献
Dahl Robert A., 1961, *Who Governs?: democracy and power in an American city*. New Haven: Yale University Press. (= 1988, 河村望・高橋和宏監訳『統治するのはだれか』行人社)

■キーワード
政治的資源, 政治的影響力, 選挙と投票, 大衆政治 ⇨ キーワードを自分で考えてつけるのも良いアイデア

要旨→

■要旨
本書は、アメリカ北部の都市の政治体制の歴史を追うことで、都市の政治体制の変動モデルを描いたモノグラフである。ニューヘブンは、様々な移民が流入し、都市住民層を形成していった。彼らは同じエスニシティの政治家を支持し、その政治家は自らのエスニシティの利益をもたらすために政治活動を行っている。ニューヘブンにおいて、政治の力によって仕事を得ることはニューカマーが社会的上昇を果たすうえで重要な回路の一つなのだ。こうしたかたちでエスニシティごとに支持層が形成されていくことで、ニューヘブンでは都市政策の全般的な局面で権力を持つ集団が頂点に立つ地域権力構造が形成されず、個別の政策やイシューごとに政策決定過程において権力を持ち得るエスニシティがそれぞれが存在する多元的な統治システムが成立していったことを明らかにした。
なお、都市政治の分析にあたっては、権力者の名声（声価法）ではなく、政治的争点ごとに政策決定過程を分析する必要があることを主張した。これはハンターが『コミュニティの権力構造』において、アトランタを事例に、一部の地域指導者が権力を持つ地域権力構造を主張したこととその都市政治分析の手法に対してへの批判として受け取られ、いわゆる「CPS 論争」を引き起こした。
⇨ (3) 要旨は文章の形式にする

■要約メモ

まえがき
対象：コネティカット州ニューヘブン
時期：1957～59年頃（原書の刊行は1961年）
理由：アメリカ都市の典型（3つの有利な点（1）長い歴史を持っていない→歴史的展望が可能（2）きわめて競争する二大政党が存在→全国的レベルの政治との類推が可能（3）最近10年間で政治体制が変化→安定と変化をもたらす要因を検討可能
この調査研究から、他にも『地域権力と政治理論』『進歩のための政治学』が出版されている

要約メモ→ ⇨ 矢印(→, ⇔)や記号(≒, ≠)などを使ってまとめてもよい

使用しているデータ
(1) 面接資料= 1957～58年実施、重要な意思決定に参加した人たち
(2) 3つの標本調査= 1つは数百の下指導者/2つは登録有権者を対象
(3) 歴史書類= 合衆国コンセンサス、他の記録や資料→「面接では得られない、信頼できる歴史的展望を得るため(p.5)」
⇨ 箇条書きにまとめてもよい：(1) (2), など

読者= 仲間の学者、ニューヘブン地域の仲間の市民、この集団には属さない学究的な読者→「ある一つの特異な政治についての本を読むことで、その人自身の地域について、またアメリカ政治について、あるいは民主主義それ自体について、より良い理解を得ようとしている人たち (p.5)」
⇨ 引用部分は必ずページ数を明記しておく

第1章 問題の本質

1

作成：061120Mon.

- ・大衆には貴族と企業家の区別がつかない
- ・政治の下層中産階級的な色
- ・貴族は専門職・商業・銀行業に就いたが、大衆に受ける製造業には就かなかった
無知な職工たちが安定した社会秩序を壊すという感覚
企業家として、無慈悲で攻撃的である性格の欠如、具体的なつらい経験がない
ある種の想像力の欠如があった
大量生産方式の革命的な未来に目を向けることができなかった

要約メモ→

→「製造業や企業経営は、明らかに上流社会の人たちの職業ではなかった」(p.47)
cf.イギリスの有閑階級の社交界では「お金儲けの話ははしたくない」という感覚がある

都市労働者＝数が多いが、大部分が地位も政治的な手腕も経済的な資源もない移民。
公職の威信を企業家が貴族に代わって保つ役割を果たした。

貴族→企業家
＝社会的地位と富を持つ層が部分的にしか重ならなくなる（貴族は社会的に、教育では高い水準を保つ）
＝政治的諸資源の拡散的な不平等を作り上げる

企業家は、地位や富だけではなく、有権者の人気によって支持されていたこと→大衆の人気に支えられた「元平民」の台頭によって政治の表舞台から退く

第4章 元平民

☞小見出しは文献のものを利用して良いし、自分で適宜付け加えても良い。

産業企業家の時代

労働力の必要性→移民の増加→プロレタリアートの形成→「元平民」の政治的支配
社会的・経済的に底辺にいる「少数民族」からの支持・忠誠（あるいは、その出身者）
人種政治＝有権者の統合的な性格よりも、差異的な性格を強調し、しかも同時に同化と受容にたいするかれらの切望を利用した政治
その目的＝少数民族が上昇していくための機会の拡大
*誰かが斜面をあがれば、そこからの手助けでまた誰かが斜面をあがれたが、山自体を平らにすることは関心がない。
にもかかわらず、政治的資源の累進的不平等から拡散的な不平等への転換が起きたことには注意

.....省略.....

■感想

- ・~~~~~
- ・~~~~~
- ・~~~~~

感想→

■疑問点・論点

Q~~~~~? ☞疑問点は、最後にまとめて書かずに、メモの間に挿入しておいても良い。

A~~~~~

☞自分の考えや予想される答え・仮説も書いてみよう

Q~~~~~?

A~~~~~

☞分からなかったこと・理解できなかったことも書いておく

疑問点→

第 4 章

On Learning English (Tim Kawanishi-Young)

Introduction

This situation may be familiar to many of you: you want to be good at English, but struggle to study and fail to see improvement. It can be difficult to even decide what to study, and it is difficult to keep motivation. Sometimes you might even feel like there is no hope of actually using English and no point in trying. If you feel this way, you can be sure that you are not alone. Many people around the world have this experience when studying any foreign language, even those less complicated and difficult than English. In this essay, I present my own thoughts on what is needed to study English (or any foreign language) effectively. Put simply, I think that you need a combination of three elements: (1) motive—a clear reason to study and a focus on *learning* rather than *knowing*; (2) target—a concrete, easily defined goal that you want to achieve; and (3) opportunity—the time, resources, and ability not just to study, but to put language into practice. You can certainly make some progress with just one or two of these three, but consistent, sustained improvement is much more likely when you have all three together.

A quick disclaimer

Before I continue, I feel it is important to make it clear where this advice is coming from. I am a native English speaker born and raised in the United States of America, so I have never had to struggle to learn English. I am not a specialist in linguistics, nor have I been intensively trained in the teaching of English as a foreign language. This essay will not tell you which English study book is the best or what the most effective way to memorize vocabulary and grammar structures is.

On the other hand, however, I am also a lifelong language learner. I began studying Japanese at age 18 when I started university studies, which means that I have spent over half of my life involved with Japanese language in one way or another. Today, my academic specialty is Japanese literature of the Meiji period. But even though I read and write in Japanese in my academic research, and although I teach, live, and work in Japan, if you take one of my classes, you will quickly see that my Japanese is by no means perfect. (Even now, there are still some days when it feels like my ability to communicate in Japanese is not even particularly good!) In other words, even though I am not a specialized English teacher, I am familiar with the pains and the never-ending struggle of learning a second language, and that is the place

from which I am making my advice.

With that out of the way, let's take a closer look at the three elements that I introduced earlier: motive, target, and opportunity.

1. Motive

Having a motive to learn English may seem like the most obvious item of these three. There are all kinds of reasons that knowing English is useful, many of which you have probably heard already: it is one of the most common languages of international communication, whether in business, tourism, or on the internet. American films and TV shows (as well as those from other English speaking countries) are marketed and available worldwide, and so on. However, if you carefully read the beginning of this paragraph again, the reason that I stress this point so much may become clear—there is a difference between committing to *learn* English and just wanting to *know* English.

What exactly is the difference? Well, on the one hand, practically everyone in the world wants to *know* a foreign language—it is natural to want to be able to express yourself clearly, to understand jokes, to listen and speak and read and write freely. Examples of imaginary tools that make communication or translation instant and transparent are everywhere. As just a couple of examples, Doraemon has his honiyaku konnyaku, while Arthur Dent from *The Hitchhiker's Guide to the Galaxy* has his Babel fish. (In fact, we might even think about the contemporary growth of machine translation tools as another expression of the same fantasy of *already knowing* all of the languages in the world.)

On the other hand, a commitment to *learn* English is a commitment to struggling constantly: to mastering vocabulary, grammar, and common phrases, both fundamental and specialized. Even once those elements grow familiar, understanding the way that English is used—how people communicate their ideas, what kind of jokes they tell, what people do and do not value—is a process that will never be done. Staying in contact with a language and a culture takes constant effort and practice.

In other words, to effectively learn another language, your basic attitude must shift away from the natural focus on *knowing* the language completely and totally. You can't let yourself believe that you will ever be done. Instead, you must be able to appreciate—and commit to—the extended process of *learning* the language, understanding that there will always be something that you don't know yet.

2. Target and 3. Opportunity

It may seem strange for me to talk about targets and goals next, since I just wrote so many words to stress that focusing on completion and being done is something that should be avoided. However, having concrete, easily defined goals is necessary to balance out the never-ending process of learning. At the same time, I believe that while your motive can be large and abstract—committing to long-term learning and overall improvement—your targets and goals should be as specific as possible. Obviously, a goal like “I want to be able to read English more quickly and easily” is very vague and difficult to tackle. Something like “I want to be able to read the newspaper” or “I want to read literature” is better, but even better still would be a goal like “I want to be able to understand most of what I read in *The New York Times*” or “I want to read ‘The Enormous Radio’ by John Cheever.” In the same way, “I want to be able to talk to people in English” is much less useful of a goal than “I want to be able to explain the menu to

tourists who come to the restaurant where I work part-time.”

That last example also shows how target and opportunity can be connected—when you want to improve your English, the best thing that you can do is to use it as much as you can. A very common tendency among language learners is to study too much: to try to master the fundamentals (grammar, vocabulary, common phrases, and so on) as a first step before you advance any further. I will admit that fundamentals are certainly important; without them it is very difficult to accomplish much. So what does it mean to “study too much”?

For one, understanding (and correctly using) the fundamentals of language is not a binary. Just like language learning as a whole, there is never a clear point where you have definitively mastered the basics of English. You will always have good days and bad days in a foreign language. If you understand that you will always be learning, then you can realize that there will always be time to study or review fundamentals.

At the same time, one of the constants of human existence is that we get better at the things that we do regularly. My youngest son is just about to turn one, and he is just learning to walk. Watching him totter around on shaky legs is a fine reminder that no one is born walking. It’s something that we practice every day of our lives until eventually we don’t even think about it anymore. The same thing is true of swimming, of eating with a spoon, of putting on makeup... and of course of language too. For the purposes of motivation and directed language learning, it is probably *more* important to practice using English than it is to master the fundamentals.

Developing opportunities to use English is all about finding opportunities to practice reaching your goal. For reading and listening goals, libraries and the internet make it easier than ever to access all kinds of material in English, from newspapers and novels to TV shows and movies to podcasts, Tiktok videos, and livestreams. Whatever you are interested in, it is possible to find people writing, speaking, and conversing about it in English on the internet. If you are more interested in conversation, then obviously opportunity requires finding willing conversation partners, but luckily, you go to school in Kyoto, one of the tourist capitals of Japan. There is no lack of volunteer opportunities and part-time jobs in this area that will regularly put you in contact with tourists whose only available language is English.

In conclusion

I fear that I may have emphasized the challenge and daunting scale of learning a foreign language too much. It certainly is a lot of work, and it certainly does require commitment, but I believe that learning a foreign language and using it to communicate with people is not only fun, but also has outstanding benefits. Like many of the things that we do in college, learning a foreign language is really another way of gaining perspective on yourself and your own life. When we learn to express ourselves in a foreign language, we also learn a different way of thinking and seeing the world and our place in it. While automated machine translation is obviously improving by leaps and bounds in recent years, I strongly urge you not to rely on the computer for doing your thinking for you. Studying a foreign language can give you access to people and places that are impossible to predict.

第5章

正しいレポート・レジユメの体裁（江口聡）

大学でのレポートに求められる純粋に体裁のきまりごとを説明する*1。

1 レポートとレジユメ

- 一般に、大学で「レポート／小論文／エッセイを提出せよ」と指示された場合、特別な指示がなければ、このテキストの他の論文・文書のように、箇条書きではなく段落をととのえた正式な文体で書くこと。
- 「レジユメ」や「ハンドアウト」はミーティングや会議、ゼミなどのプレゼン・発表の内容を要約し、配布する紙を指す。箇条書きなど簡略な形が好まれる傾向がある。簡略なものにするか、あるていど詳細なものにするかは、その会合の目的による。
- この文書「正しいレポート・レジユメの体裁」は自由なレジユメの形式と文体で書かれている。

2 タイトル等

どんな文書にも、**タイトル、執筆者名、所属、日付、発表・提出先**が必要である*2。レジユメにも明記すること。

基礎演習 I 2020/5/1 提出
友達何人できるかな 友人形成に関する実存現象学的解明
現代社会学部現代社会学科 99-999999

*1 大学レポートは実は体裁がたいへん重要で、体裁がよければその印象で内容もよいものだと判断される。逆に、体裁がぜんぜんだめで中身がよい、というのは実際にはほとんどないのが実感である。読みやすくてきれいな文書をつくろう！

*2 誰が書いたかわからない出所不明な文書は「怪文書」と呼ばれる。大学で怪文書を配布してはいけない。

鳥辺野某太郎

(書き出し) ここでは、大学に入って基礎演習クラスにおいて友達が何人できるかを実存現象学的に研究する。実存現象学とは実はでたらめで～

余白は多めにとること。左右の余白をとらないと横1行が長すぎることになる。また大学レポートの場合は教員がコメントを書きたくなることがあるので、多めにとること。1行は35～40文字程度におさめるのが読みやすいだろう。

下の余白(フッタ)に必ずページ番号を入れること。ヘッダ(上の余白)やフッタ(下の余白)になにを入れるかというのは編集者やデザイナーの判断だが、なにがあってもページ番号だけはどこかに入れる必要がある。通常は紙面の下のフッタの中央に入れればよい。WORDの「表示」メニューから「ヘッダ/フッタ」を選択する。

ヘッダに著者名や文書のタイトルを入れるのは便利なきがあるが必須ではない。入れるのにしても1行にとどめ、複数行は余計な情報がうるさいので避けた方がよい。そうしたものはただの目印程度のものである。

3 フォントと文字

大学のレポートは基本的には明朝体のフォントを使うことが多い。大きさは11～12ポイントという指示が多い。行送り(行間)も適切に選択すること。

一部の言葉を強調したい場合は、下線を引く、傍点を打つ、ゴシック体にするなどの手段がある。ゴシック体にする場合には、さらに太字にした方がよい。ちなみに、明朝体を太字にしてもほとんど見分けられないので避けた方がよい。

欧文文字は主として「半角」を使う。「半角」という言葉は、昔の印刷組版で通常の文字の半分の大きさの文字を指していた。コンピュータが一般に導入されたときに、欧文文字のabcとa b cのような区別が導入された。現在ではほとんど意味のない区別だが、こうした歴史的事情からまだ生き残っている。それぞれ、"Kyoto Women's University"と"Kyoto Women's University"のようになるが、前者の「半角」で書いたものは読みやすいものになるが、後者のように「全角」で書くと見苦しい。欧文の単語は勝手に改行してはならず、どうしても改行を入れねばならないところは適切に「ハイフネーション」しなければならない。基本的にはいつも「半角」をつかっていれば、Wordのようなアプリケーションが適切に処理してくれる。

半角のコンマ(,)とピリオド(.)のうしろには必ず半角の空白を入れる。"A, B, and C."であり、"A,B,and C."と書いてはいけない。

まちがいやすいが、「<」と「>」は数学記号である。特別な意味で使う「山括弧」は<>にすること。ちなみに日本語の引用符は鉤括弧(「」)である。丸括弧()は文章の補足につかう。山括弧<>はかなり特別な意味で、使うならどういう意味が明示する必要がある。欧文風の引用符"と"を使う文書も最近よく見るが、なぜ鉤括弧ではなくそれを使うのか意識すること。またこの引用符には向きがあるのでそろえること。

よく議論になるのが、引用文のなかの鉤括弧(「」)をそのままにするか、『』に変更するかという問題だ。以前は『』を使うように指示されていたが、うるさいので、最近は「」のままですますことが多いようだ。『』は書名だけに使うと考えてよい。

脚注・後注などは、注をつけたい語の後ろ^{*3}につける^{*4}。WORD では「挿入」メニューにある。

ちなみに日本語の正式な文書では斜体（イタリック、*italic*）は使わない。WORD などは可能だが、ふつうはそういうことはしない。機械ができるからといってなんでもすればよいというものではない。

4 段落

段落（パラグラフ）の最初は、必ず一文字分空白を入れる。一文ずつ改行しないで、内容のまとまりを考えて段落に分けること。一段落は長すぎるのも短かすぎるのも読みにくい。好みにもよるが、10行を越えると長いと考えてよい。基本的に一つのテーマ・内容について一つのパラグラフを使うとされているが、実際には、執筆者が一呼吸置きたいタイミング、あるいは読者に一呼吸置いて考えてほしいタイミングで段落を改めると考えるとよい。

段落の間を1行空ける必要はない。たしかにオンラインの文章ではパラグラフの間に1行入れてあるものが多いが、ディスプレイでは、デザイン上の美意識や、その方が読みやすいと考えられているからであるしかし紙のレポート、書籍などでは段落の間の無駄な空行は不要である。

5 見出し

見出しについては、ごく短い文章では文書のタイトルそのものが見出しであるので不要の場合が多い。長い文章では今なんの話をしているのか読者がわからなくなるので、見出しがあるのは親切である。しかしあまりにも細かくなりすぎるとそれはそれでうっとうしいものである。

見出しはそこになが書いてあるかの目印であり、目印でしかない。つまり**文章本体ではない**ので、その見出しがなくても、それ以前の文章と文意がつながるように書くこと。見出しの言葉を「これについては」のように指示してはいけない。

また、見出しをつけるのは親切なことだが、「序論」「本論」という見出しはなにも情報量がないので無駄である。たしかに多くの指導書では「序論」「本論」「結論」の順番で書くのですよと指導されているけど、それぞれ序論で語る内容、本論で語っている内容を表しやすい見出しにすること。また、「本論」は、ふつうはさらに三つ四つの見出しが必要である。

見出しのフォントは、地の文（本文）から浮きあがって目立つものである必要がある。ボールドにしたりゴシックにしたり下線引いたりする。これも WORD の「スタイル」機能について調査し、卒業までに習熟しておくこと。

6 箇条書き

- ミーティングやゼミ発表で使うときには、すばやく作成でき、視認性がよいので箇条書きが好まれることがある。
- もし箇条書きが必要な場合は、Word の箇条書きの機能を使えばよい。一般に Word の「スタイル」は重要なので、検索するなり Word の解説書を読むなりして勉強しておくのがよい。就職してから文書を作る効率が向上する。

^{*3} 「後ろ」につけた注

^{*4} 文章全体につけた注。

- 箇条書き
- ふたつめ
 - 入れ子にするときは
 - 記号が重複しないように
 - 別の記号を使う
- みつつめ
 1. 番号を
 2. ふることもある

7 その他

- 複数枚のレポート・レジユメはかならずステープラー（ホチキス）で留めること。横書きの場合は左上を、縦書きのときは右上をとめるとよい。
- 紙クリップや紙に穴をあけてとめるタイプの器具は便利そうだが、すぐにばらけてしまう。紙の端を折って提出するなど言語道断。またゼミで複数枚のレジユメを配布する際も必ず事前にホチキスでとめておくこと。ばらばらのまま配布しようとするとはどく時間がかかる。
- 字数指定・制限があるレポートには最後に字数をつける。最終行に「(1980 字)」など書いておけばよいだろう。過去には原稿用紙に手書きだったのでだいたいの文字数がわかったものだが、現在はフォントや行間がまちまちなので字数がわかりにくいからである。WORD の場合は「ツール」メニューから「カウント……」を選べばよい。

参考文献

こうした約束事は、読みやすい文書を作るためにあり、一部は執筆者ではなく編集者やデザイナーの仕事でもある。文書作成がコンピュータ化される以前はそうした専門家の仕事だったが、DTP（デスクトップパブリッシング）が一般化するにつれて執筆者や一般職員がすべておこなわざるをえないこともある事情になっている。我流の見苦しい文書に対する苦情も多い。学生は当面は最低限の約束事を覚えるだけでよいが、下のような手引きを読んでもみるのもよいだろう。

- 日本エディタースクール (2012) 『原稿編集ルールブック』, 第2版, 日本エディタースクール出版部.
- 日本エディタースクール (2012) 『日本語表記ルールブック』, 第2版, 日本エディタースクール出版部.

第6章

引用・参照した文献の書き方（江口聡）

大学のレポートでは、しっかりと先行研究を調査し、引用・参照を正しくおこなう必要があります。以下では、とまどいやすい文献の表記方法について説明します。

1 文献参照の目的

参照した文献を正しく表記する必要があるのは、読者がすぐに確認しやすいようにするためです。読者は、参照されたものを確認したり、自分でも読んで研究したくなるので、図書館などですぐに入手できるような情報を提供します。

具体的には、(1) 著者・編者、(2) タイトル、(3) 出版者・出版形態、(3) 発行年の四つがそろえば資料を同定し見つけだし確認することができます。したがってこれらを表示すればよい、ということになります。

ただし、この四つの順番の表記方法や記述の順番がばらばらだったりすると混乱しやすく、また見苦しいので、一定のルールにしたがって配列する必要があります。この並べ方や表記方法に、学問分野や著者それに雑誌・出版社による揺れ、つまり細かい違いがあるので面倒なのです。それぞれの雑誌や出版社が細かい規則を決めて「執筆要綱」（ルール）のようなものを作成し、それにしたがって雑誌や書籍全体で統一するのが通例です。この文書の最後に、京都女子大学現代社会学部の紀要『現代社会研究』の執筆要綱の一部を掲載します。

さて、基本的なことだけはおさえておきましょう。著者、タイトル、出版者、発行年の四つを並べる順番は、おもに二つの流儀があります。

A (1) 著者、(2) タイトル、(3) 出版社・掲載雑誌、(4) 発行年

と発行年が最後に来るタイプと、

B (1) 著者、(2) 発行年、(3) タイトル、(4) 出版社・掲載雑誌

のように発行年が2番目に来るタイプです。前者は人文学や法学などの文献で使われることが多く、後者は、経済学や社会学などの社会科学や、自然科学などで多く見られます。一般向けの雑誌や新聞などでは著者よりもタイトルを先に表示することがありますが、アカデミックな書き方ではありません。

後者の著者と出版年を先に書く流儀は Author-Year（著者・年）型と呼ばれ、最近ではアカデミックな世界で主流になっており、現代社会学部の紀要でも採用されています。この形で表記して、アルファベット・五十音順に文献リストとして掲載すると、著者名と発行年からすぐにタイトルや出版社

がわかりますし、本文中で参照先をコンパクトに記述することができます。現代社会学部のレポート・卒論では、特別な指示がないかぎり、末尾に掲載する『現代社会研究』執筆要綱の流儀で文献を記載すれば問題ありません。

具体的には次のようにします。本文中でたとえば次のような参照をおこないます。

哲学者の戸田山和久によれば、世の中には数えきれないほどの「論文の書き方本」があるという（戸田山 2012: 9）。

この文中での指示のしかたについては、実際には（戸田山 2012, 9 頁）、（戸田山 2012, p. 9）。などの書き方もあり、執筆要綱に従います。

そして、文献リストに次のように掲載します。

戸田山和久 (2012) 『論文の教室：レポートから卒論まで』, 日本放送協会出版.

以下、具体的な書き方のポイントや、学部生がわかりにくいだろうと思うことを解説します。

2 具体的な表記方法の注意

デザイン的な好みに関する細かいことは別にして^{*1}、基本的なポイントについては、**なぜそうするのかの理由を理解しておくことが重要です。**

1. 著者が先頭であることを意識してください。なぜなら、学問的な資料や情報については、それを執筆・作成した人が誰であるか、言いかえれば情報源がどんな人であるかがもっとも重要な情報で、タイトルはそれに比較すれば重要ではないからです。「～という学者が～年に発表した文書である」ということがもっとも重要な情報です。
2. リストに掲載した文献の一部を本文中で参照する場合、（戸田山 2019, 19 頁）のように記載します^{*2}。姓、出版年、ページの順番です。フルネームで書く必要は通常ありませんが、同姓の人物が存在する場合はフルネームが必要になる場合があります。
3. 現在は通例、書籍（本）は『』で、書籍以外の論文や記事は「」でくくる慣例です。欧文の文献は書籍はイタリック体（斜体、*italic*）、論文は引用符（“ ”）でくくることになっています。雑誌名も日本語のものは『』でくくり、欧文のものはイタリックにします。参照している文献が、書籍なのか、雑誌や書籍のなかに収録されている論文であるかを見分けるためです。
4. **著者名のあとに「著」は不要**ですが、編集者の場合は「編」をつけます。学問の世界では、「～という名前の人の論文」という指示があれば、基本的には「その人が書いた」と理解されます。書籍の編集は、執筆者を集めて調整や指導をしたということなので「編」をつけます。
5. 雑誌には「第3巻」や「第4号」のような番号（巻号）がふられています。一般に、1冊1冊の「号」を集めて、大きめの「巻」を作ります。たとえば1年に4回刊行される雑誌は、第3巻第1号、第3巻第2号～と番号を振り、1年分をまとめて「巻」とするわけです。ただし「巻」が

^{*1} 実は細かい点については、好みの問題で学者どうし、あるいは執筆者と出版社の編集者などでケンカになることもあります。

^{*2} （戸田山 2019: 9）や（戸田山 2019, p. 19）のような表記もありえます。

なく「号」だけ、あるいは号がなく巻だけの雑誌も存在します。欧文雑誌の場合、Volume が巻、Number が号に対応します。巻号の表記方法はさまざまですが、雑誌『現代社会研究』の場合は、雑誌の第3巻第4号 (= Volume 3, Number 4 = Vol. 3, No. 4) の場合、「3 (4)」と表記するよう指示されています*3。

6. ISBN は通常必要ありません。出版都市名も最近では省略されることが多いようです。日本語の場合は考える必要がないでしょう。
7. 参照のためにページ表記が必要な場合は「123 頁」、複数の場合は「123-124 頁」のように書くのがよいでしょう。「p. 123」、「pp. 123-124」でも OK です。p. は page (1 ページ) の略、pp. は pages (複数ページ) の略で、**略した印に必ずピリオドをつけます**。「123P」「P123」「p. 123-124」は通常は誤りとされています。ページ番号であることが明らかな場合は「頁」も「p. / pp.」も省略してしまう場合もあるようです。
8. 読点などの入れ方はかなり細かく、編集者の好み等によって揺れがあります。読点やカンマをどこに入れるか、「、」と「,」のどちらを使うかなど、面倒ですね。最後に「。」や「.」を入れるかどうかなど、とても細かい世界がひろがっています。統一されていればどうでもいいように思われるのですが、とりあえず下の例にしたがってください*4。
9. 発行年、出版社などは、日本語の書籍ならば本の一番最後のページつまり奥付おくづけに記載されています。「第2版」「改訂新版」のような版ばんの表示があれば、それも明記しなければなりません。版が違えば内容も違う、つまり内容を大きく変更したときに「版」を新しくします。「刷」は何回印刷したかを示すだけなので**記載する必要はありません**。また、たとえば「株式会社岩波書店」の株式会社は不要です。「岩波書店」で OK。
10. 文献リストは姓名の五十音順に並べます。欧文著者はアルファベット順で。翻訳された本のカタカナ名は五十音で並べてかまわないでしょう。ただし**外国人の姓と名を混同しないこと**。たとえばピーター・シンガーという学者について、「ピーターの主張によれば～」と書かれると、「え、あのシンガー先生と友達なの？ どういう関係？」などと気になります。
11. 私見ですが、日本人の姓と名の間に空白入れる必要はありません。「徳川 家康」はおかしいと思う*5。
12. 翻訳本も面倒なのです。下の『現代社会研究』執筆要綱ではアルファベットで記載していますが、学部生のレポートや卒論カタカナでもかまわないでしょう。自分で入手あるいは閲覧していない文献をリストに入れるのはおすすめできません。Author-Year で見つけやすくするために、姓を先にしてください。(くりかえしますが、外国人の姓名をまちがえないこと！ジョン・メイナード・ケインズはケインズが姓です。)

ケインズ, ジョン・メイナード (2008) 『雇用・利子および貨幣の一般理論』(上下), 間宮陽介訳, 岩波書店.

*3 でもしたがってない執筆者が多いようです。

*4 実はこの執筆要綱自体ちょっと揺れてますね。

*5 つのだ☆ひろや、つくくみはそういう名前です。

2.1 編集された本・論文集

面倒でまちがいがやすいのが、複数著者・編集者による文献や、編集された書籍に入っている論文です。たとえば次のような本があります。

嘉本伊都子・霜田求・手塚洋輔・中田兼介・中山貴夫・西尾久美子編 (2015) 『現代社会を読み解く』, 晃洋書房.

これは嘉本・霜田・手塚・中田・中山・西尾の5人の先生が編集した本です。こういうふうに著者や編集が多い場合は、本文などでは

嘉本伊都子他編『現代社会を読み解く』は京都女子大学の教員が執筆した教科書で、たいへん優れた現代社会の問題研究の手引きになっている～

のように省略して書いてもかまいませんが、**原則的に文献リストでは全員の名前をあげるのが正式です。**

さらに、こうした編集された書籍のなかにはいつている個々の論文や文章は、基本的にその個々の著者に文責があります*6。そのため、文献として参照する場合も、**原則としてその個々の論文の著者とタイトルを明記しなければなりません。**

たとえば上の『現代社会を読み解く』に収録されている秋本勝「豊かと幸せ：GNHをめぐる」という論文を参照するには、嘉本他編の『現代社会を読み解く』の39頁、などではなく、次のように書く必要があります。

秋本勝 (2015) 「豊かと幸せ：GNHをめぐる」, 嘉本伊都子・霜田求・手塚洋輔・中田兼介・中山貴夫・西尾久美子編 『現代社会を読み解く』, 晃洋書房, 39-52 頁.

こうすると、読者は、「ああ、秋本さんという学者が書いた文章なのだな」ということがわかります。編集者と書名と頁番号だけだと、実際に本を入手しないとこれらが分からず不親切です。しっかり書きましょう。

2.2 ネットの情報はどうするの？

ネットにある情報を文献表でどう扱うかは、いまだに混乱しているようです。とりあえずのところ、『現代社会研究』執筆要綱にあるように、「作成者名・タイトル・URL・最終確認年月日を記す」ということになっていますが、一般にはいまだに安定していません。また、多くの学術団体がこうしたルールを定めた1990年代後半から時間が経過し、現在では時代に合わなくなっているという指摘があります。

*6 たとえば、その文章がすばらしいものであれば、文章の内容について編集者ではなくその著者が賞賛されます。逆に、嘘の情報を書いたり、剽窃などの不正をしたらその著者が責任を問われます（この場合は編集者もちょっと非難されるかもしれませんが）。こういう事情で名前はとても大事なのです。

たとえば、URLは頻繁に変更されてしまうために記録する実用性が低くなっています。またURLはどんどん長く複雑になる傾向があり、紙の媒体ではほとんど掲載する意味がなくなっています。Wikipediaの記事など、複雑で「%」だらけになってしまって用をなしていません*7。官公庁の発表物など、どこにあるかが明確で検索が容易な場合は、URLはもはや必要ないかもしれません。

最終確認年月日も、あまりに煩雑になる場合は、論文の提出日前日などにすべてのURLが有効であることを確認して、「以下ネット情報の最終アクセスは～年～月～日である」のように宣言してしまうのは簡便な方法でしょう。

また、私見では、かわりに**発表年月日**が重要になっているようです。官公庁、ニュース記事などは**発表日**を明記するべきだと思われまます。そうすればURLなどが変更されても読者がアクセスしやすくなります。最終確認年月日は、**発表日**がはっきりしていれば不要なのではないかとさえ思われまます。こうしたことはまだ一般的にはなっていません。原則的には、下の執筆要綱の通り、「作成者名・タイトル・URL・最終確認年月日を記す」という約束をまもっていただければよいでしょう。

文書や画像の引用のルール等は別項を参照してください。

3 現代社会学部紀要『現代社会研究』執筆要綱（抄）

現代社会学の紀要『現代社会研究』の執筆要綱の一部です。雑誌や書籍に文章を書く場合は、雑誌を発行する学会や、出版社から執筆者に対してこのような執筆要綱が配布されます。現代社会学部の学生は、なにも指示がない場合はこのルールにしたがっていただければOKのはずです（他に指示がある場合はそれにしてください）。

⑤ 本文および脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて「参考文献」とし、下記の方法により記入する。

(1) 文献の配列は、和洋別とし、和文献は著者名のアイウエオ順、洋文献は著者名のアルファベット順とする。

(2) 文献の書き方は、次の要領にしたがう。

(a) 記述順序

図書：著者名、(出版年)、書名、版表示、出版地(洋書)、出版社、参照頁、(シリーズ名)、(ISBN)

雑誌：著者名、(発行年)、論題名、雑誌名、巻(号)、参照頁

(b) 区切り記号および文字

区切りにはカンマ(,)を用い、最後にピリオド(.)を打つ。洋書の出版地と出版社はコロン(:)で区切る。

－ 欧文の著者名は姓を先に書く。共著の場合はアンド(&, and)で結ぶ。日本語の書名(書誌名)の前後には(『』)、論文名の前後には(「」)をつける。

－ 巻、号、頁、発行年などの数字は、原則としてアラビア数字を使用する。☆欧文雑誌の論文名の最初と最後には、(“”)をつける。

☆冠詞、前置詞、接続詞(文頭以外)を除く各語の初字は大文字とする。

*7 Wikipediaについては、Wikipedia そのものが「Wikipedia: ウィキペディアを引用する」という提案記事を掲載しているので検索してみてください。

☆欧文の書名および雑誌名は、イタリック体にするため、原稿には赤字で下線を引くこと*⁸。

(c) 記述例

－ 図書

和書: 柏木博 (1993) 『ユートピアの夢: 20 世紀の未来像』 未来社, 135-138 頁.

翻訳もの: Keynes, J. M. (1936) *The General Theory of Employment, Interest and Money*, London: Macmillan (塩野谷九十九訳『雇傭・利子及び貨幣の一般理論』東洋経済新報社, 1941 年).

－ シリーズもの

細野昭雄、畑恵子編 (1993) 『ラテンアメリカの国際関係』 新評論, 133-145 頁 (ラテンアメリカシリーズ 3).

－ 洋書

Unger, Danny & P. Blackburn (1993) *Japan's Emerging Global Role*, Boulder: Lynne Rinner Publishers, pp. 158-160 (ISBN1-55587-387-1).

－ 雑誌論文

雑誌名は、省略せず、完全誌名を記述する。ただし、欧文誌名は、国際的な慣行にしたがって略記してもよい。

国内雑誌: 大久保史郎 (1993) 「戦後政治・社会過程と憲法」『法律時報』 65 (11), 68-70 頁.

欧文雑誌: Chan, Kalok (1993) “Imperfect Information and Cross-Autocorrelation Among Stock Returns”, *J. Finance*, 48 (4), pp. 1211-1230.

⑩ Web 上の情報は、作成者名・タイトル・URL・最終確認年月日を記すこと。画像等は作成者から使用許可をえること。

第7章

剽窃を避ける（江口聡）

1 剽窃・盗用

1.1 剽窃してはいけません

時おり、新聞やテレビニュースで大学研究者（教員）の「研究不正」が話題になります。大学などでの研究者が、研究データを捏造^{ねつぞう}したり改竄^{かいざん}したりすると大きなニュースになりますが、より頻繁におこなわれているのは「盗用」（剽窃^{ひょうせつ}）です。盗用・剽窃 (plagiarism プレイジャリズム) はアカデミックな世界では非常に重大な犯罪です^{*2}。大学学生の授業レポートや卒論でも場合によっては単位の不認定、取り消しなどにつながる場合があります^{*3}。

多くの大学新入生は、中高生のときに「著作権」についてすでに耳にしたことがあるはずです。著作権は法的な制度で、作者・著者（知的な作品を作った人や団体）の著作者としての権利と著作物の財産としての権利を守るものです。他人の作品（マンガ、音楽、本など）を勝手にコピーしたり改変したりすることは法的に禁じられています、と教えられているはずです。

しかし「剽窃」の問題には、単に「コピーしてネットにアップロードしてはいけません」「本やウェブにある文章を丸写ししてレポートとして提出してはいけません」ではすまない問題が含まれています。この問題には、色々とわかりにくいことがあるので説明しておきましょう。

1.2 「研究不正」としての盗用

文部科学省は研究活動における不正行為（研究不正）を次のように分類しています^{*4}。

捏造 存在しないデータ、研究結果等を作成すること

改竄（改ざん） 研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること

盗用 他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文または用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること^{*5}

^{*1} 実は「でつぞう」とも読む。

^{*2} 「剽窃」が難しい言葉なので「盗用」が使われることが多いようですが、「剽窃」もおぼえておきましょう。

^{*3} 大学によっては、その年度のすべての単位の取消、あるいは停学・退学などの規程を定めているところもあります。京都女子大学の学則を確認してみましょう。

^{*4} ただし、文科省（官公庁）の定義がいつでも正確だとか、それにしたがうべきだというわけではありません。あくまで定義と分類の一例です。

^{*5} 文科省（2006）「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」、https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/_icsFiles/afiefieldfile/2014/08/26/1351568_02_1.pdf、p.10。漢字の表記等は変更してある。

データや資料の捏造や改竄が不正であることは言うまでもないでしょう。研究活動のなかでは多くの場合、データや資料をすべて公開することは求められません。そのため、こっそりありもしないデータをつくりだしたり、ありもしない資料を参照したりする人々がいます。この種の不正は理系の学問分野で起こりやすいのですが、文系でも時々見られます*6。

研究者の世界では、剽窃も頻繁に話題になります。剽窃とは、簡単に言えば、他の人々（「研究者」には限りません）が調査したもの、考えたものを、あたかも自分のものであるかのように使用・提示すること（たとえば論文やレポートで）、そうした印象をもたせることです*7。もっと簡単にいえば知的成果の泥棒です。もっと簡単に言えば、他人が考え作りだしたものを自分のものだと主張するインチキです。単なる著作権侵害には留まりません。

剽窃・盗用は、データの捏造や改竄と並んで、大学関係者・学術研究者のあいだではたいへん憎まれている行為です。なぜならそれは、真面目な研究者たちにとっては、汗水足らしてお金つかって長時間調査し考えた結果だけをもっていかれるということだからです。著作者の経済的利益だけの問題ではありません。理系の科学者の場合はデータの捏造が話題になりますが、文系の研究者・学生がおこないやすいのはなんといっても剽窃です*8。「剽窃」は「著作権侵害」と重なりあうところもありますが、もっと広い範囲に及ぶ概念です。

調査してみよう

1. Google 検索などで「大学教員 盗用」などで検索してみよう。ついでに「大学教員 研究不正」でも検索してみよう。どれくらいの事例を見つけることができるだろうか。
2. 各大学がレポートでの不正行為についてどのような注意を促しているか確認してみよう。「大学 レポート 不正 剽窃」などでネット検索してみるとよい。また京女はどんな指導をしているだろうか。
3. 京女と近隣の各大学で授業レポート・卒業論文などでの不正行為がどのように処罰されることになっているか調べてみよう。
4. 文科省の「ガイドライン」(https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/fusei/index.htm)を見てみよう。

1.3 著作権法での正当な引用とは

おそらく高校で「著作権」の考え方を耳にしたときには、「正当な引用・参照」は許される、という話も同時に耳にしたはずです。著作物を丸ごとコピーすることは許されませんが、その一部を自分の作品（レポートその他）に取り込み参考にし論評することは自由におこなってかまいません。

ちなみに「無断引用」という言葉が一部で使われることがありますが、これはおかしい言葉です*9。引用は著作者に無断で行なってかまいません。わざわざ著作者に「引用して OK ですか？」などと尋

*6 データの捏造は時々社会的に大きな話題になります。2010年代なかばの「STAP細胞」事件を検索してみてください。また考古学の分野などでも起こります。2000年の「旧石器捏造事件」も検索してみてください。文系でも時々捏造が発覚します。とても高名だった学者が存在しないドイツの神学者「カール・レーフラー」を捏造して大きな話題になり、SNSのジャーゴンとしていまだに使われています。検索してみてください。

*7 これは文科省の「盗用」の定義と少し違います。法学者 Richard Posner の *A Little Book of Plagiarism* (Pantheon, 2007) で提示されているものに近いものです。

*8 しかし（意図したものかどうかはわかりませんが）インチキなデータ、グラフ、不適切な引用、参照なども実は目につきます。

*9 こんな言葉を使っている人々を信用してはいけません。

ねる必要はありませんし、一々そんなことをされたら迷惑です。

著作権法上、引用は自由におこなってかまいませんが、その際には条件があります。

- (1) すでに公表されているものであること
- (2) 公正な慣行に合致していること
- (3) 引用の目的上正当な範囲でおこなわれていること

(2)の「公正な慣行」や(3)の「目的上正当な範囲」がぼんやりしていてわかりにくいかもしれません。「公正な慣行」は、その分野で普通認められているやり方でおこなうべきであるということであり、大学でのレポートなどでははっきりした慣行があるので、大学生はそれを学ばなければなりません。(3)の「目的上正当な範囲」は、たとえば倫理学のレポートを書くために必要な最小限の引用でなければならない、ということです。(2)の慣行については、もっとはっきりした引用のルールがあります。

- (a) 引用部分が明示されていること（明瞭区分性）
- (b) 引用元が明示されていること
- (c) 自分が書いた部分と引用された部分の主従関係が明確であること
- (d) 引用する必然性（必要性）があること
- (e) 引用部分を改変しないこと

(a)はまず、どこからどこまでが引用なのかがわかるようにしなければならない、ということです。他人の文章には「」をつけるか、あるいは（長い引用ならば）段落を字下げして、その部分が引用であることがはっきりわかるようにする。そして(b)引用元をすぐに明記する。レポート・論文の最後の方に文献表をつけるだけでは不十分です。文献表に複数の文献がある場合、どこを引用・参照しているかわからないからです。教科書などで最後の方に文献がまとまっているのは、読者にその文献のちほど読むようにという指示であって、情報源・引用元・参照元を示すものではありません。基本的に文献表に載せるものは、どこを参照しているのか本文や注で言及する必要があります。

また、引用の際には、(e)で指示されているように、その「」をつけたり段落字下げで表現した引用部分は一切改変してはなりません。一語一句そのままではなければならないのです。これは誤字・脱字のたぐいまで修正してはならないということです。出版物に誤字などはよくあることですが、誤字にも「ママ」というルビを振るのが慣行になってます。たとえば「江口の文章は誤字だらけである」と引用しないとならないわけです。引用文の最初や途中や最後を中略したいときは「……」「(中略)」「(後略)」などで略したことを明示しなければならなりません。強調を勝手につけることもだめで、もし一部に傍点を打ったり下線を引いたりして強調したい場合は、「強調（傍点／下線）は筆者による」と記さなければならない。漢字も勝手に変更してはならず、「(表記は修正した)」のように記します。面倒ですね。でもそれが学術論文の引用の慣行です*10。

(c)の主従関係が明確である、というルールは、自分が書いた文章が「主」であり、引用は「従」でなければならない。たとえば大学レポートなら自分が書いた部分の量が大きく、引用はごく一部に留めるべきだ、ということです。具体的な分量の決まりはありませんが、たとえば引用部分が全体の1/3あるというのはいかにも多いと思われ*11。

*10 ただし日本の大学のレポート程度ではそこまで厳しく指導されていません。減点するかどうかは教員次第。本当はこうなんだよ、ということです。

*11 昭和の偉い哲学の先生のなかには、大部分が「」にはいった引用文のつなぎあわせという先生もいらっしゃったのですが、現代では許されません。

ここまでは「著作権」の話として一般によく語られていることです。しかし、レポートや論文の剽窃の問題は、こうした「正当な引用」をクリアすればそれでOKというものではありません。なぜなら、論文やレポートなどの学術的な文章は、基本的には他人の「アイディア」や他人が作った情報を土台にして、自分のアイディアとデータを積み上げていくものだからです。したがって、レポートや論文は、すでにある他人の情報、意見、発想を土台にするものであり、その分量の相当を他人の情報や文章を参照し紹介する文章にしなければなりません。大学の授業レポートでは、単に「～の文献を紹介しろ」という課題が出ることもあるでしょう。この場合は、レポートの大半は他人の情報や意見を紹介する文章を書くことになるわけですが、抜き書きを飛び飛びにつないただけのものは原則としてレポートや論文としては認められません。その大部分を自分自身で書いた文章にする必要があります。「誰その文章の見解を要約しろ」という課題が出たとしたら、それは抜き書きや引用をつなげただけのものではなく、最初から自分で考えた文章を書く必要がある。他の人の意見や書籍を紹介するときも、原則として、自分でパラフレーズ(言い換え)する必要がある、ということです(「パラフレーズ」については後ろで説明します)。

調査してみよう

- 文化庁の「著作権」のページから著作権教材を読んでみよう。 <https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/index.html>

2 剽窃を避ける

2.1 剽窃を避けるにはどうすればよいか

著作権は「著作物」としての「表現」を保護しますが、この「表現」とは「アイディア」(頭のなかにあるやつ)ではなく、実際に作品になったもの、論文でいえば文章やデータを指します。アイディア、発想や単なる事実は保護しません。しかし、大学での研究やレポートで問題になる剽窃とは、単なる「表現」ではなく、主にまさに「アイディア」にかかわるものです。言いかえると、他人の発想をあたかも自分が発想したものであるかのように表現することが問題となっている「剽窃」なのです。したがって、剽窃という違反行為を避けるためには、著作権違反を避けるための「正当な引用」の条件以上のものが求められます。

たとえば、インディアナ大学の Plagiarism: What It Is and How to Recognize and Avoid It というすばらしいガイド^{*12}では「剽窃」を「情報源を明示することなく、他人のアイディアや言葉を利用すること」としています。そして、剽窃を避けるため次のことに注意しなければならないと言っています。

次のものを利用するときにはいつでもクレジットをつけなければなりません。

1. 他人のアイディア、意見、理論
2. 他人が発言したことや他人が書いた文章のパラフレーズ
3. 多くの人が共通に知っていること (common knowledge) でない事実、統計、グラフ、図など (強調は江口)

^{*12} Indiana University Bloomington, "Plagiarism: What it is and How to Recognize and Avoid It", <https://wts.indiana.edu/writing-guides/plagiarism.html>.

「クレジット」というのは、（お金に関する「信用」の意味でのクレジットではなく、ましてやクレジットカードではなく）ある成果をあげた人の名前を、その成果を利用したものに記載することです。つまり名誉を称賛する意味で「名前を載せる」ことです。学問は多くの人の努力の上になりたっているのです、立派な知見や情報や発想を提供してくれた人の成果を利用する際には、その成果をあげた人の名前を挙げる慣行になっています。いまだに「ニュートンの万有引力の法則」「アインシュタインの相対性理論」と人物の名前がつけられている理論がありますが、それは彼らの業績があまりにも偉大なので万有引力の法則や相対性理論に言及する際には彼らを称賛する意味で名前をつけているわけです。学問の世界は、そうした尊敬と称賛によって成立しています。大学生もそうした称賛と尊敬を学ぶ必要があります^{*13}。

剽窃を避けるには、著作権によって要求されているように、「正当に引用」するだけでなく、他人のアイデア（発想）や意見や理論を利用する場合にも、それを考えた人の名前をあげなければならぬ。著作権法での「正当な引用」は「公表されているもの」に限られていましたが、学術での剽窃は公表されている著作物に限りません。知人友人から教えてもらったおもしろい発想についても、正式には、それを明示する慣習になっています^{*14}。

二番目の「他人が発言したことや他人が書いた文章のパラフレーズ」とは、他人の発言・文章を自分で表現を変えて言い直し、書き直したものです。レポートや論文では、他の人の文章を参考に自分の文章を書いていくわけですが、他人のアイデアや文章であるならばそれをあたかも自分のものであるかのように表現してはいけません。「誰それによれば～である」「誰それは～と主張している」のような形で、誰のアイデアであるかを明示しなければならないということです。

また、三番目にあるように、グラフや図も他人が作ったものを勝手にもってきてあたりまえのように提示してはなりません。必ずその製作者あるいは出典を明記してください。多くの著作のグラフに「～から著者作成」や「出典：～のものに著者が修正を加えた」のような注記があるのはそのためです。作成者が明示されていない場合は、その著者が作った図やグラフである、という暗黙の了解になっています^{*15}。もしそれが他人が作ったものであれば剽窃にひっかかることになります^{*16}。

調査してみよう

- 図書館で「レポートの書き方」に関する本をめぐって見て、剽窃や盗用についてどのようなことが述べられているか確認してみよう。どの本では言及され、どの本では言及されていないだろうか。

^{*13} クレジットおよび文献の参照が必要な理由は他にもあります。おもなものは、データや考察の再現性と新規性の必要性和、情報の出所の確認です。田中(2022)の「付録」を見てください。

^{*14} ただし、必ずしも名前をあげなければならないわけではありません。「この発想は友人の～（実名）氏によるものである」のような表現をしばしば見かけますが「ある知人によれば～」のような書き方をする場合もあります。自分で発想したフリをしない、というのがポイントの一つです

^{*15} 図やグラフは、実際には著者や出版社から依頼された専門家が作っていることが多いのですが、それはそうしたものです。

^{*16} 実際には教育の現場ではグラフや写真などはもっとルーズに扱われていますが、教育上の便宜であって、教育現場の外に出るときはちゃんとしなければいけません。

2.2 共通知識

問題は、「多くの人が共通に知っていること（共通知識）ではない事実や統計」です。これはレポートを書く上で悩みのタネになるはずで

この「多くの人が共通に知っていること」（共通知識、common knowlege）はなかなか微妙です。共通知識というとむずかしげですが、単に「みんな（たいていの人が）が知ってること」です。たいていの人が知っている、とはいっても、たとえば日本人ならほとんどの人が知ってること、という話ではありません。なにが共通知識であるかということは、その「たいていの人」が、一般読者なのか、その分野の研究者なのか、ということによっても違ってきます。「光は粒子でもあり波でもある」ということは、物理学、あるいはもっと広く自然科学に興味がある人ならほとんど誰でも知っていることですが、日本人なら誰でも知っている、というわけではありません。その分野に興味ある人のある程度は知っていて、その情報には新規性（新しさ、独自さ）がない、ということです。

高校の教科書で説明されていることは、ほとんどすべて「多くの人が共通に知っていること」だったと考えてかまいません。そしてそれが、高校の教科書で「～によれば」のような出典が明記されていない理由です。高校までの教育では、日本の教育を受けた人ならだいたい誰でも知っている（ことになっている）ことを学習することになっています。独創的という意味での「オリジナル」な情報は含まれていません（ただし「表現」はオリジナルであり、著作権で保護されます）。

一方、大学では、「一般的な知識」だけではなく「専門的な知識」をも学ぶことになっています。そのため、大学の教科書・テキストの多くは一般人が知らない新奇でオリジナルな情報を含んでいることがあり、そうした新奇な情報や発想には、出典が添えられているはずで

それを読んでいる初学者（学生や一般読者）は、テキストに書かれてあるものが、尊重されるべき（クレジットをつけられるべき）著者のオリジナルな発想なのか、共通知識（あるいは共通知識の候補）なのかを見わけることができないでしょう。まだ自分自身の知識が少ないので、その分野では常識的なことなのか、著者の斬新なアイデアなのかはわからない。また、情報や発想だけでなく、表現方法（比喩や言いまわしなどの文章のレトリック等）の新鮮さ、おもしろさも、文章を読みなれていない人にはおもしろいものか月並なものかわからないことがあるでしょう。

この問題への対策として、あるアメリカの大学のウェブサイトで、「5冊以上の本などで出典なしに挙げられている」ということを目安として提案されているのを見ることがあります（どのサイトであったかはもうわかりません）。あちこちで出典なしであげられているのは、少なくともその分野の研究者にとっては「共通知」「周知の事実」「定説」なので典拠はいらない、ということです。

しかしこの「5冊以上で出典なしに～」も難しい課題です。レポートを書くために5冊（5本）以上の本や論文を読んで、それを記憶しておなければならない。大学生の普通のレポート作成では無理でしょう。

そこでもっと単純な原則があります。それは“*When in doubt, cite!*”^{*17}です。「迷ったら参照しろ」、です。自分がレポートのネタにしようとしている本に書いてあることが、学者の間での共通知識なの

^{*17} この“*When in doubt, cite!*”自体は多くの大学のサイトで、出典や参照なく使われています。もうみんな（大学教員は）よく知ってる当然の指示なので、出典をつける必要がない。上のインディアナ大学の指示もよく広まった共通知識なので、実は現在では出典・参照を示す必要もたいしてないようなものです。

かその著者のオリジナルなアイデアか判断できなければ、常に「～によれば～である」と書けばよい、ということです。一般には、学部のレポートの多くでは誰かの著作やアイデアや調査を紹介するだけでほぼレポートが終わってしまうでしょうから、常に「～によれば～だ」と書けばよいし、場合によっては、「以下では～の～という著作から～について紹介する」とあらかじめ断ってそれをパラフレーズして紹介し、いちいちページ番号などを明記していけばよいわけです。いつもいつも「～によれば」「～によれば」と繰り返すのがかっこ悪くていやだというひとは、5冊とは言わないので3冊ぐらいは関連文献を確認しましょう。

2.3 パラフレーズ

さて、「パラフレーズ」もなかなか難しい問題です。パラフレーズとは、ある表現を他の表現で置きかえることです。しかし、どの程度違う文章にしなければならないのかをはっきりと示している文章を、国内ではほとんど見かけたことがありません。私は、それが大学におけるレポートの剽窃の横行につながっているのではないかと思います。

しばらく前に、この件をよく考えてみなければならぬ出来事がありました。それを利用して、上のインディアナ大学ガイドのような形で問題を指摘してみたいと思います。

次の文章はソースティン・ヴェブレンの『有閑階級の理論』（高哲男訳、ちくま学芸文庫、1998）^{*18}の一部（pp. 129-130）です。

人目につく消費を支持するこのような差別化の結果生じてきたこと、それは、衆目の前で送られる生活の公開部分をもつ輝かしさに比べて、ほとんどの階級の家庭生活が相対的にみすぼらしい、ということである。同じ差別の派生的な結果として、人びとは自らの個人的な生活を監視の目から守るという習慣を身につける。何の批判も受けず秘密裡に遂行しうる消費部分に関して、彼らは隣人との接触を完全に断ち切ってしまう。こうして、産業的に発展した大部分の共同社会では、個人の家庭生活は、一般的に排他的なものになる。したがってまた、かなり間接的な派生物ではあるが、プライバシーと遠慮という習慣——あらゆる社会の上流階級がもつ礼儀作法の規範体系のなかでも、きわめて重要な特徴——が生じることになった。なんとしても面目を保てるような支出を実行しなければならない羽目に陥っている出生率の低さは、同様に、顕示的消費にもつづいた生活水準をみたく、という必要性に起因している。子どもの標準的な養育に要する顕示的消費や結果的な支出はきわめて大きく、強力な抑止力として作用する。おそらくこれが、マルサスが言う思慮深い抑制のうちで、最も効果的なものであろう。

非常に示唆的な洞察ですが、こういう硬い文章に慣れない人にはちょっと歯応えがあるかもしれませんね。翻訳調だし。何を言っているかわからない、と思うひともいるかもしれません。

これをある学生さんがレポートで次のように書いていました。

^{*18} ちくま学芸文庫の『有閑階級の理論』は、現在では村井章子訳の新版になっていますが、これは古い方の訳です。ヴェブレンは19世紀から20世紀にかけて活躍したアメリカの社会学者です。この本は非常におもしろいので読んでみるとよいでしょう。

人目につく消費を支持するような差別化の結果、他者から見られる生活の公開部分に比べて、ほとんどの階級の家庭生活が相対的にみすぼらしい、ということが言える。また、派生的な結果として、人々は自らの個人的な生活を他人の目に晒されることから守る、と言う習慣を身につける。こうして、産業的に発展した大部分の共同社会では、個人の家庭生活は、一般的に排他的なものになるのである。そして、間接的な派生物ではあるが、プライバシーと遠慮という習慣も生じるようになった。顕示的消費に基づいた生活水準を満たすことを考えた際に、子どもの養育に要する支出の増加は極めて大きく、面目を保つための支出に追われているような階級での出生率の低下も考えられる。現代日本の出生率の低下に関しても、原因の一つとして当てはまるのではないだろうか。

この文章を書いた人は、たしかに、レポートの冒頭で一応、

本稿はヴェブレンの『有閑階級の理論』（1998年、ちくま書房、ソースティン・ヴェブレン著、高哲男：訳）をもとにして～

と、『有閑階級の理論』をネタにしているとはっきり書いているのですが、それでもこれは剽窃になります。

一つには、ヴェブレンの『有閑階級の理論』のどのページにあるのか明記していないからですが、もっと重要な問題もあります。ヴェブレンの文章とレポートの文章を比べてみましょう。

実はレポートは、ほとんどヴェブレンの記述の順番そのまま、接続詞その他の細かいところを入れかえただけです。語順もほとんどそのままです。このように、このレポートを書いた人は、ヴェブレンの文章の重要な語句のまわりにある細かい語句を変えているだけなのです。これも、厳しい見方からすると剽窃とみなされます。

先に言及したインディアナ大学のガイドは次のようなパラフレーズは剽窃であるとしています。

- オリジナルの文章の一部の語句を変更しただけか、あるいは語順を変更しただけである
- アイディアや事実の出典を示していない

ふつうの大学生ならば、「出典を示せ」¹⁹は耳にタコができるくらい聞かされることになると思いますが、パラフレーズの件についてはあんまり指導されることがありません。

それではどう書けばいいのでしょうか。インディアナ大学のガイドでは次に注意したパラフレーズは正当だと述べています。

1. オリジナルの情報に正確に依拠する
2. 自分自身の言葉を使う
3. 読者が情報源を理解できるようにする
4. オリジナルの文章を正確に記録する
5. 文章におけるアイディアにクレジットをつける
6. 引用記号をつけることで、どの部分がオリジナルのテキストからとられたもので、どの部分が

¹⁹ SNS でよく見られる「ソースは？」です。情報元／ソースを求めることは、大学では積極的に推奨されます。むしろ情報元がはっきりしない情報は信じないクセをつけてください。

自分で書いたものか判別できるようにする

これは上の著作権での「正当な引用」の要件とほとんど同じですね。しかし、インディアナ大のガイドは、剽窃を避けるためもっと具体的に次のような方策を次のように述べています。

1. テキストから直接に書き写したのものには常に引用記号（「」）を付ける。
2. パラフレーズする。しかし、いくつかの単語を置きかえただけではだめ。次のようにします。
 - (a) まずパラフレーズしたい文章をよく読む。
 - (b) 手でその部分を隠したり、本を閉じたりしてテキストが見えないようにする（無意識にテキストをガイドにしてしまわないため）。
 - (c) 覗き見せずに自分の言葉でそのアイデアを書いてみる。
 - (d) 最後に、オリジナルの文章と自分の文章をつきあわせてみて、誤った情報を加えてしまっていないか、まったく同じような言葉・表現を使ってしまっていないかの二点をチェックする。
 - (e) （インディアナ大には書いてませんが）忘れないうちにすぐに出典をつける*20。

さっきのヴェブレンの文章の前半を、私が実際に上の方法2の(a)~(e)にしたがってやってみました。

ヴェブレンの『有閑階級の理論』によれば、プライバシーという規範は顕示的消費と関係がある。ひとびとが他の人々に見せつけるために消費するのであれば、他人に見えない部分ではそれほど消費する必要がない。むしろ、顕示的消費を行なうため、見えない部分に費す費用はより少なくなる。そのため、生活の他人に見えない部分は相対的に貧弱でみずぼらしいものになる。そういう貧弱な部分を他人に見せないために、プライバシーを守るという習慣が発生するのである。（ヴェブレン『有閑階級の理論』高哲男訳、ちくま学芸文庫、p. 129）

あんまりうまくないですね。まあ平凡な大学教員の読解力、記憶力、文章力なんてこんなものです。でもこの程度までパラフレーズすれば、「自分の文章だ」と主張することが可能になります。

調査してみよう

- 図書館にある「レポートの書き方」の本で、「パラフレーズ」について説明しているものがあるかどうか確認してみよう。

2.4 さらに教員の側から

私自身が拙いパラフレーズの腕を見せたのは、それがほんとうに難しいことを示すためでもあります。私の考えでは、学者の腕のよしあしの大きな部分はパラフレーズや要約の巧拙によって決まります。

ちゃんと内容を理解していないと適切にパラフレーズすることはできません。逆に言えば、パラフレーズを見ればその人がどの程度内容を正しく理解しているのかがわかります。大学教員が学生に要約レポートを書いてもらうのは、文献や授業の内容をしっかりと理解してもらうためのわけで、つまり

*20 これは、同じ文献を再度読むときにもたいへん役立ちます。読書メモにはかならずページ数まで書いておきましょう。

「適切にパラフレーズ」させることによって内容を把握させたいと思っているわけです。だからそれは一所懸命やってほしい。

教員の側からすれば、どの大学の何回生がどの程度の文章を書くことができるのかは、かなりはっきりわかっています。文章が異常にうまい、表現が技巧的である、難しい言葉を平気で使う、斬新な発想がある、なんてのはたいていなんらかの形の剽窃が疑われます^{*21}。さきのレポートでは、一目見たときはどっかの web からのコピペに違いないと思いこんでしまいました。その発想の豊かさと、奇妙な翻訳調が、勉強不足の大学院生あるいはかなりあやしい大学教員の文章に見えたのです。

べつにうまい文章、きれいな文章、すごい発想なんていらないから、とにかく自分で書いてみてください。

2.5 もっとプラクティカルに

日本の大学生レベルでは、インディアナ大のような注意をする前の段階の学生が多いと思います。私はさらにもっとプラクティカルなノウハウが必要ではないかと思います。やってみましょう。

さっきのヴェブレンの文章を使いましょう。再掲します。

人目につく消費を支持するこのような差別化の結果生じてきたこと、それは、衆目の前で送られる生活の公開部分があつ輝かしさに比べて、ほとんどの階級の家庭生活が相対的にみすぼらしい、ということである。同じ差別の派生的な結果として、人びとは自らの個人的な生活を監視の目から守るという習慣を身につける。何の批判も受けず秘密裡に遂行しうる消費部分に関して、彼らは隣人との接触を完全に断ち切ってしまう。こうして、産業的に発展した大部分の共同社会では、個人の家庭生活は、一般的に排他的なものになる。

たいていの学生はこれだけの文章もけっこう歯応えがあると思います。どうすりゃいいんだろう？そこでも、次のように書きはじめてみます。

市民社会でのプライバシーの問題について、ヴェブレンはどう考えているのだろうか。

まず自分で疑問文を書く。自分で「理解している」こと、「わかってる」はずのことを書くのがレポートなのに、疑問文からはじめるのはヘンだと思える人がいるかもしれませんが、ぜんぜんヘンじゃありません。疑問文はこれから何を探求して答を出そうとしているのかをはっきりさせるよい手段です^{*22}。

次に、ヴェブレン本人の文章を引用する。さらに疑問文をつけてみる。

^{*21} 江口はそうしたレポートについては、呼び出して内容について自分の言葉で話してもらうことにしています。

^{*22} 「本論では～をもとに～を論じる」のような宣言文ではじめてももちろん OK です。ただし、同様の意図からか、最近では「皆さんは～をご存知だろうか」とかでレポートを書きはじめる人がいますが、これはなんかへんな印象があります。

彼は「産業的に発展した大部分の共同社会では、個人の家庭生活は、一般的に排他的なものになる」（p. 119）と述べる。この「排他的」とは、家庭生活を家族以外の人目に触れないようにすることだ。家庭生活はプライバシーとされる、ということである。しかしなぜ産業的に発達することと、家庭生活が排他的なものになることが関係しているのだろうか。

ここまで来ると、ずいぶん書きやすくなってくる。これなら答えられるかもしれないと思ったら次のようにすればよい。

ここで重要なのがヴェブレンが注目した「顕示的消費」である。顕示的消費とはヴェブレンによれば他人に見せびらかすための余計な消費行動、つまり贅沢である。

「顕示的消費」とかってのを一応説明するわけです。重要な部分（少量！）を直接引用してもよい。

ヴェブレンの指摘によれば、近代的な共同社会では、顕示的消費をおこなうために、他人に見えないところに費す費用を抑えるという動機がはたらく。したがって、家庭の内部での生活は、家庭の外での活動に比べるとみすぼらしいものになるのだ。これが家庭生活を人目から遠ざけようとする動機である。

さらに、自分の体験や観察から例を加えられればよりベター。読者は、「この人実感でわかってるな」と思うことができます。（自分が理解した）具体例はどんどん追加しましょう。

たとえば、大学では華美な服やアクセサリーをつけている女子大生が、アパートに帰るとケバだったジャージ姿でカップラーメンをすすっている、などという光景はいまでも見られるだろう。しかしそういう格好は他人には見られたくない。だからプライバシーが重視されるようになるのだ、というのがヴェブレンの発想である。

もちろんこうして自分の頭で書いていくと、結果的にできるのはヴェブレンの高尚な文章から遠く離れたしょぼいものになる。しかしそれでいいのです。それが文章を書くということなのです。それがなにかを学び理解するってことなのだと思います。

課題

- この『京女で学ぶ現代社会』の任意の章の文章の一部をパラフレーズして、学生どうしで交換してみよう。どれくらい違うものになるだろうか。どんな違いがあるだろうか。

3 まとめ

- 他人の文章やデータ、図などは正しく引用しましょう
- 常に出典をつけること！（出典のつけかたはこのテキストの「引用・参照した文献の書き方」を見てください）
- 多くの場合は直接の引用ではなくパラフレーズして自分の文章にすることが適切です

- パラフレーズは難しいの練習をくりかえしましょう

ここまで書いたことは、実は大学低学年ではかなり困難な話のはずです。特に適切なパラフレーズは技術的に難しい。低学年のレポート課題では上のような厳しい基準は使われず、もっと緩やかに評価されるはずです。しかしそれは、教員たちは学生に、順序を負って学問のスキルを身につけてくれることを期待しているからであって、4年間の学習の成果である卒業論文ではしっかり剽窃を避け、オリジナルなデータを集め、オリジナルな文章でオリジナルな主張をしてもらうためのものです。がんばってください。

参考文献

- 田中草太 (2022) 『卒論修論一口指南』、文学通信
時実象一 (2018) 『研究者のコピペと捏造』、樹村房
山口広之 (2013) 『コピペと言われないレポートの書き方：3つのステップ』、新曜社
ソースティン・ヴェブレン (1998) 『有閑階級の理論』、高哲夫訳、ちくま書房
— (2016) 『有閑階級の理論』、村井章子訳、ちくま書房

第8章

「社会を見る目」を鍛えよう！（奥井亜紗子）

1 「社会の現実」を知ること

大学に入学したばかりの読者にとって、「社会調査」とはあまりなじみのない言葉かもしれない。オリエンテーションで配布されるアンケートも調査であり、雑誌の芸能人のインタビュー特集なども広義には調査であるが、「社会調査」といった場合はどのような意味をもつのだろうか。「社会調査」とは、「社会がどのようなになっているのか」という社会の現実を、客観的なデータに基づいて明らかにすることをさす。世の中にはインチキな調査データが星の数ほど溢れているが、正しい調査手法に基づいたデータを適切に読み解くことは、社会の現実を正確に把握するうえで非常に重要である。実際、私たちは社会の現実を「分かったつもり」になって生きていることが多い。一例を挙げてみよう。読者の皆さんはこの春から晴れて大学生になったわけであるが、現在の日本の大学進学率は何パーセント位だろうか。

ここでは皆さんが入学した四年制大学の進学率をみてみよう。大学進学率とは18歳人口^{*1}に対する大学入学者数の割合をみたものである。本稿執筆時点で最新2019年3月時点での大学（学部）進学率は53.7%、女子に限定した大学進学率は50.7%である。つまり、大まかなイメージでいうと高校卒業した者のうち大学に進学する者はおよそ半分である。

この「50.7%」を皆さんはどう見るだろうか。思っていたより少ない、と感じた人も多いであろうし、その一方で、意外と多いな、と思った人もいよう。この肌感覚の違いは、皆さんの出身高校がいわゆる「進学校」だったかそうでないか、あるいはご両親やきょうだい親戚のなかで大学に進学した人が多いか少ないか、というあなたがこれまで生きてきた環境によって異なってくる。中学から高校に進学するのと同じ位の「当たり前」な感覚で大学生をしている人もいれば、相応の意志と覚悟をもって今この場所にきている人もいるのである。

社会の現実を知るのは思ったよりも難しい。というのは、私たちは日頃、自分が世界の中心にいて自分の立っている場所から見た風景を「社会」だと思って生きているからである（図1①）。GoogleのStreet Viewをイメージしてみよう。Google Street Viewでは特定の地点から見た360度が映し出されるが、私達が日頃見ている世界とはこのようなものである。しかし、カメラが映した画像だけをみても、地図がなければそこがどこなのかは分からない。あなたがもし「え？2人に1人しか大学に進学していないの？（7~8割位は進学しているのじゃないの？——実は講義中に学生に聞くと、

*1 3年前の中学校卒業生及び中東教育学校前期課程修了者をさす。

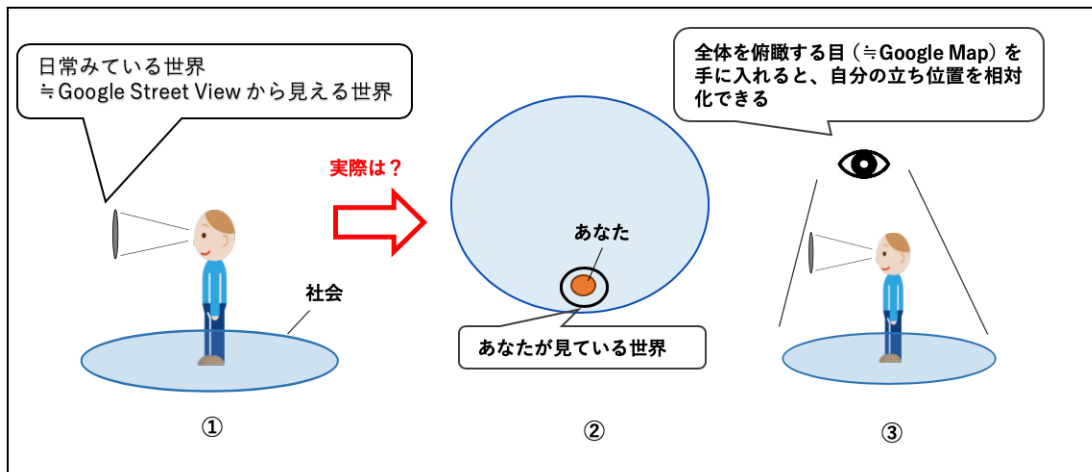


図1 社会の現実を知ること

大抵こういう答えが返ってくる)」と考えたならば、それは、あなたがこの社会においてたまたま、あるいは諸事恵まれた結果としてそのような場所（大学進学は当然だと思ふような場所）にいるということである（図1②）。

Google Street View の例でいうならば、社会の現実を知ることとは、いわば Google Map を手に入れることに他ならない。私たちは「地図（社会の現実）」を手に入れて初めて、社会全体を俯瞰する目を持って「今自分がどこにいるのか」という社会の中自分の立ち位置を知る（相対化する）ことができるのである（図1③）。

【課題】

あなたが「当たり前」だと思っていたことが実は違う（単なる「思い込み」だった）ということに気づいた経験について話し合ってみよう。

- (1) その「思い込み」は、あなたのどういった環境から生じたと考えられるだろうか。
- (2) 自分の「思い込み」を気づいたきっかけは何だろうか。

（例）男性は家事ができないものだと思っていた。

〈環境〉自分の父親や兄が一切家事をしなかったから。

〈きっかけ〉友達の家遊びに行って友達のお父さんが皿洗いをしているのを見たこと。

2 既存の統計データを確認しよう

(1) 官庁統計の活用

広く捉えるならば、大学での学びはすべからく「地図」を手に入れるための営為であるといえるが、そのなかで、社会調査とは、「社会的な問題意識に基づいてデータを収集し、収集したデータを使って社会について考え、その結果を公表する」までの一連のプロセスを包含している（大谷・木下ほか編 2013：7）。

「社会の現実」を知る第一歩は「探求すべき何か」の現状を客観的に把握することから始まる。社会に関して知りたいキーワードをネットで検索するとヒット件数は無数にあるが、間違っても上位に

あがった記事を適当にクリックしてそこからグラフなどを引っ張ってこないようにしましょう。「まとも」な記事には必ず出典が書かれている。そして、社会に関するキーワードに関する統計データは、官庁統計を出典としていることが少なくない。上述した大学進学率に関していえば、文部科学省が毎年実施している「学校基本統計」を確認することになる*2。

国や自治体は様々な統計調査（官庁統計）を実施している。なかでも特に重要なものとして「統計法」によって定められたものは「基幹統計」と呼ばれ、「学校基本統計」や、5年に一度全世界を対象に実施される「国勢調査」をはじめとして、計53種類（2019年5月24日現在）の調査が指定されている。官庁統計は近年様々な統計不正問題が噴出して信頼性が揺らいでいるが、それでも、一般の民間統計に比較すれば概して調査概要が詳しく記されており統計処理も適切であると考えられるため、相対的にはまだ信頼度が高いといえる。現在、政府の統計データは総務省統計局が管理運営するHP「政府統計の総合窓口 e-Stat」で公開されており、皆さんのパソコンから直接元のデータまで確認することが可能である。既存データを探す際には、まず官庁統計等の元データをあたる習慣をつけておくとよいだろう。

(2) 推移にも目配りをしよう

さて、既存の統計データにあたる際に心がけたいのは、現状だけではなく推移——歴史的にどのように変化してきたか——も確認しておく、ということである。先ほど女子の大学進学率 50.3% という数値を思ったより低いと思った人も少なくないであろうが、そもそも4年制大学に進学する女子が半数を超えたのは2018年が日本の史上初のことである。

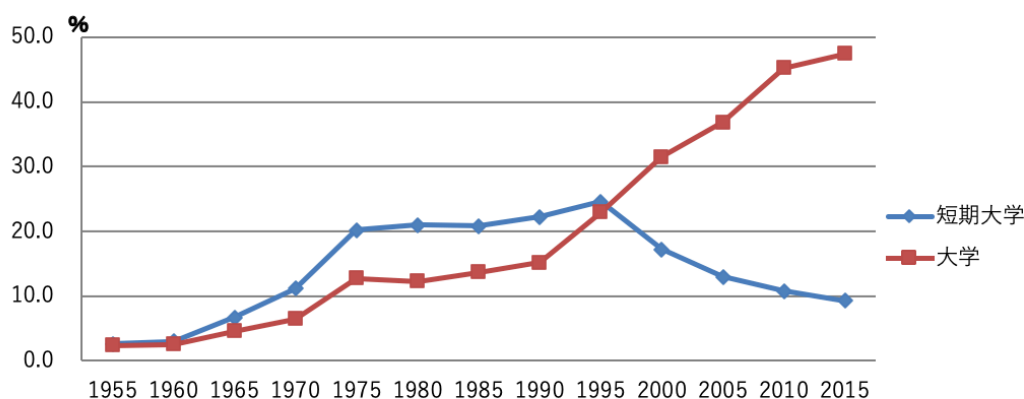


図2 女子の大学進学率の推移（出典：文部科学省『学校基本調査』各年度より筆者作成）

女子の大学進学率の長期的な推移をみたのが図2である。推移のグラフを読むのが苦手な場合は、それぞれの時代の具体的なイメージを膨らませることが有効である。ここでは、あなたの母親、あなたの祖母がそれぞれ18歳だった年に縦線を引いてみよう。母親の時代、祖母の時代に大学に進学した女子の割合はどの程度だったのだろうか。機会があれば、母親や祖母に対して、当時女子が大学に進学することは世間的にどのようなイメージだったかを尋ねてみるのもよいだろう。

*2 旧「学校基本調査」。平成26年11月19日付で「学校基本統計」に名称変更された。

図2をみると、1955年時点ではほんの数%だった進学率は高度成長期を通じて上昇するが、その主流は大学ではなく短期大学だったことが分かる。1975年から1990年にかけては短大進学率約20%、大学進学率12~14%という時期が続くが、同時期の男子の大学進学率は30%台半ばから40%を推移しており、進学するならば「女子は短大、男子は大学」という構造が成立していた。女子の大学進学率が急激に増加し始めたのは1990年代以降であり、2000年に31.5%と3割を突破し、その後も破竹の勢いで伸びた結果の現在の、ようやくの半数超えなのである。このように歴史的推移をみることによって、50.7%という数値を単に感覚的に「高い」「低い」と評価するのではなく、一定の歴史的背景のもとにある数字として意味づけてみるができる。

【課題】

(1) 話し合ってみよう。

1. なぜ「女子は短大、男子は大学」という構造があったのだろうか。
2. 1990年代以降、その構造が崩れたのはどのような要因があったのだろうか。

(2) 調べてみよう。

- 1955-2015年までの男子の大学進学率を調べて、図に書き込んでみよう。

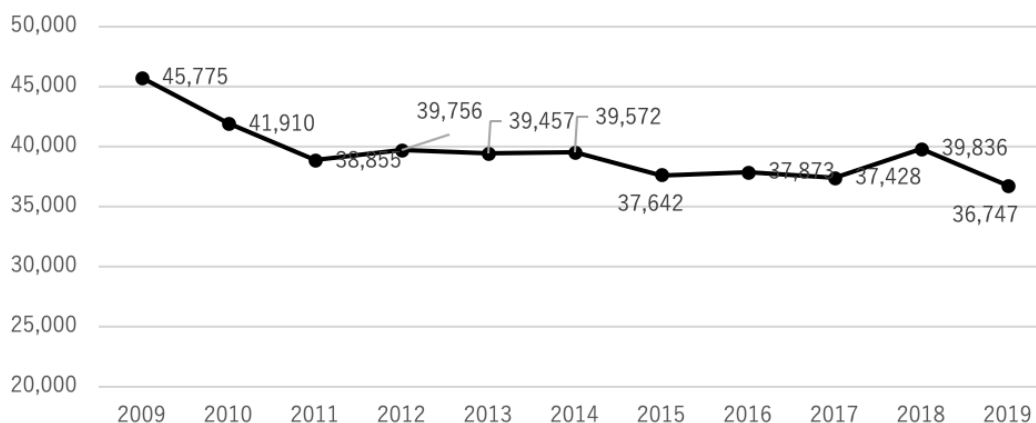
3 観察をしてみよう

大学進学率は「社会の現実」の一つの例であるが、あなたがレポートや卒業論文を書くにあたっては、あなたが調べるべき「社会の現実」は何か、つまりあなたにとっての「探求すべきもの」は何か、ということからスタートすることになる。大学での学びと高校までの勉強の最も大きな違いは、この「探求すべき何か」を自分自身で見つけ出さなければならない点であろう。しかし、卒論指導をする大学教員が近年共通して抱える悩みの一つに、「自分が何をテーマにしたらいいかわからない」という「迷える子羊」の大量発生がある。テーマとは「探求すべき何か」であり、専門分野によって入口は様々であるが、こと社会学的な「探求すべき何か」に関していうならば、それを容易に見つけられるか否かは、自分を取り巻く人々や社会に対して常日頃からいかに関心を向けているか、ということにかかってくる。

例えば、あなたは日頃、電車やバスの中で何をしているだろう。多く人はスマホの画面を見ることに費やしているのではないだろうか。スマホがもたらす情報量は膨大である。その情報は「あなたが欲しい」情報がピックアップされているがゆえに効率的で有難いのであるが、その反面あなたがさほど欲しくない情報は無意識のうちに、しかも徹底して遮断されていることになる。これでは社会に対する関心を醸成することは難しいだろう。一度スマホの画面から顔をあげて、電車に乗り合わせた人を観察してみよう（ただし、ジロジロみてはいけない）。

以下は、ある晩9時過ぎにAさんがJR京都駅から大阪方面の快速で乗り合わせた男性の観察から演習ゼミ生全員で想像力を膨らませたケースである。

京都駅からAさんと同じBox席に乗り合わせたサラリーマン風の男性は、年齢は30代後半位である。スーツは皺が付いており、少し疲れた空気を身にまとっている。席に座るやいなやスマホを取りだして戦闘ゲームらしきものをはじめ、同時にコンビニの袋から発泡酒を出して飲み始めた。発泡酒の缶を持つ左手薬指の指輪をみると既婚者のようである。



注：「2019年サラリーマンのお小遣い調査詳細レポート」6頁図をもとに筆者作成。

図4 男性社員の平均お小遣い額（円）

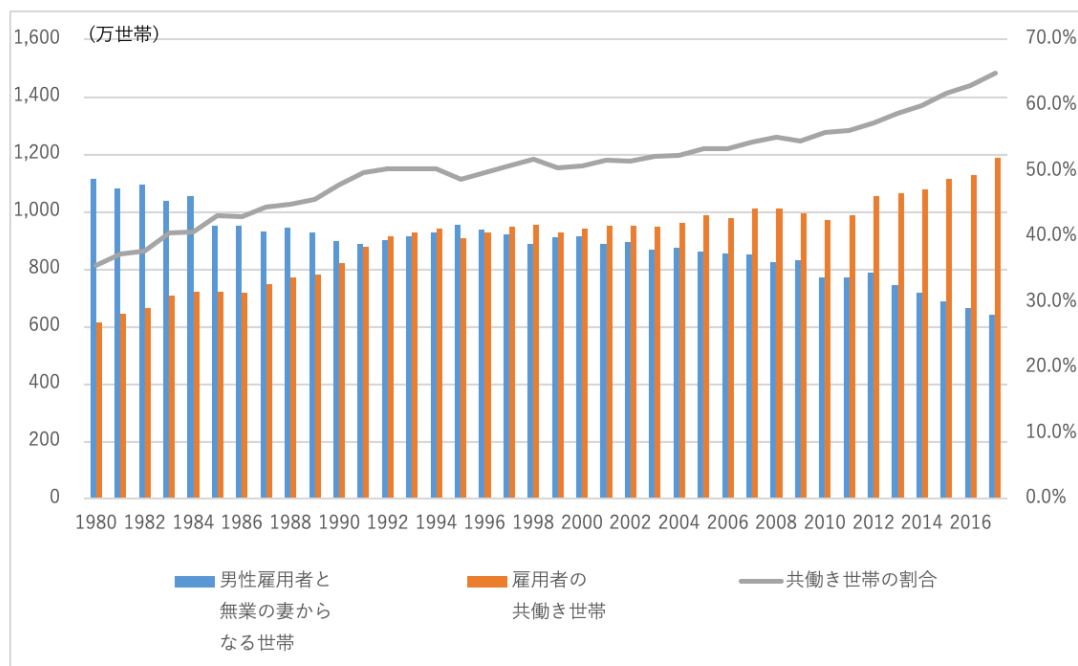
図4によると、2019年の男性社員の平均お小遣い額は36,747円であり、2009年の45,775円から10年間で約9000円も減少していることが分かる。調査が始まった1979年からみると、バブル経済末期である1990年のお小遣い額は77,725円と最高額を記録しており、そこから比較すると実に半分以下になっているのである。

では京都駅近辺で飲んで帰ろうと思うとどれくらいお金がかかるだろうか。これは、実際に駅近辺を歩いてサラリーマンの行きそうな居酒屋の相場を見してみるのがよいだろう。「京都駅近辺」「居酒屋」「一人飲み」などのキーワードを入れてネットで検索してみてもよい。サラリーマンが何度か飲んだらあつという間にお小遣いが尽きてしまうことが分かるだろう。このように、実際に「探求すべき何か」の現場に自分の身を置いてみることを「フィールド・ワーク」と呼ぶ。

前述お小遣い調査によると、男性社員の一か月の飲み代平均は13,175円、一か月の昼食代は555円であり、30代男性社員の32.9%がお小遣いをやりくりする方法として「外で飲む回数を減らす」と回答していた。夜の電車でお酒を飲むくたびれたサラリーマンという眉をひそめたくなる光景の背後には、ひょっとしてこのような切ないサラリーマンの懐事情があるのかもしれない。

次に、どうして家で晩酌をしないのだろうか（G）という方向で考えてみよう。昭和時代のテレビドラマには仕事から帰った夫を労い甲斐甲斐しく世話を焼く——必要とあれば晩酌の準備もする——妻の姿が描かれることも少なくなかったが、これは働いていない専業主婦の妻を前提とした風景であった。男性は既婚者のようであるが（H）、妻の就業状況はどうだろうか（I）。

図5「共働き等世帯数と共働き世帯の割合の推移」は、雇用者世帯の共働き等の世帯数と共働き世帯の割合の推移をみたものである。このように、一つのグラフの中に棒グラフと折れ線グラフという異なる形態のグラフがあるものを複合グラフと呼ぶ。複合グラフは左右に異なる軸目盛が付されており、どの形態のグラフをどちらの軸で見るか注意が必要である。このグラフでは、棒グラフが左側、折れ線グラフが右側の目盛りになる。



注1：『厚生労働白書』平成30年度版図表1-1-3をもとに筆者作成。

注2：「男性雇用者と無業の妻からなる世帯」とは夫が非農林業雇用者で妻が非就業者（いわゆる専業主婦世帯）、「雇用者の共働き世帯」とは夫婦ともに非農林業雇用者の世帯を示す。

注3：2010年及び2011年は岩手県、宮城県、福島県を除く全国の結果。

図5 共働き等世帯数と共働き世帯の割合の推移

図5をみると、1980年には約600万世帯であった共働き世帯は2017年には倍増して1200万世帯近くまで達しており、逆に男性雇用者と無業の妻からなる世帯、いわゆる専業主婦世帯は約1150万世帯から600万世帯強まで減少している。2017年現在の共働き世帯の割合は65.0%であり、専業主婦が自身の性別役割の一環として当たり前のように「夫のお世話」をする風景は今や少数派であると考えられよう。

ひょっとして家に帰りたくないのでは（J）という可能性を考えてみる。近年は「働き方改革」として、国を挙げて長時間労働を規制する方向性が打ち出されている。しかし、その一方で定時に仕事が終わっても家に居場所がない、家事育児をやりたくないという理由でまっすぐ家に帰らないサラリーマンが「フラリーマン」と名付けられ社会的にバッシングされている（K）。

図には他にも色々な想像が広がっており、もちろんここに書かれている以外にも展開の余地があるだろう。このように、「夜の電車の中でお酒を飲む男性」たった1人の観察を通してでも、京都のインバウンドからサラリーマンのお小遣い事情、共働き世帯の増加から「フラリーマン」まで、様々な社会の現実を有機的に関連させて想像力を働かすことができる。それらの社会の現実（「探求すべき何か」）が実際のところどうなっているのか、ということを明らかにするためにまず既存の統計データや先行研究を確認し、そして既存のデータや先行研究がなかったり、あるいはそこからさらに分析を深めていこうとしたりする場合に、自分自身でデータを収集する——社会調査を実施することが必要になってくる。

【課題】

通学電車等で見かけた人を観察して、そこからどのような社会の現実を連想しうるかを話し合いながら図を書いてみよう。

4 おわりに

本章では、社会調査によって明らかにする「社会の現実」とは何か、皆さんにとって探求すべき社会の現実をどのように見つけ出すか、という観点から話を進めてきた。社会調査はアンケートやインタビューの単なるスキルを身に付ければよいというものではない。自分を取り巻く現代社会において、何を課題として設定するかという皆さんの問題意識と分ち難く結びついているため、問題関心がなければ社会調査のスタート地点には立てないのである。

アメリカの社会学者のP・バーガーは、社会学者について「アカデミックな肩書がなければ、ゴシップに熱中してしまうに違いない人物であり、鍵穴をのぞき、他人の手紙を読み、引き出しをあけようと心をそそられてしまう人物に過ぎない」と表現している（P. バーガー, 1963=1979:31）。字義通りにみると社会学者とはなかなかの「やばい人」のようであるが、人間に対する飽くなき好奇心——それが高尚なものであれ、下世話なものであれ——は、皆さんがこれから生きていく社会の現実深く迫る上で、不可欠なモチベーションとなるであろう。

引用・参考文献

- 大谷信介・木下栄二他編（2013）『新・社会調査へのアプローチ 論理と方法』ミネルヴァ書房
- Berger, P. L. (1963) *Invitation to Sociology*, Doubleday & Company Inc. (水野節夫・村山研一訳、『社会学への招待』思索社, 1979年)
- 新生銀行グループ「ニュースリリース」<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000024.000005652.html>（2019年12月29日最終閲覧）

第9章

ロジカル・シンキングに挑戦しよう！ (嘉本伊都子)

1 ロジカル・シンキング (logical thinking) に挑戦しよう！

1.1 「なぜ日本は少子化するのか」を5段階掘り下げよう

レポートと感想文の違いはロジカル(論理的)に考えた跡が明確かどうかです。文章を書く基本は5W1Hですが、そのなかの特に Why? クエスチョンがレポートや論文では重要になります。私は仮 Q = クエスチョンと呼んでいますが、レポートの問題提起の部分です。社会調査のクラスではリサーチ・クエスチョン(課題の設定)ともいいます。

仮 Q = クエスチョンに対して仮 A = アンサーを考え、なぜの間の原因要因を文章にしてみます。それを5回くりかえります。

1回目

仮 Q1: なぜ日本は少子化するのか?

仮 A1: なぜならば日本人女性が産まなくなったから (年ごろ)

この仮 A1 の文章をもう一度なぜから始まる文章にし直すことによって2回目を始めます。

2回目

仮 Q2: なぜ日本人女性は産まなくなったのか?

仮 A2: なぜならば.....から (年ごろ)

3回目

仮 Q3:

仮 A3:

4回目

仮 Q4:

仮 A4:

5回目

仮 Q5:

仮 A5:

1.2 チェック・ポイント (4W1H) に気を付けて。

以下チェック・ポイントは㊦番号 チェック・ポイントの順に書きます。

㊦① Who と When

「仮 Q1：なぜ日本は少子化するのか？」に対して、例として「仮 A1：なぜならば日本人女性が産まなくなったから（年ごろ）」と文章を作りました。ここで重要なのは、「日本人女性」と主語を明確にわざとしたことです。つまり、原因・要因を女性に限定し、さらに日本人としました。アメリカでは、同じアメリカ人でも白人は少子化し、新たな移民は子供たちを多産する傾向にあるので、主語を限定しておくことは重要になります。

さらに仮 A1 には、いつごろかを想定してもらうため（年ごろ）と例を示しました。いつごろから日本人女性は産まなくなったのかを想定しておいてくださいということです。

どの時点からの少子化をあなたが問題にしているかを明確にするためです。

実は例の仮アンサーの「日本人女性が子供を産む」という行動をいつごろからしなくなったのかを想定しておけば、データを調べてグラフ（図）や表をもってきたときに本当にその年に減ったのだろうか？という分析する視点をもつことができるからです。分析する視点は、図表を読み解く力＝情報リテラシーを高めるためには必須だからです。

㊦② Where?

どこで少子化しているかは、応用問題でもありますが、すでに日本と限定してリサーチ・クエスチョンで示しています。同じ日本でも、都市なのか地方なのか、東日本か西日本かというように、どの場所の少子化が激しいのか緩いのかも考えてみるといいでしょう。

㊦③ What?

What=何が原因・要因なのかを明確にすることが大切です。「One sentence one factor only!」の原則つまり、1つのセンテンスには1つの原因を入れて文章を作成してください。複数の原因・要因 (factor) を一つの仮 A に入れないで下さい。

悪い例：なぜならば、高学歴化（要因1）し未婚化（要因2）し、結婚したくない（原因3）から

悪い例にあげましたが、複数原因、要因をいれてしまうと、ロジカルに考えることができなくなるからです。高学歴化も未婚化も結果です。なぜ高学歴化するのか、一つに絞っても、なぜ高学歴化するのか？という問をたて、なぜならばという仮 A を作成しないと、高学歴化と未婚化の間にどのようなロジック（理屈）があるかわからないからです。また高学歴化というのは、女性がどのような学歴をもつことでしょうか？短期大学といえども大学ですから、高学歴化ですか？大学だけでなく大学

院に行く女性も増えています。高学歴化はきちんと定義しておく必要がありますね。

高学歴化し未婚化するならば、あなたがたは未婚化するために大学に入学したことになります。しかし、結婚の希望を1年生に聞くと、95%は結婚したいと答えます。「結婚したくない」は何歳ぐらいの女性でしょうか？

すぐインターネットの検索サイトに「少子化の原因・要因」を入れて検索しないでください。だいたいやってはいけないというと、必ずやってくるのですが、検索すると、高学歴化や未婚化はできてしまいます。

問題は、サイトにのっていたからではなく、あなた自身が考えたなぜ高学歴化すると未婚化するのかと考えたのかそのプロセスがロジカルかどうかです。しかも、それはいつごろ、なぜ起こったのでしょうか？少子化がいつごろ起こったかという想定と、高学歴化がいつごろおこったかのすり合わせもしますので、When はいつでも大切です。

④ How?

「なぜならば、原因・要因だから」の原因・要因にあたる部分を○で囲ってみましょう。「○で囲った部分はどのように= how 測りますか？」という質問に答えられる原因・要因ではないならば、その定義をするか、その言葉を避けてください。

悪い例：なぜならば女性が社会進出したから

女性の「社会進出」のデータは何で計測したらいいのでしょうか？どうすることが社会進出なのでしょう？意地悪な私は「お家の外に一步でることかな〜？」と聞きます。すると「働く」と答えますが「みんなもバイトしているよね？それも社会進出？」と聞いていきます。2時間のバイトでも社会進出になるなら、なぜ少子化するのでしょう？女性の社会進出を女性がどのような働き方をすることなのかまで、定義をしておく必要があります。曖昧な言葉は避けてください。「文化」「環境」という言葉もまったく何をさし、どうやって計測するのかわからない、マジック・ワードです。避けて下さい。もしくは、女性が社会進出するとは、正規の仕事を継続すること、などのように定義をしてください。

⑤ 時系列に考えよう（因果関係に注意）

「高学歴化し未婚化し、結婚したくないから」のような、複数の原因・要因をワン・センテンスに入れてしまうのは、時系列に考えるくせがないからです。大学進学するかしないか考えるときに結婚するか、しないかなんて考えますか？高学歴化とは、いったい誰が、どのような教育レベルに達したかも書いていません。

大学進学率と飛びつきやすいですが、大学進学率のなかに短大が含まれることもあります。短大を卒業した場合と、4年制大学を卒業した場合、どちらが、なぜ未婚化しやすいと思うのか？自分自身に問うてみてください。「私は未婚化するために大学にきた」という文章はロジカルですか？おかしいですね。原因と結果は、まず何が原因かは結果の前に起こります。時系列に並べると大学へ進学→就職→結婚（または未婚化）となります。あなたはどの時点の何を問題にしたいのでしょうか。先に起こったことが次引き起こしてしまったことの結果をしっかりと考えてみてください。鶏と卵の関係、どっちが先かが分かりにくいですね。しっかりと因果関係、時系列で考えて、何等かの要因が先に起こったことの結果として次の結果がおこるかとういことをイメージしてみるくせをつけましょう。

複数の原因要因を1つの文章に入れてしまうタイプの学生さんはロジカルに考えることが苦手です。因果関係が複数の原因・要因にしてしまうことで、ロジカルに考えられなくなります。ではロジカルに考えるようになるにはどうしたらいいのでしょうか？それは原因を1つに絞る事、さらにどのような原因要因が時系列にどう起こるかを考えてみてください。

2 レジメを作って図書館に行こう！

2.1 図書館へ行く前にレジメで発表しよう！

4回なぜ～？なぜならば～だから。を繰り返しましたか？そして原因・要因になるものに○をつきましたか。では、それらのデータを使ってあなたの仮クエスションと仮アンサーを論証してみましょう。嘉本の演習科目では、レジメをつくり、しっかり調べるべきデータは何かまでを、発表してもらいます。この発表を何回かトレーニングしてから、図書館のツアーを申し込んで、学生さんに図書館ツアーを体験してもらいます。データが探せませんでしたとこれでは言えなくなります。どんなデータが原因・要因として論証するのに必要かが明確にならないかぎりデータを見つけることはできません。そのためには、図書館へ行く前にレジメを作成して発表してもらいます。

レジメとは要約という意味のフランス語ですが、イメージとしては料理本のレシピです。レジメには、5段階掘り下げた紙に、When となぜならばの原因・要因にあたる部分を○したものを用います。黒板（白版）に、前半グループ、後半グループとわけ、授業の始まる前に板書してもらっておくと、解説しながら赤入れができます。発表の際の確認ポイントは、やはり5 WIHです。とくに誰を主語としたデータなのか、ロジカルに組み立てられているかです。データをとって検証しレポートを提出します。

レジメとレポートの違いは、段落を構成しているかいないかです。レジメは、発表するときを使うので、必ずしも段落を使って表現する必要はありません。箇条書きでいいのです。ところが、レポートは初めて読む方にもわかる文章で執筆するので、段落を構成していきます。

先生方へアドバイスですが、ツアーは2週間前に申し込まなければなりません。学生の進捗状況を見て申し込んでください。

1回目の仮Q、仮Aを使って論証してみます。

仮Q：なぜ日本は少子化するのか？

仮A：なぜならば日本人女性が産まなくなったから（1990年ごろ）

例として、「1990年ごろに日本人女性が産まなくなった」と想定してみました。あてずっぽうに1990年といったわけではありません。なぜならそのころにバブルが崩壊した、とか1992年に育児休業法が制定されていることから、きちんと法律で定めないと産まなくなったと考えたからなど、何年の少子化を問題にするのか、なぜ問題にしたかをロジカルに説明できないと、Whenを想定する意味がありません。

このようになぜWhenを何年ごろに想定したかをロジカルに説明してみましょう。では、本当に1990年ごろに少子化つまり、日本人女性が産まなくなったかを検証するにはどのようなデータが必要でしょうか？出生数とか出生率が必要となることがわかるでしょう。1990年に果たして少子化したのかどうか、仮Qと仮Aを立ててみるということは、収集したデータの分析視点を持つことにもつながるのです。

2. データを入手する目星となる省庁を考えよう

学生がやりがちなのは、レポート提出直前に、レポートのお題をそのままグーグルやヤフーで検索してしまうことです。皆同じことをしますので、金太郎あめのようなレポートが続出し、点数はさほど伸びません。

課題レポート「なぜ日本は少子化するのか」とすると、すぐ「少子化の原因」とか「なぜ日本は少子化するのか」と検索してしまうので、レポート前は原因要因の検索を禁止します。検索したかどうかばれます。なぜなら5段階でやった原因と要因とは異なることをレポートにしてくることが多いからです。それでは何も実力はつきませんし、情報リテラシーもつきません。レポートを音読させると、自分の言葉ではない文章はすぐわかるからです。コピペ（コピー&ペースト）すると、自分で書いたはずの漢字が読めません。このように出典も明確にせず、他人の文章を無断でコピペしてきた場合0点ですので、ご注意ください。

官庁のデータの検索、新聞の記事の検索、紀要や学術雑誌の検索などは、図書館ツアーに希望を書いておくと、図書館の方が丁寧に教えてくれます。データが見つからなかったという言い訳もできなくなります（図書館の司書の方に相談したらいいことですから）。

データを収集する際、信頼おける統計を使ってください。政府は、必ず子どもの数を把握しています。なぜなら、国民の数は、国力にもつながるからです。どの省庁がどの問題を把握しているかを、日ごろから考えることはとても重要です。

図書館へ行く前に皆でエクササイズしてみましょう。それぞれこの省庁のホームページ（HP）にいけばいいかグループで話し合ってみてください。

- 出生数を知るには？
- 自殺（自死）者の数を調べるには？
- アルコール依存症の数を調べるには？
- 30代前半の男性の平均収入を知るには？
- 来日外国人の数を調べるには？

1回目の仮Q1、仮A1を論証するにはどのようなデータが必要でしょうか。仮Q1として「なぜ日本は少子化するのか？」と問をたて、その仮A1を「なぜならば1990年ごろから日本人女性が産まなくなったから」にしました。子どもが生まれなくなったことになりまますから出生数、あるいは出生率のデータを探し、1990年ごろに果たして少子化しているかどうかをみていきましょう。

3 データを記述、分析しよう！

3.1 データと図と表

データとは「立論の材料として集められた、判断を導く情報を内包している事実」「コンピュータで、プログラムを運用できる形に記号化・数字化された資料」（日本国語大辞典より）です。データをグラフィック化したものを図といいます。

データは数字でおおよそ表されます。その数字はたいいていの場合、表計算ソフトのエクセルのセルに入っています。範囲指定し、グラフィックのアイコンをクリックすると、円グラフや折れ線グラフなど、日本語では図と呼ばれるものが、簡単に作成できます。表は、英語でTableといいますが、エクセルの一つの一つのセルは四角いテーブルのようですよ？これに対し、表からグラフ化したもの

は、英語では Graph, Figure, Chart といいます。円グラフは、まるでアップルパイを切りわけるように、中心点を通る線で分けられますので、pie chart と呼ぶこともあります。数値が書かれた表から図にできるわけです。

表と図では、タイトルの付け方が若干異なりますので注意が必要です。表なら表の出てきた順番に、図なら図のできた順番に番号をふるのですが、卒論のように図や表が 10 以上でるものは、ナンバリングが困難になってきます。嘉本ゼミではその煩雑さをさけるために、すべて図表で統一させます。図表にはレポートにでてくる順番に番号をふってください。タイトルが明確化、出所（省庁など）はどこか、ネットからコピペしてきても構いませんが、資料の出典（もともとの資料は何を参考に作成されているのか）を明記することなど、ルールがありますので、ゼミの先生に確認してください。

仮アンサー「なぜならば～」のセンテンスで原因・要因に関するデータを図書館でとってくるわけですが、そのデータは、図でも表でも構いません。ただし、図表を引用してきた場合、記述と分析にわけて、説明していく必要があります。ポイントは以下です。

- ☞① 図表の番号をレポートに出てきた順番に振り、タイトルを明確に
- ☞② 図表の出典、資料の出典も明確に（URL はアクセス日も明記）
- ☞③ 昭和、平成、令和など政府統計は元号を使いますが西暦で統一！
- ☞④ 図表は記述と分析に段落をわけて書こう

出生数を知るにはどこの省庁の HP にアクセスしたらわかるでしょうか？厚く生きる省、戦間期に設立された厚生省が労働省と統合された厚生労働省は人口動態統計を毎年出しています。また、内閣府は『少子化社会対策白書』を出しています。図表 1 「出生数及び合計特殊出生率の推移」は、内閣府の『平成 30(2018) 年度版 少子化社会対策白書』から引用しました。2016 年のデータは、2017 年にならなると明らかにはなりません。なぜなら 1 年間の統計を集める必要があるからです。官庁のデータは、元号で表されることが多いです。ここで徹底してほしいことは、すべて西暦に直してほしいということです。なぜなら、各国の比較をするときは、西暦が必要になるからです。引用元が元号を使っている場合は、プリントアウトしたときに 5 年おきぐらいでいいですから、西暦を手描きで書き込んでおいてください。グラフを記述し分析するときも西暦で統一して下さい。

図表は記述と分析が必要となります。おすすめするのは、記述と分析は段落をわけて書くくせをつけることです。

記述とは、その図表を見ていない人にもわかりやすく、具体的数値を使って描写することです。そこにあなたの意見を書いてはいけません。あなたの意見や考え、解釈は分析ですることになります。しかし、分析の前に図表を正しく読み取っているかどうかを記述しておく必要があるのです。

記述のポイントは、5W1H から why を引いた 4 W1H に気を付けることです。

Where どこの国（地域）のデータか

When いつのデータか

Which 複数のデータが一つの図になっていることもあるので、自分が説明したいグラフはどちらか、表明しましょう。

What 何が（単位に気を付けましょう）

How どのくらい、どのようには具体的な数値を用いて、表現しましょう。引き算、足し算、割り算、掛け算を使って表現できるかどうかで、印象が違います。逆に、「大きく変化した」「だんだん変化した」「少ししか変わらない」など、具体的な数字もなく、どれだけ変化したかわか

らないものは減点です。

分析は段落をかえましょう。分析のポイントは why? です。なぜそのような変化が起こったか、仮 Q と仮 A を立ててみましょう。ここでも仮 Q と仮 A は大事になっていきますので、ロジカル・シンキングのエクササイズがいかに大事かおわかりいただけると思います。

「なぜ日本は少子化するのか？」では、仮アンサーがいつ頃から少子化したと考えるかを想定させましたね？その想定が正しいかどうかを検証するのが、課題 図表 1 「出生数及び合計特殊出生率（TFR）の推移」です。実際に記述と分析をやってみましょう。

3.2 図表 1 「出生数及び合計特殊出生率（TFR）の推移」を記述・分析してみよう

嘉本ゼミでは、「図表 1 によると」とか「上の図表によると」という表記の仕方をすると減点します。〈図表番号「タイトル」によると、〉と明記してから記述をするように指導します。複数のデータが入っているグラフは、単位が何かを注意してください。

図 1 「出生数及び合計特殊出生率（TFR）の推移」は、図表の左右の単位が違います。左側は出生数で、棒グラフの単位で（万人）とありますから、1949 年以前は 250 万人を超える子どもが産まれてきたことを示します。一方、右側の「合計特殊出生率（以下、TFR）」は単位がありません。1949 年以前は 4.32 と 4 以上あったものが、1973 年には 2.14 と半減しています。記述ではどちらのグラフに着眼するかが大事になります。出生数では、その年の母親世代の人口規模に左右されてしまうので、ここで記述すべきは、合計特殊出生率（以下、TFR）です。TFR は妊娠可能だとされる 15 歳から 49 歳までの女性が生涯に出産する子供の数を推計する値のことです。例えば 1949 年は 4 を超えていますが、その頃の女性は平均 4 人出産していたことになり、1949 年生れの人には自分を含め平均的に 4 人きょうだいがいるのが「普通」だったということになります。

TFR の変化の度合い（激しく変化しているところ、あまり変化がないところ）に着眼して、考察期間を区切ってから記述すると、わかりやすくなります。下記の図表 1 をいくつかの期間にわけてみてください。

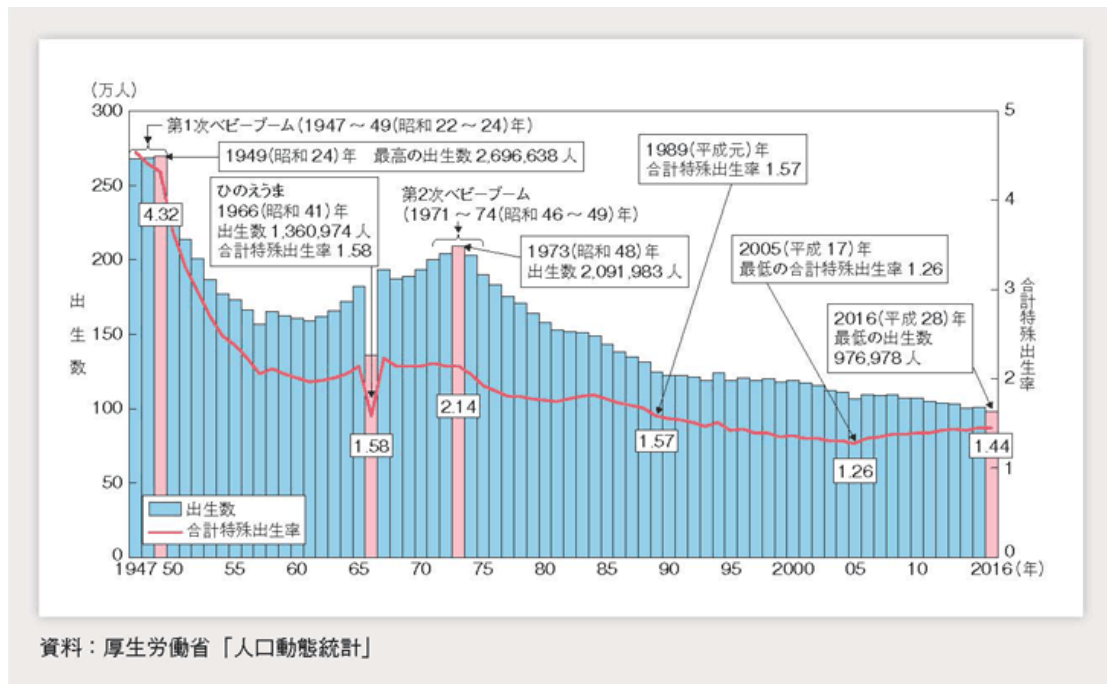


図1 出生数及び合計特出生率の推移 (内閣府『平成30(2018)度版 少子化社会対策白書』より引用)

分けられましたか？私は TFR が4を超えている時期を第I期、TFR が2を少し上回る期間を第II期、丙午の年を切った1.57ショックのある1990年までを第III期、そこから最低の1.26を記録した2005年を第IV期、ほんのつこしだけ上昇傾向にある今日までを第V期ぐらいにわけて具体的な数字を用いて記述します。

分析のポイントは、この考察期間に分けたどこにあなたが、着眼して少子化したと想定していたかです。例で1990年に着眼しましたね。1989年の1.57ショックとあります。この1.57という数字は、1990年に判明します。1966年の丙午の年の1.58のTFRを、丙午ではない1989年に切ってしまったことから、1.57ショックと呼ばれています。丙午に生まれた女性は禍をもたらすという迷信から、1966年代の母親は中絶し、産まなかったのです。しかし、1989年は丙午でもなかったのに、丙午の数字を切ってしまいました。1.57ショック以降、政府は少子化対策を色々打ち出しますが、2005年の1.26まで低下し続けていることがわかります。よって1990年頃少子化していたことがこれで証明できるわけです。

しかし、それはなぜでしょうか？なぜならば、と想定することが図表の分析1になります。そして、なぜならばと原因・要因を挙げて、さらなるデータをとってきて論証する。卒業論文では、この作業を何回かくりかえす章があります。ソーシャル・リサーチ(社会調査)のクラスでは、「周辺リサーチ」という作業をさせますが、「周辺リサーチ」はこの図表の記述と分析する能力がなければ、できません。1, 2年生のうちにしっかりと身に付けておきましょう。

このように、なぜは、更なるなぜを呼び起こすのです。「なぜ」を5段階掘り下げるエクササイズは、分析のために必要だったのです。

おまけ 少子化しつづける未来、何が起こるか想定してみよう

現代日本の人口置換水準はTFRが2.07ないと元の人口規模には戻りません。単純化して考えると1組の夫婦＝男性1人と女性1人から、子どもが2人だけしか生まれないとすると、医療や衛生状態がよくなったとはいえ、不慮の事故やインフルエンザなどで亡くなり、成人を迎えられないかもしれません。よって、2を上回る値がないと人口は減少し続けることになります。2を切ったのはいつからでしょうか？

人口は一度生まれたら、その世代が減ることはあっても増えることはありません。移民を大量に受け入れるなら別ですが、日本政府は、移民政策をとっていません。日本の総人口は2008年をピークに減少局面に入っています。日本で生きていくということは、この人口条件のもとで生きていくことであり、「なぜ日本は少子化するのか」は重要なレポート課題であり、あなたはどうか生きるのかに直結する課題なのです。

10年後

20年後

30年後

想定してみましたか？現代社会日本を生きる人は、覚悟をしておく必要があると思うのです。以下の文献どれか一つ手に取ってみてください。

河合雅司 (2017) 『未来の年表 人口減少日本でこれから起きること』 講談社

河合雅司 (2018) 『未来の年表2 人口減少日本であなたに起きること』 講談社

河合雅司 (2019) 『未来の地図帳 人口減少日本で各地に起きること』 講談社

社会学的なものの見方を学習したら、こんな本にも挑戦してみてくださいね。

赤川学 (2018) 『少子化問題の社会学』 弘文堂

少子化問題は経済学の問題でも、政治的なイシューの一つでもあります。経済学や政治学（特に地方自治には深刻な影響を与えています）では少子化問題をどのようにとらえているかも比較してみるといいでしょう。

未来のことは変えられます。変えるために今何ができるでしょうか？あなたは未来のために、大学時代をどう過ごしますか？学問は、あなたの未来をよりよくするものの一つです。真剣に取り組むか取り組まないかは、あなた次第です。

第10章

インターネット通信量からみる社会（中山貴夫）

1 はじめに

我々の身の回りには様々な情報が溢れており、インターネットを利用して日々さまざまな情報にアクセスしたり発信したりしている。インターネットは道路や橋、電気、水道、ガスのように社会や経済活動を支えるための基盤（インフラ）の一つとし、現代社会において欠かせない情報インフラとしての役割を果たしている。

本章では、まず情報通信の歴史とインターネット登場の背景を振り返り、インターネットがどのようにして生まれたのかを紹介する。そして、インターネットと現代社会のかかわりの一例として、通信量という観点から現代社会とインターネットの関連を考えてみる。

2 情報通信の歴史とインターネット

人間は古来より様々な手段を用いて情報伝達を行ってきた。その原動力は自分の知っている情報を他人に伝えたい、他人の情報を知りたい、情報を交換したい、つまり他人とコミュニケーションを取りたいというものである。現在のインターネットでもこの原動力は生きている。また、文明の発達とともに情報を伝達するということが重要視されるようになるのは現代と変わらない。より遠くへ、より多くの情報を同時に伝達する方法が重要視されるのも自然なことである。まずは古来から行われていた通信手段の歴史を振りかえろう。

2.1 古代の情報伝達手段から電気通信の登場

紀元前の時代は情報伝達手段として狼煙や手紙が用いられていた。

狼煙は小さな塔の上で高い煙を上げて合図として利用するものである。紀元前のペルシアやローマでは、火薬を用いて煙の色を変えたり煙の形を変えることで様々な意図を伝達する方法も考案された。狼煙は主に侵入者の伝達に利用され、ヨーロッパやアジアでも狼煙を上げる塔が建てられていた。モンゴル帝国で利用された狼煙はその伝達速度が時速150kmに達したともいわれている。

手紙は情報を紙に書いて伝達する手段ととらえれば古くから用いられた情報伝達手段であるといえる。紙は植物の繊維を原料として作られるもので、紀元前3世紀には古代エジプトや中国で発明されたといわれている。紙はその後ヨーロッパにも伝わり、手紙は情報伝達手段として広く利用されるよ

うになった。手紙は情報を文字で伝達するため情報の伝達速度は狼煙に比べて遅いが、情報の内容をより詳細に伝達することができる。

1800 年代に電気通信が可能になってから情報伝達手段は大きく変化する。そのきっかけは 1837 年にアメリカで考案されたモールス信号である。モールス信号は短点「・」と長点「-」の二種類の符号を組み合わせてアルファベットや数字を表現する。例えば ABC は「・ - - ・ ・ ・ - ・ ・ ・」と表現され、これを電気信号を用いて伝達する。

その後 1876 年にアメリカのベルによる電話の発明、20 世紀初頭にはイタリアのマルコーニによる大西洋を横断する無線通信の成功、ラジオやテレビ放送の開始と続き、電気通信による情報伝達が広まっていく。

2.2 インターネットの誕生

現在のインターネットの基となったネットワークは 1957 年に組織されたアメリカの ARPA (高等研究計画局) の研究開発によるものである。このネットワークはもともと旧ソ連のミサイル攻撃に耐えるためのネットワーク構築が目標であったとされている。

初めての通信が成功したのは 1969 年であり、アメリカ西海岸のカリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) とスタンフォード研究所 (現 SRI インターナショナル) の間での通信である。この通信の成功がきっかけとなり、同年に 4 地点の大学や研究所を相互接続して ARPANET の基礎が実現し、現在のインターネットの原型となった。2 年後の 1971 年には接続拠点は 15 地点に増え、1972 年の一般向けデモンストレーションをきっかけとして ARPANET への接続数は増加した。初の国際間の接続は 1973 年であり、イギリスやノルウェーと接続した。その後 ARPANET と同様の研究ネットワークが多数構築され、それらが相互接続を繰り返しながら規模が拡大し 1984 年には接続組織が 1000 程度に増加した。

これまでのネットワークは接続組織の研究者のみが利用できるものであったが、1990 年に使用料を支払って一般の人も利用できる商用利用が認められ、研究者以外の利用者也増加した。日本では 1984 年にいくつかの大学や研究所がコンピュータネットワークを構築し、日本の学術ネットワークの基礎ができた。

2.3 WWW の登場

インターネットが爆発的な広まりを見せた一番の要因は WWW (Web) の登場である。WWW は 1989 年にヨーロッパの原子核研究機構 (CERN) が文献検索のために開発したもので、複数の文章をハイパーリンクで結びつける仕組みを応用したものである。当初は文字データのみしかやり取りされていなかったが、1993 年に開発された Mosaic というブラウザ (Edge や Chrome などのような Web ブラウザ) で画像が表示されるようになり、操作性も向上した。さらにネットワーク越しということの特を意識せずに大量の情報が得られたり、当時は難しかった画像や音声を手軽に取り扱えるという特徴も備えていた。このような WWW を用いて簡単に情報が得られるという利点があり、研究者のみならず一般の利用者に広く受け入れられた。Mosaic の登場はインターネットの商用利用開始の時期と重なったこともあり利用者が爆発的に増え始めた。

WWW 自体はインターネット上で提供されているサービスの 1 つに過ぎないが、このような経緯から一般には「インターネット = WWW」と誤解されているほどである。実際に SNS や動画配信など現在インターネット上で提供されているサービスのはほとんどは WWW の仕組みを利用している。

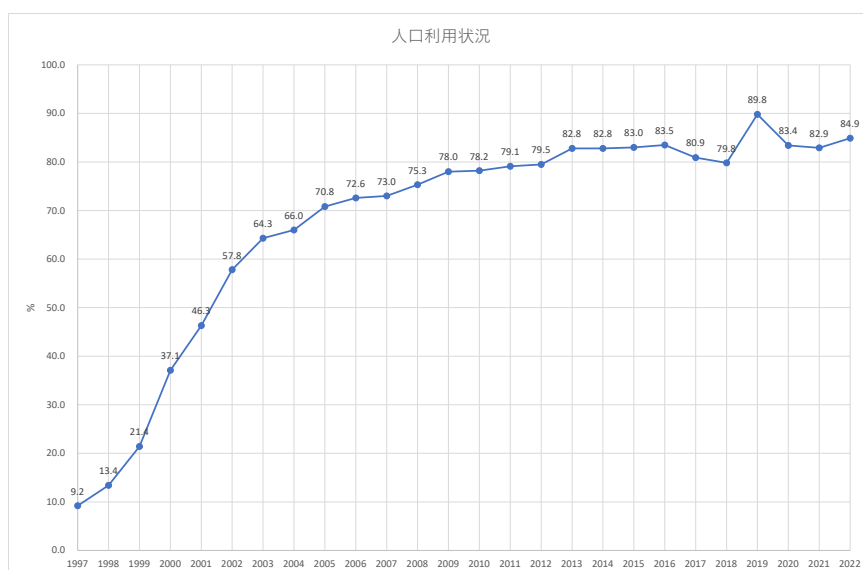


図1 インターネット利用率の推移
出典：各年の総務省「通信利用動向調査」より作成

2.4 日本におけるインターネットの普及

日本では2000年前後から本格的にインターネットの利用が広まった。そのきっかけは前述のWWWの広まりに加えて、国の情報化政策によるところが大きい。日本の情報化政策は2001年に策定された「e-Japan戦略」が始まりである。これは2005年までに日本のインターネット環境を世界最高水準にするという計画であった。具体的には「5年以内に超高速アクセスが可能な世界最高水準のインターネット網整備を促進し、必要な国民が低廉な料金で利用できるようにする」というのが目標であった。2000年以前のインターネット接続は接続時間に応じて課金される方式が主流であったが、この計画によりインターネットへ常時接続できるサービスが安価で登場したことにより利用者が増加した。また、同時期に携帯電話によるインターネット接続が可能になったことも利用者増加の要因に挙げられる。

その後も国の情報化政策は少しずつ計画を変えながら続けられ、それとともにインターネット利用者は増加した。総務省が毎年公表している「通信利用動向調査」によるとインターネットの人口普及率は1997年に9.2%であったが2000年に37.1%、2005年に70.6%と増加し、2013年に82.8%と初めて80%を超えた。これは人口でいうと1億人以上にあたり、現在ではほとんどの人が当たり前のようにインターネットを利用するネット時代になっている（図1）。

3 通信量からみるインターネットと社会

前述したようにインターネットは情報基盤（情報インフラ）とも呼ばれており、情報を伝達するための土管のようなものである。世界中に張り巡らされた土管を使ってあらゆるデータをやり取りでき

ようになったことで、我々の生活は大きく変わった。日常生活の様々な出来事がインターネット上に反映され、逆にインターネット上での出来事が日常生活に反映されたりしている。そのことを示すデータの一例として、インターネットの通信量という観点からインターネットと社会のかかわりを考えてみよう。

3.1 デジタルデータと通信量

インターネットにはスマートフォンやパソコンだけではなくゲーム機、テレビやロボット掃除機といった家電、工場で使われる産業用ロボットなどあらゆるデバイスが接続されている、これらのデバイスはNTTやKDDIといった通信事業者のネットワークに接続されており、さらに通信事業者のネットワークは相互に接続され、海外とも繋がり世界中のデバイスが接続されている。この通信事業者のネットワークは我々利用者からはどのように繋がっているか分からないため雲のように表現される場合が多い(図2)。

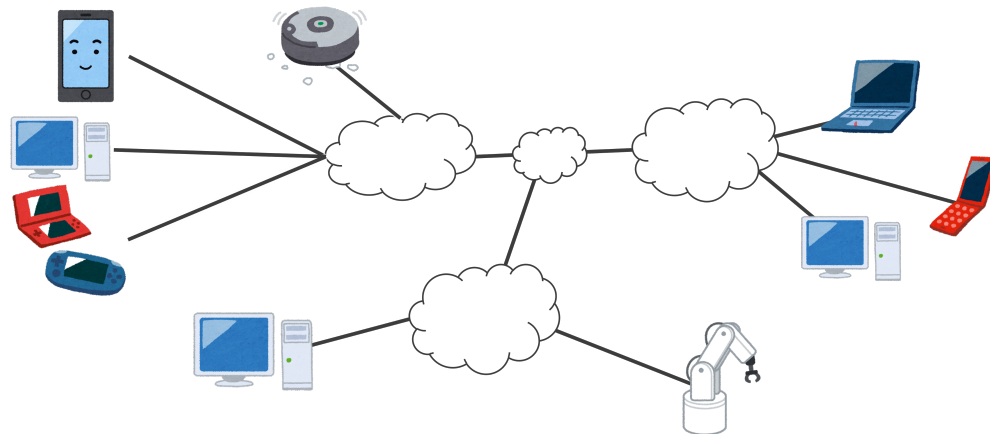


図2 様々なデバイスがつながるインターネット

何か情報を送りたいデバイスは、その情報をデジタルデータという形に変換しそれをパケットという単位に分割して送信する。デジタルデータとは、文字や音声、画像、動画などの情報をコンピューターで扱えるよう数値化したデータのことである。文字であれば「A」は「01000001」、「B」は「01000010」というように文字毎に数値を対応させて数値化しており、画像や音声も何らかのルールに基づいて数値化されている。ルールさえ決めて数値化すれば何でもデジタルデータとして扱うことができる、というわけだ。例えば特定の動きに対して特定の数値を対応させるルールを作れば、その数値を相手に送ることで動きを伝えることが可能であり、遠隔地で手術をする遠隔手術などにも利用されている。送信されたパケットは雲の中を通過して目的のデバイスに届けられ、受信したデバイスは受け取ったパケットを元の情報に復元して利用する(図3)。

文字のデータであればパケットの量は少なく済むが、音声や動画のデータは大量のパケットが必要となる。メールの送受信やニュースサイトなどの閲覧は文字データが主であるため、流れるパケットの量(=通信量)はそれほど多くない。一方で音楽や動画を視聴しているときには大量のパケットが流れるため通信量が多くなる。つまり雲の中を通るパケットの量を計測すると、どれくらい、どのようにインターネットが利用されているか推測できる、というわけである。

身近な例ではスマートフォンの料金プランにあるデータ通信量がこれにあたり、例えば月々5ギガバイトのプランであれば1ヶ月間に5ギガバイト分のパケットを送受信することができる。多くの



図 3 データが送信される様子

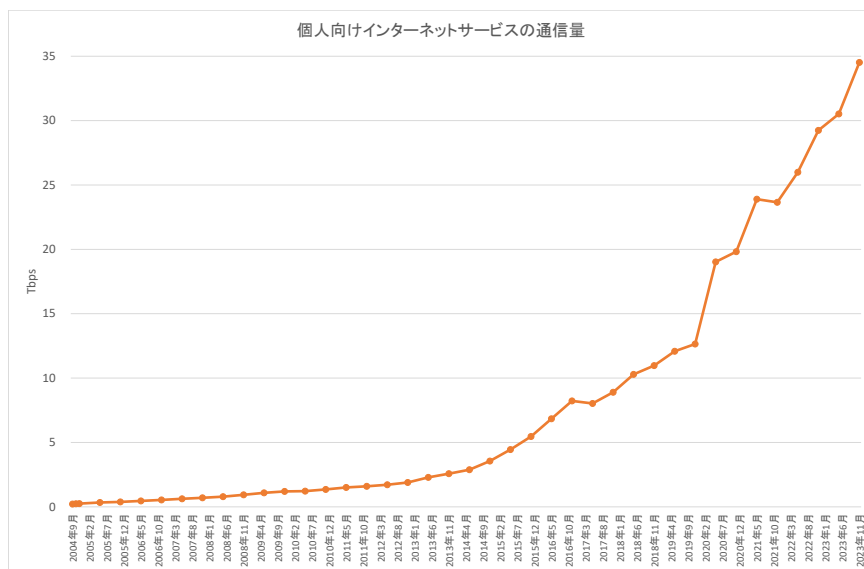


図 4 個人向けインターネットサービスの通信量推移

出典：総務省「我が国のインターネットにおけるトラフィックの集計結果」より作成

場合は定められた容量を超えるパケットを送受信した場合は通信速度が低下する、あるいは追加料金が発生するといった制限が設けられている。このように通信量は利用者にとって重要な情報であり、通信事業者にとっても利用者の通信量を把握することは重要である。

3.2 インターネット全体の通信量の変化

では実際にはどのくらいの通信量が流れているのだろうか。図 4 は総務省が半年ごとに公表している「我が国のインターネットにおけるトラフィックの集計結果」(トラフィックは通信量のことである)を元に作成した、個人利用向けのインターネットサービスの通信量の推移を示したグラフである。横軸は年月、縦軸は 1 秒あたりの通信量であり、集計を始めた 2004 年以降年々増加していることが分かる。

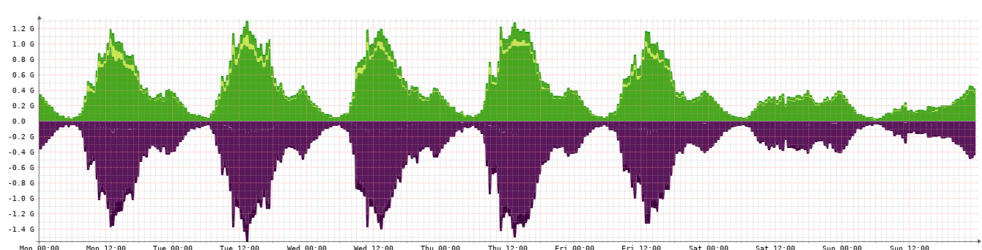


図 5 京都女子大学のある一週間の通信量

詳しく見てみるよう。2000年代当初は通信量はそれほど多くなかったが、これは当時はメールや掲示板のような文字が中心の情報であったためである。2008年にスマートフォンが登場して音声や動画のデータが手軽に扱われるようになったことにより通信量が増加し始める。そしてSNSや動画配信サービスが一般化した2014年以降に増加の速度が上がり、2015年には5Tbps(1秒あたり5テラビット)を超える通信量が流れるようになった。さらに新型コロナウイルス感染症の流行により在宅勤務やオンライン授業が増加した2019年以降は通信量が急増しており、2021年までの2年間で通信量が2倍に増加していることが読み取れる。2023年11月には1秒間に35Tbpsの通信量が流れており、今後も増加が続くことが予想される。ちなみに全世界のインターネットの通信量は2023年の時点で1秒間に1000Tbpsを超えていると推計されている。

3.3 日々の通信量の変化

次に、日々の通信量の変化を見てみよう。JPNAPやIPIX、BBIXといったIX(インターネットエクスチェンジ、図2の雲と雲を接続している小さな雲と思えばよい)サービスを提供している事業者は、日々の通信量を公開している。これらの事業者が公開している日々の通信量を見ると(検索してみよう、どんなワードで検索するとよいだろうか)、朝の6時ころから通信量が増加し、18時ころまで緩やかに増加しており、その後21時から22時ころまでがピークとなる。その後深夜にかけて減少し明け方頃が通信量の底となり、我々の生活リズムと一致していることが分かる。つまり、朝の通信量増加は朝に家を出るときにスマートフォンで天気予報を確認したり電車の中でニュースを見たりするのが原因であり、夕方から夜にかけてピークとなるのは帰宅してから動画を視聴したりSNSを見たりする人が多いからだと考えられる。

また、身近なところで京都女子大学のある一週間の通信量を示したグラフを見てみよう(図5)。左端が月曜の0時、右端が日曜の24時である。授業のある平日は9時ころから増加し、2限目が始まる10時30分頃からさらに増加している。昼休みの間が通信量が一番多くなっており、5限目が終わる18時ころから急に減少する。夕方から夜中にかけてはあまり変化はなく、深夜はかなり通信量が少ない。一方授業のない土曜と日曜は平日に比べて通信量が少ないことが読み取れる。ここでも、学生の生活リズムと通信量が関連していることがわかる。

3.4 イベントによる通信量の変化

最後に、イベントによる通信量の変化を紹介しよう。近年では、オリンピックやサッカーワールドカップなどの世界的なスポーツイベントが開催されると、その配信を視聴するために大量の通信量が発生する。例えば、2022年に行われたサッカーワールドカップはインターネットで全試合が生配信された初めての大会であり、特に日本対スペインの試合が行われた12月1日の深夜4時ころから通

通信量が増加し、試合が終わった6時ころまで通常ではありえない通信量が観測された。

スポーツイベント以外でも、音楽ライブや花火大会などのイベント配信、人気オンラインゲームのアップデートなどにより通信量が増加することが観測されている。また、大規模な自然災害が発生すると、被災地の情報収集や救援活動のために通信量が増加することもある。

4 おわりに

日常生活にインターネットが浸透している事を示すデータとしての通信量から我々の生活リズムが見える例を紹介した。ここでは生活リズムと関連付けて説明したが、通信量の変化には国際政治や経済、さらには自然災害など社会の大きな出来事が反映されていることもある。また通信量だけではなくその種類、さらに検索サイトに用いられたキーワードや SNS の投稿内容、動画の視聴数などからも社会の動きを読み取ることができる（もちろん、そのような分析は個人を特定できない形で行わなければならない）。一つのデータを一つの角度から見るのではなく、様々な角度から見たり、他のデータと組み合わせるとことで新たな発見があるかもしれない。

大学の学びも同様で、一つの分野だけではなく広い視点で様々な分野を学び、また互いの関連を考えながら学ぶことが大切である。

5 課題

- 日々の通信量の変化で説明した IX 事業者の通信量のグラフを検索してみよう。
 - それぞれの事業者のグラフを見比べて、通信量の変化の違いはあるだろうか？
 - 通信量が最も少ない時間帯でも 0 ではなくある程度の通信量がある、それはなぜだろうか？
 - 事業者によっては週間や月間の通信量も公開している場合がある、それらのデータも見て気づくことはないだろうか？
- スマートフォンやパソコンで毎月どれくらいの通信量を使っているか確認してみよう。ここで紹介した通信量の値と比較して日本全体の通信量が想像できるだろうか（ここで紹介している通信量は 1 秒あたりの通信量であることに注意しよう）。
- 台風などの自然災害が発生したときに通信量がどのように変化するか考えてみよう。
 - 増加する？減少する？その理由は？

参考文献

- [1] 中山貴夫 (2015) 「ネットワーク社会を生き抜く」、嘉本伊都子・霜田求・手塚洋輔・中田兼介・中山貴夫・西尾久美子編『現代社会を読み解く』、晃洋書房、pp. 277–286.
- [2] 村井純 (2014) 「角川インターネット講座 1 インターネットの基礎 情報革命を支えるインフラストラクチャー (角川学芸出版全集)」、KADOKAWA
- [3] インターネット白書編集委員会 (2024) 「インターネット白書 2024」、インプレス NextPublishing
- [4] 総務省「令和 5 年版情報通信白書」
- [5] 総務省「通信利用動向調査」(<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05b1.html>)
- [6] 総務省「我が国のインターネットにおけるトラヒックの集計・試算」(<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05b1.html>)

jp/joho_tsusin/eidsystem/market01_05_03.html

第 11 章

安定結婚問題 (宮下健輔)

1 はじめに

そのむかし「一目会ったその日から」「恋の花咲くこともある」という掛け合いで始まる人気テレビ番組があった。今では、SNS やまとめサイト等で結婚相談所やマッチングアプリの広告をよく見かけるかもしれない。ことほど左様に結婚は人々の関心を惹く事象である。

本稿では安定結婚問題を扱うが、ここでいう結婚は必ずしも現実世界のそれを意味しない。これは数学的に単なる 1 対 1 対応 (または多対 1 対応) のことである。この問題が最初に定義されたときに“marriage”という単語が用いられたため、それを翻訳した「結婚」という単語が日本語として用いられているのである。また「男性」「女性」という呼称についても同様であり、1 対 1 対応における双方を区別する以上の意味はない。

2 安定結婚問題

安定結婚問題が最初に定義された論文を参考文献 [1] に示す。これは David Gale 氏 (1921–2008) と Lloyd Stowell Shapley 氏 (1923–2016) により 1962 年に発表された論文である^{*1}。論文のタイトルを日本語にすれば「大学入学および結婚の安定性」となるだろうか。結婚の安定性の問題 (つまり安定結婚問題) とは男女が数人ずついるときにその中で安定なペアを見つけるもので、グループ内での交際が平和裡に行われることを目指す。大学入学 (大学に限らないが) を「学生と大学とを結びつけること」と解釈すれば、これも安定結婚問題の応用であることがわかるだろう。安定結婚問題のように 1 対 1 対応を求めるのではなく、多数の学生が 1 つの大学に入学する多対 1 対応を求めることになるが、問題の本質は変わらないと考えられる。

2.1 定義

安定結婚問題は以下のように定義できる。

数人ずつの男女 (n 人ずつとしよう) がいるグループで、すべての人が異性すべてを自分の好意の順に並べたリストをそれぞれ持つとする。入力例 1 (図 1) は $n = 4$ で、 $a \sim d$ が男性、 $w \sim z$ が女性であり、リストはそれぞれ異性を左から右へ好きな順に並べている。例えば男性 a は女性 x がいちばん好きで、その後 z , y , w の順に好きであることを示している。

次に、男女 n 人ずつのグループ内で作られる男女のペア n 組のことをマッチングと呼ぶことにす

^{*1} Shapley 氏はこの論文を含む功績により 2012 年にノーベル経済学賞を受賞している。

a :	x, z, y, w		w :	d, b, c, a
b :	x, y, w, z		x :	c, d, a, b
c :	y, x, w, z		y :	d, c, b, a
d :	z, y, x, w		z :	a, b, c, d

図 1 入力例 1 ($n = 4$)

a :	x, z, y, \underline{w}		w :	d, b, c, \underline{a}
b :	\underline{x}, y, w, z		x :	c, d, a, \underline{b}
c :	\underline{y}, x, w, z		y :	d, \underline{c}, b, a
d :	\underline{z}, y, x, w		z :	a, b, c, \underline{d}

図 2 マッチング M_1

る。例えば $M_1 = \{(a, w), (b, x), (c, y), (d, z)\}$ はマッチングであり、これを図示すれば図 2 のようになる (それぞれのペアの相手に下線を引いている)。

ここで、一般にマッチング M で p と q がペアになっていることを $M(p) = q$ および $M(q) = p$ と書くことにしよう。例えば上のマッチング M_1 にはペア (a, w) が存在するので、 $M_1(a) = w$ であり $M_1(w) = a$ である。

このとき、あるマッチング M において男性 m が $M(m)$ よりも女性 f を好み、同時にその女性 f も $M(f)$ より男性 m を好むとき、このペア (m, f) を**ブロッキングペア**と呼ぶ。そして、このブロッキングペアが存在しないマッチングを**安定マッチング**という。例えばマッチング M_1 においてペア (a, x) はブロッキングペアであり^{*2}、 M_1 は安定マッチングではない。すなわち M_1 は不安定なマッチングであるということになる。

安定結婚問題とは「どのようなリストを持つグループについても安定マッチングが存在するか」という問題であり、その答えは“Yes”である。そしてこれが“Yes”であれば、次はその安定マッチングを求めるアルゴリズムが存在するかが気になるが、文献 [1] によればこれも“Yes”である。文献 [1] では、そのグループ内で考えられるすべてのマッチングについて安定かどうかをチェックするのではなく、安定マッチングのひとつ^{*3}を効率よく求めるアルゴリズムを考案し、その解としている。それが Gale-Shapley アルゴリズムである。

2.2 Gale-Shapley アルゴリズム

Gale-Shapley アルゴリズムは、前述したように n 人ずつの男女が持つリストを入力とし、安定マッチングをひとつ出力して停止する^{*4}。

このアルゴリズムにおいて各人は婚約中かフリー (free) かのどちらかの状態をとる。婚約中とはある異性とペアになっていることをいい、フリーとはそうでない状態である。アルゴリズム開始時は、すべての人がフリーであるとする。

さて、任意のフリーな男性が自分のいちばん好きな女性にプロポーズすることからこのアルゴリズム

^{*2} a にとって x は $M_1(a) = w$ より上位であり、 x にとっても a は $M_1(x) = b$ より上位である。

^{*3} 安定マッチングは一般に複数存在する。

^{*4} 高校の情報の授業などで聞いたことがあると思うが、アルゴリズムはこの「停止すること」がとて重要であり、停止しないものをアルゴリズムとはいわない。ちなみに、あるアルゴリズムが停止するかどうかを判定するアルゴリズムは存在しない。

1. マッチング $M = \emptyset$ (空集合) とし, 全員の状態をフリーとする
2. フリーの男性がいる間, 繰り返す
3. 任意のフリーの男性を選び, m とする
4. m のリストの最上位の女性を f とする
5. もし f がフリーなら:
6. ペア (m, f) を M に追加し, m と f の状態を婚約中とする
7. そうでなければ:
8. f の現在の婚約相手を m' とする
9. もし f のリスト中で m' の方が m より上位なら:
10. m のリストから f を削除する
11. そうでなければ:
12. ペア (m', f) を M から削除し, ペア (m, f) を M に追加する
13. m' をフリーに, m を婚約中にする
14. m' のリストから f を削除する
15. 2 に戻る
16. M を出力する

図 3 Gale-Shapley アルゴリズム

ムは始まる。プロポーズされた女性は自分がフリーならそれを受け入れる (このときこの男女は婚約中となる)。プロポーズされた女性が婚約中の場合, その女性はプロポーズしてきた男性を現在の婚約相手と比べ, その女性のリスト中で上位の人を選ぶ。すなわち, プロポーズしてきた男性が現在の婚約相手より下位のときはその婚約を続け, そうでないときはプロポーズしてきた男性と婚約する (つまり現在の婚約は解消する)。このとき, プロポーズを断られた男性はフリーのままその女性を自分のリストから削除し, 婚約を解消された男性はフリーに戻ってその女性を自分のリストから削除する。この動作を, フリーの男性がいなくなるまで繰り返すとマッチングがひとつつまり, それが安定マッチングになっている⁵。以上のアルゴリズムを簡条書きで表せば図 3 のようになる。

図 1 の入力例 1 で考えてみよう。最初は全員がフリーである。どの男性から始めても構わないが, 簡単のため辞書順で男性 a から始めよう。 a がいちばん好きな女性 x にプロポーズする。女性 x はフリーなのでプロポーズを受け入れ, ペア (a, x) が誕生し, a も x も婚約中となる。次にフリーの男性 b がいちばん好きな女性にプロポーズするが, これも x であるので, b は x にプロポーズする。するとプロポーズされた女性 x は自分のリストで a と b を比べ, a の方が上位であるので b のプロポーズを断り, ペア (a, x) は存続することになる。 x に振られた b はフリーのまま自分のリストから x を削除し, 次点の y にプロポーズする。 y はフリーなのでこのプロポーズは成功し, (b, y) というペアが誕生する (b と y はどちらも婚約中の状態になる)。しかし次に c がやはりいちばん好きな y にプロポーズしてくると, y のリスト中で c の方が b より上位のため, ペア (b, y) は解消され (c, y) が誕生し, b はフリーに戻って y を自分のリストから削除する。 b は今度は w にプロポーズし, w はフリーなのでペア (b, w) が誕生する (b は再び婚約中に, w も婚約中となる)。最後に d は自分のリストの最上位の z にプロポーズし, フリーの z はそれを受け入れてペア (d, z) ができる (d と z はそれぞれ婚約中となる)。以上の動作でフリーの男性がいなくなり, 安定マッチング $M_2 = \{(a, x), (b, w), (c, y), (d, z)\}$

⁵ くだいようだが, フリーの男性がいなくなるとこのアルゴリズムは停止する。アルゴリズムは停止するのである (くだい)。

a :	\underline{x} , z , y , w		w :	d , \underline{b} , c , a
b :	x , y , \underline{w} , z		x :	c , d , \underline{a} , b
c :	\underline{y} , x , w , z		y :	d , \underline{c} , b , a
d :	\underline{z} , y , x , w		z :	a , b , c , \underline{d}

図 4 マッチング M_2

が求められる (図 4).

では, 求められたマッチング M_2 が安定であることをチェックしよう. 図 4 で男性のリストを見ると a , c , d についてはすべて最上位の女性とペアになっているのでこれを上回る結果は存在しない. b だけがリストの第 3 位の女性 w とペアになっているが, それより上位の x も y もそれぞれのリストで b よりも上位の男性とペアになっており^{*6}, これらを覆すことができない. これは女性のリストからも同様のことがいえるので, すなわちマッチング M_2 は安定であるということになる.

ここで, マッチング M_2 では男性は 4 人中 3 人がリスト最上位の女性とペアになっているのに対して, 女性はそれほど良い結果になっていないことに気付くだろう^{*7}. これは男性から女性にプロポーズしたためであり, この手法ではプロポーズした側に最適な安定マッチング (すなわちこの場合は**男性最適安定マッチング**) が求められることが知られている^{*8}.

このアルゴリズムで安定マッチングをひとつ求めるのにかかる手間はどのくらいだろうか. こういふときは最悪の場合で考える. 上記の手法を振り返ると, 最悪の場合, すべての男性がそれぞれ自分のリストの最下位の女性までプロポーズを繰り返すことになる. 一度プロポーズに失敗したり婚約を解消されたりした女性は自分のリストから削除するので, 同じ女性に二度プロポーズすることはない. ということは, 最悪の場合には 1 人の男性についてそれぞれ女性の人数分だけプロポーズを繰り返すことになる. いま男女それぞれ n 人ずつを入力としているので, n 人の男性がそれぞれ n 人の女性にプロポーズすることになり, 合計すると全体で $n \times n$ すなわち n^2 回のプロポーズをしないとイケないのが最悪の場合ということになる. 実際はそこまで最悪のことは起きづらいだろうし, その他に比較したりペアを作ったりするのも手間がかかることを考えなければならないが, このアルゴリズムの手間を考える上でいちばん大きな要因はこの繰り返しの数 n^2 であり, これがこのアルゴリズムの効率を考える上で目安となる^{*9}. これは入力の大さき n に対してその二乗に比例する手間がかかると解釈できる. つまり, 男女 8 人ずつのグループに対して安定マッチングを求めるには, 男女 4 人ずつのグループに対して求める手間の 4 倍かかるというわけである. このように n の多項式の形で表される手間の数を上限とするアルゴリズムを**多項式時間アルゴリズム**という. この手間の数をどう評価するかという問題は読者への課題とする.

2.3 安定結婚問題の応用

前節では安定結婚問題で 1 対 1 対応のペアを求めることを考えた. ここでこれを多対 1 対応に拡張して, より一般的な**安定マッチング問題**として考えてみよう. 安定マッチング問題は文献 [1] を皮

^{*6} x の相手 a および y の相手 c が, それぞれのリストで b より上位である.

^{*7} 特に z は自分のリストで最下位の d とペアになっていてとてもかわいそうである. しかしこれは安定マッチングであり覆すことができない.

^{*8} では女性から男性にプロポーズするとどんなマッチングが求められるか, またそれは安定か等については読者への課題とした.

^{*9} より正確に表せば $O(n^2)$ であり, 「オーダ n^2 」または「 n^2 のオーダ」と読む.

切りに、数学はもちろん、情報科学や経済学など様々な分野で研究され、発表された論文は数百に上る。前述した 2012 年のノーベル賞は経済学賞であり*10、Alvin Elliot Roth 氏とともに「安定配分理論と市場設計の実践」に対して授与されている*11。

安定マッチング問題の例としてよく知られているのが**研修医配属問題** (Hospitals/Residents Problem) である。これは大学の医学部を卒業した学生が実際の病院での研修を行う際に、どの研修医をどの病院に配属するかを決める問題である。研修制度は若い医師にとって現場で研鑽を積む絶好の機会であり、病院にとっては安価で貴重な労働力としての研修医を活用できるという、双方にとって重要な役割を担う制度である。文献 [2] によれば、前世紀半ばのアメリカで始まったこの制度は、その初期には優秀な研修医を巡って各病院が採用時期を早め、遂には 2 年前に採用となるまでの事態に至って、全米規模で安定マッチングを求める制度改革が行われた。日本でも従来は各病院で行われていたものが 2004 年度から必修の臨床研修制度となり、同時に開始された研修医マッチング制度でこの手法が採用されている。

研修医マッチング制度では、上述した安定結婚問題と同様に研修医は配属先として希望する病院のリストを、病院は受け入れたい研修医のリストをそれぞれ持つ。ただし、当然ながら研修医と病院の数は同数にはならず、ひとつの病院に複数の研修医を配属させられる点が安定結婚問題とは大きく異なる。研修医はそれぞれ希望する病院に、その病院の受け入れ可能人数の上限（これは病院によって異なる）まで配属できるのである。

安定結婚問題は容易に多対 1 に拡張できる。例えば、研修医配属問題の解としてマッチング M_3 が求まったとしよう。ここで M_3 には複数のペア (r_0, H_0) , (r_1, H_1) , (r_2, H_1) , (r_3, H_1) が含まれるとする（ここで r_0, r_1, r_2, r_3 は研修医、 H_0, H_1 は病院を表す）。これは研修医 r_0 が病院 H_0 で研修し、研修医 r_1, r_2, r_3 は病院 H_1 で研修することを表している。このとき、もし研修医 r_0 が病院 H_0 より病院 H_1 を好み、病院 H_1 は研修医 r_2 よりも研修医 r_0 を好むのであれば、ブロッキングペア (r_0, H_1) が存在することになり、 M_3 は不安定マッチングとなる。このように基本的な概念は安定結婚問題と同様である。

さて多対 1 の安定マッチング問題を解くには、上述した Gale-Shapley アルゴリズムを少し変更すればよい。まず、「男性から女性にプロポーズする」と表現していたものを「研修医から病院へ研修申請をする」と読み替える。また、病院は受け入れ可能な研修医の数の上限に達するまではその申請を受け入れ、上限を越えたときにはその病院の持つ希望研修医リストの順位に基づいて申請受け入れの是非を判断する*12。このアルゴリズムの手間の数は研修医の人数と病院の数との積に比例することになる。ただし、研修医がすべての病院をリストに列挙することは非現実的であり、その逆も然りである。正確な解析についての説明は本稿の主題を外れるため、ここでは言及しない。

1 対 1 の安定結婚問題の持つ性質は多対 1 の安定マッチング問題でも成り立つことが知られている。例えば、Gale-Shapley アルゴリズムではプロポーズする側にとって最適な安定マッチングが得られたのと同様に、研修医の方から申請すれば研修医にとって最適な安定マッチングが得られる。また Gale-Shapley アルゴリズムでは誰かが嘘のリストを掲げることによってより良い相手とペアになることはできない（これを**耐戦略性**という）ことが知られており*13、多対 1 でも耐戦略性を持つ。これが現実世界での問題解決では特に重要となる性質であることは、研修医が嘘を吐くことで自身を有利

*10 ノーベル賞には数学や情報科学の賞はない。数学ではフィールズ賞が、情報科学ではチューリング賞がそれぞれノーベル賞に匹敵すると言われている。

*11 Gale 氏がもう少し長く生きていたら 3 人で受賞したかもしれないと考えるととても残念である。

*12 つまり、新たに申請してきた研修医と既に配属を決定している研修医とを比較し、リストの最下位の研修医の配属を取り消す。

*13 この性質はぜひ具体的に確かめてほしい。

に導くことができればどんな問題が生じるかを考えればすぐに理解できるだろう。

3 おわりに

本稿では安定結婚問題とそれを解く Gale-Shapley アルゴリズムを解説し、その応用として研修医配属問題 (研修医マッチング制度) を紹介した。研修医配属問題が面白いと感じたら文献 [2] をぜひ読んでもらいたい。制度の歴史的な経緯や研修医配属問題の抱える現実の諸問題について平易に解説されており、WWW 上で検索すれば容易に見つかるだろう。また、安定結婚問題そのものに興味があれば文献 [3] もお勧めする。これはオンラインでは手に入らないが、有名な雑誌なので図書館を探すと良いだろう^{*14}。

現実世界での問題を考えるとき、それを構成する要素を分析し問題を単純化することで、問題の基本的な構造が明らかになることがよくある。数学や情報科学の分野ではこれをモデル化といい、問題の本質を見極めるためにとても有効な手段とされている。モデル化がうまくいけば、複雑に見えた問題が既知の問題 (またはその応用) に帰着し、先人の知恵をそこに適用できることがわかったりする。まさに「複雑に入り組んだ現代社会に鋭いメスを入れ」るための道具として、この先の人生で活用してほしい。

課題

1. 図 1 の例を用い、Gale-Shapley アルゴリズムで女性側からプロポーズしてマッチングを求めてみよう。得られたマッチングが安定かどうかをチェックし、 M_2 との相違があればそれはどういう性質のものか、またどうして生じたのか考えてみよう。
2. あるグループ内で考えられるすべてのマッチングを求め、それぞれが安定かどうかを判定する手法が現実的でないのはなぜか、マッチングの総数や問題の規模 (スケール) の観点から考え、Gale-Shapley アルゴリズムの手間と比較してみよう。
3. 研修医配属問題のように安定結婚問題の応用として考えられる現実世界の問題が他にないか考え、実際に適用する際の課題や制約、メリット、デメリット等について具体的に列挙してみよう。

参考文献

- [1] D. Gale and L. S. Shapley. College admissions and the stability of marriage. *The American Mathematical Monthly*, Vol. 69, No. 1, pp. 9–15, 1962.
- [2] 鎌田雄一郎, 小島武仁, 和光純. マッチング理論とその応用: 研修医の「地域偏在」とその解決策. 医療経済研究: 医療経済学会雑誌医療経済研究機構機関紙/医療経済学会, 医療経済研究機構 編, Vol. 23, No. 1, pp. 5–20, 2011.
- [3] 岩間一雄. 安定結婚問題の数理と最近の話題. 数学セミナー, Vol. 47, No. 11, pp. 46–51, 2008.

*14 残念ながら本学図書館にはないようである。

第12章

思春期青年期のメンタルヘルスリテラシーについて：ひきこもり予防を中心に (濱崎由紀子)

はじめに

多くの精神疾患は思春期に好発する一方で、精神保健に関する知識の一般普及率は低く、これは精神疾患対策（予防や早期介入など）を進めるうえで大きな障害となっている。このような問題意識から児童思春期の子どもへの精神保健教育（メンタルヘルスリテラシー）の開発が世界的に求められ、イギリスやカナダなどの海外先進国を中心に学校授業に導入され、またその効果が実証的研究により明らかにされ始めている¹⁾²⁾³⁾⁴⁾。現在、我が国の文部科学省では指導要領の改訂作業が進められ、近い将来、精神保健教育が学校授業として始まる可能性があるが、教育プログラム開発の基盤となるべき研究に十分なエビデンスがそろっていないのが現状である⁵⁾。本稿ではひきこもり予防を中心に、思春期青年期におけるメンタルヘルスリテラシーの重要性について述べていくこととする。

キーワード

メンタルヘルスリテラシー、大学生、ひきこもり、抑うつ、概日リズム

1 思春期青年期のメンタルヘルス

我が国では5人に一人が一生のうちに何らかの精神疾患にかかると報告されている（Kessler et al, 2007）⁶⁾。この中には統合失調症や認知症は含まれないので、身近でうつ病やパニック障害などを発症し精神科治療を受けている人は我々の想像以上に多いということがわかる。このような病気の多くは日常的な環境要因（過労や睡眠不足など）がきっかけとなり発症するものであり、特別な病気ではなく誰でもかかりえる病気と言える。WHOなどの研究によると、一般的に先進国であるほど精神疾患の発症率や重症度は高いことが報告されている⁷⁾。また、精神疾患は10代で急激に発症率が増え、患者人口の約75%は20代半ばまでに発症している⁶⁾。大学生はまさに精神疾患の好発年齢に位置すると言える（Appendix、図1、2参照）。大学生の発症リスクとしては、概日リズムの乱れ（夜更かしや睡眠不足、二度寝など）や食生活の乱れ、ネット依存などが指摘されている。

脳科学の視点から見ると、思春期青年期は脳のなかでも社会的認知に特に大切な「前頭連合野」（Appendix、図3参照）が発達・成熟する重要な時期である⁸⁾。この時期、不要なシナプスの刈り込

みや髓消形成によって、感情の制御や衝動的行動の抑止、社会関連情報の処理など、その後の社会生活のために大切な能力が形成される。このような脳の成熟が複雑な対人関係に相応しながら急速に進行するために、思春期青年期は感情や気分が不安定となりやすく、日常生活の些細な出来事が契機となってメンタルヘルスの不調をきたしやすい。

大学生の場合、メンタルヘルスの問題で日常生活が障害されれば不登校や休学、さらに重態化して社会的ひきこもりに至ることも少なくない。そうならないためには概日リズムの確保など日常生活での予防が最も重要となる。また本格的な病気になる前に不調に気づいて早めに対処（睡眠確保やストレス発散、友人や家族への相談など）することにより、発症を防ぐことができる。この早めの気づきのために、精神保健についての基礎知識（メンタルヘルスリテラシー）が必要となるのである。

2 社会的ひきこもりについて

ここでは大学生のメンタルヘルス問題として重要な社会的ひきこもりについて述べておく。社会的ひきこもり（以下、ひきこもりと記す）は、社会的なつながりも持たず数ヶ月または数年間、個人が部屋に閉じこもる社会的退却現象のことである⁹⁾。ひきこもり問題を論じた精神科医、斎藤環¹⁰⁾の著書は、日本で数多くのテレビ報道や新聞記事で取り上げられ、この問題のメディア普及に重要な役割を果たした。2000年代からは主に社会学領域において論文数が増え、英語圏のジャーナルにも幾つかの論文が掲載され始めている。

一方、ひきこもりという概念が精神医学的な学術用語として定義され位置づけられたのは比較的最近のことであり、この5~6年の間に精神医学雑誌にひきこもりテーマが登場することが多くなった。ひきこもり人口における精神障害の有病率について論じるものやひきこもりを文化結合症候群として捉えることを提唱するもの、不登校との関連を論じるものなど研究の方法や視点は多岐にわたっており、これらの文献レビューも概ね2015年に発表されている。公的な発表としては日本厚生労働省による最初のひきこもり報告が2001年および2003年に発表された。2010年および2016年の日本内閣府ひきこもり調査報告はひきこもり疫学研究の端緒となるものとして特筆される¹¹⁾¹²⁾。内閣府調査ではひきこもりになったきっかけの一位は不登校18.4%と報告されており¹²⁾、思春期青年期はひきこもりのcritical period（臨界期）として早期発見・予防の観点から大変重要な時期と考えられる。

ひきこもりは外出困難な狭義のひきこもりから趣味の用事の時だけ外出する「準ひきこもり」¹²⁾まで含む質的量的に広範な概念であり、どこから精神保健施策の対象とするのかは難しい問題である。さらに思春期青年期においては、登校には支障はないが家族以外の人間との交流を欠く所謂「ひきこもり親和群」¹²⁾もひきこもりの連続体（スペクトラム）として考慮に入れることが、リスクの早期発見・予防の観点から必要となってくる¹³⁾。

3 女子大学生のひきこもり関連因子 – 統計学的研究から

若年者のひきこもりリスク因子としては、家庭の機能不全¹⁴⁾、気分障害や不安障害などの精神疾患¹⁵⁾¹⁶⁾や概日リズム障害¹⁷⁾、コーピング（ストレス対処）能力の問題¹⁸⁾、ネット依存¹⁹⁾、などが先行研究により既に指摘されている。また、ひきこもりに限らずメンタルヘルス一般の防御因子としてはHaglundらがいくつかのレジリエンス因子²⁰⁾（トラブル対処行動、楽観性、宗教的信念、利他的行動など）を実証研究で明らかにしている。

筆者らはこれらのリスク因子、防御因子を説明変数として、女子大学生のひきこもり傾向との関連を調査した²¹⁾。その結果、女子大学生のひきこもり傾向は抑うつ・不安度と強く関連していること

が明らかとなった。自分のメンタルヘルス不調に気づいて早めに対処（ストレス発散や周囲への相談など）することが、ひきこもり予防にとって重要であることがわかる。概日リズムに関しては、特に食生活の乱れがひきこもりと強く関連していた。ネット依存についてはこれまで複数の先行研究が指摘しているが、当該研究においては関連が示唆されなかった。これまで若年者のひきこもり研究はひきこもり発生率の高い男子を中心に論じられてきた経緯があり²²⁾、ネット依存（特にオンラインゲーム）との関連もその中で指摘されてきた。ひきこもり要因としてのネット依存の性差については今後さらに検証する必要がある。

Haglund らが挙げるレジリエンス因子のなかでは、トラブル対処行動、利他的行動が特にひきこもりを抑制する強力な防御因子であることが明らかとなった。抑うつ・不安がひきこもりと関連することは既に上述したが、それ以上にトラブル対処や利他的行動といった日常的な行動特性がひきこもりの防御因子として強く関連していることは興味深い。メンタルヘルス不調への洞察・早期ケアと同様に、日頃より能動的な対処様式（解決策を模索する、学習する等）や利他的行動（人に親切にする、ボランティアなど）を心がけることがひきこもり発生の予防につながるといえよう。これらの行動様式のレジリエンス効果についてはニューロサイエンス領域においても神経生物学的機序（報酬回路の強化、自律神経系活動の減弱、学習性無力の予防、恐怖消去の促進など）が報告されており²⁰⁾、メンタルヘルスそのものの賦活に寄与しながらひきこもりを抑制するものと考えられる。

また当該研究では簡易なパンフレット配布（Appendix 参照）によるメンタルヘルスリテラシーを試みた。配布したパンフレットには仏教理念に基づいた生活とこころの整え方も紹介しており、広大で難解な理論を含むメンタルヘルスリテラシーの中に若者向けのシンプルで実践的なポイントを提示することに留意した。当該研究では宗教教育とメンタルヘルスリテラシーの間に相乗効果があることも実証され²¹⁾、宗教を介したメンタルヘルスリテラシーの有効性と臨床応用の可能性が示唆された。冒頭に述べたようにメンタルヘルスリテラシー・プログラムの開発は若年層のメンタルヘルス向上のために喫緊の課題であるが、プログラムが十分な実効性を持つためには個人が暮らす社会の風土、文化、規範などを十分に考慮したうえで構築していく必要がある²³⁾。

4 結語

社会的ひきこもりは現代日本社会のメンタルキャピタルを脅かす重要な問題となりつつある。内閣府は若年層（15歳から39歳まで）を対象とした2016年調査でひきこもり推計数を54.1万人と報告したが、2018年には中高年（40歳から64歳まで）を対象とした同様の調査²⁴⁾で若年層を上回るひきこもり推計数61.3万人を公表した。どの年齢層においても長期的なひきこもりのきっかけの一位は不登校と報告されており、思春期青年期はひきこもりの長期的予防にとって最も重要な時期といえる。先述したように脳科学の視点からも、思春期青年期は社会的認知の発達・成熟にとって特に大切な時期である⁸⁾。個人のメンタルヘルス問題にとどまらず現代公衆衛生の視点からも、若年層に特化した実効性のあるメンタルヘルスリテラシーの構築と学校教育への早期導入が望まれる。

参考文献

- 1) Kutcher S., Wei Y., Coniglio C. (2016) “Mental Health Literacy: Past, Present, and Future”, *The Canadian Journal of Psychiatry*, 61(3): 154-8.
- 2) 小塩靖崇, 北川裕子, 股村美里, 佐々木司, 東郷史治 (2013) 「不安・抑うつ, 精神疾患に関する英国の学校教育」, 『不安障害研究』 5 (1): 39-48.

- 3) Rickwood D., Cavanagh S., Curtis L., Sakrouge R. (2004) “Educating Young People about Mental Health and Mental Illness: Evaluating a School-Based Programme”, *International Journal of Mental Health Promotion*, 6(4): 23-32.
- 4) Loo P. W. , Wong S., Furnham A (2012) “Mental health literacy: A cross - cultural study from Britain, Hong Kong and Malaysia”, *Asia - Pacific Psychiatry* 4(2): 113-25.
- 5) 小塩靖崇, 股村美里, 佐々木司 (2013) 「日本におけるメンタルヘルスリテラシー教育」, 『精神科』, 22 (1): 12-9.
- 6) Kessler R. C., Angermeyer M., Anthony J. C. et al (2007) “Lifetime prevalence and age-of-onset distributions of mental disorders in the World Health Organization’s World Mental Health Survey Initiative”, *World Psychiatry* 6 (3): 168-76.
- 7) Leff, J., Sartorius N., Jablensky A., Korten A., Ernberge G (1992) “The International Pilot Study of Schizophrenia: five-year follow-up findings”, *Psychological Medicine* 22: 131-45.
- 8) Drabick D. A. G., Steinberg L. (2011) “Developmental Psychopathology”, *Encyclopedia Adolescence*, Elsevier: 136-42. (濱崎由紀子訳「発達精神病理学」 In: 『青年期発達百科事典・第3巻(精神病理と非定型プロセス)』 329 - 336, 丸善出版, 2014.
- 9) Teo A. R. (2010) “A new form of social withdrawal in Japan: a review of hikikomori”, *Int J Soc Psychiatry* 56:178-85.
- 10) 斎藤環 (1998) 『社会的ひきこもり：終わらない思春期』, PHP 研究所.
- 11) 内閣府 (2010) 「若者の意識に関する調査」(ひきこもりに関する実態調査) (https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/hikikomori/pdf_gaiyo_index.html)
- 12) 内閣府 (2016) 「若者の生活に関する調査報告書」(<https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/hikikomori/h27/pdf-index.html>)
- 13) 濱崎由紀子、ニコラ・タジャン (2018) 「ひきこもり研究から見える現代日本社会の病理」, 『京都女子大学現代社会研究』, 20: 37-49.
- 14) Kato, T. A., Kanba S., Teo A. R. (2016) “A 39-year-old “adultolescent”: understanding social withdrawal in Japan”, *Am J Psychiat* 173: 112-4.
- 15) Koyama A., Miyake Y., Kawakami N., Tsuchiya M., Tachimori H., Takeshima T., et al. (2010) “Lifetime prevalence, psychiatric comorbidity, and demographic correlates of “hikikomori” in a community population in Japan”, *Psychiatry Res* 176:69-74.
- 16) Malagón-Amor Á., Córcoles-Martínez D., Martín-López L. M., Pérez-Solà V. (2015) “Hikikomori in Spain: a descriptive study”, *Int J Soc Psychiatry* 61(5):475-83.
- 17) Ben Simon E., Walker M. P. (2018) “Sleep loss causes social withdrawal and loneliness”, *Nat Commun* 9:3146.
- 18) Yong R., Kaneko Y. (2016) “Hikikomori, a phenomenon of social withdrawal and isolation in young adults marked by an anomic response to coping difficulties: a qualitative study exploring individual experiences from first- and second-person perspectives”, *Open J Prev Med* 6(1):1-20.
- 19) Stip E., Thibault A., Beauchamp-Chatel A., Kisely S. (2016) “Internet addiction, hikikomori syndrome, and the prodromal phase of psychosis”, *Front Psychiatry* 7(6): 1-18.
- 20) Haglund M. E. M., Nestadt P. S., Cooper N. S. (2007) “Psychobiological mechanisms of resilience: Relevance to prevention and treatment of stress-related psychopathology”, *Development and Psychopathology* 19 (3): 889-920.
- 21) 濱崎由紀子 (2020) 「仏教教育によるメンタルヘルスリテラシーの可能性：社会的ひきこもりを中

- 心に」, 京都女子大学宗教・文化研究所『研究紀要』33, 57-70.
- 22) Yong R., Nomura K. (2019) “Hikikomori is most associated with interpersonal relationships, followed by suicide risks: a secondary analysis of a national cross-sectional study”, *Frontiers in psychiatry* 10:247.
- 23) 木村優里、濱崎由紀子 (2020) 「宗教と主観的幸福感について: 死の忘却とコンサマトリー化する現代」, 『京都女子大学大学院現代社会研究科論集』, 14: 127-136.
- 24) 内閣府 (2018) 「生活状況に関する調査報告書」(<https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/life/list.html>)

Appendix

パンフレット「こころの不調はありませんか？」 大学生のためのメンタルヘルスリテラシー (2019年9月26日、濱崎由紀子) <http://godama-psychiatry.blogspot.com/2019/09/5-kessler-et-al-2007-who-1-10-20.html>



課題

内閣府 (2016) 「若者の生活に関する調査報告書」で狭義のひきこもり、準ひきこもり、ひきこもり親和群の定義について調べてみよう。

第13章

生命の始まりと終わりへの介入はどこまで許されるか（霜田求）

はじめに

さまざまな生命科学・医療技術の発達により、人の生命の発生・誕生および終末期・死への介入がますます拡がりつつある。具体的には、受精から着床を経て出産に至るプロセスにおいて、配偶子（精子・卵子）・胚・胎児それぞれについて作製、選別、改変という形での介入が可能になってきたこと、第三者の援助（配偶子・胚・子宮の提供）も選択肢に入ってきたことが挙げられる。一方、生命の終わりの場面では、重い意識障害や重篤な疾患により回復困難な患者への生命維持措置技術も向上し、コミュニケーションや自力での動作がむずかしい場合でも、人工的な呼吸管理や水分・栄養補給等により現状を維持することが可能になると同時に、苦しむことなく死をもたらす薬剤・機器も開発されている。さらに近未来の展望として、情報通信技術（ICT）、人工知能（AI）、ゲノム編集の組み合わせによる「人工生命」創出、脳移植（データ保存）とロボット技術の融合（サイボーグ）による「不死＝永遠の生命」の実現といったことも考えられる。

あることが「可能である」からといってただちにそれが「認められる」ということにはならないので、それぞれの介入行為について、規則（法律、指針等）を策定して容認／禁止する（あるいは条件付で許容する）のかどうか、商業目的でのサービス提供事業として認めるのかどうか、といった社会的課題が浮かび上がってくる。以下、生命の始まりと終わりに関わる問題それぞれの概要と検討課題をみていこう。

1 生命の始まり

1.1 生殖補助医療：人工授精、体外受精、顕微授精

男女カップルが一定期間（一般に1年）避妊せずに性関係をもっているにもかかわらず妊娠しない状態が一般に「不妊」と定義される。原因として、女性の側（排卵、子宮などの障害）、男性の側（性功能や精子の問題）、原因不明・相性などが指摘される。女性の年齢が上がるとともに妊娠の確率が下がることが分かっており、その理由として「卵子の老化」に言及されることが多くなってきた。近年日本では、30歳代後半から40歳代の女性が体外受精と顕微授精を中心とした生殖補助医療（タイミング療法、排卵誘発剤投与、人工授精等を含めて「不妊治療」と呼ばれるのが一般的）に取り組むケースが年々増加傾向にあるものの、妊娠率は高齢になるほど低くなる。不妊クリニック関係者な

サービス提供者からは、「子どもを授かりたいのであれば若いうちに」という声も聞かれるが、結婚（あるいは子作り考慮）の高齢化や非婚化だけでなく非正規雇用および経済格差の拡大などの社会情勢も絡み合っているため、事情は複雑である。

日本社会の急激な出生数減少（2015年は約101万人、2022年は約77万人）と人口減少（2015年は約30万人減少、2022年は約56万人減少）という状況の中で、2022年4月から人工授精、体外受精、顕微授精が公的医療保険の適用対象となった（ただし治療開始時の女性の年齢43歳未満や回数制限等の条件がある）。

1.2 第三者の関与：精子・卵子提供、代理出産

当事者カップルの配偶子や子宮機能に何らかの不具合があり妊娠に至らない場合、第三者の助力を得て妊娠・出産・育児を可能とする方策がある。血縁者、無償ボランティア、報酬目的のサービス提供者という3タイプがあり、それぞれ課題が指摘されるが、共通する問題として以下の点を挙げておく。①家族関係が複雑になること、②子どもの「出自を知る権利」の保障すなわち遺伝的な親についての情報をどのように伝えるのか、③有償ビジネスに伴う「子どもの商品化」、④提供者の「質」に基づく配偶子の選別による「優生思想」助長可能性。それぞれのタイプについて関連する論点を確認しておこう。

まず、血縁者の場合、たとえば男性の兄弟が精子提供を、女性の姉妹や母親が卵子提供や代理出産を行うとき、金銭の授受は生じないかもしれないが、実際に育てる親子（提供を受けた側）と提供者との関係が、もともと血縁関係にあることに加えて遺伝的関係や生物学的関係と重なることになり、複雑化することがある。具体的には、カップル男性の兄の精子を女性に人工授精して生まれた子どもにとって、親族関係としての「伯父」は同時に遺伝的な「父」でもあるということになり、また娘夫婦の体外受精胚の移植を受けて子どもを妊娠・出産した母は、その子どもにとって「生みの（生物学的）母」でありかつ遺伝的な「祖母」でもある。子どもにとってそうした事情を理解させるのはそれほど容易ではないだろう。

有償ビジネスが斡旋する報酬目的のサービス提供者の場合、精子・卵子いずれもが明白に「商品」として扱われるし、代理出産をする女性は、依頼者カップルの体外受精胚の移植を受けて妊娠・出産し、その子どもを引き渡すことで「契約」が完了するので、当の子どもはかぎりなく「商品」という性格を帯びる。出産した女性が報酬を受取らなくても、依頼者側が一定の額を支払うかぎり、その金銭は子どもの「対価」と言える。米国での報告によると、出産女性と依頼者および子どもとの間に良好な関係が継続している（「ボクにはママが2人いるんだ」）ことも珍しくない。もちろんさまざまなケースがあり、障害を理由とした引き取り拒否は（「多額の費用を出しているのだから欠陥商品はお断りだ」）深刻な問題であり、州の法律でそうした行為を禁止しているところもある。これは、高額で販売されている「優秀な」提供者の精子・卵子を購入して子どもを作ることと表裏の関係であり、いずれも優生思想との結びつきを指摘することができる。

1.3 生命の選別：出生前検査、着床前検査

「いのちを授かる」という表現には、子どもが何ものか（神、天、自然）からの「贈りもの（ギフト）」であり、「意図的にその誕生に関与（作製、選別、改変）するのは控えるべき」という含意が認められる。ここでは出生前（胎児）と着床前（初期胚）それぞれの段階でなされる、肯定（希求）的／否定（回避）的目的での選別に焦点を当てて、現状と課題をまとめる。

出生前診断を行うための検査として、超音波画像検査の他に母体血・羊水・絨毛の遺伝学的（DNA、遺伝子、染色体）検査があり、その目的は主に出生後の疾患や障害をもたらす「異常」の検出である。何らかの異常が見つかったとき、妊娠を継続するか人工妊娠中絶をするかの決断を迫られる。

超音波画像検査により胎児の形態異常（手足の指が屈曲しているなど）が見つかった際に、「将来差別されたりいじめられるかもしれないので中絶したい」と要求するカップルに戸惑う医療者も少なくない。母体血を用いた検査には、タンパク質の染色体異常を調べる血清マーカー検査と胎児 DNA 検査があり、日本で 2013 年から臨床研究として開始した非侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT）は、非確定検査でありかつ費用が高額だが、検査精度が高く染色体異常（その大半はダウン症）の可能性を調べることができるため、世界中で多くの妊婦が受けている。陽性という結果が出た場合、確定のために羊水検査が必要だが、およそ 90 %で人工妊娠中絶が行われているという報告がある。「障害・難治疾患のある子はほしくない」という価値観を強め、現に生活しているそうした人々への差別や偏見を助長する可能性も指摘される。

着床前検査は、体外受精や顕微授精などの生殖補助医療技術によって得られた 4-8 細胞期の胚から 1-2 個の細胞を生検によって採取し、遺伝学的検査を行い、染色体異常や遺伝性疾患（筋ジストロフィー、若年性アルツハイマー疾患など）の診断に用いられる。不妊治療（染色体異常を原因とする習慣流産の回避）として行われることも多く、少数だが「特定の望ましい質」を選択することもある。具体的には、非医療目的（恣意的理由）による男女産み分け、治療目的の「ドナー・ベビー」（白血病などの兄弟の治療のために、臍帯血・骨髄移植に使える HLA 検査をして生まれてくる弟妹）、知的・身体的に「優秀な子」を選んで産む、といったケースである。

技術の進歩がもたらした選択肢の拡大により、「子どもがほしい」という存在への欲望が「こんな子がほしい／こんな子はほしくない」という質への欲望へと転化する可能性が強まりつつある。「いかなる状態で生まれてきてもその子どもを受け入れる覚悟がない人は親になる資格はない」という意見もあれば、「どのような特性をもつ子を生み育てるかは親になる人の選択に委ねられるべきだ」という意見もある。さらに「親になろうとする側の都合ばかりが問題にされており、生まれてきた子の事情や思いがほとんど考慮されていないのはおかしい」という見方もある。あなたはどのように考えるだろうか。

2 生命の終わり

2.1 死をもたらす行為：安楽死

「安楽死」はギリシア語由来の英語“euthanasia”の訳語で、「安らかな（よき）死」すなわち「苦しむことなく生を終えること」を意味するものであり、とくに法律・指針等で規制が必要な事柄ではなく「誰もが望むあたりまえのこと」である。しかし、そのための手法として「本人の強い要請に基づいて医師が致死薬を投与して意図的に生命の短縮をする」、「本人の意識がない状態で家族の強い要請により人工呼吸器を取り外す」といったことが行われるとしたら、それはただちに「個人の自由・権利として許容すべきだ」というわけにはいかない。倫理的・法的に妥当性が問われる行為としての「安楽死」は、こうした意味で用いられるものである。前者すなわち「積極的安楽死」を法的に認めている国は、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、コロンビア、カナダ、スペイン、ニュージーラ

ンドなどであるのに対して、後者すなわち「消極的安楽死」については、「苦痛の緩和・除去を目的とする鎮静等により結果として死期を早めること」としての「間接的安楽死」とともに、本人の事前意思（リビング・ウィル）を条件にほとんどの国で認められているのが現状である。

積極的安楽死をめぐる論争にはさまざまな論点があり、その主なものを挙げておこう。「不治（治る見込みがない）」「死期が迫っている（余命3ヶ月など）」「耐え難い苦痛であり除去・緩和が不可能」「精神的苦しみ（生きる価値が見出せないなど）」といった条件が満たされたら認めてよいのか、本人の意思は「その時点での明示的表示」が必要かそれとも「事前意思表示」で十分なのか、あるいは植物状態（遷延性意識障害）や認知症の人の場合はどうのように扱うのか、などである。法律で認めない場合、本人の要請にしたがって実行されるときは「嘱託殺人」「同意殺人」、周囲の者の判断によるときは「慈悲殺人」ということになり、実行者には刑事責任が問われる。

2.2 生命を終わらせることへの関与：医療的自殺幫助

倫理的・法的な妥当性が問われる「安楽死」の最広義の定義が「終末期または回復不能な人を苦痛なく他者の行為により死なせること」すなわち「生命を終わらせる他者による行為」とすると、死を望むもの自身が「医師ないし診療看護師（nurse practitioner）の処方により苦痛なく確実に死ねる薬剤を得て服用して死ぬこと」あるいは「致死薬の体内注入ボタンを押すこと」である「医療的幫助自殺」については、当該幫助行為すなわち「医療的自殺幫助」（medical assistance in suicide）は安楽死のカテゴリーに含めることはできない。これを法的に認めているのは、米国各州（オレゴン州他）、オランダ、ルクセンブルク、スイス、ドイツ、カナダなどである。「死ぬ権利」の行使という点では積極的安楽死と共通するものの、「死という結果をもたらす行為の主体」が他者であるのか自分であるのかは決定的な違いと見なすことができる。米国各州やスイスなどでは、致死薬投与という「殺人行為」に加担することに反対する医師が多数であることなどにより、医療的自殺幫助のみが合法化されている。

外国人も医療的自殺幫助を受けることが可能であるスイスでは、欧州各国（日本人の実施報告もある）からの「自殺ツーリズム」がしばしば話題となる。支援団体である「ディグニタス」などは、インターネット上で申込みを受付けており、一定の費用を払い付添人とともにスイス国内の所定の場所に行き、医師の協力（致死薬の処方とそれを含む飲料の提供）を得てそれを自分で服用することにより死亡し、付添人が遺灰を持ち帰る、というのが一般的な手順とされる。日本では積極的安楽死と同様、これは法律で認められておらず、致死薬を処方した医師や販売した薬剤師は刑法の「自殺関与罪」に問われうる。

2.3 よりよき生命の最期のために：尊厳死

日本尊厳死協会の唱える「尊厳死」は、「不治で末期に至った患者が、本人の意思に基づいて、死期を単に引き延ばすためだけの延命措置を断わり、自然の経過のまま受け入れる死のこと」とされている。その上で、「不治かつ末期での延命措置の中止」「十分な緩和医療の実施」「回復不能な遷延性意識障害（持続的植物状態）での生命維持装置の取りやめ」をリビングウィル（事前指示書）で求めている。つまり、本人の書面による意思表示があれば、終末期患者や植物状態患者に対する延命措置（人工呼吸器および人工水分・栄養管理）の停止により死なせることを法律で認めよ、というのがその要求である。こうした要求は米国各州で1970年代から「自然死法」ないし「リビングウィル法」により合法化されており、欧州各国でも法律ないし医療慣行で認められているものの、これが「尊厳

死」(death with dignity)という用語で理解されることはほとんどない。

たとえば、医療的自殺幫助を合法化した米国各州の法律は「尊厳死法」という名称であり、スイスの幫助自殺支援の団体名は尊厳を意味する「ディグニタス」であるが、そこには「致死薬を処方してもらいそれを自分の判断で服用して生を終えることが自分の尊厳を守ることだ」という思想が前提にあると考えられる。積極的安楽死を合法化したオランダでも、「延命を望まない人にとって、その生を意図的かつ直接的に（致死薬の投与ないし服用により）終わらせることは、その人の尊厳を守ることだ」という考え方がある。

「望まない（あるいは無益な）延命により自分の尊厳が侵害されるのを防止する」ということが肝要であり、そのための方法としてどれを選ぶのかは副次的ことがらにすぎない、と見なされていると言ってよい。尊厳死推進論には、「重い意識障害でコミュニケーションが難しい」「寝たきりで自力での摂食・排泄ができない」「家族に負担・迷惑をかける」といった状態は「尊厳なき生」として終わらせたいという価値評価が前提にある。そしてこれは主観的な価値観（死生観）にとどまらず、「周囲に迷惑をかける」「社会的コストを増大させる」ような人はいなくなる方がよいという社会的風潮へと拡がっていくこともある。

しかし、仮に「尊厳なき生」があるとしたら、その原因となる事態に働きかけて除去・緩和して改善を図るのが先決であり、そうした状況を放置したまま死によって「問題解消」するのは本末転倒ではないか、といった指摘もある。本人およびその家族にとって「より充実した（まじな）終末期」への援助を行い、人生の最終段階を「尊厳ある生」にすることが、本来の意味での「尊厳ある死」を実現することになるのではないか、という視点は重要である。

「死ぬ権利」を求める人たちの最終的な目標は、「苦痛なく確実に死ぬことのできる薬剤が自由に入手でき、それを服用して死ぬこと」が合法化されることであると考えられる。そこでは「誰もが死にたいときにいつでもどこでも死ぬことができる」状況が実現していることになる。ただし、自力で薬剤が服用できない（周囲の者の援助が必要）、あるいは本人の意思表示がない（周囲の者の判断・推定の有効性）、といった場合の手続きについてのルールは定める必要がある。いざというときに自分の思いが無視されるのではという不安を抱く人には、希望する（しない）措置および代理人を明記した事前指示書を書いておくことが推奨される。あなたはどのような死に方を望むだろうか。

【課題】

1. 「不妊」の人たちはどのような問題を抱えているか、調べてみよう。
2. 精子売買、卵子売買、代理出産を斡旋するビジネスのうちどれか一つ選んで、その実態をインターネットで調査し、問題点をまとめてみよう。
3. 出生前検査を受けるかどうか決断するとき、またその検査結果を知らされたとき、当事者はどのようなことを考えるのか、調べてみよう。
4. 「安楽死」や「尊厳死」という用語はどのような意味で使われているか、それぞれの定義・分類に着目して国内外の情報を調べてみよう。
5. あなたの大切な人から「これ以上生きるのは辛いので自殺するのを手伝ってほしい」と言われたら、あなたはどうするか考えてみよう。
6. 「尊厳なき状態での無益な延命措置はお断りだ」という主張の問題点をまとめてみよう。

参考文献

ア) 図書

①生命の始まり関連

河合蘭『出生前診断—出産ジャーナリストが見つめた現状と未来』朝日新聞出版、2015

石原理『生殖医療の衝撃』講談社現代新書、2016

柘植あづみ『生殖技術と親になること—不妊治療と出生前検査がもたらす葛藤』みすず書房、2022

浅井美智子『「家族」を変える体外受精—「生殖補助医療法」は機能するのか』大阪公立大学出版会、2023

②生命の終わり関連

松田純『安楽死・尊厳死の現在—最終段階の医療と自己決定』中公新書、2018

安藤泰至『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』岩波書店、2019

児玉真美『安楽死が合法の国で起こっていること』ちくま新書、2023

盛永審一郎『安楽死を考えるために：思いやりモデルとリベラルモデルの各国比較』丸善出版、2023

イ) ウェブサイト

生存学（立命館大学）<http://www.arsvi.com/a/i.htm>

堂園俊彦（静岡大学）http://plaza.umin.ac.jp/philia/bioethics_data.html

日本産科婦人科学会: 倫理に関する見解一覧 http://www.jsog.or.jp/modules/statement/index.php?content_id=3

【付記】ウェブサイトのニュース記事やブログ記事には不適切内容や間違いが多数あるので注意が必要。

第14章

現代社会における宗教（藤井隆道）

1 宗教とは何か

1.1 宗教の定義

現代社会では、宗教は姿を消してしまったのであろうか。そうではない。私たちは、意識するにせよしないにせよ、宗教的なものと関わりを持ち生活している。このエッセイでは、現代社会で、どのような仕方で宗教が生きているのかということ、いくつかの事例を通じて考えてみたい。

しかし宗教とは、いったい何であろうか。世界には数多くの宗教がある。仏教、神道、キリスト教、イスラーム教、ヒンドゥー教……これらはみなすべて宗教である。もちろんこれは網羅的なリストではない。そしてこれらの宗教は、それぞれがさらに小さな宗派などに分派し、その信仰を生きる人々の宗教生活のあり方も多様である。これらすべての宗教に共通する特徴はあるのだろうか。これは宗教の定義の問題であるが、なかなか難しい問いである。俗に、宗教学者の数だけ宗教の定義があるとされているほどである。その難しさにはいくつかの理由が考えられる。

まず宗教とは、モノのように、はっきりとした色やかたちをもって、目の前にあるものではない。宗教施設（寺院や神社、教会など）や、教えを記した書物は目にみえるが、それらは宗教そのものではない。宗教は人の頭のなかにあり、それが生活や活動のなかに現れるものである。人の頭のなかを覗き込むことはできないし、行動は観察できるが多様な観点から評価されるものである。

さらに、人間が社会をつくるところに必ず宗教があり、私たちは宗教的なものに取り囲まれて生まれ育つ。私たちが宗教をどのようなものとするか、そのイメージは特定の社会と文化、そして個人の環境などに左右される。こうしたことも、誰もが同意できるような仕方で定義を作ることが難しい理由である。

そして次のような原理的な困難もある。宗教が何かというのは、宗教を探求する作業にとってある意味で究極の問いであり、探求の最後に結論として答えが与えられるものである。したがって、宗教について考え始めたばかりの時点で、それに十分に答えることはそもそも不可能である。

このように、宗教とは何かという問いは難しいものではあるが、それに一定の意義があることも確かである。宗教について理解を深めていこうとするにあたり、宗教はどのようなものか、という約束事を仮に決めておくのは、宗教とは考えられないものまで考察の対象に含めてしまうなどの無用な混乱を避けるのに役立つ。

また先にも述べたが、人が宗教をいかに捉えるかは、生まれ育った環境や、現在置かれている状況により大きく左右される。自分にとって宗教がどのようなものなのか、それを言葉に表現して記述してみることは、自身の宗教観——あるいは宗教に対する先入観と言ってもよいが——を確認すること

につながり、また宗教について考察を深めるなかでそれを吟味し、必要に応じて修正していくこともできるのである。

さて、宗教の定義には、大きく分けて二つのタイプがあると考えられる。その二つとは、宗教が「何であるか」を言い当てる実体的な定義と、宗教が「どのように働くか」、「何の役にたつのか」といったことを説明する機能的な定義とである。いま単純な例を示すと、「宗教は神に対する信仰である」という定義は前者の、そして「宗教は、それを信じる人に心の安らぎを与えるものである」という定義は後者のタイプになる。さしあたり、どちらのタイプの定義が優れているのかということを考える必要はない。どちらの視点も、宗教という事象を考察するうえで有意義なものである。

様々な学者や思想家たちが提示した定義について調べて、考察するのも有益である。それぞれの定義者は、学問的、思想的、そして宗教的なバックグラウンドをもとに考察して、実に多種多様な定義を示している。有名な定義を以下に紹介する。

宗教とは、神聖すなわち分離され禁止された事物と関連する信念と行事との連帯的な体系、教会と呼ばれる同じ道徳的共同社会に、これに帰依するすべての者を結合させる信念と行事である。

これは社会学者デュルケムが、『宗教生活の原初形態』（岩波文庫版 p.86）という著作のなかで提示した定義である。この定義には、宗教を考えるうえで重要な材料がいろいろと詰まっているが、いま簡単に三点だけ注意を促しておく。

第一に、「神聖なもの」という概念を定義に組み入れている。宗教を信仰する人の立場に立って、その人の宗教世界を〈聖なるもの〉を中心としてみる見方が、宗教学では一定の支持を得てきた。たとえば何の変哲もない山が、ある信仰を持つ人にとって「聖なる山」となる。そこは聖なる場所、すなわち聖地でもある。あるいは祭礼や礼拝の時間は、信仰者にとって聖なる時間となる。こうして、宗教的世界では、様々なものが聖なる価値を帯びるのである。

第二に、信念、行為（行事）、そして集団（教会）という、宗教を構成する要件に言及している。私たちは宗教と聞くと、個人の内面的な信仰を中心に捉えがちであるが、同じように儀礼などのかたちをとる行動としての側面も重要であり、また宗教生活を営む人々が集団・共同体を形成するという視点は不可欠である。

そして第三に、この定義は、宗教の機能的な側面も明らかにしている。その機能とは、宗教的信念を共有するメンバーたちの結束を強化するというはたらきである。人と人とを結びつけるというのは、宗教の担う本質的な役割である。

1.2 宗教の分類

ここまで定義について述べてきた。一言でいうなら、宗教を定義することは、宗教と宗教ではないものとの相違を明らかにすることである。一方で、宗教の中にどのような種類のものがあるのかを問題とするのが、宗教の分類である。

たとえば、よく知られたものとして、信仰の対象である神をどのように考えるかに応じた分類がある。この観点から、宗教はまず大きく、有神論的宗教と無神論的宗教に分けられ、前者はさらに、多神教と一神教に分類される。これらをさらに下位の分類に分けることも可能である。

もちろん、様々な宗教があるのと同じように、その分類の仕方もまた様々である。以上で述べたのは、神の観念に基づく宗教の分類の他に、宗教の伝播の広がりという観点から「民族宗教」と「世界宗教」とに分類することや、宗教の発生形態の観点から「自然宗教」と「創唱宗教」に分けることも

よくなされる。また「アニミズム」や「トーテミズム」など、特定のタイプの宗教を名指す術語もいろいろとある。

実際のところ、分類の仕方は無数に考えることができる。たとえば、「日本語の50音順でア行からタ行までで名称が始まる宗教と、それ以外の宗教」といった分類も不可能ではない。しかしそうした分類に意味があるとは思われない。分類された宗教のタイプがどのような性質を持つのかを考えることにより、その分類が意義を持つことになる。例えば、「多神教には、創唱者がいない宗教が多いのではないか」といったことを調べてみるのできるのである。

「分ける」ことは「分かる」ことにつながるものであり、分類は知的探求の王道であるといえる。ただし分類について留意すべきなのは、特定の宗教に対して持っているイメージや、あるいはインターネット上などのあやふやな情報などに基づいて、安易な判断を下さないということである。分類は、「レッテル張り」に結びつきやすい。特に宗教のような文化事象についてはそうである。たとえば「一神教は不寛容である」といった言説が、インターネット上で散見される。こうした言説を批判的に検討することができるような知識や視野の広さを得ることが、宗教を学ぶことのひとつの意義である。

調べてみよう！

- 宗教について学ぶことにはどのような意義があるだろうか、考えてみよう。
- 身近な宗教（仏教、神道）や広く伝播した宗教（キリスト教、イスラーム）の他に、どのような宗教があるだろうか。
- 宗教とは何か、自分で定義を作ってみよう。
- その定義は、あなたが宗教と考えるものを網羅しているか、そして宗教とは考えられないものを含んでしまっていないか、チェックしてみよう。
- 宗教学者や思想家たちが提示した宗教の定義に、どのようなものがあるだろうか。
- 宗教の分類方法には、どのようなものがあるだろうか。

2 日常のなかに潜む宗教

2.1 娯楽コンテンツのなかの宗教

私たちの生きる社会のどこに宗教が生きているのだろうか。それは遙か昔の、あるいは遠い世界の話であって、自分には無縁だと感じている人も多いであろう。現代人の「宗教離れ」が叫ばれて久しく、私たちは宗教との接点をほぼ失ってしまったかのようである。ところが、世俗化された日常生活にも宗教性が潜んでいる。以下いくつかの事例をみてみよう。

意外に思われるかもしれないが、音楽やアニメといった娯楽コンテンツもまた、現代における宗教的なものの隠れ家である。たとえば、J-POPやロックなど日本語のポップミュージックの歌詞には、「神さま」、「祈り」、「運命」（定め）といった宗教的ボキャブラリーがしばしば登場し、生まれ変わり（輪廻）や因果応報のようなモチーフが現れることもある。そしてリスナーは、このような歌詞を、大きな違和感を抱くことなく受容している。

アニメや漫画には、宗教的表象がより豊かに多様な仕方で現れる。たとえば、あるキャラクターの死を、頭上に「天使の輪」をのせてコミカルに表現するような何気ない表象も宗教性と無縁ではない。また特定の聖典や神話から世界観、物語の枠組み、あるいはキャラクターなどを借用する場合もあ

る。手塚治虫の『ブッダ』は、宗教的偉人の生涯やその教えを、正面から取り上げる作品の代表例であるが、そのほか、特定の教団や宗教組織が宣伝・布教を目的として、この種の作品を制作することもあるし、世界宗教の教祖をパロディ化して登場させるコメディ作品が人気を博したこともあった。また、宗教的な描写が顕著ではなくとも、作品のストーリーや雰囲気、構成などに宗教性を感じさせる作品もある。たとえば宮崎駿監督のスタジオジブリのアニメは、その宗教性がしばしば指摘されている。

娯楽コンテンツにみられる宗教的表現の多くはカジュアルなもので、真摯な信仰に根差したものであるようには見受けられない。制作者が宗教的要素を作品に取り入れる理由は様々であろうが、多くの消費者が、そうした商品に魅力を感じ、受け入れているというのは確かな事実である。そして、たとえ何気ない表現であっても、世代を超えて宗教的な観念が伝達されていく媒介として作用するのであり、実際のところ、成長の過程で幼少期や青年期に接した宗教的な表象が、その後の宗教観・死生観などに与える影響は決して小さなものではないと考えられる。

2.2 流行する宗教

日常生活のなかに知らず知らずのうちに宗教的なものが入り込む一方で、宗教的なものがメディアを通じて多くの人の関心を惹きつけて、一種の流行現象を引き起こすこともある。2000年代以降にも、江原啓之など「スピリチュアル・タレント」が活躍した「スピリチュアル・ブーム」、そして「パワー・スポット」の流行、「仏像ブーム」、「御朱印ブーム」など、宗教に関わるブームが次々と起こった。

「スピリチュアル」なものに関心を寄せるこれらの流行の担い手には、自身が宗教に関わっているという意識が希薄であることが多く、なかには宗教への抵抗感を隠さない人もいる。しかし実際には、当事者たちの信念と実践の大部分は、既存の宗教伝統に接続している。たとえば「スピリチュアル・ブーム」では、日本や西洋の宗教や神秘思想の伝統から、輪廻転生や靈魂の不滅性、さらには守護霊などといった雑多な観念が引き継がれて多様な言説が形成されているし、「パワー・スポット」として取り上げられる多くの場所は、古くからある神社や寺院である。

一方で、これら流行現象のうちに、現代的な宗教性の特徴をみてとることもできる。日本のように世俗化の進展した社会において、宗教は公的な領域での影響力を次第に失い、個人々が、プライベートな生活世界においてのみ関わるものとなる。これが「私事化」という、現代宗教の動向をみるうえでの基本的な視座になる。

伝統宗教では、血縁や地縁、あるいは信仰を介して結び付いた共同体において、教えや儀礼の体系が共有されて、日々の宗教生活が営まれていた。それに対して、スピリチュアルなものなどに関心を寄せる人は、おおむね個人単位、あるいは少人数のグループで活動する。興味関心を共有する人たちがゆるやかなネットワークを構築することもあるが、特定の団体に所属するわけではない。またその実践は、「このようにすべきだ」という規範意識を伴うものというより、目的実現や利益を求める個人々の動機に根差していることが多い。

以上のことと密接に関わるが、現代人は、宗教を消費の対象として意識するようになってきている。「消費者」は、その都度、様々なメディアや仲間を通じて情報を得つつ、複数の選択肢のなかから自身の目的意識や欲求に適合するものを選んで対価を支払い、それに見合ったサービスを受ける。このような意識の変化は、伝統的な宗教活動の領域においてもみられる。たとえば、インターネットなどを通じて発注できる、葬儀や法要の場に僧侶を派遣する「お坊さん紹介サービス」が近年話題を呼んだ。定額制などの分かりやすい料金体系は、宗教に対しても明確なコスト意識を持つ現代人にとっ

て受け入れやすく、血縁や地縁を基礎とした既存の宗教的ネットワークを持たない人たちが、それを敬遠する人たちから、一定の支持を得ている。

2.3 聖なる場所を訪れる人々

現代人の消費行動と宗教が関わるもう一つの事例をみてみよう。「巡礼」は、宗教的実践の古くからある形態である。教祖や宗祖、その他の宗教的偉人にゆかりのある地、あるいは由緒や格式を誇る寺院や神社は、宗教的な価値を帯びた場所、すなわち「聖地」として巡礼の対象となってきた。

現代日本でも数多くの人が聖地を訪れる。その動機は多様化してきているが、一般に、信仰や宗教的熱情により動機づけられている人の割合は決して大きくない。有名な寺社を訪れる大多数の人の目的は、何とんでも観光である。宗教組織や地域の自治体の側にとっても、聖地は、収入を得たり地域振興をはかるうえで「お客さま」を呼び込む格好の観光資源となっている。

しかし、聖地を観光する現代人の意識や行動が宗教性を全く欠いているかということ、必ずしもそうではない。確固たる信仰を持たなくても、寺社の参詣により、物質的もしくは精神的な「ご利益」を期待する人は一定の割合でいる。また由緒ある寺院や神社を訪れる人は、長い歴史や文化の奥深さに思いを馳せるだけでなく、その荘厳さ、神聖な雰囲気魅せられる。聖なるものに接することに癒しの感覚を覚えたり、あるいは自身の内面や生き方に改めて向き合う人もいるであろう。それは日常を離れた「聖なる時間」である。仏像に見入る人は、造形美に惹かれるばかりでなく、宗教的な感情を揺さぶられるかもしれない。現代人は、日常のなかでの宗教との接点を失ってきたが、それでも望んだ時に、個人的な仕方でも聖なるものに関わろうとする人は少なくない。聖地への観光もまた、そうした現代人の宗教心のあらわれだとみることができる。

ここまで、日常生活のなかの宗教性についてみてきた。とくに娯楽や流行における宗教性に対しては、軽薄であるとか、いかがわしいといったネガティブな評価や批判が向けられがちである。しかし本稿は、そうした価値評価を論ずる場ではない。重要なのは、高度に世俗化された社会に生きる現代人もまた、折にふれて、聖なるものを求めるのであり、また現代的な宗教性の特徴が、こうした文化事象のうちに明瞭に認められるということである。

調べてみよう！

- 映画、アニメ、漫画、音楽……あなたの好きな娯楽コンテンツのなかに、あるいはあなたが幼少期に接した娯楽コンテンツに、どのような宗教的モチーフが現れているか、考えてみよう。
- 「スピリチュアル・ブーム」、「パワースポット・ブーム」、「御朱印ブーム」などについて調べてみよう。
- 「お坊さん紹介サービス」について調べてみよう。それに対して、どのような評判、意見があるだろうか。
- 最近、宗教的な施設や聖地を訪れたか。どのような動機でそこを訪れたのか。
- 世界の聖地について調べてみよう。
- 京都の観光地のランキングをみてみよう。そのうち、どれくらいが宗教施設だろうか。
- あなたの住んでいる場所（あるいは地元）で、宗教的文化遺産が町おこしなどに用いられている事例はないか。
- 近年では、アニメの舞台なども「聖地」と呼ばれ、「巡礼」がさかんに行われている。どうしてこのようなメタファーが用いられるのだろうか。

3 問題を起こす宗教、問題に対処する宗教

3.1 問題を起こす宗教

ここまで述べてきたように、私たちは宗教的なものに囲まれて生活している。ところが、宗教に対してネガティブなイメージを持つ日本人も多い。現代人の「宗教嫌い」には様々な理由が考えられるが、その一つとして、宗教が、世界各地で様々なトラブルを引き起こしていることが挙げられる。

私たちは日常的に、メディアを通じて、紛争やテロなど暴力的な事件のニュースに接する。そのなかには、宗教組織や指導者が関与したり、宗教・宗派の相違が対立を生んでいることを示唆するものが少なからずある。宗教は心の安寧をもたらし、平和を指向するものであるはずなのに、実際は社会を分断し、対立と暴力を引き起こし続けているという認識が、宗教に対する不信感を生むのである。

宗教は暴力的なのだろうか。このような問いに端的に答えることはできない。ただし、宗教教義に由来する信念や価値観の食い違いこそが、対立を引き起こしているというのは、往々にして単純すぎる見方であることに、まず留意する必要がある。多くの場合、個々の紛争やテロの背景には、貧困や差別、疎外といった社会的、経済的な諸要因が複雑に絡み合っている。

一方で、一定の条件のもとでは、宗教が暴力と親和性を持つことが確かに認められる。先に触れた通り宗教は社会的統合の機能を持つ。共通の信念や儀礼を通じて、共同体のメンバー間の連帯は強化される。それはまた潜在的に、共同体の外部にいる人たちとの断絶を生む。つまり宗教は人と人の結びつきを作り出すが、しばしばそれは人と人との分断にもつながる。そして宗教が持つ人々を結束させる力は、「他者」の抑圧や排除、あるいは異なったグループ間の対立を扇動しようとする指導者にとって利用価値の高いものである。

また教義・教説のレベルでは、諸宗教、特に世界宗教の聖典は豊かな内容を持ち、そこからいかなる実践倫理や社会思想が導かれるかは解釈に依存するといつてよい。そこで、宗教指導者が、教えに極端な、また特異な解釈を与えることにより、他者への憎悪や暴力を扇動する言説が形成される。そしてまた、宗教的信念は、人生の究極的な価値に関わるものであるために、それに基づいて人が常識や日常倫理を超え、断固たる行動をとることもまたありえるのである。

3.2 問題に対処する宗教

宗教が、現代社会において問題を引き起こすだけのやっかいな代物であるなら、なくなってしまったほうがよいということになるだろう。しかし今なお、宗教は多くの人に求め続けられている。科学技術の進歩の恩恵により、生活は豊かで便利なものになった。しかし依然、私たちは日々、大小さまざまな困難にぶつかり、苦悩し、時には行き場を失ってしまう。こうした困難の多くは、諸宗教が古くより向き合ってきたものである。

そしてまた、現代社会の抱える様々な課題に対して、宗教の持つ力や果たすべき役割が見直される局面もある。そうした事例の一つとして、大規模災害における宗教のはたらきを以下で取り上げる。2011年3月に東北地方を中心に発生した東日本大震災では、地震とそれに引き続く津波により多くの人が犠牲になり、甚大な被害をもたらされた。この災害に際して、多くの宗教団体、そして宗教者が、自らの宗教的信念にしたがって、被災者・被災地の救援・復興のために活動を行ってきたのである。

伝統教団にせよ新宗教教団にせよ、規模の大きな宗教団体は、全国的なネットワークを持っており、また被災地域内にも活動拠点を有していて、人的そして物的支援を行ううえでの条件が整っている。地震と津波の被害の大きかった地域では、寺院や神社、教会といった宗教施設が避難所として地域住民に開放された。また被災地内外の宗教団体あるいは宗教者が、支援物資の調達や運搬、がれき撤去や炊き出しなど、ボランティア活動に従事した。

こうした救援・支援活動は、宗教者に限られない。一方で、宗教者ならではの活動のあり方というものもあった。震災では、多くの人が、生活の拠点や基盤とともに身近なかけがえのない人を失った。震災直後、夥しい数の死傷者が出た地域では、葬儀を行うどころか、棺も戒名もなく、遺体を毛布で包んで火葬するだけといった痛ましい状況が起きていた。そうしたなか、僧侶が遺体安置所や斎場において行う「読経ボランティア」など、宗教者たちは「死」に向き合った人に寄り添う活動を始めたのである。

個人でできることには限界があるが、震災直後から、宗教者たちが連携する動きが出てくる。宗教や宗派の垣根を超えて心のケアや弔いのボランティアを行うために、四月初めに仙台市内の斎場に設置された「心の相談室」は、その後まもなく、東北大学の宗教学研究室に事務局を移し、宗教者、カウンセラー、医療者の有志により運営される新たな組織としての活動をスタートさせた。

カウンセラーや医療者が被災者の心身のケアに従事するのは分かるが、宗教者が連携することの意義は何であろうか。身近な親しい人を災害で突然失った人は、悲嘆とともに、行き場のない様々な葛藤や後悔、そして問いを抱え込むことになる。なぜこのような目に私が遭わなければならなかったのか、なぜあの人が犠牲にならなければならず、自分が生き延びたのか、亡くなった人はどうなってしまったのか……この種の問いに対して、実証的に答えを導くことは難しい。一方で諸宗教には、死に向き合ってきた長い伝統がある。もちろん宗教者であっても、誰もが納得できる「正解」を持っているわけではない。そこで、これらの問いに向き合う被災者に寄り添い、話を聞く「傾聴」が、「宗教的ケア」の基本となる。この活動は、教団の宣伝や勧誘、布教を目的としたものではなく、信仰の押し付けなどはあってはならない。支援活動とともに布教を行った宗教団体が一部あったと伝えられるが、あくまで例外であり、多くの宗教者は、災害の場で求められる支援のあり方を理解し、布教活動を行うことなく活動を続けたのである。

こうした被災地での宗教者の活動は、さらに広がりをもせることになる。先述の「心の相談室」の活動を踏まえて、震災一年後の2012年4月には、東北大学大学院文学研究科に「実践宗教学寄付講

座」が開設された。そこで、宗教・宗派を超えて、被災地のほかに医療機関や福祉施設などの公共空間で「宗教的ケア」を提供する専門家として「臨床宗教師」を育成するプログラムが開始された。自らの信仰を持つ宗教者が、布教や宣伝を目的とすることなく、相手の宗教性を尊重しつつ、死に向き合う人の苦悩や悲嘆のケアにあたるのである。その後、他大学にも講座が設置され、2018年には、一般社団法人日本臨床宗教師会による資格認定制度がスタートした。

ここまで、現代社会の困難な局面に対処する宗教者の活動として被災地支援を取り上げてきた。こうした活動のうちに、現代社会における宗教の可能性を見出すことができるかもしれない。そのひとつが、たとえば宗教・宗派を超えた連帯である。宗教というと、宗派などの違いにより争ってばかりだというイメージが先行するが、支援活動のなかで、教義や実践の相違を乗り越えて協働する可能性が開かれた。そして同時に、苦悩や悲嘆を抱え、また「死」に向き合っている人間にとって心のよりどころとなるという、古くから宗教が果たしてきた役割が、あらためて見直されたのである。

調べてみよう！

- 宗教に関して、最近どのようなニュースに接したか。その概要を述べてみよう。
- 世界各地の紛争に、宗教がどのように関わっているのか、調べてみよう。
- 東日本大震災の際に、宗教者、あるいは宗教団体が具体的にに行った活動について調べてみよう。
- 臨床の場における宗教者の活動について、「ホスピス」、「ビハラー」、「スピリチュアル・ケア」などのキーワードをもとに調べてみよう。
- 「臨床宗教師」について調べてみよう。

(参考文献)

- 稲場圭信・黒崎浩行編(2013)『叢書宗教とソーシャル・キャピタル 4 震災復興と宗教』, 明石書店.
岡本亮輔(2015)『聖地巡礼 世界遺産からアニメの舞台まで』, 中公新書.
島菌進(2012)『現代社会とスピリチュアリティ』, 岩波書店.
藤山みどり(2020)『臨床宗教師 死の伴走者』, 高文研.
堀江宗正(2019)『ポップ・スピリチュアリティ メディア化された宗教性』, 岩波書店.
堀江宗正編(2018)『いま宗教に向きあう 1 現代日本の宗教事情』, 岩波書店.
脇本平也(1997)『宗教学入門』, 講談社学術文庫.

第15章

SNSを心理学する（正木大貴）

1 青年期の友人関係

樺坂 46 「エキセントリック」 プロデュース・作詞：秋元康 作曲：ナスカ

あいつがああだって言ってた
こいつがこうだろうって言ってた
差出人のない噂の類い
確証ないほど拡散する

意外にああ見えてこうだとか
やっぱりそうなんだなんてね
本人も知らない僕が出来上がって
違う自分 存在するよ

何が真実（ほんと）なんてどうでもいい
わかってもらおうなんて無理なんだ
倒れて行く悪意のドミノ
止めようたって止められない

訂正したとこで
また同じことの繰り返し

もう、そういうのうんざりなんだよ

誰もが風見鶏みたいに
風の向き次第で
あっちこっちへとコロコロ変わる
世間の声に耳を塞いで
生きたいように生きるしかない
だから僕は一人で
心閉ざして交わらないんだ

I am eccentric 変わり者でいい
理解されない方が よっぽど楽だと思ったんだ
他人（ひと）の目 気にしない 愛なんて縁を切る
はみ出してしまおう 自由なんてそんなもの

これは樺坂46の「エキセントリック」という曲の一節である。この曲はどういう思いを歌った曲なのでしょう？またこの曲を聴いて、この歌詞を読んで、みなさんはどう思いますか？

とは言っても、決して曲中の登場人物の心情を問うているのではない。それは大学受験の現代文の問題である。受験国語のテクニックを使えば、人物の心情変化などそれなりに読み取れるのであろうが、もうそんな退屈なお勉強からは卒業した方がよい。大学で学ぶ心理学はそんなものではない。真の学びは自らの体験からしか生まれないものだ。

高校を卒業して、大学に通うようになってから、生活環境がガラッと変わり、友達との関係や付き合い方もずいぶん変わったという人も少なくないだろう。中学・高校生の時は地元の学校に通い、顔見知りがたくさんいる環境のなかで学校生活を送ってきた人も多いかもしれない。また、小学校から高校までの授業は、クラス単位で行われることがほとんどで、担当の先生が教室を訪れて、同じクラスの生徒はひとつの教室にとどまっている。そうするとどうしても長い時間、同じようなメンバーが毎日のように顔を合わせることになる。このことによっていろいろな影響はあろうが、ひとまずそれは置いておこう。同じ友達と長い時間をともにすることで仲の良い友達ができやすかったかもしれない。

はたして、大学入学後はどうだろうか。まず生徒ではなく、学生と呼ばれる。「今までと何か違う」と感じた人も多いだろう。これは、単に環境の変化や教育の仕組みの違いによるものだけではない。実のところ、友達とうまく付き合うことができていると感じている学生は多い。そして自分人見知りであるという自覚を持つ人も多い。決して心を閉ざしているわけではなく、「誰か向こうから私に話しかけてくれればなあ…」と期待して待っているのであるが、実際にはそんなことはまず起こらない。大体において、相手の方も同じようにそう思っているのだから。そうすると、普段あいさつくらいはして、ときには必要な情報交換もするという程度の友達はあるが、いっしょにいてじっくり話すような親密な友達はなかなかできない。本音を話せるような友達ではないので、実際に会って楽しく話をしていたとしても、その場の「空気を読む」ことを忘れてはいけなくて、なんだかとても気疲れする。だから、そんな気を使わなければならない人間関係であれば、寄らず離れずの適度の距離を置いておく方がよい。そんな風に考える人も少なくない。所詮、大学生同士の友人関係とはそんなものなのだろうか。

SNS（ソーシャル・ネットワーク・システム）は、現代青年にとって必需品である。いつでもどこでも、時間や場所を問わず、人とつながることができる。大学生を含む現代の青年の友人関係を考える上で、SNSを抜きにして語ることはできない。たとえ誰かといっしょにいたとしてもスマートフォン（以下、スマホ）でせつせつと文字を打ち込む姿を見ていると、決して人との関係を断ちたいわけではなく、むしろつながりを求めているようにも見える。実際に対面で話すのは気おくれするが、安全な自分ひとりの部屋や連絡相手とは離れた場所で、自分の好きな時間にSNSを介してコミュニケーションの方が気楽ということなのだろうか。

自分は友達と仲良くなりたいと思っているが、相手はそんな風には思っていないのではないか。LINEを送ってみたがなかなか返信もないし、既読もつかない。本当は迷惑しているのではないか。送られてきたLINEにすぐ返信した方がいいのか、それとも少し時間をおいてから返信した方が相手に負担をかけないですむのか。そんな友人関係の不安を抱えているのであるが、それを友達に話せば、それはそれでカッコ悪いし、友達に“ウザい”やつだと思われるかもしれない。多かれ少なかれ、現代青年は友人との間にある（と思いたい）目に見えないつながりに不安を抱きつつ、水面下で互いの気持ちを押し量り合っているようである。

さて、心理学では人間の一生のなかでこの青年期というものをどのように捉えてきたのか。エリクソン（1950）という心理学者は、人間の一生を①乳児期、②幼児期前期、③幼児期後期、④学童期、

⑤青年期、⑥前成人期、⑦成人期、⑧老年期という8つの発達段階に分けて考えた。そのうえで、人の成長・発達が加齢にもなって身体的な成熟と衰退が起きるといような見方をするのでなく、生まれてから死ぬまで「生涯を通して発達する」という視点を持った。これをライフサイクル論と呼ぶ。つまり、社会との相互作用によってわれわれは変化しつづける存在なのだということである。

青年期には、「自分とは何者か」や「私らしさって何だろう」という疑問にぶつかることがよくある。そしてそれらに対する答えを獲得していくことがこの時期の課題のひとつとされている。今では「アイデンティティ」という言葉は一般的に使われるようになったが、もとは青年期において重要な意味を持つ概念としてエリクソンが提示したものである。

思春期（青年期の少し前）には、自分は自分をどう見るかというような自己への意識が高まり、同時に他者から自分はどう見られているかという他者意識にも敏感になる。しかしそういった他者からの目による縛りを受けつつも、他とは違う固有の自己像を見つけようとする過程が青年期であり、深く自分を掘り下げていくこの作業は、言ってみれば垂直方向への広がりである。

一方、この時期のもうひとつの水平方向への広がりとは、やはり他者や社会との関係の構築である。自分を取り巻く周囲といかに信頼できる人間関係を築くのか、そして社会のなかで自分をどう位置付け、どのような役割を果たすのか。ライフサイクルの時期に応じて、関わりを持つ人やグループは変化するし、そのたびに周囲の環境に適応していく。もちろん人生のどの時期においても、常に人は他者とつながりを持ち、他者とのつながりを頼りに生きている。なかでも就職というライフイベントを控えた青年にとっては、家族・友人・知人とのつながりが、これから自分が社会の一員として成長していくうえで重要な意味を持っていると言える。ところがこの垂直方向と水平方向の広がりとは両立させるのが難しい。自分という人間の個性を突き詰めれば、どうしても周囲との間にギャップが生まれるかもしれない。逆に周囲との同調やつながりを強調すれば、今度は自分らしさを失うことになりかねない。青年期の悩みは、このようなジレンマと関係していることが多い。

最近では、目立った問題を抱えているわけではないが、実は密かに学校や職場など人間関係になじめないでいるという悩みを抱えている人が多い。周りに友人がいないわけではないのだが、腹を割って相談できるほどの関係にある相手がいなかったような隠れた孤独感を抱えているようだ。今の大学生はよく自分たちのことを「コミュ障」として自嘲的に表現するのだが、決して筆者には、彼・彼女たちがコミュニケーション下手であるようには見えない。むしろ器用である。寄らず離れずの距離感を置く大学生同士の間関係は、そのコミュニケーション力を駆使することによって、少なくとも表面上は致命的な人間関係の疎外から自分を巧みに守っているように見える。

調べてみよう！

1. 自分と同年代の心情をうまく表現した曲にはどんなものがありますか？
2. 高校までの友達と大学での友達の違いはありますか？
3. 家族、友達、恋人との関係で面倒だなと感じたことはありますか？どんなことですか？
4. 友達付き合いをする上で気をつけていることはありますか？

2 SNSのコミュニケーション

通信環境の変化は、友人関係の構築・維持におけるインフラの変化であるとよく言われる（宮木、2013）。家の固定電話が通信手段の中心であった時代は、友人や恋人と連絡を取ろうとすると、だいたいはまず相手の家の親が電話をとり、それから本人にとりついでもらおうというワンクッションが

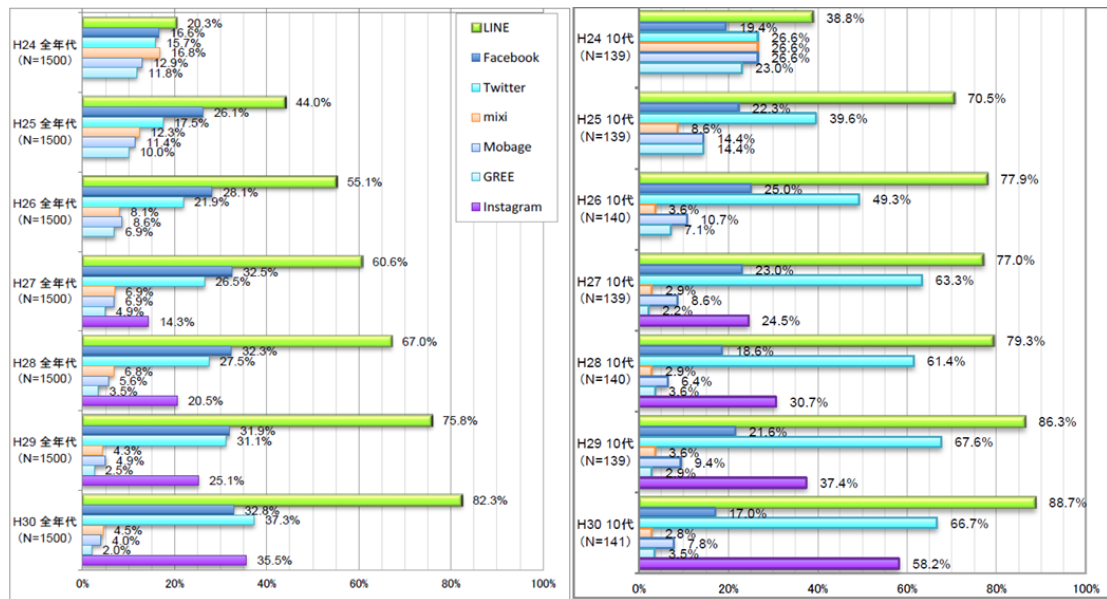


図 1 主なソーシャルメディア系サービス/アプリ等の利用率 (経年) (全年代・10代のみ)

(出典：総務省「平成 30 年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」)

あったものだ。その電話の後、親子喧嘩に発展するというのは当時の定番であった。(みなさんにはその理由がわかりますか?) その後、携帯電話の普及とともに若者たちの通信手段も変わり、自由な時間に相手と直接コミュニケーションできるようになった。多くの人がインターネット環境を共有するようになってからは、同じ趣味を共有する人が関連のサイトで交流するようになるなど、人間関係の構築手段も大きく様変わりした。

今日、10代以上のスマホの利用率が約9割近くにのぼり、ネット動画やオンラインゲーム、その他ソーシャルメディアを利用する人も圧倒的に増加している(総務省情報通信政策研究所、2019)。現代の青年を中心にLINEなどのメッセージ・アプリや、特にInstagramやTwitterなどのソーシャルメディアの利用が日常になり、以前の電話通話やメール中心のコミュニケーションとは全く異なった形態のコミュニケーションスタイルへと移行してきた(正木、2019)。

総務省情報通信政策研究所が行った「平成30年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」(2019)を見れば、主なソーシャルメディアの各年代別の利用率の経年変化を知ることができる。まず全年代で見るとLINE、Twitter、Instagramの利用率がここ数年着実に伸びており、なかでもInstagramの伸び率が最も高い。5年前と現在のデータを比較すれば、ここ数年でソーシャルメディアの利用状況はすっかり様変わりしたと断言していい。また、年代別にそれぞれのソーシャルメディアの利用率を見ても、各年代において利用率の増減の特徴はおおむね共通しており、前述の3つのサービスの利用率の伸びは堅調である。一方でFacebookの利用率は停滞気味である。とりわけ若年層に着目すれば、平成30年の時点で10代及び20代では、それぞれLINEが88.7%と98.1%、Twitterで66.7%と76.1%、Instagramで58.2%と63.2%である(図1参照)。特にInstagramは、平成29年の調査では10代の利用率が37.4%であったが、1年で20ポイント程も増加している。Instagramは、ここ数年若い世代を中心にシェアを伸ばしていて、今現在は高校生や大学生の層に限れば、すでにTwitterのそれを凌いでいるかもしれない。また性別によって利用率に違いがあることも予想される。(が、これは実際に調査してみないとわからない。調査したらどんな結果になるだろうか?)

今日では世代に関わらず、多くの人がSNSを利用していることはわかったが、われわれは何を目

的に SNS を利用しているのだろうか。6 歳以上の“全年代”を対象にした総務省の平成 30 年通信利用動向調査によると、「従来からの知人とのコミュニケーションのため」(87.4%) が最も多く、次いで「知りたいことについて情報を探すため」(57.4%)、「ひまつぶしのため」(35.3%)、「同じ趣味・嗜好や同じ悩み事・相談事を持つ人を探したり交流関係を広げるため」(22.0%) と続く。

同じく総務省情報通信政策研究所が“高校生”を対象に行った「高校生のスマートフォン・アプリ利用とネット依存傾向に関する調査」(2014) では、「友だちや知り合いとコミュニケーションをとるため」(71.8%)、「ひまつぶしのため」(52.3%)、「学校・部活動などの事務的な連絡のため」(48.9%)、「情報収集のため」(32.5%)、「周囲の人も使っている」(29.5%) となっており、上記の結果と微妙な違いがあることにも注目したい。ただ、いずれにしても実生活における友人や知人とのつながりの中で利用されている場合が多いようである。

また ICT 総研 (2018) も同様の SNS の利用目的についての調査を行っており、それによれば、「知人の近況を知りたい」(39%) という理由が最も多かった。「人とつながりたい」(36%) がそれに続いた。また「自分の近況を知ってもらいたい」(22%)、「写真などの投稿を見てもらいたい」「自分の行動記録を残しておきたい」(いずれも 19%)、その他「いいね、などのリアクションが欲しい」(15%) などの理由はいかにも今の SNS 利用の特徴と言えるだろう。

2010 年代に多数のソーシャルメディアが生まれ、その頃からフェイス・トゥ・フェイスの形ではないオンラインのコミュニケーションの価値が増してきた。例えば、Facebook が世界中で爆発的に広がったのは、SNS というメディアによって、直接会わなくても、まさにネットワークが網の目のごとく広がって、それまでは想像もしなかった数のまったく新しいつながりを持つことができるという特徴にあった。2010 年ごろに北アフリカを発端にアラブ世界で起こった“アラブの春”は、この SNS が持つ人と人をつなげる力が背景にあったと言ってよい。この例が示すように、もともと SNS には見知らぬ新しい人とのつながりを生み出すメディアであるという特徴を持っていた。

しかしそのときから比べて SNS も一気に多様化が進んだ。現在われわれは新しい出会いを求めること以外に、すでにある人間関係を維持したり補強するために SNS の機能を駆使するようになってきたのだ。遠山 (2012) は、ネット上で新たな出会いを求める人の他に、友人の数が比較的多く実際の人間関係を重視する人の中に、リアルな友人関係を維持管理するために積極的に SNS を利用する人たちが増えてきたことを明らかにしている。

先に挙げた SNS の利用目的に関する調査からもわかるように、普段 SNS でつながっている人は、多くの場合実際の人間関係でも交流している人たちなのである。SNS のコミュニケーションの主たる対象は、会ったこともない見知らぬ人ではない。オンラインの人間関係とオフラインの現実の人間関係はかなりの程度重なっているのだ。このようにして SNS を代表とするオンラインのコミュニケーションは、元来からの人間同士のコミュニケーションに変化を加え、そして身近な人間関係の構築や維持にも影響を与えてきたのではないか。ソーシャルメディア自体が持つ価値や存在意義のこのような変遷については、心理学的な視点にとどまらず、その他さまざまな視点から探究することができるだろう。

調べてみよう！

1. SNSをして楽しいと思うときはどんなときですか？
2. SNSで嫌な思いをしたことはありますか？それはどんなことですか？
3. 現在のSNS事情について調査したさまざまな統計データを探してみよう
4. (SNSに関するそのデータから)客観的にどんなことが読み取れるか話し合ってみよう
5. 身の周りにいる人たちのSNSの利用状況や目的を調べてみよう

【発展編】

6. SNSにハマっている人の(心理的な)特徴って何だと思いますか？
7. それを調べるためにはどんな方法(調査方法)を使えばいいか話し合ってみよう

3 現実における人間関係とSNSにおける人間関係

大学生になったみなさんは、これから演習やレポート、プレゼンテーション、そして卒業論文などを通して、「ある物事に対するあなたの考え方や態度をわかりやすく説明しなさい」と何度も求められることになるだろう。言い換えれば、論理的思考を展開していかなければならないというわけである。もっと簡単に言うと、筋道を立てて自分の考えを深めていく必要があるのであるが、それはどうすればできるようになるのだろうか。その方法にはいくつかあるが、今回は2つの相対する(ように見える)意見や見方を「対比」させて考えていくという基本的な方法を使いながら、議論を進めたい。Aという立場とそれに対立するBという立場をときには具体例を提示しながら丁寧に説明することで、AとBそれぞれの違いが浮き彫りになり、両者の特徴がより明確になる。そのうえで「～という理由で自分はBという立場を支持する」とか「Bの方が優れている」としても良いし、「新しいCという考え方ができる」ということも可能である。このように理屈で説明すると難しく聞こえるかもしれないが、要は「日本とイギリス」や「人間とAI」、「アニメオタクとアイドルオタク」などのような異なった特徴を持っているであろう2つのものを比較するということである。

では「現実における人間関係とSNSにおける人間関係」について両者を「対比」させながら考えていきたい。まずは実際に顔を合わせてコミュニケーションをとる「現実における人間関係」についてである。SNSを介して行われるコミュニケーションで成立するような人間関係をオンラインの人間関係と名付け、それに対して直接対面で行われるコミュニケーションを基本とする人間関係をオフラインの人間関係と呼ぶことがある。オフラインなどというつながりが見えにくいように思えるが、対面で実際に人間同士がコミュニケーションをするとき、お互いに相手の反応を即時的に見て取ることができる。それに比べて自分の表情や振る舞いといった非言語的なメッセージも相手にすぐ伝わるといった特徴を持っている。SNSのオンラインでの人間関係に比べると、実際的な距離に近いのは明らかである。(それにはきっとメリット・デメリット両面があるであろう。考えてみてほしい。)

しかし、現代青年の友人関係のあり方は、お互いの距離が縮まるような深い関係になることに慎重であるとよく指摘される(土井, 2014)。筆者も、今の大学生の友人関係が寄らず離れずの微妙な距離感を保ちながら、器用に人間関係を維持しているという特徴があると先に指摘したところである。また宮木(2013)は、友人関係に対する意識について1998年、2001年、2011年に同じ質問内容の調査をして、その変化を見ている。それによれば、「多少の自分の意見を曲げても、友人と争うのは避けたい」や「友人との話で『適当に話を合わせている』ことが多い」とする割合が顕著に増加しており、友人との調和や同調することに気を配ることが年々求められている様子がよくわかる。

例えば、大学の授業やゼミでグループを作って、ある課題に取り組む必要があるようなとき、今の大学生はたとえ見知らぬ人と同じグループになっても、協力しあいながら比較的スムーズに課題をこなすことができる。一方でその同じグループで食事に行くとか、ゼミのメンバーでゼミ旅行に行くということになると、途端に気が重くなり、本音を言えば「できれば参加したくない」と思う人も多い。ある程度、話題に枠組みが与えられている場合には意見することができるのであるが、ひとたびその枠組みが外され、プライベートの話を自由に話すような場面になると、「何を話していいかわからない」、「自分の話をして引かれたらどうしよう」などと考えてしまって、当たり障りのない話でつながるので精一杯になる。それにひどく疲れてしまうのだ。でもだからと言って誘いを断ってしまうと、「みんなからどう思われるかわからない」ので内心しぶしぶ参加の意志を表明することになる。

また現代青年が友人に対して示す「やさしさ」も特徴的であると思われる。例えばひどく落ち込んでいる友達がいたとする。その友達をどのように気遣うのか。何があったのかくわしい事情を聴いてその友達がなぐさめようとするのか、それとも泣いている涙のわけを何も聴かずに横にいるのか。今の高校生や大学生などのような若い世代の人たちは、概して友人に「やさしい」のであるが、それは相手に近づいてその人の気持ちを汲む「やさしさ」よりも、相手の気持ちにむやみに立ち入らない「やさしさ」、つまり相手を余計に傷つけない気遣いを優先する傾向があるのではないかということである（正木、2019）。

このように、現実の人間関係は、距離が近いことで相手との違いが浮き彫りになりやすく摩擦も起こりがちなので、自分が傷つけられたり、相手を傷つけてしまうことがある。だからそれをなるべく避けるために、はじめから他者に深入りせずにある程度の距離を保っておくのである。そうすれば人間関係上の現実的で面倒なトラブルを最小限に抑えることができるという利点がありそうである。ただそのほど良い距離を維持するために気を使わなければならないことも多く、それはそれで面倒で疲れることもあるというジレンマもある。

では次に「SNSのおける人間関係」について考えていこう。内閣府（2017）の「平成29年度版子供・若者白書」によれば、他者と関わる際のインターネット利用について、「場所を問わないので参加しやすい」ことや「情報発信・収集の手段として活用できる」、「深く関わらなくてすむので参加しやすい」ということをメリットとして捉えているようである。もちろんここでインターネット＝SNSと理解するわけにはいかないが、これはSNSの人間関係を考える際にも有用だと思われる。われわれはインターネットやSNSなどのいわゆるオンラインのコミュニケーションを使って人間関係を維持しようとする際に、その特徴であるアクセスのしやすさや利便性、気軽さを重視していると言えるだろう。筆者は、この「参加しやすい」という利便性は、同時にいつでも都合よくその関係性、もしくはコミュニティから「離れやすい」という意味でもあると考えている。

TwitterやInstagramのようなSNSは、それぞれのフォロワーの多くが実際の知り合いであったとしても、基本的にその投稿は不特定でしかも多数の人たちに向けたメッセージであり、ときにはその内容が少々“盛った”自分の日常の開示であったりする。その投稿を見た人たちは、その「誰か」の投稿に対して、“いいね”をしたり、“リブ”を返したりという反応をすることもあるが、逆に反応をしないこともある（実際には目に見える形の反応をしないことが多い）。このように反応しなくても許されるのは、SNSのコミュニケーションが特定の相手を想定していないからである。実際の現実の人間関係では基本的にそれは許されない。リアルな友人との直接的なやり取りの場合、「誰か」の発言や意見に対して、目の前にいる特定の相手が何らかの反応をする必要がある。友人が何か発すれば、それがどんなものであれ、それに対して相手を傷つけないよう“適切に”そして“今ここで”「やさしい」反応をしなければならぬ。それが面倒であるとか、どのようにすればいいかわからないという理由で、今の青年は自分には「コミュ力」がないと感じるようだ。それに対してSNSにはそ

ういう制約がきわめて少ないのである。

例えば、自分のリアルな友人である「誰か」の投稿を見たにもかかわらず、それに何の反応もしなかったとしても、相手からはその投稿を私が見たかどうか確認しにくいので（できる場合もあるので厄介である）、‘投稿を見ていないかもしれない’と思わせる（思ってもら）ことができる。目の前で自分を無視されると傷つくが、SNSで必ずしも反応がなくてもそんなに傷つくことはない。“いいね”やコメントを返してくれる人は、自分を受け入れてくれて、面倒だとは思わない人であって、私はその人だけに語りかけたり、見てもらっているのだという体裁をとることが可能なのである。現実の人間関係で抱きがちな「自分は本当はウザがられているのではないか」「相手に面倒な思いをさせていないか」というような対人的な不安がある程度下げることができるというわけである。

TwitterやInstagramの他の特徴として、それほど難しいスキルを使わなくても発信するメッセージを自分で「加工」することができるということがある。芸能人や有名人は自分をPRするために、たとえば「自撮り」をSNSにあげることでセルフプロデュースすることがよくあるが、ごく普通のひと投稿内容をうまくコントロールできれば注目を浴びることもできる。外面的なものだけではなく、内面的にも見せたくないものや嫌な部分を隠すことが比較的簡単にできる。徹底的に良いところだけを見せつけることも可能であるし、SNSはあくまで横断的で刹那的な自己開示であるために、継続的な実際の人間関係では難しいような自己コントロールもある程度可能なのである。

改めてまとめると、SNSを介した人間関係の特徴は、いつでも参加しやすく、また同時に都合よく離れやすいうえに、適度に相手に反応したり無視したり、そして適度に自分を見せたり隠したりと、いずれにしても自分の都合で他者とのコミュニケーションをコントロールしやすいという点にあると言える。言い換えれば、人間関係において自分の関わりの程度を自分で自由に選択できるという都合の良さが、このSNSにおける人間関係の最大の強みだと言えるだろう。

調べてみよう！

1. あなたはなぜ（何のために）SNSに投稿するのですか？
2. 他の多くの人はなぜ（何のために）SNSに投稿するのだと思いますか？
3. 友達と遊んでいる最中にその場でSNSに投稿する…あなたはあり派？なし派？あり派 vs. なし派で議論してみよう
4. LINEの既読無視と未読無視…どちらが気になりますか？
2つのグループに分かれて議論してみよう
5. 現実における人間関係で難しいと思う点は何ですか？
6. SNSにおける人間関係で難しいと思う点は何ですか？
7. 現実の人間関係とSNSの人間関係の共通点と相違点について考えてみよう
両者それぞれのメリットとデメリットを考えてみよう

4 おわりに

はたしてわれわれはいつからこんなに個人の都合を優先するようになったのか。いや、元々そうなのか。また別の視点を持てば、個人の都合を優先することを望みながら、なぜ実際には周囲からの疎外を避けるために面倒な気遣いをするのか。人間は論理的でありながら、論理的でないことをする。その不可解さをおもしろがって探究するのが心理学という学問である。実際の現実の人間関係と比較する形で、SNSにおける人間関係について考えてきたが、この両者を比較する視点はまだまだ残って

いる。互いのメリット・デメリットなどについてもまだ十分に語られていない。ではどうすればこのような心理学的考察を深めることが可能になるのか。

それはまず自分の生の体験に敏感になってみることだ。はじめに述べたように、学びは自分の体験が源になっている。人と人の関係について深めようとするのであれば、自分が家族や身近な友達、恋人とどのような「思い」を持って関わっているのか、自分が他の誰かと関係を持とうとするとき、自分の「心」がどのように動いているのかということに興味を持ってほしい。もしかするとそれは自分だけに起こるものではないのかもしれない。そのようなまだ非論理的な“思い”程度にとどまっている個々の「心」が引き集められて、それらが論理的な“思考”によってつながったとき、バラバラであった「心」がある種の「理」（ことわり）を持って見えてくる。それが「心理」学である。

最後に改めて、みなさんは冒頭の曲「エキセントリック」をどんな思いで聴きますか？

調べてみよう！

1. 「○○ vs. ●●」のように比較するとおもしろいと思われるテーマの具体例を考えてみよう
2. その2つを比較するとどういう所がおもしろいのかも考えてみよう

引用文献

- 土井隆義（2014）『つながりを煽られる子どもたち-ネット依存といじめ問題を考える』岩波ブックレット 903, 岩波書店
- Erikson, E. H. (1950). *Childhood and society*. New York: Norton. (仁科弥生訳 (1977). 幼児期と社会みすず書房)
- ICT 総研 (2018) 「2018 年度 SNS 利用動向に関する調査」(<https://ictr.co.jp/report/20181218.html>)
- 正木大貴 (2019) 「SNS は人間関係を変えたのか？」『現代社会研究科論集：京都女子大学大学院現代社会研究科紀要』13, pp.123-136.
- 宮木由貴子(2013)「若年層の友人関係意識—通信環境の変化と友人関係で変わったもの・変わらないもの—」『Life Design Report』<group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/report/rp1301a.pdf>
- 内閣府 (2017) 「平成 29 年度版子供・若者白書」(https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h29gaiyou/pdf/b1_00.pdf) (2018 年 11 月 20 日閲覧)
- 総務省情報通信政策研究所 (2014) 「高校生のスマートフォン・アプリ利用とネット依存傾向に関する調査」(www.soumu.go.jp/main_content/000302914.pdf) (2020 年 1 月 4 日閲覧)
- 総務省情報通信政策研究所 (2019) 「平成 30 年情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書」(www.soumu.go.jp/main_content/000644168.pdf) (2020 年 1 月 4 日閲覧)
- 遠山茂樹 (2012) 「大学生の友人関係とコミュニケーション・メディア選択との関連性に関する調査研究」『国際社会文化研究』13, pp.61-92.

第16章

ポップ音楽オタクになろう！（江口聡）

大学で学ぶということはなにかの専門家になることだ。なにかの専門家になるというのはそれについて多くの知識を得ることだ。なにかについてとても熱心で詳しい人々は「オタク」と呼ばれる。大学の教員はそれぞれ自分の専門分野のオタクである。

だから大学で勉強するには、まずは自分の好きなものについて詳しくなろう。なんでもいいからオタクになろう。そしてそれについて熱く語れるようになろう*1。ここではとりあえず音楽オタ（それも「聞き専解釈厨」）になるための第一歩を紹介しよう。

1 音楽と私たち

1.1 あなたはどんな音楽が好き？

あなたは音楽が好きだろうか。自分をそれほどの音楽好き（音楽オタク）だとは思っていないくても、おそらく、好きな曲や好きなアイドル、好きなテレビ番組のオープニング音楽、特別の思い出がある歌があるだろう。友達と遊ぶときにカラオケボックスを使うこともあるだろう。通学時間が長い人はイヤホンをして音楽を聴くことも多いだろう。テスト勉強するときにも音楽を流しているはずだ。音楽という文化はあなたの生活とどうかかわっているだろうか。

また、好きな音楽について語ることは、自己紹介としても最高だ。あなたがどんな音楽が好きかを語ることは、あなたがどんな人かという最高の紹介になる。乃木坂46を好きな人たちと椎名林檎が好きな人たちとEXILEが好きな人たちとでは、人のタイプ、つまりライフスタイルや性格や価値観はおそらく違おうだろう。

話し合ってみよう

1. 自分が好きな音楽アーティストと曲名を5~10個書き出してみよう。たくさんある場合はそのほんの一部でよい。できるかぎり曲名まで考えた方がよい。現在のあなたの「ベストヒット10」はどうなるだろうか。
2. そのアーティストや曲のどこがいいか、どんなところが好きか、説明できるだろうか。口頭で60秒で説明してみよう。

*1 秋本治のマンガ『こちら亀有公園前派出所』第166巻に、オタクの「プロ」同士は多くを語らず、「アオいいよね」「いい…」だけで会話が終るという話がある。しかしこれは「プロ」すなわち最高級のオタクの間だからの話であり、オタクはとにかく熱く語りあうものである。Googleの画像検索で「こち亀 アオいいよね」で検索してみよう。

1.2 あなたはどんなふうに聞いている？

音楽は私たちの生活と密着している。通学時のスマホや、音楽配信アプリ、Youtube 動画、テレビの音楽番組のように自分から積極的に音楽を聴こうとするときだけでなく、映画やテレビの背景音楽や飲食店やスーパーの BGM など、他の活動をしているときにもはっきりとは意識せずに音楽を聞いている。音楽を聞いていないのは大学教室で授業を受けているときぐらいだろう^{*2}。

しかし私たちは本当はどんなふうにどれくらい音楽を聞いているのだろうか？まずは適当に考えてみよう。あなたは今週、何時間音楽を聞いていただろうか。推測してみよう。

しかしそれでは不正確かもしれない。実は人間の記憶や推測というものはあてにならないものだ。もうすこし正確にするには、朝起きてから夜寝るまでの時間くぎりを表にしてみ、今日 1 日実際に自分がどう行動していたのかをできるかぎり正確に思いだして、その時間ごとにどこにいてどんな曲を聞いていたかを書き出してみよう。すると下の表 1 のようなものができる^{*3}。これを読みなおしてみよう。最初の推測とどれくらいちがうだろうか？昨日の行動は思い出せるだろうか？

さらに本格的にやるならば、スマホなどの再生記録を活用してみる手もある。少なくとも、1 週間でその装置でどれだけの音楽を聞いたのかはかなり正確に把握できる。あなたは今週何を何時間聞いていただろうか？それは生活の出来事と関係があるだろうか？

表 1 あなたは何をどんなふうに聞いている？

時刻	場所	状況・気分	聞いていたもの
7:00 -	家	いやいや身支度	樺坂 46 「サイレントマジョリティー」リピート
8:00 -	電車	満員で死にそう	樺坂 46 「月曜の朝、スカートを切られた」リピート
9:00 -	学校	こっそりイヤホン	樺坂 46 「エキセントリック」リピート
10:00 -			

1.3 他の人たちはどう聞いている？

私たちは音楽が好きだから聴く。それだけでなく、自分の気分を変えるために聞いたり、友達と交流したりするために使うこともある。自分と音楽のかかわりかたを考えてみよう。そしてさらに他の人はどんなふうに聞いているのかも聞いてみよう。

^{*2} 授業中にイヤホンして音楽を聞いてはいけない。

^{*3} 簡単な表は Word でも Excell でも自由に作れるようになっておこう。Google Spreadsheet や Google Docs も便利だ。

話しあってみよう

1. あなたは音楽をどのように聞いているだろうか。再生装置はなにを使っていただろうか？一人で？それとも友達と？通学しながら？それとも自分の部屋で？カラオケで？家族とテレビで？自分で弾いて？
2. 状況によって聞いている曲はどう違うだろうか？自分の部屋では聴かないが、カラオケでは歌いたい曲があるだろうか？必ず一人だけで聴きたい曲や、誰かといっしょに聞きたい曲はあるだろうか？説明してみよう。
3. アーティストやアイドルの、コンサートライブや音楽フェスに行ったことがあるだろうか？過去半年、1年でどれくらい参加しただろうか。紹介してみよう。コンサートではなく、ミュージカル、オペラ、トークショーなどはどうだろうか。録音やDVDではなく、生の音楽にふれることはどういう体験か話してみよう。

2 製品としての音楽

音楽はアート（芸術作品）であり、個々のアーティストの「魂の叫び！」でもあるが、一方で、営利企業の高度な計算とテクノロジーに支えられた制作と流通システムの産物としての商品であり、また私たちリスナーが「消費」する製品でもある。

音楽を制作し流通させるためにはまず第一に多くの人々に聴かれ売れる必要があり、そのためにさまざまな工夫と戦略が採用されている。

2.1 ジャンル

Spotify や Apple Music のような音楽配信サイトでは、音楽はアーティストだけでなく音楽のタイプである「ジャンル」に分類されていることが多い。「ジャンル」は音楽を分類して入手しやすくするためのものだと考えてよい。

たとえばクラシック、ロック、ポップス、ジャズといったジャンルは非常に広くてぼんやりした分け方だが、売り手であるアーティストと音楽産業にも、買い手であるリスナーにもそれなりの意味がある。ジャンルはなにより、リスナーが新しい音楽を探すときの手掛かりになるのだ。20世紀後半のCD店では、大きく、クラシック、ジャズ、洋楽（外国のポップス・ロック）、邦楽（日本のポップス、演歌、民謡）と分類されていた。音楽やアーティストのプロモーションにつかわれる音楽雑誌やネットの音楽サイトも、ジャンルによって分類されている。

市場がずっと広がり、CD店ではなく音楽配信サイトが中心になった現代でも、新しい音楽を発見するためにはジャンルという手掛かりが必要であり、それが音楽サイトの分類に反映されている。

音楽の「ジャンル分け」には興味深い側面がある。実はそれは音楽業界とリスナーの利益と関心に対応した「恣意的」なものである。たとえば、アメリカ・イギリスの音楽は「ロック」「カントリー」「フォーク」「ヘビーメタル」「ファンク」「R & B」「ブルース」と細かく分類されているのに、フランス、アルゼンチン、セネガル、パキスタンの音楽がすべて「ワールド」とひとくくりにされているかもしれない。どうしてこうなっているのか考えてみよう。

調べてみよう

- 自分が使っている音楽サイトがジャンルをどう分類しているか確認しよう。
- なぜそのような分類になっているか推測して話あってみよう。

2.2 ジャンルとイメージ

細分化された「ジャンル」の機能の一つは、リスナーの「期待」に応じることだ。つまり、リスナーが聴きたい曲を選ぶときの指標となる。たとえばクラシックを好む人は、モーツァルトとベートーベンの音楽も好むなど、同じジャンルの曲を好むことが多い。「ハードバップジャズ」や「パンクロック」なども、そのような役割を果たす。おおざっぱに聞いたときにだいたい同じ印象を与えてくれるような音楽が、まとめられているわけである。またジャンルは、それを演奏するアーティストたちのイメージや、支持するライフスタイルを反映する。

非常におおざっぱに「クラシック音楽」といえば、多くの人は西洋の18～20世紀のヨーロッパ中心の、オーケストラ、ヴァイオリン、ピアノといった西洋の伝統的な楽器を使用した音楽が期待される。クラシック音楽家たちは（たいてい）燕尾服やドレスを着てステージに立ち、礼儀正しくおちついた振る舞いをするので期待される。コンサートでは観客は無言で静かに聴き、拍手どころか咳ばらいまで一定の場所ではしか許されない。一般的にクラシック音楽を好む人はそれなりの年齢であったり高学歴であったりする。古典文学や美術などの「ハイカルチャー」とのかかわりが多いことも指摘されることがある。高品質のオーディオ機器を好むのもこの層の人々だ。

「ポップス」はクラシック音楽以外の、さまざまなアレンジによって聴きやすい大衆向け（ポピュラー）音楽を指す。

「ジャズ」は20世紀前半からのアメリカ黒人の伝統に根差した器楽中心の音楽で、即興演奏が大部分であることが特徴だ。サクソフーンやドラムセットといったクラシック音楽ではめったに使われない楽器が活躍する。演奏者は過去にはモダンなスーツ姿が「ヒップ」「クール」（かっこいい）とされていた。コンサートホールだけでなく、ライブハウスのような小さな会場でも演奏され、アルコールとの結びつきが強い⁴。またリスナーの聴き方も違う。曲中であっても演奏がよければ、観客は掛け声や拍手で演奏に反応することが許され、むしろ期待されている。

「ロック」はかなり広い分類だが、基本的には20世紀後半のボーカルとエレキギターとドラムを中心にしたバンドによる、英語圏の白人の若者中心の音楽だということになっている。演奏者の衣装は若者の最先端の流行を追うことが多い。むしろロックスターたちがファッションの流行を作る面もある。ロックにはさらに、ロックンロール、ハードロック、プログレ、ヘビメタなど細かく細分化されている。たとえば1970年代のハードロックであれば、長髪、ティーシャツ、ジーンズや革のパンツなどがトレードマークだ。聴衆の多くは、アメリカでいえば白人の若者ということになるだろう。

ラップ／ヒップホップはサンプリングや打ち込みを利用した比較的遅めで重めのビートが多く、楽器の即興演奏は期待されていない。ラップの歌詞にあたる「リリック」も、抑圧された黒人集団の価値観や人生観に合うように作られており、社会的抑圧やそれに対する怒り、生活でのトラブルを歌うことが多い。ラッパーはティーシャツにズボンに帽子や坊主頭にしたり、ゴテゴテのアクセサリーをつけたりする。一般にヒップホップはアメリカの豊かではない黒人青年たちに向けて作られているとされる。

よく耳にする「J-POP」というジャンルは、日本の最近のポップス、という程度の分類であり、あ

⁴ 過去にはジャズ演奏家とヘロインや覚醒剤などのドラッグとの関係が語られることも多かった。

まりにもぼんやりしているため、役に立つ「ジャンル」とはいえないかもしれない。そのため、「シティポップ」「渋谷系」「青春パンク」「ヴィジュアル系」などさらに細分化されている。

こうした「ジャンル」とそれにまつわるイメージは一定したものではないし、またアーティスト本人がそのように分類されたいと願っているとは限らない。また、現在、ミュージシャンと音楽制作者たちは、世界中の音楽を聴き、そのスタイルを吸収し模倣しあっている。あくまで、音楽を分類し、リスナーがアクセスしやすくするための分類である。

このようにそれぞれのジャンルは、一定のリスナー層をターゲットにして制作されている。マーケティングの世界では、ターゲットとなる人々は、人種、性別、年齢、学歴、収入、ファッションや余暇行動などのライフスタイルなどによって細かく分類され分析されている。音楽は、単なる音ではなく、そうしたライフスタイルに対応した「パッケージング」にもとづいて制作され、私たちもそうしたパッケージングを知らず知らずに楽しみ、影響されているのだ。

現代では音楽ジャンルはさらにもっと細分化され、もはや把握しきれないだろう。大量の音楽を分類し、独自性を示すために、どんどん新しい言葉が作られているからだ。たとえば、Wikipediaの「音楽のジャンル一覧」や「ポピュラー音楽のジャンル一覧」の項目を見るとよい。そして配信サイトなどを使って世界中のヒット曲を聞いてみよう*5。それらが何を歌っているかも検索サイトでわかることが多い。

調べてみよう

1. 音楽にはどんなジャンルがあるか、Wikipediaなどでざっと見てみよう。だいたいどういうものか理解できているだろうか？ヒップホップ、サンバ、レゲエ、レゲトン、サルサ、バングラなどは聞いたことがあるだろうか？
2. 「ロック」や「ポップス」は特に細分化されている。どんなふうに分類されているだろうか？歴史をたどってみるとよい。
3. あなたが好きなアーティストや楽曲は、どういうジャンルに分類されるだろうか？「邦楽」「邦ロック」「J-POP」というジャンルは広すぎるだろう。他の呼び名はないだろうか？Wikipediaや広告（プロモーション）ではどう紹介されているか？
4. そのアーティストはどんな服装だろうか？どんな発言をする人々だろうか？どんな世界観をもった人々だろうか？
5. そのアーティストのファンたちはどんな服装、どんなライフスタイルだと思われるだろうか？コンサート会場に行くとどんな人たちがどんな割合だろうか？
6. あなたは、人々をどんなふうに分類しているだろうか？性別と年齢は基本的なものでどんな社会調査でも使われる。音楽を売るときに、学歴や収入、職業、家族構成、人種、出身地、政治思想、宗教などはどのくらい重要だろうか？性格の外向性／内向性（おおざっぱには社交的／非社交的）などはどのくらい関係があるだろうか。
7. あるジャンルやアーティストを好きな人々はどんな印象か話しあってみよう。
8. アイドルのイメージと楽曲はどう関係しているだろうか？アイドルやアイドルグループを分類できるだろうか？どのように分類するとよいだろうか。
9. 「京女生が聴きそうな音楽」「大学教員が聴きそうな音楽」はあるだろうか？「あの子は／あの先生はああいうのを聞いてそうだ」という予想はどのくらい当たるだろうか？

*5 Apple Music には 100 カ国近い国・地域の現在のヒット曲リストがありとてもおもしろい。

2.3 音楽産業

ここでは詳しく説明することができないが、CD、配信、放送、ライブ、BGM、教育等を含めた音楽産業は巨大産業であり、マーケティングや社会科学研究の主要な対象の一つになっている。統計を見ると、産業がどのような規模であるか、また20世紀～21世紀に私たちの音楽の聴き方がどのように変化しているか理解することができる。次のような資料を調べてみよう。

- 南田勝也、木島由晶、永井純一、小川博司（編）（2019）『音楽化社会の現在：統計データで読むポピュラー音楽』、新曜社
- 日本の音楽産業のおおまかな姿は、日本レコード協会の「日本のレコード産業 2019」から知ることができる。<https://www.riaj.or.jp/f/pdf/issue/industry/RIAJ2019.pdf>
- 世界規模での統計もオンラインで各種入手できる。日本の音楽市場は規模は、米国につぐ世界2位である。とりあえず世界のレコード会社関係のNPO、IFPI（国際レコード・ビデオ製作者連盟）の統計を見るとよいだろう。<https://www.ifpi.org/global-statistics.php>

3 ポップ音楽を分析し解釈する

音楽の楽しみは、アーティストの楽曲とパフォーマンスそのものだ。十分に楽曲とパフォーマンスを楽しめるようになりたいものである。自分が好きなポップ音楽をもっとよく分析して、その魅力をはっきり理解しよう。音楽の分析にはさまざまな手法があるのだが、ここではまず歌詞を中心にして考えてみよう。

クラシック音楽やジャズと比較したとき、ポップ楽曲の特徴はほぼ必ず歌詞をともなっていることであり、またその歌詞はなんらかの「メッセージ」を含んでいるとされる。それを抽出してみよう。あなたの好きな歌はどんなことを歌っているだろうか。たとえば第15章で正木先生があげている樺坂46の「エキセントリック」を聞いて、次の問いに答えてみよう

この曲はどういう思いを歌った曲なのでしょう？またこの曲を聴いて、この歌詞を読んで、みなさんはどう思いますか？

ここで「思い」と呼ばれているのが曲のメッセージだ。「エキセントリック」から聴きとる「思い」「メッセージ」は人によってさまざまだろう。ただそれを実際に話しあってみようとする、なかなか言葉にできないという難しさを感じるだろう。

そもそも私たちは歌詞や楽曲を十分理解し、音楽を十分理解できているだろうか。ここで、あなたが歌詞を読み解釈し理解する技術が必要だ。そこで次のようなことをそれぞれチェックしてみよう。**★**のついた項目は音楽の知識がないと難しいかもしれないので飛ばしてよい。

こういったことを理解するためには、なによりも**集中して何度も聴く**のが重要である。好きな曲をリピートして何度も聞こう。今回はボーカル、次はドラムだけ、次はベースだけ、次は弦楽器、というように、注意する楽器を変えながら聞くのもよい。最低100回から200回は聞きたいものだ*6。名

*6 同じ曲を何度も聴くということの重要性については、作曲家・アレンジャーの富田恵一の『ナイトフライ：録音芸術の作法と鑑賞法』（DU BOOKS、2014）を読むとよい。彼はたくさんの曲を聴くよりも、1曲を何度も聴く方が、音楽を深く味わい理解することができるようにと主張している。

曲は何回聞いても新しい発見があるものだ*7。カラオケでも練習がてら、同じ曲をくりかえし歌ってみよう。

3.1 楽曲の基本情報

アーティスト名、曲名、発表年 これが最も基本的な情報である。ポップ音楽は、そのころの世相や流行、社会の雰囲気、社会的な出来事を反映していることがある。その曲が発表されたころはどんな時代だったろうか。

作詞者・作曲者・編曲者名 音楽作品はしばしば手分けして制作されている。作詞者・作曲者・編曲者、実演者（パフォーマー）がそれぞれ異なることは珍しくない。さらには全体を企画し指示するプロデューサー、録音技術者、マスタリング（仕上げ）技術者など多くの人がかかわっている。その曲にかかわっている人々はどのような人だろうか。彼らは他にどのような作品を作っているだろうか。彼らは何を狙って、何を訴えようとしているだろうか。

ジャンル 先にも述べたように、「ジャンル」は購買対象のリスナーとのかかわりのなかで重要である。その曲はどんなジャンルに分けられるだろうか。似た曲にはどんなものがあるだろう。

リズムパターン★ ポップ音楽は一定のリズムの型にしたがって作られていることが多い。8ビート、16ビート、4ビート、ファンク、カントリー、レゲエ、サルサ、レゲトン、サンバ、ボサノバ、タンゴなど、それぞれのリズムは、世界各地それぞれのジャンルに合わせた世界観を運んでくる。

テンポ テンポはBPM (Beats Per Minute、1分間あたりの拍数) という単位で表わされるのが一般的である。ストップウォッチで30秒ほど数えて2倍すればよい。専用のスマホアプリもある。自分がゆったり、あるいは急いで歩く速度を測定してみると基準になる。誰も見ていないところで音楽に合わせて体を揺らし、踊ってみよう。一般にテンポが速い曲は活発で元気がよく、遅い曲はゆったりしていて沈んでいるとされるが、テンポはもっと微妙なものであり、また一曲の中で変わることもある。

3.2 商品として考える

次は、商品としてどんな対象に向けて作られているかを考えてみよう。

アーティスト情報 その曲を歌い演奏しているのはどんな誰だろうか。性別、年代、印象、服装、ライフスタイルなどを考えよう。そのアーティストは、過去にはどんな作品を作っているだろうか、リスナーにどんなメッセージを送ろうとしていると想定されるだろうか。

想定されているリスナー、ファン層 どんな人がその曲を聴くだろうか。典型的な性別、年代、印象、服装、ライフスタイルをいくつかあげてみよう。その曲はその対象のリスナーたちが共感しやすいように作られているはずだと考えてよい。

プロモーション そのアーティストは、どのようなイメージで売られているだろうか。なぜそうしたプロモーションをしているだろうか。「ミュージックステーション」や「歌謡祭」に出演するだろうか。他にどのようなテレビ番組に出ているだろうか。ラジオのパーソナリティをつとめたりして、どんな人柄かわかるだろうか。雑誌にはどのように登場し、どのようにインタビューに応じているだろうか。音楽番組以外、たとえばお笑い番組やバラエティでも活躍しているだ

*7 18才の時に何度も聞いた曲を50才になって聞いたときにも発見がある。古典文学や名画でも同様である。

ろうか。ライブ活動ではどんな感じだろうか。

3.3 歌詞のストーリーとメッセージ

さて、ポップ音楽の歌詞を現代文や詩を読むように読んでみよう。気をつけるべきところは次のような点だ。

語り手のアイデンティティ 語り手の性別、年齢、性格、服装、ライフスタイル、世界観などを推測してみよう。何を手がかりに推測すればよいだろうか？

語りかけられている聞き手のアイデンティティ 多くの歌は誰かに語りかける形になっている。どんな相手に語りかけてるだろうか？語り手と同じように推測してみよう。あるいは、自分自身に語りかけているだろうか。

物語の主人公 主人公は誰だろうか？誰についてもっとも多くのことが語られているだろうか？ふつうは一人称の語り手が主人公だが、語り手と主人公が別で、3人称でストーリーが展開する場合がある。

語り手と聞き手の関係 二人（あるいはもっと多く）はどんな関係だろうか。友人？恋人？別れたあと？

語り手の状況 語り手はいまどんな境遇にあるだろうか。

聞き手の状況 聞き手についても推測しよう。

いつのことにについて語られているか 語られている場面を特定できるだろうか。たとえば夏の海岸での出会い、のように。

語っている場面 語っている場面を特定できるだろうか。語り手が語っている場面と、語っている場面が異なっている場合がある。たとえば過去に出会ったときのことを別れ際に語っている、など。特定できるだろうか。

ストーリー 一瞬の場面を語っていることもあれば、数ヶ月、数年のことを語っていることもある。ストーリーが展開しているだろうか？

語り手から聞き手へのメッセージ 語り手は聞き手にはっきり伝えようとしていることはあるだろうか。聞き手になにをしてほしいと思っているだろうか。もしあれば、一言で言い直してみよう。また、表のメッセージと裏のメッセージがちがうということがあるだろうか。

3.4 もっと深読みし、歌詞とサウンドを総合的に鑑賞しよう

ひっかかりのある表現 歌詞に聞きなれない珍しい表現、気になる表現、ひっかかる表現はないだろうか。サウンドが奇妙なところはないだろうか。なぜそこにひっかかるのだろうか。作家はなぜそうした表現をするのだろうか。

他の作品との関係、引用★ ポップ音楽の歌詞は、過去の音楽作品、文学、映画、時代の社会的事象、流行などをほのめかしていることがある。なにか引用や参照はおこなわれていないだろうか。

比喩表現 詩の世界では比喩はとても重要だ。どんな比喩が使われているだろう？それはどんな効果があるだろう。

ダブルミーニング 歌詞には表面的な意味とは別の意味が含まれている。特にポップ音楽では性的な

含みが好まれる傾向がある。探してみよう*8。

言葉遊び 地口（洒落）や高校古典で習った伊勢物語の「かきつばた」のような言葉遊びが含まれていることがある。探してみよう*9。

修辞技法★ 比喩、ダブルミーニング、言葉遊び以外にも、歌詞には各種のレトリック（修辞）の技術が使われる。高校の古文や漢文では繰り返し・対句・枕詞・序詞・掛詞・縁語・本歌取りなどを学んだはずだ。他にも様々な修辞が使われる。瀬戸賢一『日本語のレトリック：文章表現の技法』（岩波書店、2002）などを読んでみて、どういう技法が使われているか考えてみよう。

フック その楽曲の特に魅力的なところ（フック）を探そう。それは歌詞やストーリーとどうかかわっているだろうか？

ボーカルスタイル ボーカルがどんな風に歌っているかはとても重要だ。その声の感じから感情が聴きとれるだろうか？うっとりしている、悲しんでいる、いらいらしている、などが感じられるだろうか？特に素敵な個所や気になる個所はあるだろうか？カラオケが好きな人はいろいろ気づくはずだ。叫び（シャウト）、うなりごえ、掛け声、ためいき、吐息、コール&レスポンスなどはどう使われているだろうか。ボーカルの声の感じは曲に合っているだろうか？あなたには声だけで魅力的に感じるアーティストはいるだろうか*10。

楽器編成★ どんな楽器が使われているか数えられるだろうか。全部わからなくとも、印象に残る楽器を挙げてみよう。ドラムとベースは特に重要なのでどんな音色が使われているか注意して聞いてみよう。その編成はどんな感じを与えるだろうか。

楽曲の構造★ 音楽にはくりかえしやリズム・メロディー・サウンドの対比などの構造がある。歌詞とどう関係しているだろうか？

メロディー・アレンジ・歌詞★ 上で解釈した歌詞のストーリーやメッセージは、メロディーやアレンジとうまく合ってるだろうか？どんなふうに分合ってるだろうか？曲の盛り上がり（サビ）と歌詞はどんな関係だろうか？前奏や間奏、エンディングにも注意しよう。もし歌詞と音楽それほど合っていないように感じられる場合には、それはどういうことだろうか？

3.5 鑑賞の具体例

下は筆者の江口自身が樺坂 46 の「エキセトリック」を聞きながら気づいた点のメモである。ごくごく主観的なものだが、参考になることがあるかもしれない。

- かなり速めの四つ打ちダンスチューン。130BPM。ドラムは古いタイプのハウス風打ち込み。
- 前奏の澄んだピアノが印象的。シングル CD とアルバム CD でミックス（楽器の音量の調整など）が少し違うようだ。
- 最初のラップ風のセクション（A セクション）は抑揚がなく、抑圧されている感じがある。
- 「あいつがああだって言った」からしばらく、ステレオの左右あちこちから声が聴こえる。教室のあちこちでまわりの生徒が会話している感じ。

*8 有名なものはいろいろあるのだがここでは紹介できない。

*9 たとえば相対性理論というバンドの曲には言葉遊びが多い。「チャイナアドバイス」などを聞こう。

*10 私にはそうしたシンガーがいるが秘密である。

- 「もうそういうのうんざりなんだよ」のところはマイク録音の感じが変わっていて、非常に近距離、目の前で語られている感覚がありドキッとさせる。あるいは自分自身の語りに聞こえる。
- ラップの次のセクション（Bセクション）はメロディーとハーモニーに動きがあり、Aセクションの抑圧から解放された感じが快感を与えてくれる。一般に抑揚のないメロディーは元気のなさ、落ち込みを、大きな抑揚は感情の高まりを連想させる。
- ほぼ女声だけで歌われる AKB48 シリーズや乃木坂 46 とちがい、欅坂 46 はしばしば男性コーラスが入ることがある。この曲でも効果的。
- スtringス（弦楽器群）のバックが美しく緊張感がある。
- エクセントリック eccentric はもちろん「変わり者」だが、単に「奇妙だ」「違ってるとい意味で「変わってる」だけではない。語源は「外で／外へ」の ex と中心の centre である。つまり、中心部分からはずれていて、さらに外へ向かおうとしている。はみだすといった含みがある。
- サビ（くりかえされる聞かせどころ）の「アイ・アム・エクセントリック／かーわりものでいい」がとても印象的。eccentric を、—エーキーセーントーリック—とカタカナ語として5〜7音節で発音するのではなく、ec-cen-tric と正しく3音節で発音している。この語り手はおそらく英語が得意だ。さらに I AM eccentric とふつは軽く発音される“am”を強調している。「ああ、たしかに僕は変わり者だよ」という感じ。エクセントリックの最後の「ク」がほとんど発音されず、「エクセントリック」が言い終わらないままに「変わり者」の「カ」に接続している。英語っぽい。意外で印象に残り、何度聞いても歌っても気になる。「アイ—アム—エ—ク—セ—ントリック」までは拍子通りであるのに、この「変わり者でいい」のフレーズは拍より先に発音されて（シンコペーション）、勢いがある。「仲間はずれにされてもかまわん！」という迫力を感じる。
- 2コーラス目はAのラップのパートも1コーラス目よりかっこよくなっている（バックはオルガンと「ウー！」コーラスにかわっている）。特に「信じる？／信じない？／無責任な友達！（ゴッコ!）」のところがかっこいい。日本のラップ系統のこのタイプの合いの手はポジティブで楽しい感じになるものだが、ここではいらだちがこめられている。語り手には友達「ゴッコ！」でしかないのだ。
- 「すべてがフィクション、妄想だって／大人げないイノセンス」のところは解釈が必要だ。「すべては幻想なんだよ、その人の立場しだいで、「本当の」ものなんか存在しない」という立場は、1980〜90年代に流行った思想だが、語り手がこれに賛同しているのか、あるいは批判しようとしている対象たちだろうか。「あいつらは大人のくせにそんな幼稚なことを言うのだ」と解釈してよいかどうか。次の「嘘と欺瞞に溢れる世界」が、「すべてはフィクションだ」という主張が「嘘と疑問」だということを意味しているのかどうか。
- 「きれいな川には魚はいないというけど」はことわざ「水清ければ魚棲まず」の引用。出典は「孔子家語」とも「漢書宋名臣言行録」ともされているようだ。また、高校の漢文で学習した屈原の「漁夫辞」^{ぎよほじ}を強く連想する。ネットには解説が多いので確認しよう。「僕は泳ぎたくない」というのは語り手は自分を魚と見たてているのかもしれない。
- 1コーラス目の「心閉ざして交わらないんだ」は、他人についてそう表現するのはともかく、自分について言うには違和感がある。ただし、後のコーラスで水と魚に触れているの

を聞けば（あるいは何度も聞けば）、「水魚の交わり」という故事成語を連想させられる。出典は「三国志」での劉備と諸葛孔明の関係のようだ。そうした信頼できる親密な友達はおもたないと宣言しているわけだ。この語り手は漢文にも詳しい。

- 「カメレオン」は比喻（直喩）。単に環境によって色を変えるというだけでなく、あの姿を連想することが期待されているだろう。自分はきれいな魚で他人は醜いカメレオンか。
- 「理解されない方がよっぽど楽だと思ったんだ」「愛なんて縁を切る」は少しこどもっぽい。そもそも「愛と縁を切る」は奇妙だ。縁を切るのは他人。そして、すでに関係がなければ縁は切れない。誰か語り手とそういう関係になっていた人がいるのだろうか。
- 「冗談じゃない／興味もない／合わせたくない」とないないづくし。この曲は全体に否定文が多いが、このブリッジ（つなぎの部分）でさらに大量の否定文をつめこんでいる。それでは語り手は積極的にはなにをしたいのか……
- 「みんなこそ変りものだぁ」はいかにも子供っぽく情けない。「みんな」が変わっているということはないだろう。バックも混乱している感じ。
- 「はみ出してしまおう／自由なんてそんなもの」。世界に対してポジティブな態度をとる人は、「他人と違うように生きることこそ自由だ！」「本当の自由とはそういうものだ」という形で表現するだろうが、「自由なんてそんなもの（にすぎない）」という徹底的に否定的に語られる。
- 4:00 からのエンディングのピアノもすばらしい。言うべきことを言い切る感じで盛り上ったあと、前奏と同じフレーズに戻る。私は清い川をピチピチと泳ぐ魚を連想する。語り手は屈原のように自分をあくまで清く保とうとしているのかもしれない。語り手の将来はどうなるのだろうか……となると、シングル盤で楽曲の前と後ろにつけられている雑踏(?)の効果音が気になる。

この曲は、現代の高度化したアイドル曲のなかでも特に計算しつくされ手間暇かけて作られたと思われるものなので、もっとさまざまな工夫を見つけることができるはずだ。三人寄れば文殊の知恵というように、そうした発見は複数の人での話し合いの方が出やすい。他にも素敵な曲はたくさんある。自分たちの好きな曲を分析して味わって語りあってみよう。

もう一度紹介してみよう

上のような課題を意識して気づいたことを書き出して上で、もう一度、あなたの好きな曲を紹介してみよう。今度はみんなに1曲を通して聞いてもらい、あなたが「ぐっと来る」ところを中心に、あなたのその曲に対する想いを語ってみよう。最初の課題からどのように進歩したのだろうか。また800字や2000字の熱い紹介文を書いてみよう。それができれば、もうあなたは音楽オタクの仲間入りができたことになる。オタク世界へようこそ。ウェルカムトゥーザオタクワールド！

おわりに

椎名林檎は「人生は夢だらけ」という曲のなかで、「こんな時代じゃあ手間暇掛けよが／掛けなからうが／^{しま}終いには一緒くた／（でも）きっと違いの分かる人は居ます／そう信じて丁寧^{こま}に拵えて居ま

しょう」と歌っている。期待にこたえて、違いの分かるオタクになろう！そしていずれは手暇かけた卒論を書き、手暇かけてものを作り、手暇かけて社会を少しずつ改善できる人になろう。

参考文献

歌詞がどのように作られているかは、「歌詞」の作り方のような本を読んでもよい。さらに興味のある人は以下のようなものを読んでもよいだろう。

阿久悠 (2009) 『作詞入門：阿久式ヒット・ソングの技法』、岩波書店。昭和から平成にかけてのトップ作詞者による作詞解説。

石原千秋 (2005) 『J-POP の作詞術』、日本放送出版協会。日本文学研究者が国語教育的な発想から歌詞を読み解くもの。

スージー鈴木 (2019) 『80年代音楽解体新書』、彩流社。音楽ライターによる斬新な歌謡曲・ポップ音楽解説。

戸谷洋志 (2016) 『J ポップで考える哲学：自分を問い直すための15曲』、講談社。哲学研究者による歌詞解説。

難波江和英 (2004) 『恋するJポップ：平成における恋愛のディスクール』、冬弓舎。英文学者が恋愛をキーに歌詞を読み解いたもの。

細馬宏通 (2014) 『うたのしくみ』、ぴあ。ミュージシャンでもある人間行動学者による歌詞と楽曲の関係についての解説

実はこの文書は、音楽というよりはもうすこし広く、メディアとそのコンテンツを批判的に分析し鑑賞することを目指したものの一部である。そうしたメディアリテラシーについては、下のものから大きなヒントを得ている。

カナダオンタリオ州教育省 (1992) 『メディア・リテラシー：マスメディアを読み解く』、リベルタ出版。

鈴木みどり (2013) 『最新 Study Guid メディア・リテラシー入門』、リベルタ出版。

Pernisco, Nick (2015) *Practical Media Literacy: An Essential Guide to the Critical Thinking Skills for our Digital World, Understand Media.*

第 17 章

メディア研究の視座から音楽聴取のプラットフォームを考える（日高良祐）

はじめに

2023 年に出版された「ポピュラー音楽」を題材とするキーワード集の冒頭で、今日における音楽を聴くための手段・機会の幅広さを、私は以下のように描写した。少し長くなるが引用しよう。

Spotify が自動生成した私仕様のプレイリストを、スマートフォンと同期した Bluetooth イヤホンで聴く。SNS で話題になっていたヒット MV を自宅のパソコンで検索し、YouTube のレコメンデーションをたどる。ラジオは今日もパワープレイを繰り返し、テレビは人気グループを番組に呼んで新曲を PR し、アナログ・レコードやカセットテープはエイティーズの楽曲とともにリバイバルしている。ライブハウスやクラブで生演奏や DJ を聴きながらお酒を飲んだり、夏フェスに参戦してライブを背景にキャンプ飯を楽しんだり、コロナ禍を経た現在ではそれらのライブ配信を自宅で楽しむこともできる。そうやって能動的に聴こうとしなくても、YouTube に挟まる広告動画で、定食屋のテレビから流れる CM で、ショッピングモールの店舗 BGM で、繁華街をゆっくり流すアドトラックで、交差点で歌うストリート・ミュージシャンの横で、日常生活のあらゆるところで私たちは「ポピュラー音楽」を耳にする（日高 2023：3）。

もちろん音楽を聴く方法がこれですべて網羅されたわけではないだろうが、日常生活における音楽聴取のタイミングをこのように書き出してみるだけで、私たちがさまざまな方法を駆使して音楽に触れていることにあらためて気づかされるだろう。大学生になったばかりの世代ではとくに、スマートフォンを情報収集の中心に置いた聴き方をしているかもしれない。また Spotify や Apple Music といった月額定額制（サブスクリプション型）の音楽配信アプリというよりは、TikTok や YouTube のような無料で使える動画配信アプリを介して流行の音楽に触れることが多いかもしれない。

いずれにせよ、ここで目を向けようとしているのが、音楽それ自体の内容（楽曲やミュージシャンの話）というよりは、音楽を聴くための手段・機会・方法といった点であることに注意してほしい。スマートフォンやパソコンといった装置、Spotify や YouTube などのアプリケーション、テレビやラジオ、レコード、カセットといった音楽が流れる媒体。言い換えると、音楽聴取のためのメディアの働きについて、上記の引用文では注目がなされているのである。本章では、「メディア研究」と呼ばれる視座に立って、今日的な音楽聴取の環境について考える。とりわけ、デジタル化・ネットワーク化したメディアのなかでも「プラットフォーム」と呼ばれる技術的・制度的な設計構造の仕組みに焦点をあてて、私たちが音楽を聴く際のさまざまな問題を示してみよう。後述するように、読者の多く

が日々やっているだろう「推し活／推し事」もまた、そうしたプラットフォームに着目する観点から議論される実践なのである。

1 メディア研究は何を考えようとしているのか？

「メディア」という言葉を聞いたとき、読者の多くが想起するのは、テレビ、ラジオ、新聞や雑誌などの「マスメディア」であるだろう。とりわけテレビ・ラジオ・新聞業界や広告業界などとのつながり、いわゆる「メディア業界」としてイメージされる領域こそが、社会における具体的なメディアの姿を示していると考えられがちである。しかし、メディア研究におけるメディアとは、それよりも何倍も幅広い対象を指し、身の回りにあふれる多くのものがメディアとして捉えられている。スマホも、イヤホンも、レコードも、ライブハウスも、配信も、そしてもちろんラジオもテレビも広告も、メディアなのである。どういうことか。

メディアの作用や役割を社会的・文化的に考えるメディア研究では、メディアを「情報伝達のための媒介となるもの、あるいは誰かと時間や空間を超えてコミュニケーションするためのもの」(大久保 2022: 2)として非常に広い見地から捉えている。メディアとは、コミュニケーションを媒介するもの全般を意味するのだ。メディア研究者の大久保遼は 2022 年に書かれたメディア研究の初学者向け教科書のなかで、1960 年代にその領域を立ち上げたカナダの研究者、マーシャル・マクルーハンによる議論をたどりながら、この幅広いメディアの特徴を以下の 3 点によって解説している(大久保 2022)。

まず、マクルーハンの有名な箴言に「メディアこそがメッセージである」^{*1}というものがある。コミュニケーションにおいて重要なのはメッセージ(内容)であると一般的には考えられがちだが、実はコミュニケーションはメディア(手段)によって意味を規定されてしまう。わかりにくい一文だが、具体例を踏まえるとわかりやすいかもしれない。友人や知り合いとメッセージのやり取りをする際を想像してみよう。LINE でコミュニケーションする場合、Eメールでする場合、紙の手紙でする場合、それぞれ同じ内容(「来週の土曜日、三条大橋のスタバに行きませんか」とか)をやり取りするにしても、どのメディア(手段)を用いてなされるかによって、書き方、雰囲気、文章量、いろいろなものが変わってしまうだろう。つまり、コミュニケーションの内実は、メディアの形式によって具体的に変わってしまう・決まってしまうのである。

また、マクルーハンは「メディアは身体感覚の拡張である」という。これはわかりやすいかもしれない。遠くを見るための目の拡張としての望遠鏡、移動のための足の拡張としての自転車・自動車、身体を守る皮膚の拡張としての衣服。さらに目や耳といった人間の知覚の拡張は、電気通信の技術を取り入れることで、テレビやラジオというかたちで地球規模にまで広がった。現代では神経系の拡張としてのグローバルなインターネット接続網が日々のコミュニケーションを実現させているともいえる。つまり、身体感覚の拡張としてのメディアは、技術的なサポートによって、私たちの日常生活を取り囲んでいるのである。

その意味で、マクルーハンによれば「メディアは技術的環境である」ということができる。人間の日常生活を取り囲むようになった新しいメディアは、人間にとっての新たな環境として機能する。その技術的環境のあり方は人間に影響を与え、その影響のもとに人間はさらに新しい技術や文化を生み出していくのである。マクルーハンが議論を繰り広げた 1960 年代は、地球規模のテレビ・ラジオ

^{*1} 伝統的には「メディアはメッセージである」と訳されてきたが、マクルーハンの発言の文脈を踏まえて「こそが」と強調のかたちで示されることが増えている。

網が展開することで、新しい電氣的なメディア技術による技術的環境の再編が引き起こされた時期であった。今日の私たちにとって、そうした意味での新しい技術的環境とは、グローバルなインターネット接続環境のことを指すと考えることができるだろう。すなわち、その環境のなかで、新しい技術や文化が生み出されつつあるのだろう。

マーシャル・マクルーハンによる観点だけが現在のメディア研究の視座をかたちづけているわけではないが²、メディアに対する幅広い捉え方は彼の議論のなかにすでに十分に表れている。それと同時に、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌といったマスメディアは、メディア研究の対象としてももちろん重要な一角ではあるのだが、幅広いメディアの布置連関のなかの一部分でしかないことも理解できるだろう。私たちの日常生活を取り囲むさまざまな技術的環境、そこにメディアの作用を見て取り、それについて考えることが、メディア研究の目指していることなのである。その意味で、本章冒頭の引用文がさまざまなメディアに目を向けて書かれていることは重要である。音楽聴取の状況とは、それほどまでにメディアの作用と密接してかたちづかれてきたものの一つなのであり、だからこそメディア研究の対象として注目する意義があるのだ。とくに、Spotify や YouTube、TikTok といった「プラットフォーム」と呼ばれる音楽聴取の新しい技術的環境は、メディア研究の対象としての重要性を増しつつある。次節で簡単に概説しよう。

課題：

あなたがふだん使っている「メディアとして」捉えることのできるものについて、具体例を挙げて考えてみよう。その「メディア」はあなたにとってどのような機能・役割を果たしているものですか。

2 プラットフォーム化する「音楽産業」

Spotify や Apple Music など音楽聴取のためのアプリに限らず、映像作品を配信する Netflix、オンライン授業でも利用される Zoom、また GAFAM（Google、Apple、Facebook（Meta）、Amazon、Microsoft）と呼ばれるデジタル・コングロマリットの提供する各種ツールなど、今日の私たちはスマートフォンやパソコンでの使用を通じて、「プラットフォーム」と呼ばれるインターネット・サービスに完全に取囲まれている。プラットフォームとは「土台」のメタファーとして用いられる言葉で、デジタルデータ形式に変換されたコンテンツやコミュニケーションのやり取りがなされるための技術的な基盤のことを基本的には意味している。前節で述べたように日常生活におけるコミュニケーションの技術的環境を考察してきたメディア研究は、近年のこうした環境の変容を経て、プラットフォームのあり方に焦点を当てた議論を蓄積してきた。

たとえば、プラットフォームを研究するための概括的な入門書がメディア研究者の水嶋一憲らによって 2023 年に出版されている（水嶋ほか 2023）。そこでの議論が強調しているのは、プラットフォームを提供する特定の企業による、データからモノまでを網羅した囲い込みのための独占的ネットワーク形成の仕組みの解明と、その仕組みを成立させる「プラットフォーム資本主義」と呼ばれる経済体制への批判である。少しばかり難しい書き方になってしまったが、具体的な状況を想像してみると、そこで批判されている「独占」のあり方が理解できるだろう。私たちがスマートフォンとアプリを通して各種のインターネット・サービスを利用すればするほど、ユーザーである私たちの生体

² 関心のある読者は、本節で参照したメディア研究の初学者向け教科書を読んでみてほしい。大久保遼『これからのメディア論』有斐閣、2022 年。

データまでを含んだ情報を特定のプラットフォーム企業は採取し、それをもとにして生成されたデータセットを企業間で売買し、ユーザー向けに最適化した広告を表示したりするのだ。奇妙なまでにあなたの趣味趣向を追いかけて表示されてくる、SNS 上の広告のことを思い出してほしい。要するに、プラットフォーム・サービスを使えば使うほど、私たちはいつの間にかプラットフォーム企業に対し、彼らが商売をするための素材となるデータを無償提供させられてしまう仕組み^{*3}なのである。

「メディアこそがメッセージである」という箴言にもあったように、ふだんは意識しづらい形式の作用・役割を明らかにすることを目指してきたメディア研究の領域は、今日における最新版の技術的環境でもあるプラットフォームを対象とした研究を蓄積しつつある。とりわけプラットフォーム企業が展開する、見えづらい「独占」の仕組みを解明することは、メディア研究にとっての喫緊の研究課題であるといえるだろう。そして、本章冒頭の引用文の一文目にも書かれているように、私たちがふだん音楽を聴く際の手段も、やはりプラットフォーム・サービスの利用が一般的になりつつある。つまり、「音楽産業」も例に漏れることなくプラットフォーム化しているのだ。具体的なデータをもとに、音楽聴取のプラットフォームの現状について確認してみよう。

RIAJ (日本レコード協会) が毎年実施している「音楽メディアユーザー実態調査」^{*4}によれば、2022 年における「音楽の聴取方法」は①「YouTube」②「定額制音楽配信サービス全体」③「テレビ」の順で回答数が多く、2021 年の結果と比べると「定額制音楽配信サービス全体」が「テレビ」の順位を追い抜いたことが報告されている。日本での音楽聴取環境は、YouTube を筆頭にプラットフォーム・サービスの利用が支配的になりつつあるのだ。また世界のレコード産業における統計資料からすると、この傾向はより顕著なものとなる。IFPI (国際レコード・ビデオ製作者連盟) による 2022 年の年次レポートでは、レコード音楽市場の全収益のうち 65 %がサブスクリプション (定額制音楽配信サービス) と広告収入モデルを合わせたストリーミング・サービスによるものであることが報告されている (IFPI 2022: 11)。これに対して CD やレコードなどのフィジカル・フォーマットによる収益は 19 %にまで落ち込んでおり、プラットフォーム・サービスによる覇権がはっきりと表れている。こうして、1990 年代末から右肩下がりに衰退を続けてきた世界のレコード産業は、2015 年をひとつの転機として捉えている。IFPI の年次レポートによれば、2015 年は約 20 年ぶりに前年比での市場成長 (3.2 %) が観測され、またデジタル (ダウンロードやサブスクリプション等) 収入が史上初めてフィジカル (レコードや CD 等) 収入を抜いた年だからだ (IFPI2016: 8)。とりわけデジタル収入のうちの、ダウンロードからストリーミングへの収入源の移行は注目されており、「ストリーミング革命」とまで呼ばれているのである^{*5}。

このように、近年のレコード産業はプラットフォーム・サービスの利用を通じた収入を増加させることで、全体の産業構造を変化させつつある。端的にいうと、今日のプラットフォーム化した「音楽産業」とは、レコード産業と IT・通信産業の融合あるいは同盟関係として成立している。このことは、プラットフォーム研究が批判してきたような特定の企業による「独占」の問題が、私たちのふだんの音楽聴取の状況にも流れ込みつつあることを意味している。言い換えると、プラットフォーム企

^{*3} 経済学者の山本泰三は、プラットフォーム企業がユーザーを小作人のように使役する様子を指して、「プラットフォーム資本は、商品の製造・販売ではなく、このような「場」を貸し出すことによって利益を得る。それは、地主が土地を貸して地代 (レント) という収入を稼ぐやり方に似ている。」(山本 2023: 11) と説明している。

^{*4} 質問事項は「この半年間に、音楽を楽しむために利用した商品やサービスは何ですか? 当てはまるものを全てお選びください」である。(一般社団法人日本レコード協会 <https://www.riaj.or.jp/f/report/mediauser/2022.html> 2024/03/11 アクセス)

^{*5} 2016 年の年次レポートの段階で、デジタル収入のうちダウンロードが 45 %を占め、ストリーミングが 43 %と迫っていることが指摘されている。翌年からはストリーミング収入の割合が次第に伸び、結果としてデジタル収入の大半を占めていくことになる (IFPI 2016: 8)。

業にとって楽曲やユーザーによる聴取とは、数あるデータ採取のための手段の一つでしかない、ということである。イギリスのポピュラー音楽研究者であるキース・ニューガスは、GAFAMのようなデジタル・コングロマリットにとっての音楽とは、「サブスクリプション契約と『トラフィック』を誘引するための『コンテンツ』なのであり、『顧客エンゲージメント・ツール』(Seabrook 2014)なのだ。音楽は、それ自体が目的というよりもむしろ、別の目的のための手段なのである」(Negus 2019: 15)と指摘している。プラットフォーム企業は広告視聴と新しいデバイスの販売促進のために音楽を利用しており、かつ同時にユーザーのさまざまなデータを採取し、それらを他企業に向けてデータセットとして販売する。つまり、プラットフォーム化した音楽聴取環境を通して私たちが音楽を楽しむことは、特定のプラットフォーム企業が用意する「独占」の仕組みに、不可避免的に巻き込まれることを意味しているのだ。

課題

あなたが使っている音楽聴取のプラットフォーム (Spotify や YouTube、TikTok など) が、どのようなプラットフォーム企業によって運営されているか調べてみよう。その企業はどのような方法で利益を上げているか考えてみよう。

3 レコメンデーション機能と「推し事」

このように音楽聴取におけるプラットフォーム企業の浸食が「音楽産業」全体にとっての転機をなしてきたのだとすれば、そうした産業的な様式のなかで私たちの具体的な音楽聴取の機会はどうのように変質してきたのだろうか。音楽聴取のプラットフォーム・サービスをふだん利用するときのことを考えてみよう。私たちが Spotify や YouTube、TikTok といったプラットフォーム上で興味のある楽曲 (や動画) を再生すると、音楽の好みに関するデータが次第に蓄積され、それを用いてなされる特定のアルゴリズムによる解析結果をもとに、私が「好みそう」な楽曲が「レコメンデーション」される。ユーザーの体感としては非常に便利な仕組みであり、音楽聴取のプラットフォームの最もよく使われる特徴だろう。一方でこの事態は、その特定のユーザーの嗜好を表すデータが、プラットフォーム企業に採取されていることを直接的に意味している。上記の例でいえば、実は「どの楽曲を再生したか」というデータだけでなく、デバイスを利用した場所、アクセス時間、楽曲の再生頻度、アーティスト名、ジャンル名、音量、その他のハードウェアやソフトウェアとの利用の組み合わせといった、ユーザーの特性に関するデータ全般が採取されているし、それだけでなく関連して発信されるオンラインでのテキストの内容や分布、楽曲のサウンド特性までもが採取され、アルゴリズムによる分析の対象とされている (Negus 2019)。

ユーザーにとってデジタル化・モバイル化した便利な聴取環境であると同時に、プラットフォーム企業によるデータ採取の仕組みのひとつでもある音楽聴取のプラットフォームは、音楽を楽しむための新しい文化を生み出している。マクルーハンが示したように、人間は新たな技術的環境のなかで、それに応じた文化を生み出していくのだ。そうしたプラットフォームとユーザーの関係を示す典型例のひとつが、主にアイドルのファンたちによって展開される「推し事」と呼ばれる文化的実践である。

自身が愛好し、文字通り推す／推薦する主体 (fan object) (=「推し」) にかんするオタク活動を「お仕事」にかけたスラングだが、「推し」のために勤労するファンの自嘲と矜持が込められたこの表現がユーモラスに響くのは、もとよりファン活動が他人から強制された「お仕事」

(=「労働」)ではなく、私的領域の余暇活動であるという共通認識に基づいている。しかし、果たしてそう言い切れるのだろうか。(大尾 2021: 208-209)

メディア研究者の大尾侑子は「推し事」をこのように説明し、スマートフォンとインターネットの組み合わせによって「いつでも／どこでも」推し活動を展開できるようになったファンたちの、日々オンライン投稿するテキストやイラストや動画を通して文化的生産を行う「遊び(余暇活動)」的側面と、アテンション・エコノミーに捕獲された「労働(価値生産活動)」的側面の両義性について、「フルタイム・ファンダム」と呼ばれる時間感覚を提示しながら検討している。アイドルファンは自らが推す対象への愛をアピールするために、X(旧 Twitter)や Instagram で情報を拡散しながら共有し、ストリーミング・サービスや YouTube 動画の再生回数を「回し」、そうした各種プラットフォームのスコアを意図的に推しに獲得させることで「チャートハック」(大尾 2023: 170)を行うのである。

ファンたちは、アルゴリズムの機能までも含んだプラットフォームの作動原理をある程度は理解した上で、プラットフォームの作用を効果的に利用して「推し」を支援するためのファン活動を行っている。それと同時に、本章がここまでみてきたように、ファンダムによる自発的なデータ提供が増えれば増えるほど、プラットフォーム企業にとってはデータ採取のためのユーザーによる自発的なフリー労働として機能してしまう。ここでのファンによる「労働」は、推す対象であるアイドル(と事務所)に向けた労働であるだけでなく、「推し事」全体が展開する各種プラットフォームに向けた労働でもあるのだ。フルタイム・ファンダムの働きは、スマートフォンと各種プラットフォームの組み合わせに私たちが簡単にアクセスできるようになったことで実現し、プラットフォーム企業による「独占」の仕組みを全力で支えているのである。そういう意味ではプラットフォーム資本主義における典型的な経済活動のひとつではあるが、重要なのは、それを実践しているファンそれぞれにとっては能動的で創造的な文化的実践・表現でもある、という両義性なのである。

課題

「推し活／推し事」をするためにファンたちがふだんから行っている活動を調べてみよう。どのようなプラットフォームを利用し、どのような情報共有を行い、どのような結果を生み出しているのか、具体例を挙げてみよう。

おわりに

本章では、メディア研究の立場から、今日の私たちが音楽を聴く状況について考えてきた。幅広い対象をメディアとして捉え、その技術的・制度的・文化的な構造を解明しようとするメディア研究の視座からすると、現代の主要な音楽聴取環境を構成している音楽聴取のプラットフォームの作用は重要な研究対象として見えてくる。ふだんは意識しづらい形式の作用に着目しようとする研究視座からは、プラットフォーム企業がユーザーに対して隠蔽しながら展開している「独占」の構造こそが、解き明かすべき論題として浮上するのである。少しばかり小難しいようなフレームワークかもしれないが、「推し活／推し事」のような日常的な実践のなかにこそ、メディアの作用をはっきりと見て取ることができる。現代社会を生きる私たちは、多種多様なメディアに取り囲まれることで、その技術的環境のなかで生活している。したがって、メディア研究の視座から考察すべきことは、私たちの日常生活にあふれているということでもある。そうした視点から身の回りの生活を捉え返してみたい。

※本章の第 2 節・第 3 節は、日高良祐「プラットフォーム化する音楽聴取：デジタル化したメディ

ア文化の研究に向けて」栗谷佳司・太田健二編著『表現の文化研究講義(仮)』(ナカニシヤ出版・2024年出版予定)をもとに改稿したものである。プラットフォームの権力作用と私たちの音楽聴取環境の関係に関心がある場合は、ぜひ元の論文にも目を通してほしい。

参考文献

- 大久保遼 (2022) 『これからのメディア論』, 有斐閣.
- 大尾侑子 (2021) 「デジタル・ファンダム研究の射程: 非物質的労働と時間感覚にみる「フルタイム・ファンダム」」, 伊藤守 (編) 『ポストメディア・セオリーズ: メディア研究の新展開』, ミネルヴァ書房, 208-232 頁.
- 大尾侑子 (2023) 「聴衆/ファン」, 永富真梨・忠聡太・日高良祐 (編) 『クリティカル・ワード ポピュラー音楽: <聴く> を広げる・更新する』, フィルムアート社, 165-172 頁.
- 永富真梨・永富真梨・日高良祐編著 (2023) 『クリティカル・ワード ポピュラー音楽: <聴く> を広げる・更新する』, フィルムアート社.
- 水嶋一憲・ケイン樹里安・妹尾麻美・山本泰三編著 『プラットフォーム資本主義を解読する: スマートフォンからみえてくる現代社会』, ナカニシヤ出版.
- 山本泰三 (2023) 「プラットフォーム資本とは何か: 現代を席卷したメディア・インフラ、そのビジネスをめぐる問い」水嶋一憲・ケイン樹里安・妹尾麻美・山本泰三編著 『プラットフォーム資本主義を解読する: スマートフォンからみえてくる現代社会』, ナカニシヤ出版, 3-20 頁.
- IFPI, *Global Music Report 2016*
- IFPI, *Global Music Report 2022*
- Negus, Keith (2019) "From Creator to Data: the Post-record Music Industry and the Digital Conglomerates", *Media, Culture and Society*, 41(3), pp. 367-384.
- Seabrook, John, (2014) "Revenue Streams: Is Spotify the music industry's friend or its foe?" *The New Yorker*, 24 November (<https://www.newyorker.com/magazine/2014/11/24/revenue-streams> 2024/03/11 アクセス)

第18章

都市計画とまちづくり：市民活動の現場から学ぶ（森久聡）

はじめに：都市計画の誕生

産業革命を経て近代社会が成立する時代、大都市は成長するにしたがって資本主義社会の矛盾を見せ始めるようになる。世界中から富を集めているはずの大都市に貧しい労働者やホームレスなどの貧困層が劣悪な住環境で暮らすスラム街が形成されたのである。そうした大都市の貧困層に対し、イギリスのロンドンではさまざまな社会福祉的な救済が試みられている。そして、フランスのパリではジョルジュ・オスマン知事によってスラム街を立ち退かせて道路を建設したり、上下水道を整備して衛生環境の改善に努めた。また老朽化した集合住宅を新しく建て替えることを奨励し、その時には建物のデザインや高さの規制を設けて統一した町並み景観を生み出そうとした。このように都市の発展に行政が介入したオスマンのパリ改造計画は「都市計画の元祖」と呼ばれている。

日本における都市計画の始まりは、1872年に大蔵省（現在の財務省）によって実施された銀座レンガ街の建設事業である。この事業を皮切りに東京を近代国家の首都として改造していく事業が明治政府のもとですすめられた。つまり、日本において都市計画とは国家プロジェクトとしてスタートしたのである。そのため日本の都市計画は、国から地方自治体まで、上意下達（トップダウン）で計画を実行していこうとするものであった。

都市の発展に関する政策は、その地域に住む多くの人々に関連するという意味で、きわめて公共性の高い政策分野である。だが、日本において都市計画は国家がそれを独占的に行使する制度になっていた。すなわち、居住者＝市民は制度の枠組みから外されており、都市計画に関与することができなかったのである。そして日本の都市計画において都道府県や市町村などの地方自治体は、国家がすすめる国土計画を各地域で代行する機関として位置づけられた。地方自治体は国から計画の一部を任せただけであるため、地方自治体が地域の実情に合わせて独自に計画を策定することすらできなかった。したがって、「まちづくり」の考え方が登場するまでの日本は、国家が都市計画の公共性を独占する「国家高権」の制度体制において国土開発はすすめられていったのである。

1 都市計画からまちづくりへ

都市計画の在り方を変える「まちづくり」の考え方が登場するのは、1960年代後半の高度経済成長の終わりの時代である。それ以前の戦後から高度経済成長期にかけて、日本社会は古いものを壊し、新しいものへと置き換える「スクラップ&ビルド」型の開発政策を推し進めてきた。そして経済の急

激な成長とともに、次々と新しいビルや施設が建ち並んでいく。しかし、そうした動きのなかで、経済優先の社会の在り方に疑問が投げ掛けられていく出来事も少なくなった。

たとえば公害を引き起こした原因企業に対する反公害運動や地域環境を破壊するような工場などの進出に対する反対運動などが全国的に展開された。こうした地域のなかには、反公害・反開発の住民運動を通じて、地域社会に様々な課題が存在することを知ることになり、地域の様々な課題に取り組むようになった市民団体が活動している（静岡県三島市など）。

また急激に都市人口が増加する中で郊外に建設された新興住宅地などでは、公共交通機関や公共施設などの整備が行き届かず、不便な生活を強いられる地域が生まれた。そうした地域では、新規住民による祭りやイベントの開催によるコミュニティづくりをきっかけに、基本的な生活インフラとして公共交通機関や公共施設などの整備を求める活動へと発展していった（神戸市丸山地区など）。

他には、高速道路の建設によって中心市街地の歴史的建造物が取り壊されるなど、地域の歴史を表現する町並み景観が失われていく事態に対して、地域開発の反対運動が展開された。そして全国一律の国土開発政策を批判して地方分権や地域自治などを求めるだけでなく、地域アイデンティティの象徴である町並み景観を守りながら地域の活性化を目指す取り組みが市民サイドから発生している（北海道小樽市など）

これらの活動に取り組む市民は、自らの活動を「まちづくり」と称した。というのは、彼らの活動は、国家高権ですすめる都市計画を批判し、市民の手による下意上達（ボトムアップ）の地域形成だからであった。これは行政主導の都市計画に抵抗して、お年寄りから子どもまで様々な市民の話し合いに基づいて策定された計画によって市民の共同の利益を実現しようとする動きとも言えるだろう。そのために「都市計画」という言葉のような固い言葉ではなく、誰でも読めるひらがなで「まちづくり」と表現したのである。ここには行政が独占してきた「都市計画」とは異なり、お年寄りから子供まで幅広い市民が「まちづくり」にかかわることができるようにという思想が込められている。

現代では、まちづくりの取り組みは全国に広がって、行政主導の都市計画は見直されるようになった。国家権限の地方分権化をすすめたり、住民参加の仕組みを設けて行政の政策決定に市民が加わることができるような工夫がなされるようになった。そして市民の側も地域社会の将来像を自ら描いて、それを実現しようと取り組んでいる。こうして、多くの自治体がまちづくりの主演は市民であると考え、市民の自主的な活動をサポートするような立場で取り組むようになっていく。

【問い】

Q-1 あなたの故郷の自治体はどういった歴史や文化を有していますか。また、都市政策にはどのような特徴がありますか。

2 市民によるまちづくり：「小樽雪あかりの路」

全国でまちづくりが盛んになっているが、そのなかでも「まちづくりの教科書」として評価が高いのが、北海道小樽市である。現在の小樽市は道内屈指の観光都市のひとつである。年間500万人近くの観光客が小樽を訪問しており、中学・高校の修学旅行でも人気の訪問地である。しかしながら、小樽市の人口は1960年代の20万人をピークに現在まで減少し続けて、10万人弱となっている。小樽市には、これだけ多くの観光客が訪れ、知名度も高く、ブランド・イメージも良いが、地域経済は必ずしも活性化しているというわけではないのである。

多くの観光客が訪れてはくれるが、それが地元経済の活性化に十分に結びついていないという現実

のなかで、小樽市でまちづくりに取り組む市民は、小樽観光の在り方に次のような疑問を抱くようになった。小樽観光といえば、運河沿いの散策路を歩いたり、ガラス細工の店で買い物をしたり、寿司を食べたりするのが定番とガイドブックには書いてある。しかし小樽の魅力はそれだけではない。だが、大型バスツアーでやってきた観光客は3~4時間ほどの滞在時間では、小樽の歴史や文化を見て・知って・楽しんでもらえないのではないか。それどころか、小樽以外にも旭川動物園など人気の観光地が増えてくるなかで、ますます小樽の滞在時間は短くなっていくだろう。そうなったら、小樽には数時間の滞在ばかりか、ツアー途中のトイレ休憩の場所になるのではないか。このままでは、我がまち・小樽が〈公衆トイレ〉になってしまう……。

そこで、まちづくりに取り組む市民は、市民の手で観光イベントを開催し、それを通じて地域経済の活性化とコミュニティづくりを同時に目指す活動に取り組むことを決める。そして、どのような観光イベントを開催したらよいか検討した。まず、季節に注目すると、小樽を訪れる観光客のほとんどが夏期に集中している。本州に比べて寒冷な気候である北海道ではそれは当然のことである。その一方で、冬期はスキー客などが中心でそれほど多くの観光客は小樽に来ていない。そして、小樽観光は日帰りが多く、宿泊客は少ない現状がある。つまり冬期に宿泊する観光客は少ないことが分かったのである。そこで、最も観光客が少ない冬期の夜にイベントをやろうと考えた。しかし、小樽は寒い時にはマイナス10度にも達する地域で、港町としては世界でも有数の降雪地帯である。雪深く暗い夜の小樽にどうやったら観光客を呼ぶことができるのだろうか。

ここで大切にしたいのが「マイナスをプラスに変える」という発想である。たしかに小樽の冬の夜は雪が深く、暗い。だとしたら、それを活かしたイベントやってはどうかと考えたのである。実は雪国の人は、雪を冷たく重くやっかいな代物と認識していることが多い。ちょっとした外出でも移動の障害になるし、雪かきは重労働だからである。しかも屋根に積もった雪を放っておくと家が潰れてしまうから危険だけれども雪下ろしをしなければならない。このように雪国・小樽の人にとって雪はマイナスのものでしかなかった。その一方で、雪国ではない人々にとって雪景色は美しくロマンティックなものに映る。たしかに雪が降ると交通機関が混乱して大変ではあるのだが、どこことなくワクワクした気分になる人も少なくない。つまり、雪国ではない人にとって、雪は魅力的なプラスの存在なのである。

そこで小樽市民は、たくさん降る雪や寒さ、そして暗い夜というマイナスを活かすイベントとして、「小樽雪あかりの路」の企画を打ち出す。その内容は、小樽のシンボルである小樽運河を中心に、小樽の町中に雪で作ったオブジェを設置し、それを夕方から夜にかけてロウソクの灯でライトアップするというものであった。そして「小樽雪あかりの路」は冬の北海道で最大のイベントである「さっぽろ雪祭り」とは徹底的に逆方向のベクトルで内容を煮詰めていった。たとえば、「さっぽろ雪祭り」はその時に流行したキャラクターや話題になった出来事をモチーフにした大型の雪像が見どころのひとつである。それに対し、「小樽雪あかりの路」は手作りサイズのオブジェで、具体的なキャラクターなどを模した雪像は禁止した。しかも、カラースプレーを使わない、枝や葉っぱ、つららや氷など自然の素材だけで製作するというルールにしたのである。バケツを使って作った雪の小さなかまくら（スノーキャンドル）や氷のボールをたくさん並べてそれらを自然素材で飾った。また、アニメやゲームのキャラクターを作らず、せいぜいハートや月や星、雪だるまをモチーフにする程度である。

「小樽雪あかりの路」では、キャンドルで雪がほのかに照らされた世界を、大人が美しいと感じるようなものになることを目指した。これは、子ども向けの雪像も良いが、大人が素敵だと思うものを子どもにも見てもらうことが教育になるという考え方によるものである。実際には、子供たちはキャラクター像がなくても飽きるような様子はなく、むしろ大人と同じように「キレイ！」と言って楽しんでいる。

そしてろうそくにもこだわっている。実を言えば、ろうそくを使うより、LEDを使った方が合理的である。LEDは経費も安く済み、点灯が簡単で強風でも火が消えることはない。しかも火事になる可能性も低く安全でもある。その意味でろうそくは確かに不便ではある。だが、便利なLEDではろうそくのような「自然な火の揺らぎ」や「ほのかな温もりと暖かさ」が生まれないのだ。だから「小樽雪あかりの路」では、ろうそくを使用している。また、地元のろうそく業者が製造するろうそくを使うことにしている。小樽市外に安いろうそく業者はたくさんあるが、「小樽雪あかりの路」によって地元ろうそく業者が少しでも潤えば、それが巡り巡って地域経済の活性化につながると考えているからである。

小樽雪あかりの路



↑浮玉キャンドルでライトアップされた小樽運河と旧手宮線跡地



↑雪のオブジェづくりとキャンドルの点灯作業をするボランティア



↑キャンドルが灯された雪のオブジェ

1999年に始まった「小樽雪あかりの路」は、現在までに21回開催されている。企画を公表した時には寒くて暗い小樽の冬の夜に観光客なんか来ないと言われたこともあるが、結果は予想を上回るものであった。「小樽雪あかりの路」の来場者数は、2週間の開催期間でありながら50万人にも達し、「さっぽろ雪祭り」と並ぶ代表的な北海道の冬のイベントにまで成長した。

「小樽雪あかりの路」は冬の人気イベントになったが、現在でもほとんどの部分が市民ボランティアによって運営されている。毎年9月ごろから実行委員会は集まり、翌年2月の開催に向けて準備の会合がスタートする。秋に集めておいた紅葉した葉をモチーフに使用済みのロウソクからキャンドルホルダーを作り、小樽港の冷凍倉庫の一角を借りて氷のオブジェを作ったりし始めるのである。そして2週間の開催期間中、毎日、昼過ぎから会場で雪のオブジェを製作し、夕方になるとロウソクに点灯していく。風が強かったり、雪が降っているとロウソクは消えてしまう。そこで市民ボランティアは巡回しながら消えたロウソクに火を灯し続けるのである。そして最後は、ロウソクを回収しその日の業務は終わりとなる。「小樽雪あかりの路」の開催期間が終了した後も大切な仕事がある。雪が解けると雪の中に埋まっていた多くのゴミがでてくるので、雪解けしたら会場を清掃するのである。

このように半年以上に渡る様々な準備と片づけが、市民ボランティアによって毎年行われている。この「小樽雪あかりの路」を開催する「小樽雪あかりの路」実行委員会の委員長は、次のように語っている。

「いつの日か、このイベントがなくなってしまうのが、私たちの最終目標です」

毎年50万人近くの観光客を呼び寄せ、20年以上も続くイベントをしながら、それがなくなってしまうことが目標とはどういうことだろうか。普通に考えれば、これだけ人気のイベントであれば、もっともっと続けていきたいと思うはずではないだろうか。

この言葉に続けて実行委員長はこの言葉の趣旨を説明してくれた。それは、小樽という町に「雪あかりの路」という地域文化を生み出したいのだという。たとえばハロウィンやクリスマスの季節になると、誰が声をかけたわけでもなく、デコレーションしたりライトアップされた住宅やお店を目にすることができる。これはハロウィンやクリスマスが文化として根付いているからである。これと同じように、小樽の町に「雪あかりの路」という地域文化が根付けば、小樽市民は2月になると誰に言われなくても住宅やお店の前の路をキャンドルで灯すようになるだろう。そうなれば、現在のようにイベントの形を通じてライトアップを呼びかける必要はなくなる。だから「小樽雪あかりの路」が小樽の地域文化になった時、このイベントはその役割を果たしてなくなるというのである。

そして、よその地域の人が「雪あかりの路」という地域文化に触れることこそが小樽が目指す観光の在り方なのだという。この実行委員長の言葉は、「小樽雪あかりの路」が単に観光客を誘致するための集客イベントではないことを示している。「小樽雪あかりの路」は、地域文化を創造しようという大胆な試みであり、お土産物買ったり食事をするばかりで地域文化に触れる機会が少ない現在の観光の在り方を見直すことを目指しているのである。

【問い】

Q-2 あなたの町内の良いところは何ですか？お気に入りのスポットはありますか？

Q-3 あなたの町のマイナスなところは何ですか？こういったところを改善したら良いと思いますか。

3 「小樽雪あかりの路」が照らすもの

3.1 「マイナスをプラスに変える」という発想

私たちは「小樽雪あかりの路」から何を学ぶことができるだろうか。様々な地域の自治体職員や市民団体が「雪あかりの路」の成功を聞きつけて、小樽に視察に訪れたという。そして全国各地にキャンドルやLEDでライトアップするイベントが広がっている。そのことについて、「雪あかりの路」の発起人のO氏は「ただライトアップすれば良いというものではない。確かに明かりを灯せば人が集まることもあるだろう。でもそれではダメだ」と話す。そして、「雪あかりの路」から学ぶべきことは、美しくライトアップすることで集客できるというイベント手法ではなく、「マイナスをプラスに変える」という発想であるという。

小樽の人にとってマイナスと見られていた雪は、他の地域の人にとってプラスのものでもあった。そして「雪あかりの路」は、その雪と暗くて寒い夜を逆手にとった魅力的なイベントである。このようにマイナスのものをプラスに捉えるという発想の転換こそが大切なのである。しかも、このイベントによって小樽の人も雪に対する見方を変えることにもつながる。それまで邪魔ものでしかなかった雪を地域を活性化させる資源として考えるようになるのだ。実際に暖冬の年に小樽の人は、「暖かくて雪のオブジェが溶けてしまう」とか「もっと雪が降らないとオブジェをつくる雪が足らなくなる」と話すようになった。このように小樽の人にとって雪は邪魔者ではなくなっていることが分かる。

「マイナスをプラスに変える」という発想に基づいた事例を2つ紹介しよう。ひとつは、大分県竹田市の「竹楽」である。竹田市では古来より豊富な竹林を利用した竹製品の生産が盛んであったが、竹の需要の減少とともに竹林の荒廃が進んでいた。しかも竹林を管理するために間伐した竹は処分するのが難しいマイナスの物であった。そこで、マイナスと捉えていた竹を使って灯籠をつくり、竹田市の歴史遺産をライトアップするイベントを開催したのである。もうひとつは、青森県五所川原市の「雪国地吹雪体験プログラム」である。極寒の津軽の地吹雪はすさまじく、当然のことながら地元住民にとってはマイナスのものでしかない。ところが都会の人の視点から見ると地吹雪は聞いたことはあっても体験したことはない。そこで都会の人向けに地吹雪を体験するツアーを企画したところ、ツアー客は地吹雪のなかを喜んで歩くのであった。この事例は、ライトアップこそしていないが、マイナスをプラスに変えるという点で小樽と同じ発想を持っているのである。

3.2 雪あかりの路を通じたコミュニティづくり

もうひとつ「小樽雪あかりの路」から学べることは、「小樽雪あかりの路」が単なる観光イベントではなく、コミュニティづくりを目指しているということである。そのことが分かるエピソードを紹介したい。

「小樽雪あかりの路」を始めて数年経った時、小樽市内のある町内会から実行委員長に対して、イベント運営費を寄付するから、自分たちの町内会にスタッフを派遣してキャンドルでライトアップして欲しいという依頼があった。その町内会長によると、町内会の婦人部が「小樽雪あかりの路」を見て、自分たちの町内でもライトアップしたいと町内会長に訴えたのだという。しかし、この町内は高齢者が多く、若い世代で町内会に入る人も少なくなり、人手がないというのが現状であった。そこで町内会長は運営費用を寄付する代わりに自分たちの町内会をライトアップして欲しいと実行委員会にお願いしたのであった。

この申し出に対し、実行委員会はその町内会の事情を十分に理解したうえで、あえて「たとえ町内

会長だけでいいから、たとえロウソク1つでいいから自分でキャンドルを灯して頂くことが小樽雪あかりの路の趣旨です」と応え、依頼を断ったのだという。すると、業を煮やした婦人部は自ら手分けしてライトアップをするようになった。さらにキャンドルの点灯をしたいということで、若い人が町内会に入会してくれたのである。それ以来、町内会だけでなく敬老会などもその輪に加わり、この町内会では毎年、誰のオブジェが一番できが良いかということが話題になり、「小樽雪あかりの路」に参加することが町内の恒例行事になっているのだという。「小樽雪あかりの路」をきっかけにコミュニティが活発になったのである。これこそが、「小樽雪あかりの路」が目指すコミュニティづくりなのである。

おわりに：「まちづくり」という生き方

「小樽雪あかりの路」の発起人O氏は、人生の半分以上を小樽のまちづくりに費やした人物であった。O氏は小樽で生まれ、大学中退後、家業を継ぐために小樽に戻ってきた経歴を持つ。そして、まちづくりに取り組むきっかけになったのは、小樽運河保存問題である。小樽運河保存問題とは、小樽運河を埋め立てて道路建設する行政の事業計画に対し、ある市民グループが道路計画の変更を要求したことから道路計画の賛否が分かれた地域問題である。そして結果的に、行政は強い反対意見を考慮し、埋立幅を半分にして運河沿いに散策路を設ける妥協案で決着する。この小樽運河保存問題に対して、O氏は小樽運河などの歴史遺産を観光に活かしたまちづくりを主張した市民グループの中心人物である。

小樽運河保存問題は運河の半分以上を保存する形で決着したが、その後の小樽はあっという間に観光地化が進んでいく。O氏は小樽運河を観光に活かすことを主張していたが、急激に観光地化する小樽運河周辺の様子はO氏が目指す観光地の在り方とは大きく異なるものであった。この小樽観光の現状は自分が主張したものと全く違う。だとしたら、どういう観光の在り方が望ましいのか。観光によって地域文化を創造したり、コミュニティを活性化させるにはどうしたら良いのか。小樽運河保存問題が決着してから急激に観光地化していく小樽運河を見つめながら、10年近くにわたる苦闘の末に考え出したのが「小樽雪あかりの路」だったのである。

O氏はこれまでの半生を振り返る中で、次のように述べている。

「町に合わせて生きるのではなく、自分の生き方に町を合わせていく。そういう生き方をしなかった」

私たちは住むエリアを選ぶ時、最寄り駅までのアクセスや近所にコンビニやドラッグストアがあるかを基準にしていることが多い。これは自分たちのライフスタイルに合わせて住むエリアを選んでいることになるわけだが、私たちは必ずしも自分のライフスタイルにぴったり合った地域に住むことができるわけではない。たとえば私たちが生まれ育った故郷の話をする時、「田舎でイオンすらない」とか「おしゃれなカフェがない」といったように「～～がない」と言ったり、聞いたりしたことがあると思う。

そうしたとき、私たちは「おしゃれなカフェがないから、素敵なティータイムを過ごせない」と考えてしまいがちである。だが、O氏は「～～がない」から「～～ができない」と諦めるのではなく、おしゃれなカフェで過ごしたいなら、おしゃれなカフェができるような町を作っていこうと考えたのである。もちろん、言うは易し行は難し。そう簡単なことではない。けれど、もし、何かの理由でその土地にずっと住むことになった場合、「～～がない」から「～～ができない」と不満ばかりを口にするのはではなく、「自分の生き方に町を合わせていく」という生き方もあることをぜひ覚えてお

て欲しい。

【問い】

Q-4 あなたの町のマイナスなところをどうしたらプラスに変えることができるか考えてみよう。

Q-5 あなたの町でも、まちづくりやボランティアで活躍している人を探してみてください。

第 19 章

電力と電力会社とわたしたち（諏訪 亜紀）

1 電力を使っているということ

エネルギーというと何を思い浮かべるでしょうか？学生さんからは「エネルギーって電気とかガスとかでしょ？」という反応が一般的です。時折、「体力」「気力」というイレギュラーが答えも頂きますが、こちらもいい答えですね。なぜなら、電気・ガス・体力・気力にはひとつの重要な共通点があるからです。ではここで問題です。体力・気力・電気・ガスに共通することが何でしょうか？

エネルギーの語源は古いインド・ヨーロッパ語族の「en（～させる）」＋「werg（行う:work の語源）」の組み合わせに基づく energos 「(何かを) 行わせる何か」であり、ここから言葉の意味を広く取って「万物を動かす何か」という現在のエネルギーの意味になります。電気・ガスもいろいろな機器を動かしますが、体力・気力も私たちの体を直接的・間接的に動かすので、energos の本来の意味には合っているといえましょう。

しかし、毎日体力気力電力を利用しているにもかかわらず、語源や本来の意味も含め、エネルギーのそもそもの性質について系統的に知る機会是小中高校までの教育では非常に限られているのではないのでしょうか？これら全体の話をするのは別の機会に譲るとして、この章ではエネルギー、特に電力に関する基本的な内容をご紹介します。

2 電気料金いくら払っている？

まず生活に近いところから考えてみましょう。第一のステップとして、電力会社から送られてくる明細を見ながら、以下の事柄を確認してください。（従来は電力会社から明細毎月送られてくるのが一般的でしたが、最近ではインターネット明細になっている場合もあります。その場合はインターネット明細や、以下に紹介する一般的な大手電力会社の明細をサンプルとしてご利用ください。）

(1) 契約している電力会社はどこか

最も予想されるのは、地域に昔からある電力会社との契約ですが、そうでない電力会社と契約している場合もあるので確認してみてください。

(2) 毎月どれくらい電力を使っているか

一般的な家庭の月平均は概ね 430~450kWh です。（ちなみに筆者宅（家族 3 人）では月平均約 200kWh です。）ご自身の場合と比べていかがですか。

(3) 昨年と同じ月と比べて電力料金は増加しているか、減少しているか

明細のどこを見たらいいでしょう？

- (4) 年間通じて支払いはいくらになりそうか
- (5) 家計の中で電力料金は何パーセントを占めるか

図 1 は関西電力の明細の例です。当該月分の電気使用量・前年同月の比較・電気料金（ほかにも燃料費調整単価・再生可能エネルギー発電促進賦課金等）の把握の方法がわかります。ご自身の明細と見比べたり、発展的に考えながら上記問に答えてみましょう。

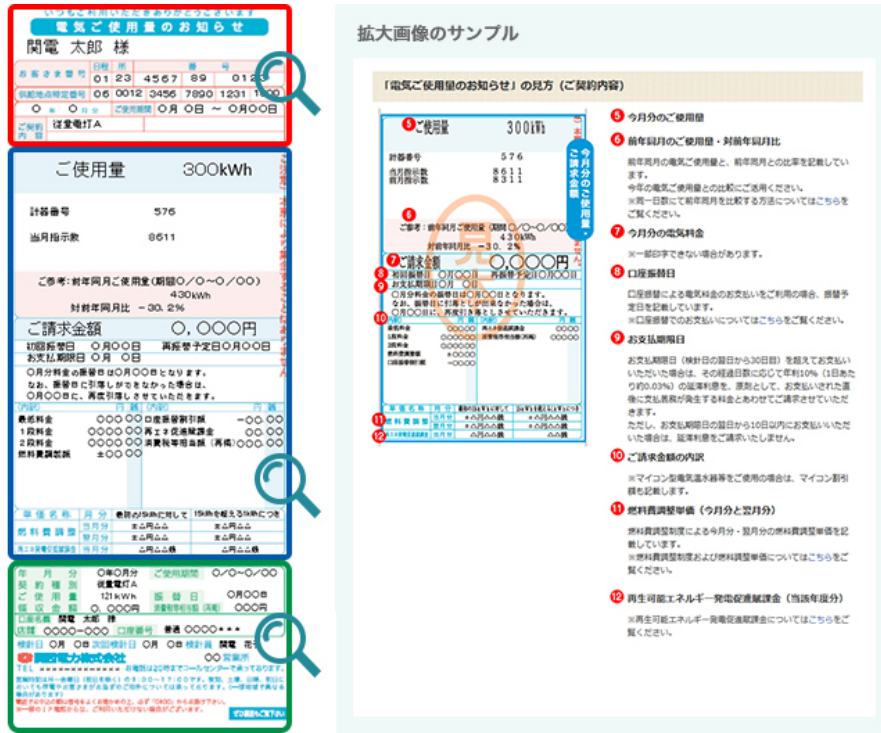


図 1 電力明細の見方（出典：関西電力HP）

第二のステップとして、次にあなたは電力を 1 日の時間ごとにどのくらい使うか、下のグラフに折れ線グラフのように書き込んでみましょう（大体で結構です）。

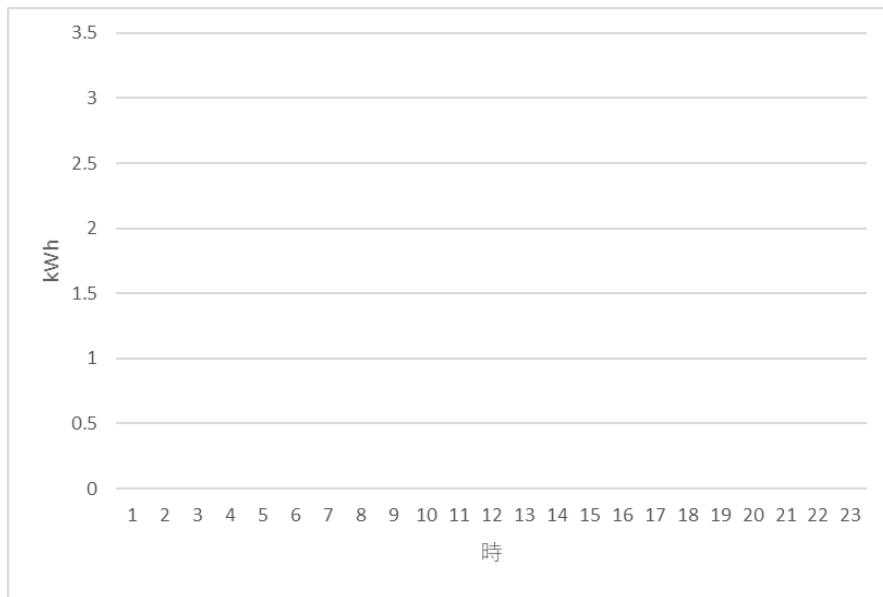


図 2 電気をいづれくらい使うか記入してみよう

まず朝起床後、朝食・外出の準備などで電気（もちろん多くの家庭でガスも用いられていますが、ここでは話を簡単にするため電気だけに注目します）を用い、昼は大学などで活動、夕方帰宅してからまた家庭で電気を使う……そんな生活パターンではないでしょうか？

では日本人全体はどうかというと図 3 のようになります。

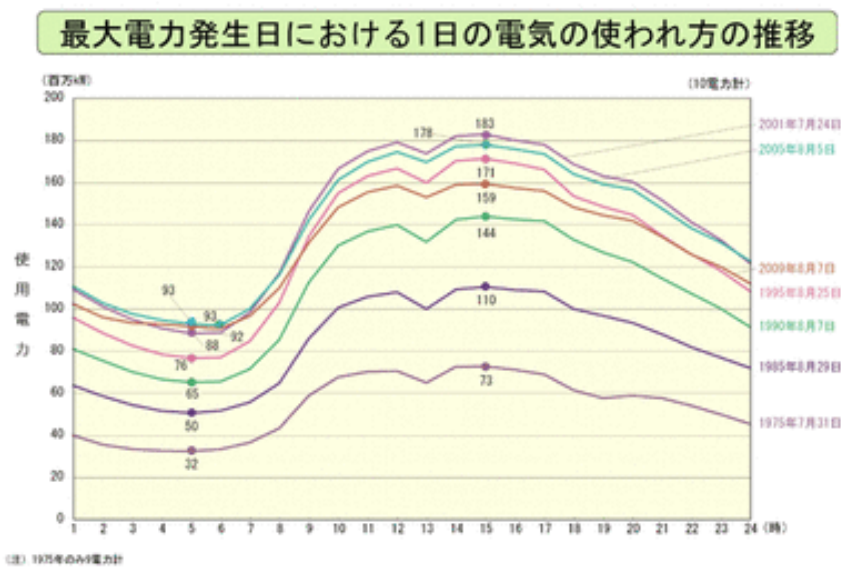
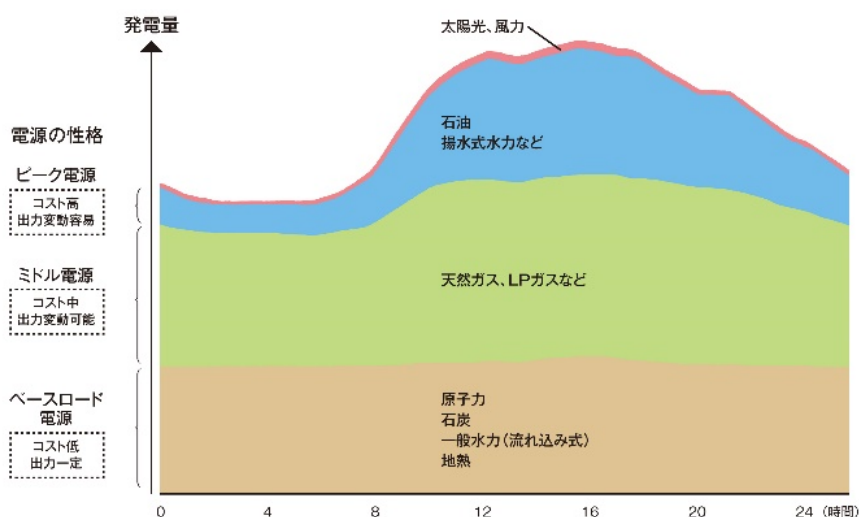


図 3 最大電力発生日における 1 日の電気の使われ方の推移（出典：原子力文化事業団HP）

日本全体の電力需要の利用を足しあげた結果なので、皆さんのグラフと共通した傾向が見られますね。逆にいうと電力会社は、このような需要（需要電力）に合わせて電力を供給する複数の事業者の集合ということになります。また、図 4 から、電力会社も利潤を追求する「企業」なので、一般的には利益が出るように、需要の種類ごとに、ベースロード電源（原子力発電・石炭等は燃料原価だけを

考慮するうる安く見積もられるので継続的な利用に用いる）・ミドル電源（天然ガス・LPガスなど）・ピーク電源（石油は原価が高いので、短時間利用に限って用いる）の主に三つのタイプに合わせて出力していることを読み取ってください。

電力需要に対応した電源構成



1-2-11

出典：「エネルギー基本計画(2011年4月)」より作成

原子力・エネルギー図鑑

図4 従来までの一般的な電源構成（出典：電気事業連合会HP）

なお、「CO₂ 排出のために、こまめな節電をしましょう」といったスローガンを見かけることがありますね。メッセージ自体を否定するものではありませんが、単に「節電」といっても、時間帯・発電に用いられる燃料を考慮に入れる方が効率がよいでしょう。つまり、節電を効果的に CO₂ 排出につなげるためには、(現在の日本の発電の構成を変更しない場合には) 14時から17時まで等のピーク時間帯の需要を抑制し、(石炭に次いで CO₂ 排出量の多い) 石油による発電を削減することも早道です。

なお、日本では現在のところ原子力発電や地熱発電がベースロード電源としては位置付けられていますが、ドイツでは次第に再生可能エネルギーをベースロード電源とみなす傾向が強くなっています。将来再生可能エネルギーがより多く導入される場合には、ベースロードという考え方そのものがなくなる、ということも考えられます。

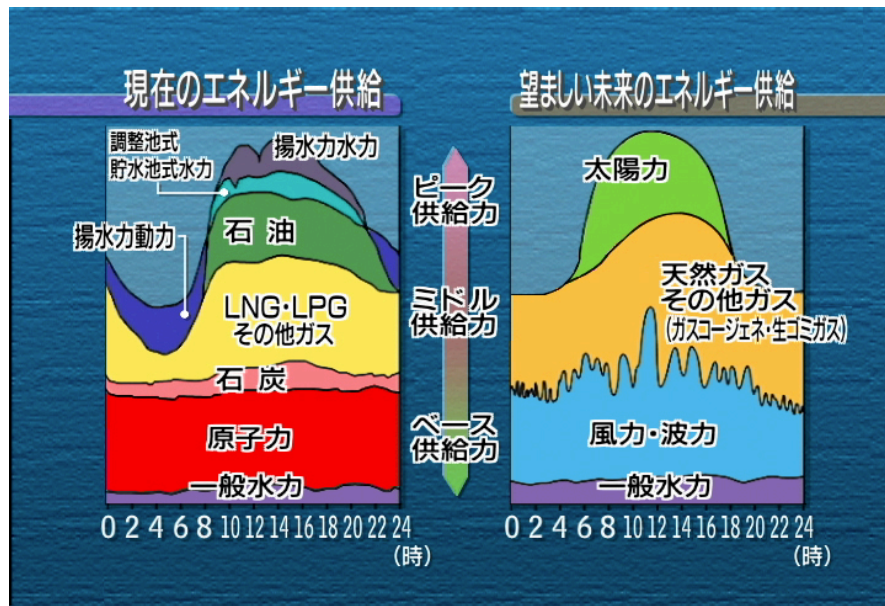


図 5 現在と未来のエネルギー供給（出典：関西ローカルエネルギーシステム研究会ホームページ）

第三のステップとして、次にある月の電力料金がなぜその水準になったのが考えてみましょう。そのために、あなたの使っている家電製品がどの程度電力を消費しているか教えてください。家電製品の裏の表示をメモしたり写真に撮るなどして次の表の列 1 に記入してください。

表 1 家電製品の電力表示を確認しよう

	使用電力（定格電力） （W）	1 日あたり稼働時間 （時間）	1 日あたり電気代 （円）
冷蔵庫			
パソコン			
ノートパソコン			
テレビ			
電子レンジ			
洗濯機			
ドライヤー			
照明			
掃除機			
布団乾燥機			
その他（ ）			

なお、例えばエアコンに 1.5kW と記載があった場合、これは何ワットかわかりますか？（kW は 1000W であることを思い出して下さい。ちなみに kilo は 1000 を意味するギリシャ語 khilioi を短くした言葉です）。

また、家電製品の表示に注目すると、聞きなれない用語（消費電力・定格消費電力・年間消費電力等）が用いられていることに気づきませんか？ W・Wh・kWh といった表記の違いもあります。これら用語の説明は以下をご確認ください。

消費電力とは、その家電を使う際に消費する電力量を表したものです。例えばドライヤーなど家電の消費電力記載欄に「強 1200W/弱 600W」と記載されていた場合は、強の運転時にかかる消費電力は 1200W、弱の運転時にかかる消費電力は 600W という意味です。

定格消費電力とは、その家電の機能を全て使用した場合（最大限使用した場合）に消費する電力量を表したものです。例えばテレビは画面の明るさなどにより電力消費量が変わってきます。また、オーブンやホットプレートなどは設定温度や調理する食材により電力消費量は変化します。そのような家電には、その家電を最大限使用した場合にかかる電力量として定格消費電力が記載されています。

年間消費電力量とは、その家電を 1 年間使用した際に消費する電力量を表したものです。扉の開閉回数や開けている時間などにより消費電力の測定が難しい冷蔵庫や、視聴中と待機中の消費電力が異なるテレビなど、消費電力だけでは電気代を求めにくい家電には 1 年間に使う電力量の目安として年間消費電力量が記載されています。

年間消費電力は、より実際に使用されている状況に近くなるように定められた測定基準をもとに計算されています。

次に、単位について考えていきましょう。消費電力や定格消費電力などには、W（ワット）、kW（キロワット）、Wh（ワットアワー/ワット時）など様々な記載があります。W（ワット）・kW（キロワット）はその機械が消費し得る電力量、Wh（ワット・アワー）はその機械を 1 時間使った場合に消費される電力量を指します。

（電力会社比較サイト・エネチェンジ ホームページより）

これを踏まえて、1.5kW のエアコンを、1 時間使うと電気代はいくらになるか、式と答を以下に記入してください。

式

答

すみません、情報が少なすぎませんでしたか？（考えて頂くため、ヒントを後から出しています！）ここからがヒントと考え方です。

電気代は、使った分だけ発生するのが基本ですから、これを計算するためには

「電気の量（使った分）」×「量あたりの単価」

という情報が必要で、ここで電力の単価を知る必要があります。

電力の単価なんて、なんだか「牛乳 1 パックの値段」ぐらい、知っていて当たり前の情報のような気がしますが、自身が支払っている電力単価がいくらなのか意識している消費者はあまりいないようです（私も 30 歳ぐらいになってからようやく気づきました！）。脱線しましたが、一般的な契約の場合、電力単価は約 23 円/kWh です。したがって、例題の式と答は以下のようになります。

$$1.5\text{kW} \times 1\text{h} \times 23 \text{円} = 34.5 \text{円}$$

みなさんのご自宅で最大どれくらいの機器を利用しますか？一般的な生活スタイルの場合、ひと月（冬）の電気代は、例えば、「冷蔵庫とエアコン（暖房運転）とテレビとドライヤーと電子レンジとこたつとパソコンと照明とスマホ充電等」の利用時間に基づく代金が足し上がって形成されるのではないのでしょうか。表1の列2と列3に、それぞれ記入してみてください。こうして表すと、どの部分をどれくらい減らすと全体に影響を及ぼすことができるか、全体像がわかるようになりますね？

3 日本全体に拡げて考えてみよう

以上は家庭を例にとって話を進めてきましたが、日本全体の電力需要はどの程度で、発電に必要な原材料の対価を誰に支払っているのでしょうか。どのような統計を探すとよいのでしょうか？

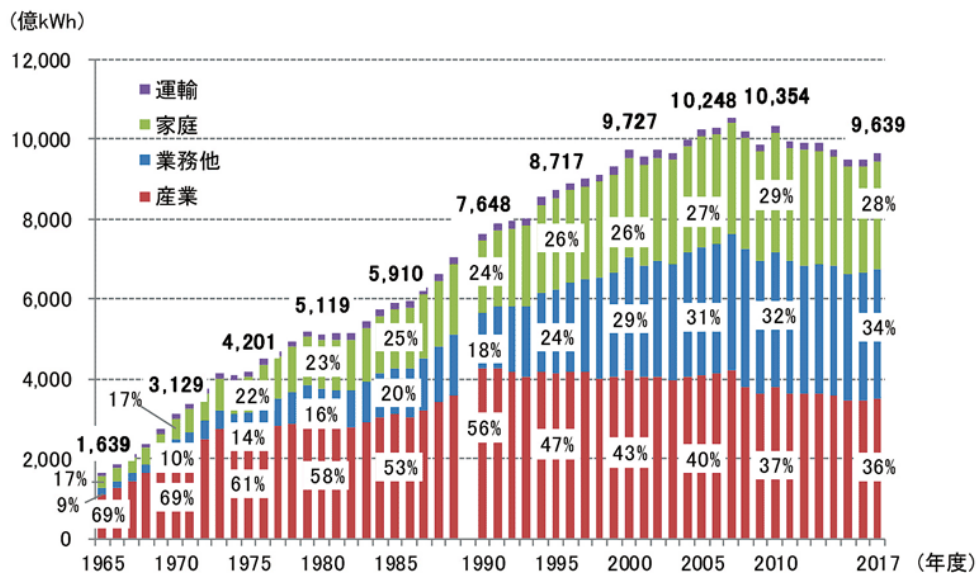


図6 部門別電力最終消費の推移（出典：資源エネルギー庁）

経済産業省傘下の資源エネルギー庁は毎年「エネルギー白書」を発行しています。白書記載のグラフ（図6）から、2017年の日本の電力使用量（電力最終消費）は9,639億kWhであることがわかります。凡そ約1兆kWhと考えてよいでしょう。

これだけの電力を日本はだれがどのように発電しているのでしょうか？どのような資料探すかも併せて教えてください。資料を探すうえでのキーワードは「電源構成」です。みつかりましたか？

電源構成は発電に用いる原材料を示したものです。（電力を作るときの原材料を示したもののなので、逆に言うと電力「以外」のエネルギーの流れはこれではわかりません。日本全体のエネルギーの流れを理解するためには「エネルギーフロー」という図も併せて理解しておく必要がありますが、ここではとりあえず電源構成のみに注目していきます。）

電源として用いられているものは何でしょうか？上位3位を教えてください。そしてこれら三つに共通する性質は何でしょうか？

もうわかりですね？上位3種は石炭・天然ガス・石油で、これらは化石燃料です。化石燃料とはも

ととも、過去の植物や動物（プランクトンなどを含む）の遺骸が変化して生成した燃料と考えられ、英語で fossil fuels と呼ばれるため、その直訳「化石燃料」が定着したものです。（息子が小さかったころ、恐竜の化石にハマった時期があり、化石というどうしても恐竜の骨を想像してしまうのですが、fossil というのは、もともとラテン語では「掘る（fossilis）」という意味です。まきや木炭が現世の植物から得られる燃料である（掘らなくていい）のに対して、石炭・石油・天然ガスは地面を「掘る」系の燃料であるから fossil fuels（→化石燃料）と呼んで区別したのがこの呼び名の始まりといわれています。）

さて、「掘る」系の燃料である石油石炭天然ガスは、（全くゼロというわけではありませんが）日本では殆ど採掘できないため日本はこれらを外国から輸入していることはご承知の通りです。

では、実際日本の石油・石炭・天然ガスの輸入先がどこの国であるか、それぞれトップ 1 か国で構わないので以下の地図上に◎印（石油）、△印（石炭）、○印（天然ガス）で示してください。



図 7 ◎印（石油）、△印（石炭）、○印（天然ガス）の輸入先を示そう

国を示した後、ここでは特に石油に限って、その国からどのような海運ルートで日本まで運ばれてくるか予想して線で示してください。

あなたがおそらく今示した海運ルートは、日本の安全保障上重要視されているものに近いはずで、日本政府は 2020 年 2 月に「中東を航行する日本船舶の安全を確保するため」に自衛隊派遣を行いました。派遣先の北アラビア海及びオマーン湾沖と石油の海上輸送ルートの位置関係を確認してください。言わずもがなですが、安全保障というのが、燃料（特に石油）輸送ルートの「安全」確保という意味に用いられていることに注目してください。

つまり、国を挙げて石油の確保を重要視しているわけです。石油は現代文明の生命線である側面が非常に強いので、それを得るためには、中東とアメリカ等の政治的駆け引きの中で日本の軍事的判断まで行わなければならないリスクを孕んでいるのです。

地政学上のリスクに加えて、経済な影響についても考えてみましょう。電力を得るための原材料（化石燃料）の輸入代金を、日本人は外国に支払っていることになります。その総額はいくらでしょうか。

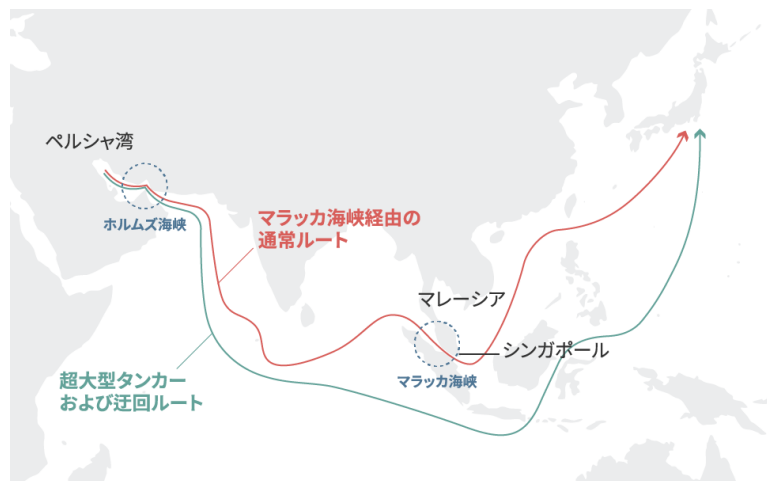


図 8 主要な石油輸送ルート（出典：東京電力ホールディングスHP）

2018年度の日本の輸入総額は83.1兆円です。このうち、鉱物性燃料は約20兆円です。鉱物性燃料というのは、石炭・石油・天然ガスなどの「掘る系」燃料の総称ですから、ここから日本の化石燃料支払い総額は輸出総額の約4分の1を占めることがわかります。問5で家計における電力の割合を考えていただきました。家計の場合ももし電力の支払いがなかったら、その分いろいろな目的に使えますね。同様に日本全体の化石燃料関連の支出が国内にとどまったらどのようなことに使えるでしょうか？

税収と比較することはやや誤解を与える面もあるかもしれませんが、目安としては、2019年の消費増税（これは国の借金の返済の他に福祉財源にも用いられます）による増収分は約4.5兆円といわれています。化石燃料支出約20兆円は、この消費増税分をはるかに凌ぐ額であり、もし仮にこれが日本国内にとどまり、かつ社会保障に用いることができれば、教育・健康・福祉等の財源として大きな支えになるかもしれません。

4 電力と気候変動

また、近年世界で気候変動が原因とみられる極端な気象現象が観測されています。社会全体が利用するエネルギー原材料が化石燃料であるということは、産業交通生活などでエネルギーを使うと間接的に温室効果ガス大気中に放出されるわけです。二酸化炭素などの温室効果ガスが大量に大気中に排出されるとどうなるかは、大学入学前に学んできているはずなので、説明は最小限にします。むしろ後輩に説明するつもりで以下の空欄に説明文を記入しましょう。

二酸化炭素の大気中の濃度は、産業革命前は300ppm以下でしたが2019年には415ppmまで上昇しており、このままのペースで排出を続ければさらなる気候変動を生じさせることが予測されています。この悪循環を断つためには、温室効果ガスを出さない再生可能エネルギー、つまり太陽光・風力・小水力・地熱などを用いることが重要です。

ただし、個人が再生可能エネルギーを導入することには様々な制約があることも事実です。しかし電力会社の中にはこれらの再生可能エネルギーを積極的に用いて電力を販売している企業もあります。

問1で、契約電力会社を伺いましたが、まずは一般的な大手電力会社以外の小売り電力会社にはどのようなものがあるか調べてみましょう。何社見つかりましたか？

2020年二月現在日本には約600の小売電気事業者が登録されています。これらの企業には、再生可能エネルギーを積極的に用いている電力会社があります。この中から再生可能エネルギーを積極的に用いて電力を供給している企業を見分けてみましょう。

ある電力会社が1kWh当たりどれ位二酸化炭素を排出するかを判断するためには、排出係数を確認します。

表2 全国のCO2排出係数のランキング（2018年度）

	電力販売量 (千 kWh)	発電最大出力 (kW)	発電実績 (千 kWh)	CO2 排出量 (t-CO2/kWh)
自然電力	1517	0	0	0
一般社団法人グリーン・市民電力	2363	0	0	0
ネクストエナジー・アンド・リソース	3924	0	0	0
G-Power	33	0	0	0
日本エネルギー総合システム	451	0	5	0
リエスパワー	3644	0	0	0
北九州パワー	7115	0	0	0.000038
東京エコサービス	11714	0	0	0.000077
日立造船	34102	233059	52831	0.000191
横浜環境デザイン	246	0	0	0.000197
ところざわ未来電力	3174	0	0	0.000253
グリーンパワー大東	395	0	0	0.0003
タクマエナジー	2479	0	0	0.000305
東罐商事	3976	0	0	0.000313
出光グリーンパワー	44974	0	0	0.000324
エネサンス関東	1305	0	0	0.00034
中央セントラルガス	1789	0	0	0.000342
成田香取エネルギー	2204	0	0	0.000351
スマートエナジー磐田	2671	0	0	0.000354
テクノエフアンドシー	0	0	0	0.000358

（出典：エネルギー情報センター）

関西電力等大手電力会社の排出係数は一般的には496g-CO2/kWhですが、表2のように新しい電力会社（「新電力」と呼ばれる業種です）の中には排出係数がほぼ0または限りなく0に近い電力会社もあります。これら新電力の中には原子力発電を用いているものもあるので、一概に環境に配慮しているわけではありませんが、二酸化炭素のみを考慮した場合、排出係数の少ない電力会社と契約すれば、利用している電力全体の由来の二酸化炭素排出を限りなく少なくすることができます。

例えば、月300kWhの電気を使う世帯が、大手電力会社から表2の自然電力に乗り換えたとすると、CO2排出係数の差は1kWhあたり496gですから、年間の削減量は1.7トンになり、電力会社を乗り換えるだけで大幅なCO2排出量削減が可能となります。

初めに確認したあなたの電力使用量を基に、年間どれくらいの削減が可能か、確認してみましょう。

また、これらの「新電力」の中には、収益を住民福祉のために利用している電力会社もあります。

例えば、滋賀県湖南市には「てんとうむし 1 号」と名付けられた市民共同発電所があります。1997 年当時、設置費用 400 万円のうち、360 万円を一口 20 万円の出資を募る形で集めました。当時は出資者には金銭的メリットはほとんどないものの、地球温暖化防止のための機運を高めていく取り組みとして、かつドイツで行われていた固定価格買取制の成立を求める運動として注目を集めました。

この民間の市民出資の動きはその後行政を巻き込んだ形で結実していきます。2016 年には市と民間、商工会によって新電力「こなんウルトラパワー」が設立されました。電力調達は、市内の市民共同発電所や太陽光発電施設が中心で、全体の供給の約 55 % を占めます。こなんウルトラパワーは、それまで大手電力会社の収益として市外に流出していた電力収入を地域にとどめ、かつ収益を市内の福祉財源にする役割を担っています。このように、地域の再生可能エネルギーを利用することで、エネルギー対価が海外に移出するのを避け、かつ地域内にとどまった利益を住民福祉に役立てようとする新たな電力会社の可能性に注目が集まっています（的場 2018）。

5 再生可能エネルギー供給現場に行ってみよう

では、最後に、そもそもこういった電力会社に再生可能エネルギーを供給している再エネ生産現場はどのようなものでしょうか？ 農産物が、生産農家→卸市場→スーパー・小売→消費者の流れの中で取引きされるように、電力も発電事業者→市場などでの取引→小売電気事業者→消費者の流れに沿って供給と需要がつながっています。発電所と言うと大手電力会社の火力発電などが思い浮かべられると思いますが、発電事業者は日本全国に様々な規模で存在しています。

あなたの出身地などで再生可能エネルギーによる発電を行っている事業所を見つけて事業開始までの経緯や売電先・収益性・収益の利用目的等について調査してみましょう。

6 まとめ

電力やエネルギーについて、あまり知る機会が与えられてこない中、気候変動対策が社会全体で求められる事態となっています。義務教育やメディアなどでは、環境問題に対応するためには「ひとりひとりの自覚が大切」といったことがよくいわれます。自覚はもちろん必要ですが、同時に、自覚が結果につながるためにどんな社会的な制度を活用するか、といった判断が求められます。身の回りの事象を入口にしながらか、そこにとどまらず、是非「コンセントの先」にある「電源、燃料輸入、電力自由化と新電力の意義、国際情勢など」の広い社会的な事象と課題に目を向けるようにしていきましょう。

参考文献

エネチェンジホームページ「家電の電気代を消費電力から計算する方法」<https://enechange.jp/articles/electricity-consumption-calculation>（2020 年 1 月 31 日アクセス）

（一般社団法人）エネルギー情報センター「全国の CO2 排出量のランキング」<https://pps-net.org/ppscompany?ppskey=pps203#>（2020 年 1 月 31 日アクセス）

関西電力ホームページ「月々の電気料金のご説明」<https://kepcoco.jp/ryokin/shikumi/confirmation/>（2020 年 1 月 31 日アクセス）

関西ローカルエネルギーシステム研究会ホームページ <http://trust.watsystems.net/usopanhu.htm>（2020 年 1 月 31 日アクセス）

- 原子力文化財団ホームページ「最大電力発生日における1日の電気の使われ方の推移」<https://www.ene100.jp/zumen/1-2-10>（2020年1月31日アクセス）
- 財務省貿易統計(2019)「対世界主要輸出入品の推移」<https://www.customs.go.jp/toukei/suii/html/data/y2.pdf>（2020年1月31日アクセス）
- 資源エネルギー庁（2020）「エネルギー白書2019年度版」<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2019html/2-1-4.html>（2020年1月31日アクセス）
- 電気事業連合会ホームページ「電力需要に対応した電源構成」<https://www.fepc.or.jp/enterprise/jigyou/juyou/>（2020年1月31日アクセス）
- 東京電力ホールディングスホームページ http://www.tepco.co.jp/electricity/energy_situation/stable_supply.html（2020年1月31日アクセス）
- 的場浩二・平岡俊一・豊田陽介・木原浩貴（2018）「エネルギー・ガバナンス：地域の政策・事業を支える社会的基盤」学芸出版社

第 20 章

子供をもつという選択：少子化のゆくえ (坂爪聡子)

将来、子供をもつかどうかについて考えたことがある人は多いでしょう。人はどのように考えて子供をもつ・もたないという選択をしているのでしょうか？さらに、なぜ最近人は子供をもたなくなったのでしょうか？ここでは、少子化が進行した理由を経済学的に考えていきましょう。

1 はじめに

戦後すぐの 1947 年、日本の合計特殊出生率は 4.54 と非常に高い水準にあったが、1950 年以降は急低下して 1956 年には 2.22 まで落ち込み、その後は 2.1 台で安定していた。しかし、1970 年代半ば以降は、再び低下し始め、2005 年には 1.26 まで落ち込んだ。その後は若干回復し、2015 年には 1.45 まで上昇したが、その後は低下し、2021 年には 1.30 となった。この値は、他の先進国と比較しても非常に低い水準である。他の先進国でも戦後、出生率は低下したが、1990 年頃から回復し、2019 年にはフランスは 1.84、スウェーデンは 1.70、アメリカは 1.71 となっている。

なぜ日本はここまで少子化が進行しているのだろうか？その要因については、女性の社会進出、男性の経済的不安、教育費など経済的負担の増大、未婚化の進行など様々な指摘がある。これらを端的にまとめると、「女性の社会的地位が上昇しているにも関わらず両立環境の整備が不十分であるため、出産により仕事に大きな支障が出る。一方、男性の経済的不安が増加し、結婚して子供をもったときの経済的負担に耐えられない人が増加している。これらにより、結婚さらに出産という選択をする人が減少した」ということになる。

本章の目的は、戦後なぜ少子化が進行したのかという問題を経済学的に解明することにある。経済学は、人間は行動する際は常に、メリット（ベネフィット）とデメリット（コスト）を比較して選択する、という前提を持つ。その前提に従うと、戦後の日本の出生行動は次のように説明される。戦後すぐは子供をもつことのメリットのほうがデメリットよりも非常に大きかったが、出生率が低下した 1950 年代前半と 1970 年代半ば以降、①子供をもつことのメリットが低下したか、②子供をもつことのデメリットが上昇したか、③その 2 つが同時に起こったか、のいずれかと考えられる。

以下では、戦後の少子化現象を、1950 年代前半の出生率が急低下した時期と 1970 年代半ば以降の出生率が一貫して低下傾向にある時期の 2 つにわけて経済学的に解明する。

2 出生行動の経済分析：人はなぜ子供をもつのか？

戦後の出生行動の経済分析に入る前に、まず人はなぜ子供をもつのかということについて経済学的に詳しく説明していこう。経済学的には子供をもつことは、子供をもつメリットとデメリットを比較して選択されるということになる。つまり、問題となるのは子供をもつメリットは何か、またデメリットを何かということである。以下では子供をもつメリットとデメリットをあげていく（表1参照）。

表1 子供をもつことのメリットとデメリット

子供をもつことのメリット	子供をもつことのデメリット
①家系の継承	①養育費・教育費
②労働力の確保	②子供をもつことの機会費用 (=女性の逸失所得)
③老後の生活保障	
④子供の成長や子育てから得られる喜び	

子供をもつメリットは大きく4つにわけられる。以下では、表に従い、子供をもつメリットを上から順に説明していく。

まず、1つ目のメリットとして、①家系の継承ということがある。これは、家を継いでくれる存在としての子供の価値を意味している。戦前の日本には家制度が浸透しており、家系を継承させていくことは人々にとって非常に重要なことであった。このような時代、家系を継承してくれる存在として子供の価値は非常に大きかった。

次に、2つ目のメリットとして、②労働力の確保ということがある。これは、労働力として所得を獲得する存在としての子供の価値を意味している。戦前・戦中の日本は第一次産業が中心であり、多くの人が農業などの第一次産業に従事していた。このような社会において、子供というのは家業・家事の担い手として価値が高かった。

さらに、3つ目のメリットとして、③老後の生活保障ということがある。これは、親が高齢になったとき、親の生活を保障してくれる存在としての子供の価値を意味している。社会保障制度が確立しておらず、老後に向けた貯蓄をする余裕のない時代において、親にとって子供というのは老後の世話をしてくれる存在として非常に価値が高かった。

最後に4つ目のメリットとして、④子供の成長や子育てから得られる喜びや満足ということがある。これは、親としての喜びを与えてくれる存在としての子供の価値を意味している。現代はこのメリットが一番大きくなっている。国立社会保障・人口問題研究所「出生動向基本調査」では、子供をもつ理由として「子どもがいると生活が楽しく豊かになるから」と回答する人の割合が圧倒的に大きくなっている。

一方、子供をもつデメリットは2つある。まず1つ目は①養育費や教育費など子供にかかる費用がある。これは、子供の衣食住や教育などにかかる直接的なコストである。

次に2つ目のデメリットとして、②子供をもつことの機会費用がある。経済学ではコストを考えるとき、直接的なコストだけでなく「機会費用」というものも考慮する。「機会費用」とは、もし他の選択をしていれば得られたであろう効用（満足度）のことである。つまり、子供をもつことのコストとは、前述したような直接的なコストだけでなく、もし子供を持たずに他の選択肢を選んでいたら得られたであろう効用も考える必要がある。ここで他の選択肢とは何か考えていこう。子供をもたない

と何ができるか、すなわち子供をもつことによってあきらめなければならないことは何かということである。子供をもつと時間的にも経済的にも大きな負担がある。そのため、仕事や趣味など多くのことをあきらめなければならない。その中でも、女性にとって、仕事における影響は大きい。子供をもたないときは残業も出張もこなしバリバリ働けるが、子供をもつことによって仕事に大きな制約を受ける。場合によっては、仕事自体を辞めざる得ない可能性もある。とすると、機会費用として考えるべきことは、「女性が子供をもたずに働き続けたら得られたであろう効用」である。これには、具体的には昇進の機会、やりがいのある仕事など様々あるが、最もわかりやすいのは収入であろう。つまり、女性が子供をもたずに働き続けたら得られたであろう収入である。このとき、機会費用は（子供をもたずに働き続ける場合の生涯所得）－（子供をもつ場合の生涯所得）、つまり子供をもつことによる逸失所得となる。この機会費用は、高賃金で、かつ子供をもつことにより仕事に大きな影響が出る女性ほど大きくなる。

以上見てきたようなメリットとデメリットを比較して、人は子供をもつかどうか決定することになる。前述したように、デメリットよりメリットが大きい時は子供をもつことになる。ということは、1950 年以前の多産社会とは子供をもつことのメリットが大きい社会と考えられ、現在のように少子化が進行している社会とは、子供をもつことのメリットが小さいか、あるいはデメリットの大きい社会と考えられる。それでは、1950 年以降の日本人の出生行動を経済学的に解明していこう。

3 戦後の少子化現象：なぜ人は子供をもたなくなったのか？

3.1 多産社会

1950 以降の少子化現象について説明する前に、そもそも 1950 年頃までなぜ人は子供を多くもっていたのかということについて考えていこう。合計特殊出生率が取られ始めたのは 1947 年からであり、それ以前については出生率（人口千人当たりの出生数）のデータしかない。その出生率を見ると、1950 年以前は 30 を超えているが、それ以降は減少し続け、2017 年には 7.6 まで減少している。この値の推移から見ると、高齢化の影響を考慮しても 1950 年以前は現在と比較すると 1 人がもつ子供の数が非常に多いことが推測され、いわゆる多産社会であったと言える。この時期は、経済学的には子供をもつメリットが非常に大きかったと言える。

では、子供をもつメリットの中でも何が大きかったのであろうか？それは、メリットの中でも①と②と③のメリットが大きかったのである。詳しく説明すると、まず①家系の継承については、先に述べたようにこの時代は家制度が浸透しており、家系を継承してくれる存在としての子供の価値が非常に高かった。さらに、この時期は、第一次産業中心の社会であり、多くの人が農業に従事していた。機械化も進んでおらず、人力で作業しており、子供は貴重な労働力であった。そのため、②労働力の確保というメリットが非常に高かった。最後に、この時代、社会保障制度が確立しておらず、人々も老後に向けた貯蓄をする余裕もなかった。そのため、親は老後の生活を子供に頼らざるを得なかった。このような状況において、③老後の生活保障というメリットは非常に大きかった。以上見てきたように、この時代は社会の状況が現在と大きく異なっており、親にとって子供をもつ意味が今とは違っていた。経済学的には、この時期、親にとって子供は投資財、今育てておけば後々見返りがある（労働力になり、老後を見てくれ、家系を継承してくれる）存在であったと言える。

3.2 少子化の進行

1950 年から 1955 年頃まで

では、1950 年以降の少子化現象について説明していこう。1947 年から 49 年のベビーブーム以降、合計特殊出生率は急低下する。この時期に何が起こったのであろうか？それは経済学的に言えば、戦後に日本の社会が大きく変化し、子供をもつメリットが大きく低下したからである。

では、子供をもつメリットの中で何が低下したのであろうか？それは、それ以前に非常に大きかったメリットの①と②と③が低下したのである。詳しく説明すると、まず戦後、家制度が廃止され、家系を継承することの重要性が小さくなった。そのため、家系を継承してくれる存在としての子供の価値は低下したのである。次に、日本の産業構造が大きく変化し、第一次産業中心から第二次産業中心へと移行した。それに伴い、農業従事者が大幅に減少し、雇用者が急増し、日本はサラリーマン中心社会へと移行していった。この変化の中で、子供を労働力として必要としない人が増加し、労働力としての子供の価値が低下していった。最後に、戦後、社会保障が発展し始め、公的な医療保険制度や年金制度などが整備されていった。さらに、雇用者の所得も上昇して老後にそなえ貯蓄をする余裕もでき、老後を子供に頼る必要のない人が増加していった。以上のように、戦後日本の社会は大きく変化し、それに伴い親にとって子供をもつ意味が変化し、子供をもつメリットは④中心へと移行した。戦前、戦中は親にとって子供は投資財のような存在だったが、戦後は今現在喜びを与えてくれる、いわば消費財のような存在へと変化したのである。

1970 年代半ば以降

戦後、子供をもつメリットが大きく低下し、合計特殊出生率は急速に低下した。しかし、それ以降、高度経済成長期の間は、2.1 台で安定していた。しかし、1970 年代半ば以降、出生率は低下し始めた。なぜ、1970 年代半ば以降、出生率は低下しだしたのであろうか？それは経済学的に言えば、子供をもつデメリットが上昇したからである。

では、子供をもつデメリットのどちらが上昇したのであろうか？答えは 2 つともである。つまり、①養育費・教育費と②子供をもつ機会費用ともに上昇したのである。まず①養育費・教育費がなぜ上昇したのか説明する。養育費・教育費の上昇には、先に述べた親にとって子供は消費財となったことが大きく影響している。親にとって、子供は消費財、より限定して言うと耐久消費財と同じ性質をもつようになった。耐久消費財とは、車や家電製品のように耐用年数の長い財のことである。つまり、親にとって子供は自立するまでの 20 年近くの長期間にわたり喜びを与え続ける財となった。では、耐久消費財、ここでは車を例に挙げて、その消費パターンを考えてみよう。例えば、今安い国産車に乗っていたとする。もし、収入が 2 倍になったらどうするであろう。ふつうは同じような車をもう 1 台買おうとは思わないだろう。ほとんどの人はより高価な車に乗り換えようとするであろう。なぜなら、耐久消費財は、非耐久消費財（消耗品）と異なり、数を増やすことにはあまり意味がない。それよりも、質を高めることに意味があるからである。このことが、子供に起こったのである。つまり、高度経済成長期を通して親の所得は上昇を続けた。その中で、人々はより多くの子供をもとうという選択ではなく、より質の高い子供をもとうという選択をしたのである。そして、子供の質を高めるために、習い事をさせ、塾に通わせ、よい学校に入れようとし、子供にかかるお金を増やしていったのである。日本は、特に教育費は所得に敏感に反応する。内閣府（2005）の計測では教育費の所得弾力

性（所得が1%上昇すると教育費がどれだけ増加したか）は1.3%である*1。つまり、所得の上昇以上に教育費を増やしているである。その結果、現在子供にかかる教育費は非常に高くなっている。現在の教育費を文部科学省（2019）と日本政策金融公庫（2019）のデータより試算すると、幼稚園から大学までずっと国公立に通うケースでは1318万円、幼稚園から大学まで私立に通うケースでは、文系で2798万円、理系で2894万円となっている。

一方、もう一つのデメリットである②子供をもつ機会費用も1970年代半ば以降上昇していった。機会費用は女性の社会進出に伴い上昇する。就業している女性、それも賃金の高い女性が増えると機会費用は上昇する。そもそも、働いている女性が少なく、かつ女性の賃金が低い社会では、機会費用は低い。なぜなら、そのような社会では、女性は出産によって就業において失うものは小さいからである。一方、働いている女性が多く、かつ女性の賃金が高い社会では、機会費用は大きくなる。なぜなら、そのような社会では、子供をもつことによって仕事に支障が出たり、仕事を辞めざるを得ない場合、出産により失うものは非常に大きいからである。日本では、高度経済成長期以降は、第二次産業にかわり第三次産業が大きく成長した。サービス産業などの第三次産業は、製造業などの第二次産業と比較すると、女性の働きやすい職場である。また、オートメーション化も進み、事務など女性ができる仕事も増加した。そのため、女性の就業機会は増加した。同時に、1980年代から女性の大学進学率が上昇し始め、女性の高学歴化が進み、女性の就業機会も大きく広がった。そして、高学歴の女性や専門職の女性の賃金は、高い水準に達した。しかし、一方で、依然両立環境は整備されておらず、多くの女性は出産によって仕事を辞めざるを得なかった。そのため、高度経済成長期以降、つまり1970年代半ば以降、女性の機会費用は上昇していったのである。周（2019）の試算によると、30歳まで正社員として働き、40歳で再就職して64歳までパートとして働いた場合、機会費用は、高卒女性のケースでは1.12億円、大卒女性のケースでは2.01億円となる。さらに、30歳で退職してずっと専業主婦を続ける場合、機会費用は高卒女性のケースでは1.42億円、大卒女性のケースでは2.31億円となる。つまり、女性が出産により退職すると、約1～2億の所得を失うことになる。

以上見てきたように、経済学的には戦後の少子化は2段階にわたって進行したと言える。まずは、戦後すぐの少子化である。これは、戦後に社会が大きく変化したことによって、親にとって子供をもつ意味が変わり、子供をもつメリットが低下したことで説明される。次に、高度経済成長期以降の少子化である。これは、高度経済成長期以降、子供の質に対する関心が高まったことや女性の社会進出が進んだことによって、子供をもつデメリットが上昇したことで説明ができる。

では、現在はどうなのであろうか？出生率は2005年の1.26を底に上昇しているが、その上昇の勢いは小さく、上昇と停滞を繰り返し、ここ数年は低下し続けている。さらに、完結出生児数（結婚持続期間15～19年の夫婦の子ども数）の値は、1972年から2002年まで一貫しておおよそ2.2人を維持していたが、2005年から減少し始め、2010年には2を下回り、2021年には1.90まで低下した。これは、経済学的には、デメリットの上昇が続いていると考えられる。とすると、1990年以降、次々実施されている少子化対策は効果がなかったのだろうか？次節では、現在、さらに今後の少子化について考え、必要な少子化対策は何か考えていく。

*1 内訳をみると、授業料等は1.1%、補習教育は1.7%、教科書・学習参考教材は1.3%となっており、補習教育費が所得に対する増加が最も大きいことがわかる。

4 少子化対策

4.1 少子化社会のゆくえ

なぜ、日本は出生率が上昇しないのであろうか？デメリットが低下していないのであろうか？確かに、デメリット①の教育費・養育費は低下していないように考えられる。しかし、一方、デメリット②の機会費用については低下している可能性が高い。なぜなら、出産後も就業継続する女性が2000年以降顕著に増加しているからである。機会費用を最も高めるのは、出産により仕事をやめることである。とすると、就業継続する女性が増えていることは確実に機会費用を低下させていると考えられる。

では、なぜ出生率が回復しないのであろうか？理由として、未婚化の進行が指摘されている。合計特殊出生率とは、「15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」であり、未婚の女性も含まれる。そのため、この水準は結婚の状況と子供数の状況によって決まってくる。つまり、未婚化と完結出生児数の減少によって値は低下する。日本では、実際に夫婦が産んだ子供数である完結出生児数が1972年から2002年まで一貫しておおよそ2.2人を維持していることから、晩婚化（結婚年齢の遅れ）や非婚化（生涯結婚しない人の増加）が出生率を引き下げていると言われている。

本当に人々が結婚しなくなったことが少子化を進行させているのだろうか？少子化の要因は晩婚化・非婚化なのだろうか？経済学的に考えると、理論上は結婚と出生は同時決定である。つまり、人は結婚を決定する時点で出生についても決定しているのである。そのため、Becker(1995)は、子供の需要（希望子供数）の少ない人は遅く結婚すると指摘している。とすると、子供の需要の減少と晩婚化は同時に進行しており、また子供の需要がゼロになることと非婚化は同時に進行しているのである。特に、日本のように婚外出生率が非常に低く、結婚と出産が強く結びついている国ではこの理論はより強く当てはまるであろう。さらに、近年、結婚のメリットの中で、子供がもてるというメリットを重視する人々が急増している。「出生動向基本調査」では、結婚の利点として、男女とも「子どもや家族がもてる」を挙げる人が急増しており、女性では2002年調査よりトップに、男性でも2010年調査でトップになった。とすると、子供への需要が減少しているから晩婚化・非婚化が進行しているともいえる。

つまり、晩婚化・非婚化ではなく子供の需要自体が減少していることが少子化の要因であると言える。では、需要減少の理由が機会費用などのコスト上昇だけでは説明できないとすると、何が理由なのであろうか？一つには、メリットが低下している可能性が考えられる。現在、子供をもつメリットは④子育てや子供の成長から得られる喜びが中心である。このメリットが低下している可能性がある。このメリットは精神的なものであり、データで証明することは困難であるが、この可能性を考える必要はある。もう1つの可能性としては、機会費用の上昇である。機会費用といっても出産による女性の生涯所得の損失ではない。今までは、機会費用を考える際に女性の就業に与える影響のみに焦点が当てられてきたが、他にも多くのことが考えられる。例えば、子供をもちながら趣味や友人との付き合い、自由な時間を楽しんでいたら得られたであろう効用などがある。これらの効用が大きくなっているのではないだろうか？「出生動向基本調査」の独身者への調査で独身生活の利点として、「行動や生き方が自由」と答える割合が上昇している。特に女性は大きく上昇している。また、「家族扶養の責任がなく気楽」や「住環境の選択幅が広い」と答える人の割合も上昇しており、人々がより自由を志向していることがうかがえる。とすると、自由に時間やお金を使える効用は大きくなり、子供をもつことによって失われるものは大きくなっている可能性が高い。

4.2 少子化対策

子供をもつか、もたないかは個人の選択であり、個人の意思に任せるべき問題である。つまり、メリットとデメリットを比較して最終的に選択するのは個人である。とすると、政策的に許されることは、子供をもつメリットを上昇させるか、あるいは子供をもつデメリットを低下させるような環境整備を行うことである。メリットについては、現在は精神的メリット中心になっており、それを政策で上昇させることは困難である。とすると、デメリットを低下させる対策を考える必要がある。では、デメリットの中でもどちらのデメリットを低下させることを優先すべきであろうか？それは、費用の金額を比較するとわかる。先に述べたように、子供の養育費・教育費は3千万程度である。一方、機会費用は2億近くになる場合もあり、圧倒的に機会費用のほうが大きくなっている。確かに、女性の就業継続率は上昇しているが、依然、出産により就業を中断する女性は多い。さらに、再就職においてはパートタイムを選択する女性が非常に多い状況も変化していない。とすると、機会費用は依然高い水準であると考えられ、機会費用を減少させるほうを優先すべきではないだろうか？他の先進国を見ても、女性の就業継続が可能で、機会費用が低い国ほど出生率が回復しており、機会費用を低下させることは少子化対策として効果が期待できる。

では、機会費用を低下させるためにはどのような対策が考えられるであろうか？機会費用を低下させるには、女性が就業継続できるような環境を整える必要がある。そのためには、3つの対策が必要である。

第一に、育児休業制度の取得促進である。出産後、1年間は子育てに非常に手間がかかり、女性にとって体力的に負担の大きい時期である。出産後1年間休業でき、元の職場に復帰できる育児休業制度は必要である。そのため、希望する人がすべて育児休業を取得できるようにする必要がある。特に取得率の非常に低い男性については、その後の育児参加にも影響を与えるため、取得促進させる必要がある。

第二に、保育サービスの充実である。育児休業からの復帰後、子供を預けられる場所がないと就業継続は難しい。ここ数年で待機児童の数は大幅に減少したが、隠れ待機児童（潜在的待機児童）の数は依然多い。希望するすべての人が保育サービスを利用できるように早急に量的拡充を図る必要がある。

第三に、労働時間の短縮・柔軟化である。保育サービスに預けられたとしても、長時間労働が続く場合、やはり就業継続は難しくなる。そのため、短時間勤務制度などの制度の取得促進を図るなどして就業時間の短縮、さらには柔軟化する必要がある。加えて、男性も含めすべての労働者の労働時間の短縮・柔軟化に取り組むべきである。

以上のような両立環境を整備し、両立の負担を減少させることは、機会費用を低下させるだけでなく他にも効果が期待できる。共働きが可能となれば、世帯所得が上昇し、子供の養育費・教育費の負担も減るであろう。さらに、子供をもつことの経済的負担が減少し、両立することの体力的・精神的負担が減少して、子供とゆっくり接する時間的余裕ができると、子育てや子供の成長から得られる喜びも増加する可能性がある。つまり、子供をもつことのデメリットは大幅に低下し、メリットも上昇する可能性がある。しかし、先述したように現在の自由主義や個人主義の高まりが少子化の根底にある場合、対策によって出生率を回復させることには限界がある可能性がある。

〈課題〉

- あなたが今必要と考える少子化対策は何か？
- その対策の必要性や効果を経済学的に説明しましょう。
- 大学進学の設定などこれまでの人生における選択を1つ挙げ、なぜその選択をしたのか経済学的に説明しましょう。

(参考文献)

- Becker, G. S. (1973), "A Theory of Marriage:Part 1", *Journal of Political Economy*, Vol.81, No.4, pp.813-846.
- 周燕飛 (2019) 『貧困専業主婦』、新潮社。
- 内閣府 (2005) 『平成 17 年版国民生活白書』。
- 日本政策金融公庫 (2019) 「平成 30 年度教育費負担の実態調査結果」
- 文部科学省 (2019) 「平成 30 年度子供の学習費調査の結果について」

第 21 章

今日の日本経済：経済学事始め（鳥谷一生）

はじめに

2020 年、凡そ半世紀ぶりの東京オリンピック開催を目前とした日本には、一種のお祭りムードが漂っている。しかし、足下の日本の経済社会は「超少子高齢社会」を迎え、その先行きは極めて厳しいといわざるをえない。

本章では、これからの 21 世紀、皆さん方が生きていく上で、日本の経済社会についてどのように考えていったらいいのか、GDP と財政データを使って問題提起を行う。

1 日本の GDP について

日本経済を視るために、まずは国内総生産 (GDP, Gross Domestic Product) を取り上げよう。高校で学習した通り、GDP とは一定期間、例えば一年間に日本の国内 (国境内) で生産された財・サービスの付加価値の合計である*1。したがって、日本で在留許可を得ている外国籍の人たちが日本国内で得る所得もカウントされている*2。

他方、国民総生産 (GNP, Gross National Product) は、日本人や日本企業の海外現地法人が得た所得が日本に送金された場合、これを GDP に加算していく一方で*3、外国人や外国企業の日本法人が日本国内で取得した所得が海外に送金された場合、これを GDP から差し引くことで得られる。このように加算・差し引かれる所得を要素所得といい、統計上 $GNP = GDP + (\text{海外からの受け取り要素所得} - \text{海外への支払い要素所得})$ となる*4。

また GDP には、名目値と実質値とがある。名目値とは粗の数値、実質値とはインフレーションやデフレーションといった物価変動の影響を調整した数値で、この調整係数を GDP デフレーター*5という。もっとも、物価の上昇や下落の要因は様々*6、例えば消費税率が引き上げられると、それが

*1 このように一定期間での集計概念をフロー (flow) といい、後出のストック概念と比較のこと。

*2 GDP の統計データは、内閣府「国民経済計算」web サイト (<https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/menu.html>) から入手可能である。

*3 1993 年以降 GNP は使われなくなり、数値上同じである国民総所得 (GNI, Gross National Income) という用語が使われている。

*4 要素所得については、「国際経済学」の国際収支論でも取り上げている。

*5 一般に実質 GDP = 名目 GDP / GDP デフレーターと規定できるが、計測方法も含めて計量経済学と統計学の知識を要する。

*6 需要が物価を押し上げるディマンド・プル、財・サービスを産出するに当たって原材料費や人件費の上昇によって物価

物価上昇に反映され名目 GDP の増大として表れる。

いま 2010 年度と 2018 年度の名目と実質の GDP をみると、名目では 499 兆円から 549 兆円へ 1.1 倍、実質では 493 兆円から 533 兆円へ 1.08 倍へと各々増大している。このことは日本経済が 9 年間をかけて名目値で 10%、実質値で 8% 成長したことを意味している。これを単純に年率換算して経済成長率を求めれば、名目値で年率 1.11%、実質値で 0.88% の伸びということになる。

ところで、GDP の名目値と実質値をみると、名目値が実質値を上回っていることが分かる。日本経済は物価が下落するデフレ状態といわれるが、名目値が実質値を上回っていることから、日本経済はデフレ状態を脱したといえそうである。しかし、2014 年 4 月に 5% から 8% に引き上がった消費税率のことを考えれば、判断は難しくなる。なぜなら、2018 年度の名目と実質の GDP の差は僅かに 16 兆円で、名目/実質でほぼ 3% の差でしかないからである。つまり名目と実質の GDP の差は、引き上げられた消費税率分を反映しているだけに過ぎないことになる。

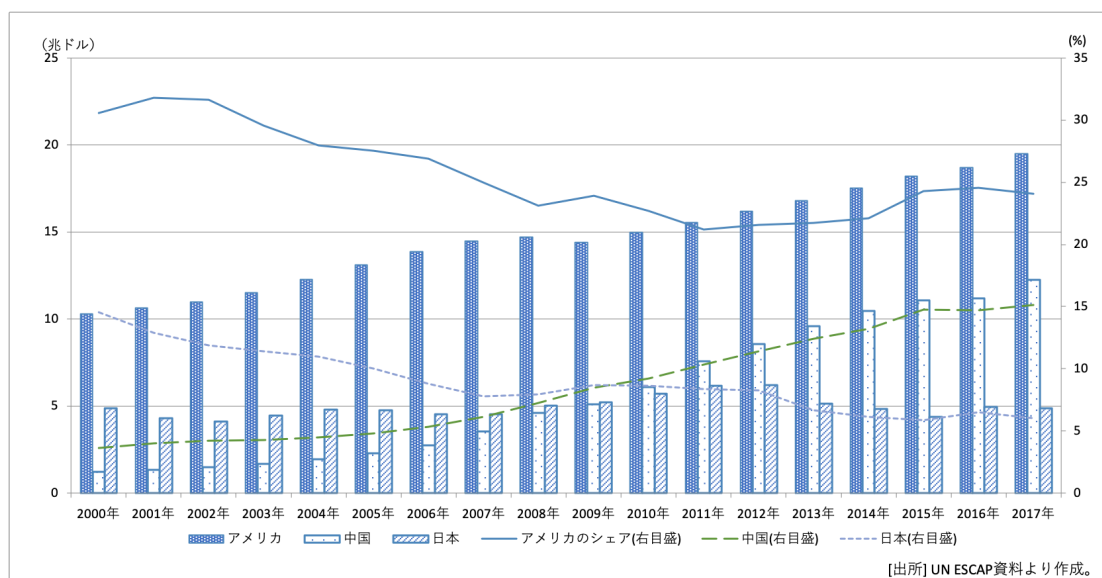


図 1 世界とアメリカ・中国・日本の名目 GDP の推移

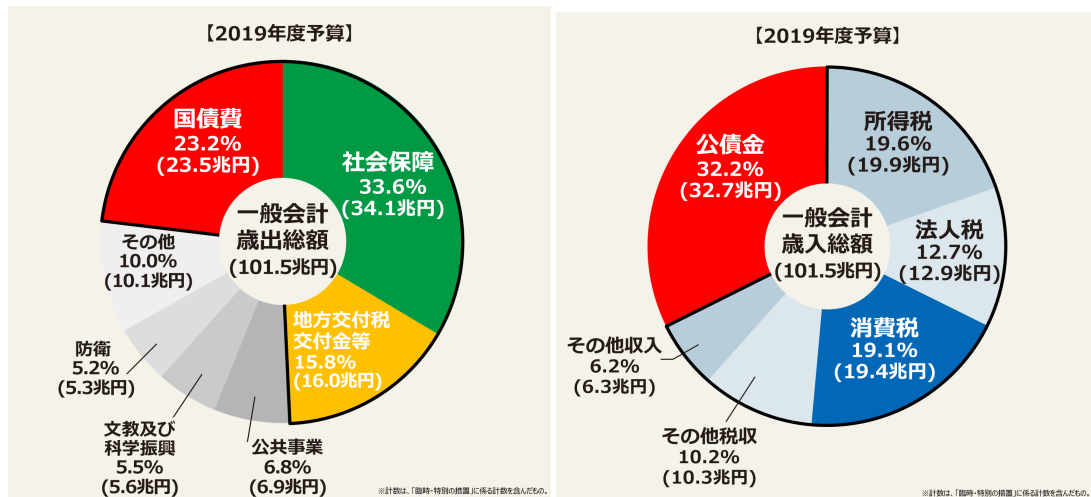
尚、図 1 はアメリカ、中国、日本の名目 GDP を示している。2010 年、日本の GDP 規模を追い抜いた中国は、この間驚異的な経済成長を遂げてきた。最近では中国の経済成長率も落ちてきたといわれるが、それでも 2019 年のそれは年率 6% 近辺であった。日本経済からすれば異次元の経済成長率ということになるが、日本経済も 1960 年代に同じように名目で年率 10% 以上の高度経済成長を経験した。名目で年率 10% 以上の経済成長率とは、1 年間に所得が 10% 増えるということだが、これが 10 年続くとどうなるだろうか。基準年の GDP に対し翌年には 1.1 倍、二年目には $1.1 \times 1.1 = 1.21$ 、三年目には $1.21 \times 1.1 = 1.331$ ……となって、10 年目には 2.59 倍となる。年収 400 万円の家庭が 10 年後には年収 1000 万円以上になると想像したらよい。正に Dream である。

しかし、そうした高度経済成長の裏側で、多くの人命を犠牲にした公害問題が発生し、今日の「超少子高齢社会」の根本的原因ともいべき地方から都市への大規模な社会的人口移動が始まったことを忘れてはならない。

が上昇するコスト・プッシュが代表的なインフレ現象である。

2 日本の財政について

「超少子高齢社会」に突入し厳しさを増す日本経済の状況は、財政状況にも端的に表れている。21 世紀のこれからの時代を生きていくためにも、今後の日本の経済社会と財政について考えていく必要がある。



〔出所〕財務省『これからの日本のために財政を考える』、2019)

図 2 2019 年度一般会計歳出・歳入

図 2 は、2019 年度の政府予算 101.5 兆円の歳出・歳入の内訳である。歳出では、社会保障費（年金・医療・介護、子供・子育てのための支出）34.1 兆円、国債費（過去に発行した国債の返済＝償還と発行中の国債の利子支払いの経費）23.5 兆円、地方交付税交付金等（中央と地方とのバランスを図るために地方公共団体に配分される経費）16.0 兆円であった。残る公共事業・文教費・防衛費・その他といった、いわば時々の政権によって多少裁量が利く政策経費は 27.9 兆円で、全体の 27.5 % でしかない。歳入では、個人所得税 19.9 兆円、企業が負担する法人税 12.9 兆円、消費税 19.4 兆円で、小計 52.2 兆円、歳入総額の 51.4 % でしかない。歳入の最大項目は公債金＝国債発行、すなわち借り入れで 32.7 兆円、32.2 % を占める。日本の財政が国債依存の借金財政といわれる理由もここにある。図 3 は、こうした日本の財政の特質を 1975 年に遡って示している。

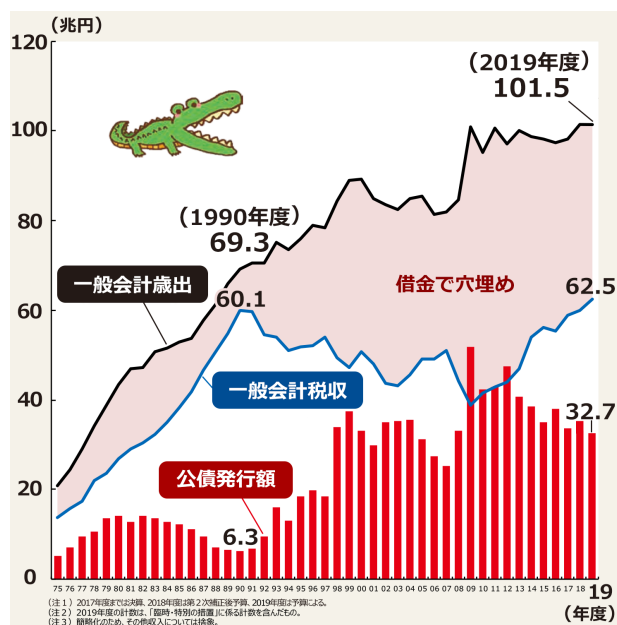


図3 歳入 - 歳出の暦年変化

歳出 - 歳入の差額——口を開けたワニに例えられる——は政府の収入不足 - 財政赤字であり^{*7}、赤字分はこれまで毎年国債 = 公債の発行で賄われてきた^{*8}。最近よくプライマリー・バランス（基礎的財政収支）という用語を耳にするが、これは国債発行で調達した財政資金を除いた歳入——つまり歳入・税外収入^{*9}——と国債費を除いた政策経費との差し引き収支のことをいう。したがって、プライマリー・バランスの均衡化とは、政府の歳出を借入金することなく歳入等の内に収めることを意味し、均衡財政主義を主張するに等しい。

では財政悪化の要因は何か。図4をみると、一目瞭然、歳出の増大要因が社会保障費と国債費によることわかる。社会保障費の増大が「超高齢社会」を反映したものであることはいままでもない。国債費の増大は、国債の償還資金と発行中国債への利払い費を新たな国債発行で資金調達しているためである。借金返済のために借金を重ねる自転車操業、これが日本の財政の実情である。この結果、2019年度末の政府の債務残高は928兆円（対GDP比160%）となり^{*10}、これに地方公共団体の債務194兆円を合わせた債務総額は1122兆円（同200%）となる^{*11}。日本の総人口1億2千万人として、一人当たり935万円の債務負担となる

そこで歳出・国債費増大の元凶である社会保障費カット、或いは社会保障費の財源たる年金・健康保険等保険料引き上げの必要性が指摘されている。確かに、「超少子高齢社会」を迎えた今日、財政

^{*7} 財政の会計年度は4月に始まり3月に終わるが、年度途中で大規模災害が発生し巨額の復興事業費が必要となったり、経済環境の激変を受けて大型景気対策を行う必要が出てくる。政府は、これらの財政資金を手当てすべく、年度当初の予算とは別に臨時国会において補正予算を成立させて執行する。したがって政府財政は、本予算と補正予算を合算した決算でみる必要がある。

^{*8} 国債 = 公債には、建設国債と特例国債（赤字国債）がある。前者は、政府が公共事業を行うに当たって財政資金を調達する目的で発行され、「財政法」第4条に規定されていることから、「4条公債」ともいわれる。後者は、公共事業経費以外の政府の一般的行政経費（水光熱費、公務員給与を含む）に充てられる財政資金調達のために発行される国債である。但し、上の「財政法」第4条には特例国債発行の規定がないため、政府は国会での予算審議において毎年特例国債発行に係る特例法を組み合わせることで成立させている。

^{*9} 税外収入とは、例えば国有財産である政府施設の利用収入、国有財産の売却収入、中央競馬会の納付金などである。

^{*10} このように一定期末の残高での集計概念をストック（stock）という。

^{*11} 数字は財務省『日本の財政関係資料』2019年、5ページより。

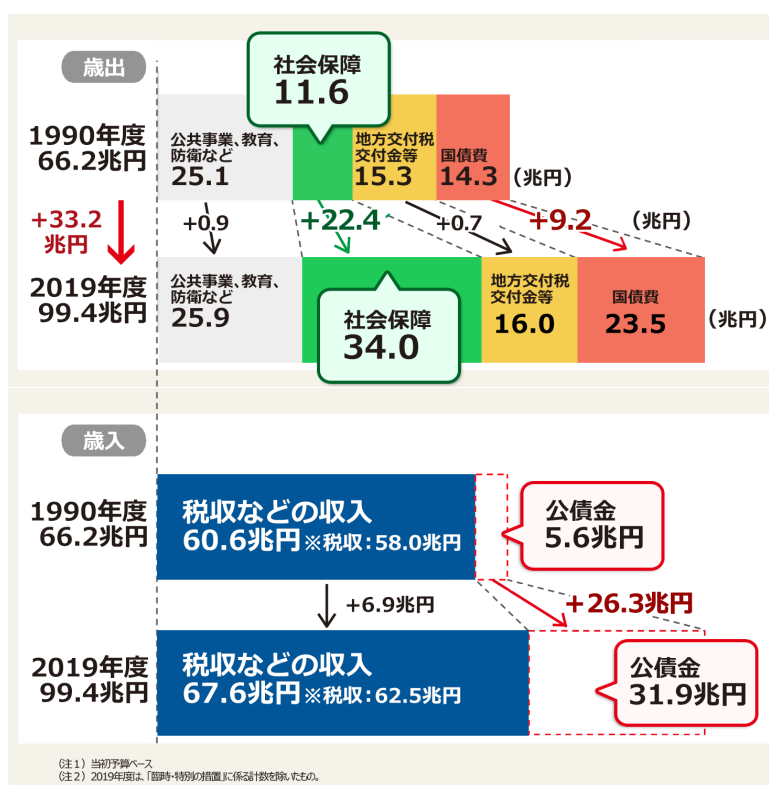


図 4

と社会保障の将来ビジョンを再設計することは喫緊の政策課題ではある。だが、ここで立ち止まって考えるべきは、1990 年度 66.2 兆円であった歳出＝歳入が 2019 年度には 99.4 兆円へ 33.2 兆円増大する一方で、税金等は 60.6 兆円から 67.6 兆円へと僅かに 6.9 兆円しか増えていないことである。明らかに税金不足である。

ところで、内閣府の資料によれば、1990 年度の名目 GDP は 463 兆円（実質 411 兆円）であった。本原稿執筆時点では 2019 年度の GDP は未だ明らかになっていないため、2018 年度の数値を使うと、前出の通り、名目 GDP 549 兆円（実質 533 兆円）であった。つまり、1990 年度と 2018 年度の GDP を比較すると、名目で 1.18 倍、実質で 1.30 倍、歳出規模は同期間に 1.50 倍に膨らんでいる一方で、財政赤字のもう一つの原因である税金等収入は 1.12 倍増に留まっている。そこで簡単な二つのシミュレーションをやってみよう。

第一に、1990 年度税金等収入 60.6 兆円を 1990 年度と 2018 年度の歳出規模の比である 1.50 倍に増やすと、90.9 兆円となる。

第二に、1990 年度税金等収入 60.6 兆円を 1990 年度と 2018 年度の名目及び実質 GDP 比である 1.18 倍と 1.30 倍相当額に増大させると、各々 71.5 兆円と 78.8 兆円となる。

いずれであれ、歳出規模或いは GDP の増大に見合った歳入確保が果たされていれば、毎年の国債発行額も抑制できたことは明らかである。したがって、過去 30 年間に増税によるしかるべき歳入確保策が講じられていれば、今日危機的状况にまで陥った財政赤字は回避できたかもしれないし、その分社会保障制度も持続可能であったかもしれない。だが、そうした増税策を講じることができない「負の遺産」を日本経済は背負っていたのである。

3 バブル経済の後遺症から脱却して「超少子高齢社会」に相応しい経済社会とは

前掲図 3 をみれば、1992 年、1998 年に公債発行が一段と増大したことが分かる*12。この時期、1980 年代後半のバブル崩壊と 1990 年代末の金融危機を受けて、巨額の公共事業による景気刺激策が次々と打たれた時代であった。しかも、この間時には個人所得税率の引き下げもあったが、法人税率は断続的引き下げられてきた事実がある。実際、1999 年度 34.5 %であった法人税率は 30.0 %に、その後 2011 年度 25.5 %、2015 年度 23.9 %、2017 年度 23.4 %にまで引き下げられてきた。

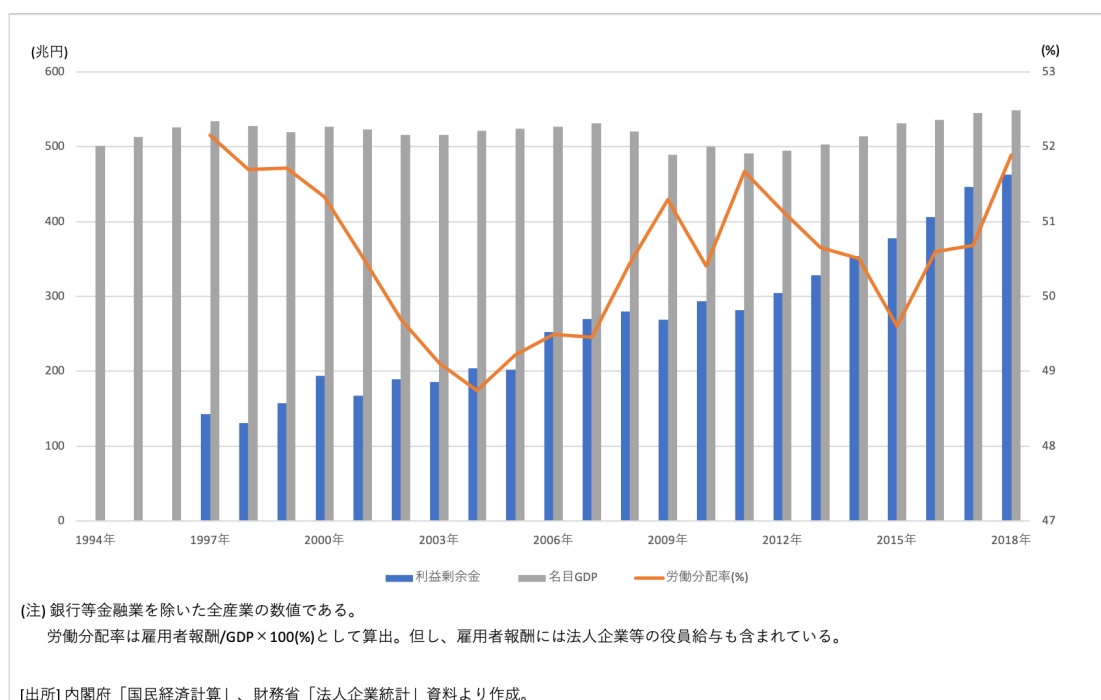


図 5 日本の GDP・全産業企業利益剰余金と労働分配率の推移(年度)

勿論、2008 年にはアメリカ発世界金融機が勃発し輸出企業は苦境に陥ったし、2011 年には東日本大震災も発生した。しかし、図 5 に示される通り、こうした税制支援を受けた法人企業が、今日軒並み過去最高水準の利益を計上し、内部留保を積み上げている。その額たるや日本経済の名目 GDP500 兆円規模に迫る勢いである。その一方で、一般家計を支える勤労者所得の対 GDP 比は近年辛うじて復調の兆しがあるだけである。加えて、2019 年 10 月消費税率は 8 %から 10 %へと引き上がり、2019 年度第 IV 四半期比の実質 GDP は、対第 III 四半期マイナス 1.6 %減、年率マイナス 6.3 %という速報値が報じられている。

日本の「格差社会」が指摘されて既に 20 年以上の歳月が経つ*13。しかし、今日社会のセーフティー・ネットは壊れ、労働現場は非正規雇用が蔓延している。保護者の雇用環境・所得水準の激変

*12 1989 年～1990 年に公債発行額が急激に減少しているのは、バブル経済の好景気によって、税の自然増収があったためである。

*13 本学には、我が国において「格差社会」に関する経済学研究の第一人者である橋本俊詔先生が客員教授として在職されている。先生ご著書の『日本の経済格差－所得と資産から考える』岩波新書、1998 年、『格差社会－何が問題なのか』岩波新書、2006 年は、この分野の必読文献である。

は学生生活を直撃し、卒業後も貸与奨学金の返済で生活苦に面する社会人が多いと報じられている。

さて、21 世紀の日本の経済社会、持続可能であろうか。これから本学で学ぶ皆さんと共に考えていければと期待しています。

【課題】

日本の GDP が 500 兆円を少し上回ることは、冒頭に記しました。では、皆さん方の出身都道府県・市長村の人口と GDP はどうでしょうか？日本の総人口と GDP の何%を占めていますか？産業構造・観光資源・特産品はどうでしょうか。いろいろと調べて紹介して下さい。データは各々の都道府県庁・市町村役場の HP に掲載されています。

また、国際社会専攻に所属する学生さんに限らず、英語に興味がある方、是非英語での「お国自慢」にチャレンジして下さい。外国の人と交流する際、自己紹介の小道具として必ずや役に立つはず。最近では都道府県庁・市町村役場の HP に英語版があったりしますから、英文作成の際には大いに利用しましょう。

第 22 章

カネの面から会社をみてみよう（掛谷純子）

1 はじめに

日頃ニュース等で、「A社が発表した決算では、純利益が前年同期比 7%増の 19 億円、売上高が 3%増の 1,395 億円となった」、「B社は、純利益が前期比 13%減の 96 億円、売上高は 10%増の 8,000 億円になる見込みだと発表した」などと取り上げられているが、このような情報は何をみればわかるだろうか。私たちの身近なカネの流れを知る手段として、お小遣い帳や家計簿があるのと同様、会社のカネの流れを知る手段として、財務諸表がある。財務諸表とは、会社のカネの流れを知ることができる書類であり、会社の、①カネを集める、②カネを投資する、③利益をあげる、といった活動にどれだけのお金が動いているかを説明したものである。たとえば、先に記載したニュース等で取り上げられている「売上高」や「利益」こそ、会計がその会社の活動状況を通じて集計したもので、これらの情報が財務諸表に記載されている。

主な財務諸表は、①貸借対照表、②損益計算書の 2 つである。これらによって、会社が①どれくらいの財産を保有しているか、②どれくらい儲けたか、がわかる。財務諸表は、会社のホームページ内にある IR 情報（「有価証券報告書」や「決算短信」）から入手することができる。

調べてみよう

- 会計を学ぶことにより、どんなことができるようになるだろうか。
- 財務諸表を見てみたい会社をいくつか挙げ、実際に会社のホームページで調べてみよう。

2 貸借対照表と損益計算書

2.1 貸借対照表と損益計算書

(1) 貸借対照表

貸借対照表とは、会社の財政状態を表すものである。貸借対照表には、資産、負債、純資産の項目がある。資産とは、現金、預金、建物、土地など、会社が所有する財産をいう。また、負債とは、借入金など他人に対する債務をいう。そして、資産と負債の差額が純資産である。

貸借対照表がどのようなものか、簡単な事例でみてみよう。たとえば、掛谷商店が自己資金 20 万円、銀行からの借入 30 万円で事業を始めたとする。それらの資金をすべて現金で保有している場合、

掛谷商店の財産を表す貸借対照表は次のようになる。

貸借対照表

資産	負債
現金 50 万円	借入金 30 万円
	純資産 資本金 20 万円

この貸借対照表の左側は、「掛谷商店には資産（現金）が 50 万円ある」ことを示している。そして、右側は「（資産 50 万円のうち）30 万円は負債（借入金）であり、残り 20 万円が純資産（資本金）である」ということを示している。なお、資本金とは、事業を始めたときの「元手」と考えよう。

(2) 損益計算書

損益計算書とは、会社の経営成績を表すものである。損益計算書には、収益、費用の項目が含まれている。

収益：もうけを増やすもの

費用：もうけを減らすもの

収益は総額、利益は差額の概念である。たとえば、掛谷商店が 40 万円で買って来た商品を 60 万円で売った場合、60 万円が収益、そこから費用 40 万円を差し引いた 20 万円が利益となる。

損益計算書

収益（+）	60 万円
費用（-）	40 万円
もうけ	20 万円

(3) 貸借対照表と損益計算書のつながり

次に、「貸借対照表」と「損益計算書」がどのようなものか、さらに、それらがどのようにつながっているのかを大まかに理解していこう。

たとえば、掛谷商店が自己資金 20 万円、銀行からの借入 30 万円で事業を始めたとする。それらの資金をすべて現金で保有している場合、掛谷商店の財産を表す貸借対照表は次のようになる。

貸借対照表

資産	負債
現金 50 万円	借入金 30 万円
	純資産 資本金 20 万円

次に、掛谷商店が現金 50 万円で商品を仕入れ、それを 60 万円で販売し、現金で受け取ったとすると、損益計算書と貸借対照表は次のようになる。

損益計算書

収益 (+)	60 万円
費用 (-)	50 万円
もうけ	10 万円

貸借対照表

資産	負債
現金 60 万円	借入金 30 万円
	純資産
	資本金 20 万円 もうけ 10 万円

また、翌年に現金 60 万円で商品を仕入れ、それを 70 万円で販売し、現金で受け取ったとすると、損益計算書と貸借対照表は次のようになる。

損益計算書

収益 (+)	70 万円
費用 (-)	60 万円
もうけ	10 万円

貸借対照表

資産	負債
現金 70 万円	借入金 30 万円
	純資産
	資本金 20 万円 もうけ 20 万円

これまで、損益計算書と貸借対照表で「もうけ」という同じ言葉を使ってきたが、実は意味が異なっている。損益計算書の「もうけ」は、「その年のもうけ」、貸借対照表の「もうけ」は、「もうけの蓄積 (それまでどれだけもうけたか?)」を表している。したがって、2 年目が終了した掛谷商店の「もうけの蓄積」は、1 年目の「もうけの蓄積」10 万円に、2 年目の「もうけ」10 万円を加えた 20 万円となる。

2.2 貸借対照表

(1) 自己資本と他人資本

貸借対照表 (Balance Sheet 略して B/S) とは、ある一定時点での会社の資産の状態を表している。左側で会社がどのように資金を運用しているかということを表し、右側でどのように資金を調達したかを表している。

表 1 貸借対照表の例

資産		負債		他人資本
現金及び預金	10,000	借入金	40,000	
商品	5,000	純資産		自己資本
建物	50,000	資本金	50,000	
土地	35,000	利益剰余金	10,000	
資産合計	100,000	負債・純資産合計	100,000	

表??のとおり、貸借対照表の要素として、①資産②負債③純資産がある。②負債と③純資産は、それぞれ他人資本と自己資本に分けられる。②負債は、他人から借りたものという意味で、他人資本といい、純資産は他人ではなく自分で出したもの（自分で儲けたもの）という意味で、自己資本と呼ばれる*1。

(2) 資産、負債、純資産とは

資産とは、会社が保有している経済的資源のことをいう。たとえば、現金、商品、建物、土地などである。

負債とは、会社が負うべき経済的負担のことである。たとえば、銀行からの借入金などがある。純資産とは、純資産は資産と負債の差額である。2.1 の設例では、掛谷商店の資本金ともうけの蓄積が純資産の項目であり、もうけの蓄積は利益剰余金とよばれる。

2.3 損益計算書

(1) 損益計算書とは

損益計算書（Profit and Loss Statement、略して P/L）とは、会社が 1 年間でいくら使っていくらもうけたか（またはいくら損したか）という利益（または損失）の状況を明らかにしたものである。会社がどれだけもうけたかを会社の経営成績といい、損益計算書は会社の経営成績を表すものである。

(2) 損益計算書の様式

2.1 でみたように、損益計算書では収益から費用を差し引いて利益を算定するが、利益にはいくつかの段階がある。表 2 のとおり、売上高から売上原価、販売費及び一般管理費を差し引いたものは営業利益とよばれ、これは会社の本業による利益である。また、最終的にいくらもうかったかを示すのが当期純利益である。ほかにもいくつかの種類の利益があるが、まずは営業利益と当期純利益を理解しておこう。

*1 自己資本にはいくつかの考え方があるが、ここでは自己資本＝純資産として考える。

表 2 損益計算書

①売上高（収益）	60 万円	（いくら売れたか）
②売上原価（費用）	40 万円	（60 万円で売った商品をもともといくらで仕入れたか）
③販売費及び一般管理費（費用）	10 万円	（人件費や広告宣伝費など、販売や管理のための費用）
営業利益	10 万円	① - ② - ③
……		（ほかにも収益や費用があるが、ここでは省略）
当期純利益	6 万円	（会社の最終的な利益）

話し合ってみよう

- ・グループ（ゼミ）で商売を始めると仮定し、掛谷商店の例を参考にして貸借対照表、損益計算書をつくってみよう。
- ・会社の取引としてどのようなものがあるかを考えてみよう。そして、その取引が貸借対照表や損益計算書にどのような影響を与えるかを考えてみよう。

3 実際の財務諸表をみてみよう（資生堂 vs コーセー）

3 では、実際の事例を通じて財務諸表の数値をみていこう。

皆さんもご存知のとおり、化粧品業界のトップは資生堂、2 位がコーセーである。図 1、図 2 のとおり、資生堂の売上高は 1 兆 673 億円（2022 年 12 月期）、コーセーの売上高は 2,891 億円（2022 年 12 月期）となっており、資生堂の売上高はコーセーの売上高の 3 倍以上となっている。これらの数値は決算短信の 1 ページに記載されている。

2022年12月期 決算短信〔IFRS〕（連結） 2023年2月10日

上場会社名 株式会社資生堂 上場取引所 東 証
 コード番号 4911 URL https://corp.shiseido.com/jp
 代表者（役職名） 代表取締役 会長 CEO （氏名） 池谷 雅彦
 問合せ先責任者（役職名） IR部長 （氏名） 関根 綾子 （TEL） 03-3572-5111
 定時株主総会開催予定日 2023年3月24日 配当支払開始予定日 2023年3月27日
 有価証券報告書提出予定日 2023年3月24日

決算補足説明資料作成の有無 有（ 投資家・アナリスト等向け ）
 決算説明会開催の有無 有（ 投資家・アナリスト等向け ）

1. 2022年12月期の連結業績（2022年1月1日～2022年12月31日） （百万円未満切捨て）

(1) 連結経営成績（累計） （%表示は対前期増減率）

	売上高	コア営業利益	営業利益	当期利益	親会社の所有権に 帰属する当期利益	当期包括利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年12月期	1,009,966	51,340	46,572	37,360	34,202	89,046
2021年12月期	1,009,966	42,553	100,571	49,450	46,909	90,198
（参考）税引前利益	2022年12月期 50,428百万円（△49.1%）	2021年12月期 99,111百万円（-）				

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有権に 帰属する持分	親会社所有権 帰属持分比率	1株当たり親会社 所有者権属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円
2022年12月期	1,307,661	625,754	604,259	46.2	1,512.36
2021年12月期	1,300,939	562,179	540,695	41.6	1,353.45

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年12月期	46,735	△41,308	△52,418	119,036
2021年12月期	134,249	69,733	△190,575	156,503

図 1 決算短信の例（資生堂）

2022年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月13日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社コーセー
コード番号 4922 U R L https://corp.kose.co.jp/
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小林 一俊
問合せ先責任者 (役職名) IR室長 (氏名) 花倉 浩子 T E L 03-3273-1511
定時株主総会開催予定日 2023年3月30日 配当支払開始予定日 2023年3月31日
有価証券報告書提出予定日 2023年3月30日
決算短信送付開始の有無 有
決算説明会開催の有無 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期の連結業績 (2022年1月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期	289,136	-	22,120	-	28,394	-	18,771	-
2021年12月期	224,963	-	13,852	-	22,371	-	13,341	-
(注) 当増利益	2022年12月期	29,866百万円(+13%)	2021年12月期	20,234百万円(+9%)				

	平均	期末	期末	%	%
2022年12月期	329,020	-	7.5	8.4	7.7
2021年12月期	233,861	-	5.8	7.1	8.4

(参考) 持分法投資損益 2022年12月期 百万円 2021年12月期 百万円

(注) 前期は当社及び3月決算であった国内連結子会社は2021年4月1日から2021年12月31日まで、12月決算であった連結子会社は、2021年1月1日から2021年12月31日までを連結対象期間としています。そのため、対前期増減率を記載していません。

(参考) 下記%表示 (調整後増減率) は、前期業績を2021年1月1日から2021年12月31日とした増減率です。
売上高 営業利益 経常利益 親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)
268,992 7.5% 15,672 41.1% 22,050 28.8% 11,135 68.6%

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
2022年12月期	359,600	275,349	72.0	4,539.45
2021年12月期	320,018	254,267	74.5	4,178.06

(参考) 自己資本 2022年12月期 268,992百万円 2021年12月期 238,357百万円

図 2 決算短信の例 (コーセー)

このように、決算短信の1ページには、財務諸表の代表的な数値が掲載されている。ここでは、決算短信の1ページに掲載されている数値だけで分析できる指標を紹介していく。

まず、貸借対照表の項目を使って分析を行ってみよう。先ほどの図1、図2をみると、資生堂の総資産は1兆3,077億円、純資産は6,258億円となっている(2022年12月期)。負債は総資産から純資産を差し引いたものになるので、資生堂の負債は6,819億円となる。

同様に、コーセーの総資産は3,596億円、純資産は2,753億円となっている(2022年12月期)ので、差額を求めると、負債は843億円となる。

これらを簡単な貸借対照表の図で表すと図3のようになる。

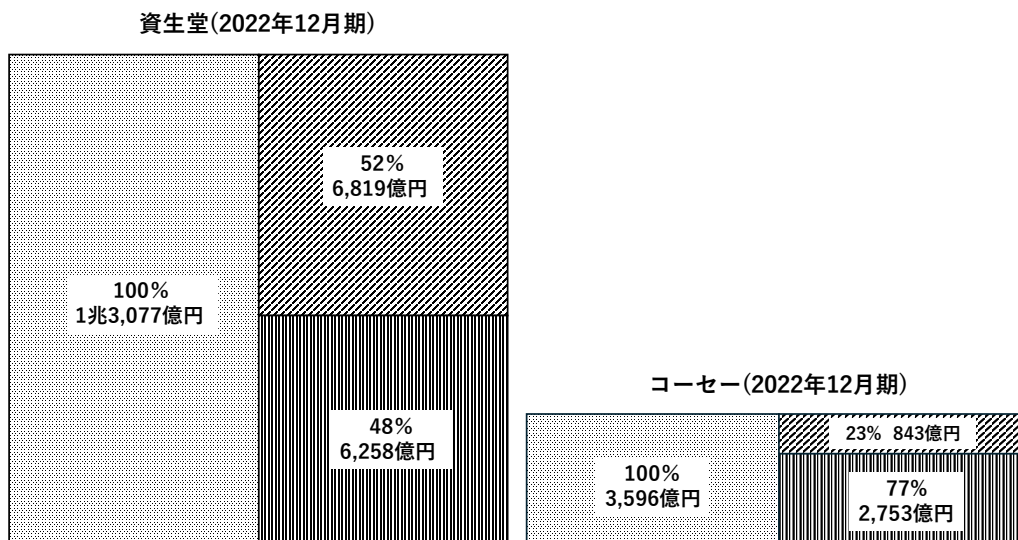


図 3 資生堂とコーセーの貸借対照表

自己資本比率とは、会社が持っている資産のうち自己資本、すなわち、返済の義務のない資産の割合を示している。自己資本比率を求める計算式は次のとおりである。

$$\boxed{\text{自己資本比率}} = \frac{\text{自己資本}}{\text{負債} + \text{純資産}} \times 100 (\%)$$

2.2で述べたように、会社の持つ資産には、銀行からの借金など返済する義務を負っている「負債」と、資産全体から負債を差し引いた、返済の必要のない「純資産」の二つに分けることができる。つまり、返済の必要がない「純資産」の割合＝自己資本比率が高い会社の方が、財務的な安全性が高い会社だと考えることができる。

そこで、資生堂とコーセーの自己資本比率を算定してみると、資生堂は47.9%、コーセーは76.6%となる。両社の自己資本比率を比較すると、コーセーが資生堂を上回っており、より安全性が高いといえる。

次に、損益計算書の項目を使って分析してみよう。資生堂の売上高は1兆673億円、営業利益は465億円（2022年12月期）、コーセーの売上高は2,891億円、営業利益は221億円（2022年12月期）となっている。

売上高営業利益率とは、売上高に対する営業利益の割合であり、次の計算式で求められる。

$$\boxed{\text{売上高営業利益率}} = \frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}} \times 100 (\%)$$

資生堂とコーセーの売上高営業利益率を算定してみると、資生堂は4.4%、コーセーは7.7%となる。売上高営業利益率が高いほど収益力が高いと判断できるため、コーセーの方が本業で利益を生み出す力が高いと評価できる。

最後に、貸借対照表項目と損益計算書項目を組み合わせた分析指標を紹介する。総資産営業利益率とは、総資産（＝資産）を活用し、いかに効率よく営業利益をあげているかという収益性を表す指標である。

$$\boxed{\text{総資産営業利益率}} = \frac{\text{営業利益}}{\text{総資産}} \times 100 (\%)$$

資生堂とコーセーの総資産営業利益率を算定してみると、資生堂は3.6%、コーセーは6.2%となる。総資産営業利益率が高いほど収益力が高いと判断できるため、コーセーの方が利益を生み出す力が高いと評価できる。

このように、会社としての安全性・収益性を、それぞれの会社が開示している財務諸表から読み解くことができる。なお、今回算定した指標については、すべてコーセーのほうが良いという結果になったが、これは資生堂が良くないということを意味しているわけではなく、コーセーがより良いということを示している。良いか悪いかを判断できるようになるためには、いろいろな会社の分析を行ってみることが大切である。是非皆さんも、気になる会社の財務諸表を調べてみよう。

調べてみよう

- 資生堂とコーセーの決算短信をそれぞれのホームページから入手し、どのようなことが記載されているか調べてみよう。
- 気になる会社の決算短信から、本章で学んだ指標を算定してみよう。

参考文献

大阪商工会議所 (2023) 『ビジネス会計検定試験公式テキスト 3 級 (第 5 版)』, 中央経済社.

株式会社コーセー「決算短信」<https://www.kose.co.jp/company/ja/ir/library/earnings/>
(2024 年 2 月 29 日最終閲覧)

株式会社資生堂「決算短信」<https://corp.shiseido.com/jp/ir/library/tanshin/> (2024 年
2 月 29 日最終閲覧)

(謝辞)

本稿は、2019 年度掛谷ゼミ卒業生および 2019 年度掛谷ゼミ 3 年生の一部メンバーが作成したものをベースとして、2023 年度掛谷ゼミ卒業生と 2023 年度掛谷ゼミ 3 年生の一部メンバーおよび担当教員掛谷純子が加筆修正を行ったものです。プロジェクトに携わってくれた皆さん、本当にありがとうございました。

2019 年度掛谷ゼミ卒業生 (五十音順、敬称略)

青井香奈実、伊賀春佳、石井翔子、伊勢菜々美、五日市藍、小野坂遥、駒井志美、三枝未歩、鈴木伽南、玉木直美、津崎祐里奈、中上美穂、橋本彩加、長谷川麻衣、藤井沙幸、森下愛、安井明日香、山木萌美、横内綾乃

2019 年度掛谷ゼミ 3 年生の一部 (五十音順、敬称略)

大前遥香、川邊珠麗、村尾萌、森奈美子

2023 年度掛谷ゼミ卒業生の一部 (五十音順、敬称略)

池田亜佳音、井上結理

2023 年度掛谷ゼミ 3 年生の一部 (五十音順、敬称略)

假屋咲衣、長谷川佳胡、原奈秀、本田彩乃、森泉里咲、芳倉洸子

第23章

児童労働を考える（戸田真紀子）

1 児童労働（Child Labour）とは？

世界には、学校に行くことを夢見ながら、毎日、家族の生活を支えるために働いている子どもたちがいる。危険で有害な労働に従事させられたために、命を落とす子どもたちも多い。先進国日本であれば、学校に行かなくても「読み・書き・計算」を学ぶ機会を得ることができるが、途上国ではそうはいかない。学校に行かなければ、貧しい両親と同様に「読み・書き・計算」ができず、「貧困の連鎖」から抜け出せない。学校教育を受けることができるかどうかで、子どもたちのその後の人生が大きく変わってしまうのである。

本章では、子どもたちにさせてはいけない労働＝児童労働というテーマを扱う。まずは「子ども」と「児童」という言葉の問題から説明したい。後述するように、Convention on the Rights of the Child（「子どもの権利条約」、外務省訳：「児童の権利に関する条約」）という条約がある。1989年に国連総会で採択され（1990年発効）、日本は1990年に署名、1994年に批准している。この条約の第1条では、childを「18歳未満」と定義している。このchildを外務省が「児童」と訳したことで、日本語の条約名が2つ存在するようになってしまった。学校教育法の条文では、児童とは小学生を指しており^{*1}、Convention on the Rights of the Childを「児童の権利に関する条約」と訳してしまっただけで、小学生の権利を守る条約だと誤解されかねないという危惧が当時強く表明されたが、外務省は方針を変更しなかった。そのため、外務省訳が一方で存在し、他方、日本弁護士連合会や人権に関わるNGOなどは、「子どもの権利条約」と訳して使っている。

本章では、Child Labourは「児童労働」という訳が定着しているため、このまま用いるが、childは「子ども」、Convention on the Rights of the Childは「子どもの権利条約」と訳す。また、条約の条文については、外務省訳を用いるため、childが「児童」となっている。

さて、児童労働の問題に関心を持ったなら、まず、国際労働機関（International Labour Organization, ILO）の駐日事務所のHPにアクセスしてほしい。「ILOの活動分野」の中に「児童労働」の項目がある。児童労働の定義をまず覚えよう。児童労働とは、「法律で定められた就業最低年齢を下回る年齢の児童によって行われる労働」である^{*2}。ILO最大のプログラムである「児童労働撤廃国際計画（International Programme on the Elimination of Child Labour, IPEC）」^{*3}のHP（英語）には、児童労働

^{*1} 学校教育法の第2章「小学校」の条文を参照のこと。 https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317990.htm（2020年2月10日閲覧）

^{*2} 児童労働の定義、条約の批准国などの情報は、ILO駐日事務所HP「児童労働」から引用している。 <https://www.ilo.org/tokyo/areas-of-work/child-labour/lang--ja/index.htm>（2020年2月4日閲覧）

^{*3} IPECについては、下記のILO駐日事務所のサイトを参照のこと。 https://www.ilo.org/tokyo/areas-of-work/wcms_239544/lang--ja/index.htm（2020年2月18日閲覧）

とは、「精神的、身体的、社会的、もしくは道徳的に、子どもたちにとって危険で有害な労働」であり、「子どもたちの学校教育の妨げとなる労働」であるという定義が掲載されている*4。

児童労働については、「チャイルド・ワーク（Child Work）」との違いも覚えておこう。IPEC の児童労働の定義についての説明は、「子どもの行う全ての労働を児童労働として分類すべきではない」という一文から始まっている。子どもが働くとしても、例えば、「家で親の手伝いをするとか、放課後や学校が休みの日に家業の手伝いや小遣い稼ぎをする」ことは、子どもの成長にプラスになる労働として肯定的に考えられている。日本で言えば、家での「お手伝い」や新聞配達のように、学業を中断することなく、健康を害することなく、安全が守られ、搾取されない仕事は「チャイルド・ワーク」であり、児童労働とは扱われない。

世界には、児童労働に従事する子どもたちが 1 億 5200 万人いる（ILO 2017）。児童労働はなぜ認めてはいけないのか。それは、「子どもに身体的、精神的、社会的または道徳的な悪影響を及ぼし、教育の機会を阻害」するからである。ILO 駐日事務所 HP に戻ろう。ILO が定める就業最低年齢の国際基準は、1973 年採択の「就業の最低年齢に関する条約（第 138 号条約）」である。ここには、就業の「最低年齢は義務教育終了年齢後、原則 15 歳」、ただし、「軽労働については、一定の条件の下に 13 歳以上 15 歳未満」、健康・安全・道徳を損なうおそれのある「危険有害業務は 18 歳未満禁止」と規定されている。貧困層の多い開発途上国に対する「例外」として、「就業最低年齢は当面 14 歳、軽労働は 12 歳以上 14 歳未満」という規定もある。第 138 号条約は、2020 年 1 月現在、ILO 加盟国 187 カ国中*5、172 カ国が批准しており、批准していない国は、米国やオーストラリアなど 15 カ国である。

ILO は児童労働に関する国際基準をもう一つ持っている。それが、1999 年に採択された「最悪の形態の児童労働に関する条約（第 182 号条約）」である。「最悪の形態の児童労働」とは、以下の 4 つを指す。「①人身売買、徴兵を含む強制労働、債務労働などの奴隷労働、②売春、ポルノ製造、わいせつな演技に使用、斡旋、提供、③薬物の生産・取引など不正な活動に使用、斡旋、提供、④児童の健康、安全、道徳を害するおそれのある労働」。第 182 号条約は、2020 年 1 月現在、186 カ国が批准しており、批准していない国はトンガのみである*6。

児童労働の定義、児童労働を認めてはいけない理由、そして ILO の 2 つの条約をしっかりと覚えておいてほしい。

【課題】

ILO 駐日事務所の HP をみて、世界のどの地域で児童労働が多いのか、どの産業で児童労働に従事する子どもが多いのか、調べてみよう。

2 世界の児童労働の現状：作業

世界で子どもたちがどのような児童労働に従事しているのかについては、ユニセフの HP で「世界の子どもたちを知る」をクリックして、「児童労働」のテーマを選ぶと、たくさんストーリーを読むこ

*4 ILO の公式サイト（英語）から引用した。 <https://www.ilo.org/ipecc/facts/lang--en/index.htm>（2020 年 2 月 18 日閲覧）

*5 加盟国数は下記で確認した。 <https://www.ilo.org/global/about-the-ilo/lang--en/index.htm>（2020 年 2 月 18 日閲覧）

*6 https://www.ilo.org/tokyo/areas-of-work/WCMS_239915/lang--ja/index.htm（2020 年 2 月 4 日閲覧）

とができる*7。また、児童労働根絶のために活動している NGO のサイトにもアクセスしてみよう*8。

【課題】

- あなたが見つけた児童労働の事例は、①どこの国の事例ですか？ ②その子どもは何歳ですか？ ③学校には行っていますか？ ④その子どもの仕事は何ですか？ ⑤危険で有害な労働ですか？ ⑥ ILO の 2 つの条約の何条違反になりますか？ ⑦どうしてその子どもは児童労働に従事しているのですか？ ⑧その子どもは毎日働いて、月にいくら稼いでいますか？

3 児童労働廃絶のための国際ルール

児童労働を廃絶するために、ILO 条約（138 号、182 号）の他にも条約が制定されている。「子どもの権利条約」を見てみよう*9。「子どもの権利条約」では、18 歳未満が子どもであると定義されている。そして、「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」という 4 つの柱の下*10、様々なルールが示されている。

児童労働に関係する条文としては、例えば、第 28 条第 1 条 a 項が、義務教育を受けさせる国の義務を定めている。

第 28 条

1. 締約国は、教育についての児童の権利を認めるものとし、この権利を漸進的にかつ機会の平等を基礎として達成するため、特に、
 - a. 初等教育を義務的なものとし、すべての者に対して無償のものとする。

また、第 32 条と第 34 条は、子どもが従事する労働について、次のように定めている。

第 32 条

1. 締約国は、児童が経済的な搾取から保護され及び危険となり若しくは児童の教育の妨げとなり又は児童の健康若しくは身体的、精神的、道徳的若しくは社会的な発達に有害となるおそれのある労働への従事から保護される権利を認める。
2. 締約国は、この条の規定の実施を確保するための立法上、行政上、社会上及び教育上の措

*7 子どもたちのストーリーは下記を参照のこと。 https://www.unicef.or.jp/children/children_now/select.html?tag=roudo（2020 年 2 月 10 日閲覧）

*8 例えば、ACE（エース）の HP にも、子どもたちのストーリーが掲載されている。 <http://acejapan.org/childlabour>（2020 年 2 月 10 日閲覧）

*9 2020 年 1 月 7 日現在、締約国は 196 あり、条約に署名したが批准していない国はアメリカ合衆国だけである。 https://treaties.un.org/Pages/ViewDetails.aspx?src=TREATY&mtdsg_no=IV-11&chapter=4&clang=_en（2020 年 2 月 18 日閲覧）

ユニセフの HP で条約の日本語訳を読むことができる。 https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig_all.html（2020 年 2 月 10 日閲覧）

*10 詳しくは、ユニセフ HP を参照。 https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig.html（2020 年 2 月 10 日閲覧）

置をとる。このため、締約国は、他の国際文書の関連規定を考慮して、特に、

- a. 雇用が認められるための 1 又は 2 以上の最低年齢を定める。
- b. 労働時間及び労働条件についての適当な規則を定める。
- c. この条の規定の効果的な実施を確保するための適当な罰則その他の制裁を定める。

第 34 条

締約国は、あらゆる形態の性的搾取及び性的虐待から児童を保護することを約束する。このため、締約国は、特に、次のことを防止するためのすべての適当な国内、二国間及び多数国間の措置をとる。

- a. 不法な性的な行為を行うことを児童に対して勧誘し又は強制すること。
- b. 売春又は他の不法な性的な業務において児童を搾取的に使用すること。
- c. わいせつな演技及び物において児童を搾取的に使用すること。

「子どもの権利条約」には、3つの選択議定書があるが、そのうちの2つが2000年の国連総会で採択された「武力紛争における子どもの関与に関する選択議定書」と「子どもの売買、子ども買春及び子どもポルノグラフィーに関する選択議定書」である。ILOが定めた「最悪の形態の児童労働」を思い出してほしい。子ども兵、売買春と子どもポルノの問題を扱うのが、この2つの選択議定書である。前者については、杉木（2015）と勝間（2019）、後者については、勝間（2015）を読んでほしい。

条約に加えて、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）も紹介しておく。SDGsは、ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals: MDGs）の後継として、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットを提示し、2015年の国連総会で採択された。SDGsの目標とターゲットの中で、児童労働を対象とするのが、目標8のターゲット7である^{*11}。2025年までに、子ども兵の募集と使用を含むあらゆる形態の児童労働を撲滅すると宣言されている。

目標 8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する

- 8.7 強制労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終らせるための緊急かつ効果的な措置の実施、最悪な形態の児童労働の禁止及び撲滅を確保する。2025年までに児童兵士の募集と使用を含むあらゆる形態の児童労働を撲滅する。

家が貧しいのだから、子どもが働かされても仕方がないとは思わないでほしい。貧困は自己責任ではない。SDGsは教育についても目標とターゲットを示している。

目標 4. すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する

*11 <https://www.unicef.or.jp/sdgs/target.html>（2020年2月10日閲覧）

4.1 2030 年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。

世界各国の首脳たちは、全ての子どもたちが、無償で、初等教育と中等教育を修了できるようにするという約束をした。どんなに貧しい家の子どもに生まれても、その約束は守られなければならない。

4 私たちができること

児童労働を根絶するために、日本に住む私たちは何ができるだろうか。有権者としての行動ももちろん有効であるが、消費者としての行動を是非考えてほしい。皆さんの身近で、例えば、百均の店で売られている商品のなかに、児童労働で生産されたものはないだろうか。皆さんが食べているチョコレートの原料はカカオ豆だが、そのカカオ豆を作るプランテーションで、子どもたちが学校に行けずに一日中働かされているということはないだろうか。お家のリビングにある絨毯も、手が小さいほうが細かな作業ができるという工場に閉じ込められた子どもたちが織ったものではないといえるだろうか。

児童労働に従事する子どもたちを救うのは、もちろんその国の政府の責任であるが、児童労働は消費者である私たちに無関係な問題では決してない。私たちがそういった商品を選ばないことで、児童労働で生産された商品を拒否する姿勢を見せることで、もしくは児童労働撲滅のために行動している企業の商品を選ぶことで、子どもたちを救うことができることを是非覚えておいてほしい。欧米の消費者はこういった問題に敏感である。一例をあげれば、1997 年に、米国の「ナイキ」の製品を作る東南アジアの工場で児童労働が明らかになり、不買運動に発展した。2002 年の日韓ワールドカップの前には、サッカーボールがインドやパキスタンの子どもたちが手縫いしていることが明らかとなり、FIFA が対応に追われた。

2015 年に、英国で Modern Slavery Act（現代奴隷法）が成立し、一定規模の企業に、児童労働などに関係しないための対策を公表するように義務付け、その影響は日本企業にも及んでいる。「英国現代奴隷法 児童労働」でネット検索してみるとほしい。日本の大企業の「現代奴隷法にかかる（関わる/関する/係る）/奴隷及び人身売買に関する声明」が数ページにわたって登場する。今や、児童労働は現代の奴隷であり、その撤廃に関わることは企業の責任となっている。皆さんが企業で働くことになったときは、今度は、告発される側にならないように細心の注意を払うことが必要になってくる。

児童労働といえば、開発途上国の貧困層の子どもたちが頭に浮かぶだろう。もちろんそういった子どもたちのことも考えてほしいが、同時に、日本に住んでいる子どもたちのことも考えてほしい。最後に、日本が人権を守る国であるかどうかということを議論して、本章を終わりたい。

前節では「子どもの権利条約」の 2 つの選択議定書を取り上げたが、3 つ目の選択議定書を紹介したい。「武力闘争への子どもの関与に関する選択議定書」については 2004 年に、「子どもの売買、買春及び児童ポルノに関する選択議定書」については 2005 年に、日本は批准しているため、外務省訳が存在するが、3 つ目の選択議定書は日本がまだ批准していないため、日本ユニセフ協会が「通報手続きに関する選択議定書」と訳している^{*12}。この 3 つ目の選択議定書は 2011 年に国連総会で採択さ

*12 全文は下記のサイトで読むことができる。https://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_rig_pro.html#gitei3（2020 年 2 月 10 日閲覧）

れている。2020年1月7日現在、締約国が46カ国である^{*13}。G7で考えれば、米国、英国、カナダは署名も何もしていないが、ドイツ、フランス、イタリアは締約国である。どうして、日本政府は批准しようとししないのだろうか。

「個人通報制度」とは、人権諸条約で認められた権利を侵害され、国内の裁判所に訴えても救済されなかった「個人」が、それぞれの条約が設置した委員会に自身が受けた人権侵害を「通報」し、その救済を求めることができる制度である。現在、人権に関わる条約は全て「個人通報制度」に関わる選択議定書もしくは条文を有している^{*14}。例えば、2020年1月7日現在、「市民的及び政治的権利に関する国際規約」（国際人権規約B規約）の第一選択議定書は、締約国が116カ国であり^{*15}、「女性差別撤廃条約」の選択議定書では、締約国が113カ国というように^{*16}、先進国と呼ばれる国々は、そのほとんどが締約国となっているが、国際社会に拘束される条約を嫌う米国と同じように、日本は締約国になろうとはしない。

「個人通報制度」を用いて国連に訴えるような真似を国民にさせないことは、人権問題を重視しない政府にとっては都合の良いことかもしれないが（国際社会からの批判は強い）、国民にとっては、他国の国民が行使できる権利を行使できなという意味において、不利益を被っていることになる。そもそも皆さんは、「個人通報制度」について高校までに習ったことがあるだろうか。私たちは義務教育で情報を与えられず、情報を与えられなければ、有権者として選択議定書の批准を求めることもできず、自分の権利を守るための判断を下すこともできなくなる。

日本では人権が守られているから「個人通報制度」は必要ないと思っている人は、それぞれの条約が設置した委員会に対して日本政府が提出した「政府報告書」に対する「委員会の最終見解」を読んでみてほしい^{*17}。日本の制度が古いままで、人権についての国際標準からいかに遅れてしまっているかがわかってもらえるだろう。

話を子どもたちに戻そう。前節で、子どもたちには教育を受ける権利があると述べた。日本国籍を持っている全ての子どもたちに教育を受ける権利が保障されているかという議論ももちろん必要であるが、さらに、日本には、外国籍の子どもたちが小学校にも通っていないという問題がある。2019年9月28日の毎日新聞（東京朝刊）は、以下のように報じている^{*18}。

文部科学省が27日に公表した外国籍の子どもの就学状況に関する調査では、住民基本台帳に登録され、小中学校の就学年齢にある外国籍の子ども12万4049人のうち2万1701人が、学校に通っているか確認できない「就学不明」と判明した。また、日本語教育が必要なのに学校で指導を受けられていない子どもも、1万1008人に上った。入国管理法の改正で、新たな労働力の担い手として外国人の受け入れが拡大される一方、教育への支援は乏しく、多くの子どもたちが日本の社会から取り残されている。

^{*13} https://treaties.un.org/Pages/ViewDetails.aspx?src=TREATY&mtdsg_no=IV-11-d&chapter=4&clang=_en（2020年2月18日閲覧）

^{*14} 個人通報制度については、下記を参照。<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000472198.pdf> https://www.amnesty.or.jp/human-rights/topic/ihril/report_system.html（2020年2月18日閲覧）

^{*15} https://treaties.un.org/Pages/ViewDetails.aspx?src=TREATY&mtdsg_no=IV-5&chapter=4&clang=_en（2020年2月18日閲覧）

^{*16} https://treaties.un.org/Pages/ViewDetails.aspx?src=TREATY&mtdsg_no=IV-8-b&chapter=4&clang=_en（2020年2月18日閲覧）

^{*17} 日本弁護士連合会が日本語に訳している。下記のサイトで、それぞれの条約の「報告書審査」をクリックして、「委員会の最終見解」を選んで、内容を点検してほしい。https://www.nichibenren.or.jp/activity/international/library/human_rights.html（2020年2月18日閲覧）

^{*18} 奥山はるな、堀智行（2019）「外国籍の子、中ぶらりん 国『自治体把握を』/地方『義務はない』」『毎日新聞』2019年9月28日、東京朝刊。<https://mainichi.jp/articles/20190928/ddm/003/100/094000c>（2020年2月18日閲覧）

外国籍の子どもたちが、小学校に通えていない、小学校には行っているが日本語がわからないから授業についていけないという状況が、子どもたちの教育を受ける権利を侵害しているということは、理解してもらえるだろうか。学校で学ぶことは子どもたちの権利であり、どの国の政府も、それが実現するように最大限の努力をしなければならない。

日本は「人権後進国」と呼ばれている。「児童労働」の問題を通して、世界の子どもたちが抱える問題と私たち日本人がどのようにつながっているのかを考えると同時に、日本の国の中で起きている数々の人権侵害の問題にも関心を持ち、日本の人権レベルを世界標準に近付けないといけないことにも思いを馳せてほしい。子どもの権利が守られていないということは、大人の権利も守られていないのである。

【課題】

- 注13にある「委員会の最終見解」にはどんなことが書いてありますか？
- 日本には児童労働がありますか？調べてみましょう。
- あなたが途上国の大統領だったら、児童労働廃絶のために、どんな政策を打ち出しますか？
- 児童労働廃絶に取り組んでいる企業やNGOを探してみましょう。
- あなたができる活動を考えてみましょう。

参考文献

- 香川孝三 (2015) 「児童労働－工場労働者としての子ども－」, 初瀬龍平・松田哲・戸田真紀子編『国際関係のなかの子どもたち』, 晃洋書房
- 勝間靖 (2015) 「子どもの買春・人身取引・子どもポルノ」, 初瀬龍平・松田哲・戸田真紀子編『国際関係のなかの子どもたち』, 晃洋書房
- 勝間靖 (2019) 「子ども兵士のいない世界を創る－子どもが武力紛争に関与させられないためには?」, 戸田真紀子・三上貴教・勝間靖『改訂版 国際社会を学ぶ』 晃洋書房
- 杉木明子 (2015) 「紛争の『加害者』としての子ども－シエラレオネ内戦と子ども兵士問題－」, 初瀬龍平・松田哲・戸田真紀子編『国際関係のなかの子どもたち』 晃洋書房
- ILO (2017) 『児童労働の世界推計：推計結果と趨勢、2012～2016年』（日本語訳） https://www.ilo.org/tokyo/areas-of-work/child-labour/WCMS_615276/lang--ja/index.htm（2020年2月10日閲覧）

第 24 章

政治からみた東アジア：どこが似ていて、どこが違っているのか？（松本充豊）

はじめに

私たちが暮らす日本は、東アジアと呼ばれる地域にある。その東アジアのなかでも、日本に一番近い国・地域[※]が韓国と台湾である。

皆さんのなかには、高校の修学旅行や家族との観光旅行で、韓国や台湾に行ったことのある人がいるかもしれない。現地を訪れたことのある人なら、「日本と似ている」と感じた部分も少なくなかったはずだ。話されている言葉や使われている文字は違って、ソウルや台北の街なかで目にした光景、若い女性ならばメイクやファッションなどに、さほど違いはなかったのではないだろうか。

日本、韓国、台湾という東アジアの3つの国・地域には、政治という点から見ても似ているところがある。まずは、民主主義という共通性がある。いずれの社会においても民主、自由や人権といった価値観が共有されており、民主主義体制と呼ばれる政治体制がある。ところが、それぞれの民主主義のあり方には違いがある。たとえば、韓国と台湾には大統領（台湾では「総統」と呼ばれる）がいる。日本には首相はいても、大統領はいない。韓国の大統領や台湾の総統は有権者である一般市民の直接投票によって選ばれるけれど、私たちは首相を選挙で直接選ぶことはできない。日本の首相は国会で、私たちが選んだ議員によって、議員のなかから選出される。

つまり、民主主義にもいろんなバリエーションがある、ということになる。同じ民主主義なのになぜ違って、またどんなふうに異なるのだろうか。本章では、東アジアの3つの国・地域の政治のあり方の「どこが似ていて、どこが違っているのか」を確認してみたい。

1 民主主義は多様なもの

民主主義とは、社会を構成するすべてのメンバー（成人）が、その過程に関与する権利をもつ決定方式のことである。有権者の意思を反映した政治的な意思決定の方法といってもよいだろう。その民

[※] ここでの「地域」は具体的には台湾のことを指している。「台湾」という名称は「日本（日本国）」や「韓国（大韓民国）」のような国名ではなく地域名称であり、台湾の正式な国名は「中華民国」である。ただし、中華民国と外交関係のある国は世界中でわずか12ヵ国である（2024年3月末現在）。日本を含む多くの国々では中華民国を「国家」と認めていないことから、台湾を「地域」として扱い、「台湾」という呼称を用いるのが一般的である。

主義の具体的な仕組みの 1 つが、代議制民主主義と呼ばれるものである。代議制民主主義のもとでは、有権者が選挙を通じて政治家を選び、その政治家が実際の政治的な意思決定を行うのである。

ただし、この世のなかに現実に存在している代議制民主主義は、世界中どこでも同じものだというわけではない。代議制民主主義のあり方にはさまざまなバリエーションがある。そうしたバリエーションを捉えるために、代議制民主主義という仕組みを構成し、それを支えている政治制度に注目する。そのなかでも、基幹的制度とされる執政制度と選挙制度に焦点を当てる。執政制度にも選挙制度にもそれぞれバリエーションがあって、それらの組み合わせの違いから、代議制民主主義は多様なものとなっている^{*2}。民主主義の国・地域において政治の姿が違ってくるのは、執政制度と選挙制度の違いによるところが大きい。

とはいえ、選挙制度はなんとなくイメージできるにしても、執政制度なんていわれてもなんのことだかよくわからない、という人も少なくないだろう。そこで、次節以下では、執政制度と選挙制度について、それぞれの制度がどういうものなのか、そして東アジアの 3 つの国・地域ではどんな制度が使われているのか、紹介していきたい。3 つの国・地域では、執政制度は見事なまでに「分岐」しているのに、選挙制度は同一の制度に「収斂」していることがわかるだろう。

2 東アジアの民主主義と執政制度

2.1 執政制度の 3 つの類型

執政制度とは、民主主義体制において行政部門の活動を統括するトップリーダー（執政長官）をどのように選出し、立法部門である議会、および国民とどのような関係に置くのかについての諸ルールのことを指す。議院内閣制（parliamentarism）、あるいは大統領制（presidentialism）といった分類方法には、比較的馴染みがあるのではないだろうか。これらに後で紹介する半大統領制（semi-presidentialism）を加えた 3 つが、執政制度の代表的な類型とされている。以下では、執政制度がどのようにデザインされているのか、すなわち制度設計に注目して、3 つの類型の特徴について説明する^{*3}。

まずは、議院内閣制と大統領制の違いについてである。議院内閣制の執政長官は首相、大統領制のそれは大統領と呼ばれる。議院内閣制では首相が議会（特にその下院）によって間接的に選ばれるのに対し、大統領制では大統領が有権者の直接投票によって選ばれる。また、首相は議会多数派に責任を負い、議会の不信任決議によりいつでも解任される可能性がある。これに対して、大統領はいったん選ばれると固定された任期を最後までまっとうすることになる。

半大統領制とは、議院内閣制と大統領制の特徴を併せ持つ執政制度である。半大統領制では、有権者の直接投票で選ばれた固定任期の大統領が憲法上、一定の行政権力を持っているが、同時に議会に責任を負う首相が存在し、両者が実質的な執政長官として行政権を分担して掌握している^{*4}。民選の大統領の存在に注目して、半大統領制を大統領制とともに「民選大統領のいる民主主義」と呼ぶ政治学者もいる。

執政制度の類型が異なれば、そのもとで実施される選挙の種類も違ってくる。議院内閣制では議会選挙が実施されるだけだが、大統領制と半大統領制では議会選挙とは別に大統領選挙が行われる。

^{*2} 民主主義、代議制民主主義については、待鳥（2015）を参照した。

^{*3} ある国の執政制度がどの類型に当てはまるのかは、その国の憲法を見ればわかる。憲法の条文にはその国の執政制度の制度設計が示されている。

^{*4} 執政制度については、（建林・曾我・待鳥 2008）を参照した。

2.2 日本、韓国、台湾の執政制度

実は、東アジアには執政制度のすべての類型が存在している。日本の執政制度が議院内閣制であることは言を俟たない(?)であろう。それでは、韓国と台湾の執政制度はどうだろうか。韓国と台湾には、いずれも大統領と首相が存在している。韓国の大統領も台湾の総統も有権者の直接投票で選ばれている。しかし、同じ首相であっても台湾の「行政院長」と違って、韓国の「國務総理」は議会に責任を負わない。そのため、韓国の執政制度は制度設計の点からは大統領制に分類される^{*5}。

執政制度が違うから、実施されている選挙の種類にも違いがある。議院内閣制の日本で行われる選挙は、議会選挙だけである。大統領制である韓国、そして半大統領制が採用されている台湾では、議会選挙と大統領選挙という2つの性格の異なる選挙が別々に行われ、有権者はそれぞれの選挙で投票することになる。

【課題】

1. 日本国憲法の条文を実際に調べてみて、日本の執政制度が議院内閣制であることを確認してみよう。
2. 欧米の民主主義国のなかで、執政制度の3つの類型をそれぞれ代表する国を探してみよう。

3 東アジアの選挙と選挙制度

3.1 議会選挙

東アジアの3つの国・地域では、どのような選挙がどのようなルールのもとで行われているのだろうか。本節では、日本と比較しなから韓国と台湾の議会とその選挙、さらに韓国と台湾の大統領選挙について、その特徴を見ていくことにする。次ページの表1は、日本、韓国、台湾における議会選挙の選挙制度を紹介したものである（日本は下院に相当する衆議院のみを示した）。

日本の国会は衆議院と参議院の二院制議会である。衆参両院それぞれの議員を選ぶ衆議院議員総選挙と参議院議員通常選挙^{*6}が存在するが、選挙の種類としては議会選挙のみである。韓国、台湾の議会はともに一院制であり、現地ではそれぞれ「国会」、「立法院」と呼ばれている。議会選挙に相当するのが、韓国では「国会議員選挙」、台湾では「立法委員選挙」である。日本の衆議院と比較すると、議員の任期はいずれも4年で同じだが、議会の規模はかなり異なっている。日本の衆議院を基準にすると、韓国の国会はその3分の2足らずの規模で、台湾の立法院は4分の1にも満たない。

^{*5} 韓国の大統領制は浅羽（2010）、台湾の半大統領制は松本（2010）をそれぞれ参照した。なお本章では取り上げていないが、東アジアのもう1つの民主主義国であるモンゴルの執政制度も半大統領制である。

^{*6} 参議院議員の任期は6年で、3年ごとに議員の半数が改選される。また、参議院には衆議院のような解散がないので、半数改選も規則正しく実施されることから、参議院議員選挙は「通常選挙」と呼ばれる。衆議院議員選挙を「総選挙」と呼ぶのは、任期満了時あるいは解散時に一度にすべての議員を選ぶためである。

表1 日本・韓国・台湾における議会選挙の選挙制度(2024年3月末現在)

	名称	任期	定数	議席配分	議席決定方式	選挙区定数	選挙区数	備考	
日本	衆議院議員総選挙	4年	465	小選挙区	289	小選挙区制(相対多数制)	1	289	重複立候補制 惜敗率
				比例区	176	拘束名簿式比例代表制	6~28	11	
韓国	国会議員選挙	4年	300	小選挙区	253	小選挙区制(相対多数制)	1	253	女性候補者の30%割当を奨励
				比例区	47	拘束名簿式比例代表制	47	1	女性候補者50%割当(比例名簿の奇数に配列)
台湾	立法委員選挙	4年	113	小選挙区	73	小選挙区制(相対多数制)	1	73	
				比例区	34	拘束名簿式比例代表制	34	1	比例区の2分の1の定数は女性保証枠
				先住民枠	6	中選挙区制	3	2	山地先住民3議席 平地先住民3議席

(出所)筆者作成。

選挙制度とは、国民の代表者である政治家をどのようにして選び出すのかを定めるルールのことである。表1からもわかるように、選挙制度にはさまざまな関連したルールが含まれているが、そのなかでも最も基本的なルールとされるが議席決定方式である。議席決定方式とは、有権者の投票がどのように議席に変換され、当選者が確定するのか定めたルールである。日本の衆議院議員総選挙の議席決定方式は、小選挙区比例代表並立制と呼ばれるものである。小選挙区比例代表並立制とは、小選挙区制と比例代表制という2つの選挙制度を組み合わせたものである。小選挙区制とは1つの選挙区で1人の議員を選ぶ制度で、比例代表制は政党を単位として、各政党の得票率に比例した議席を配分する制度である^{*7}。韓国と台湾の議会選挙でも基本的に同じものが採用されている^{*8}。

【課題】

日本の参議院議員通常選挙ではどのような選挙制度が採用されているのか調べてみよう。

小選挙区比例代表並立制のもとでは、総議員定数の一定部分を小選挙区制で、残りを比例代表制によって、それぞれの選挙区で別々に選挙することになる。有権者は1人2票を持ち、小選挙区では候補者に投票し、相対多数制により1人の当選者が決まる。相対多数制とは、相対的に多数の票を獲得した候補者が当選するルールのことである。比例区では、有権者は政党に投票し、各政党にはその得票率に応じて議席が配分される。ここでは、各政党があらかじめ順位づけした候補者名簿をもとに、有権者が政党に投票する拘束名簿式比例代表制が用いられている。

ただし、3つの国・地域ではいくつかの相違点も見られる。第1に、小選挙区と比例区の議席の配分比率が異なっている。とりわけ韓国では、小選挙区に議席の配分が著しく偏っており、比例区が占める割合が極めて小さい。第2に、比例代表制における選挙区定数（各選挙区から選ばれる議席数）にも違いがある。日本の衆議院議員総選挙では全国を11のブロックに分けて、人口に応じて6~28の議席が配分されている。韓国と台湾ではともに全国を単一の選挙区として、韓国で2020年に行わ

*7 選挙制度については、(建林・曾我・待鳥 2008)を参照した。

*8 台湾の立法委員選挙では、複数のエスニック・グループから構成される社会構造を反映して、先住民枠が設けられ、中選挙区制(平地先住民・山地先住民の各選挙区から複数(各3人)の議員を選出)で選挙が行われている。しかし、先住民枠が全体に占める割合が小さいため、小選挙区比例代表並立制として扱われるのが一般的である。

れた第 21 代国会議員選挙では 47、2024 年の台湾の第 11 期立法委員選挙では 34 の議席が争われた。第 3 に、韓国と台湾では比例区での議席獲得に必要な最低得票率（いわゆる阻止条項）が設けられている。小政党の乱立を避けるのが狙いだが、小政党の活動にとって障害となり得るものである。韓国の場合、比例区での得票率 3 % 以上、または小選挙区での当選者 5 人以上の政党にのみ議席が配分される。台湾では、比例区での得票率 5 % 以上が議席獲得の条件とされており、韓国よりもハードルが高い^{*9}。

なお、日本の衆議院議員総選挙で見られる重複立候補は、韓国と台湾の議会選挙では認められていない。重複立候補とは、同じ候補者が小選挙区と比例区の双方に立候補することである^{*10}。日本の衆議院議員総選挙では、小選挙区で敗退して比例区で「復活当選」を果たす議員が出現する。いわゆる「ゾンビ」議員である。そもそもそんな制度が存在しない韓国や台湾では、ゾンビが現れることもない。

最後に、韓国と台湾の議会選挙にはジェンダー・クォータ（クォータ制）が導入されていることを指摘しておきたい。ジェンダー・クォータとは、政治の意思決定の場における男性優位の状況を是正するために、候補者や議席、政党幹部の一定比率を女性（または両性）に割り当てる制度のことである。韓国の国会議員選挙では、比例区の候補者の 50 % を女性に割り当てるのが義務づけられている。いわゆる「ジッパー方式」により、政党の候補者名簿には男女の候補者が交互に配列されている（奇数に女性候補者を配列）。小選挙区では女性に候補者の 30 % を割り当てるのが政党の努力義務とされている。台湾の立法委員選挙では、比例区での各政党の当選名簿の 2 分の 1 以上を女性とする制度が設けられている^{*11}。

【課題】

日本の衆議院議員総選挙に小選挙区比例代表並立制が導入された背景について調べてみよう。

3.2 大統領選挙

韓国と台湾で行われている、もう 1 つの選挙が大統領選挙である。韓国では、1987 年の民主化宣言を受けて行われた憲法改正により、大統領選挙において直接公選制が復活した。それ以前の軍事独裁体制下では、大統領選挙人団という選挙人によって、大統領は間接的に選出されていた。1948 年の建国後、直接公選制による大統領選挙を経験した時期があった韓国では、それを再び実現することこそが民主化を意味したのである。1987 年以降、大統領選挙は基本的に 5 年おきに実施され、2022 年の第 20 代大統領選挙まで合計 8 回行われている^{*12}。

台湾では、戦後長らく中国国民党による一党独裁体制が続いていたが、1990 年代初頭に本格化した民主化の過程で、総統選挙への直接公選制の導入が争点として浮上した。総統はそれまで、国会に相当する機関の 1 つとされた国民大会^{*13}による間接選挙で選出されていた。1994 年の第 3 回憲法改

^{*9} 韓国と台湾の選挙制度については、松本（2013）を参照した。

^{*10} 小選挙区で立候補した候補者を、比例区における政党の候補者名簿にも同時に掲載することができる。その場合、小選挙区での候補者の全部もしくはその一部を同じ順位にすることができる。同じ順位の候補者のなかで当選者を決める基準となるのが惜敗率である。惜敗率は、小選挙区における落選者の得票数を当選者の得票数で割った数値であり、当選者との差が小さければ惜敗率は高くなる。

^{*11} ジェンダー・クォータについては、三浦・衛藤編著（2014）を参照した。

^{*12} 第 18 代大統領の朴槿恵が 2017 年 3 月 10 日、弾劾裁判により罷免され失職したことから、第 19 代大統領選挙は同年 5 月 9 日に前倒しして行われた。

^{*13} 国会に相当する機関には国民大会、立法院、監察院の 3 つがあり「中央民意代表機構」と呼ばれていた。現在、国民大会は廃止され、監察院も中央民意代表機構ではなくなり「準司法機関」とされている。

正で直接公選制による大統領選挙の実施が決まり、1996 年の大統領選挙で実現した。以後、大統領選挙は直接公選制のもとで 4 年おきに定期的に行われており、2024 年の第 16 代大統領副大統領選挙で 8 回目を数えた。

表 2 は、韓国と台湾における大統領選挙の選挙制度を示したものである。大統領という 1 つのポストが全国的に争われる選挙制度は、全国を単一の選挙区とする小選挙区制と見なすことができる。韓国の大統領選挙でも、台湾の総統選挙でも、有権者は候補者に直接投票して、相対多数制で当選者が決まる。大統領選挙のなかには、フランスのように、当選するには過半数の得票を必要とする絶対多数制で行われるものもある^{*14}。韓国と台湾では大統領選挙でも、当選者の決定方式は同じ制度に収斂しているのである。

表 2 台湾・韓国における大統領選挙の選挙制度(2024年3月末現在)

	名称	任期	再選	議席決定方式	備考
韓国	大韓民国大統領選挙	5年	なし (単任)	相対多数制	候補者が1人のみのとき、全選挙人総数の3分の1以上の得票の場合のみ当選
台湾	中華民国正副総統選挙	4年	1回	相対多数制	正副ペアの義務化 2012年より立法委員選挙との同日選挙が定着

(出所)筆者作成。

相違点としては、第 1 に、台湾では副総統の職が設けられており、総統と副総統がペアで立候補することが義務づけられている^{*15}。第 2 に、台湾の総統は 1 回だけ再選が認められているが、韓国の大統領は単任制で再選が許されない。台湾の総統の任期は 4 年、韓国の大統領の任期は 5 年である。したがって、台湾の総統はルール上、2 期 8 年まで務めることが可能だが、韓国の大統領は 1 期 5 年限りということになる。

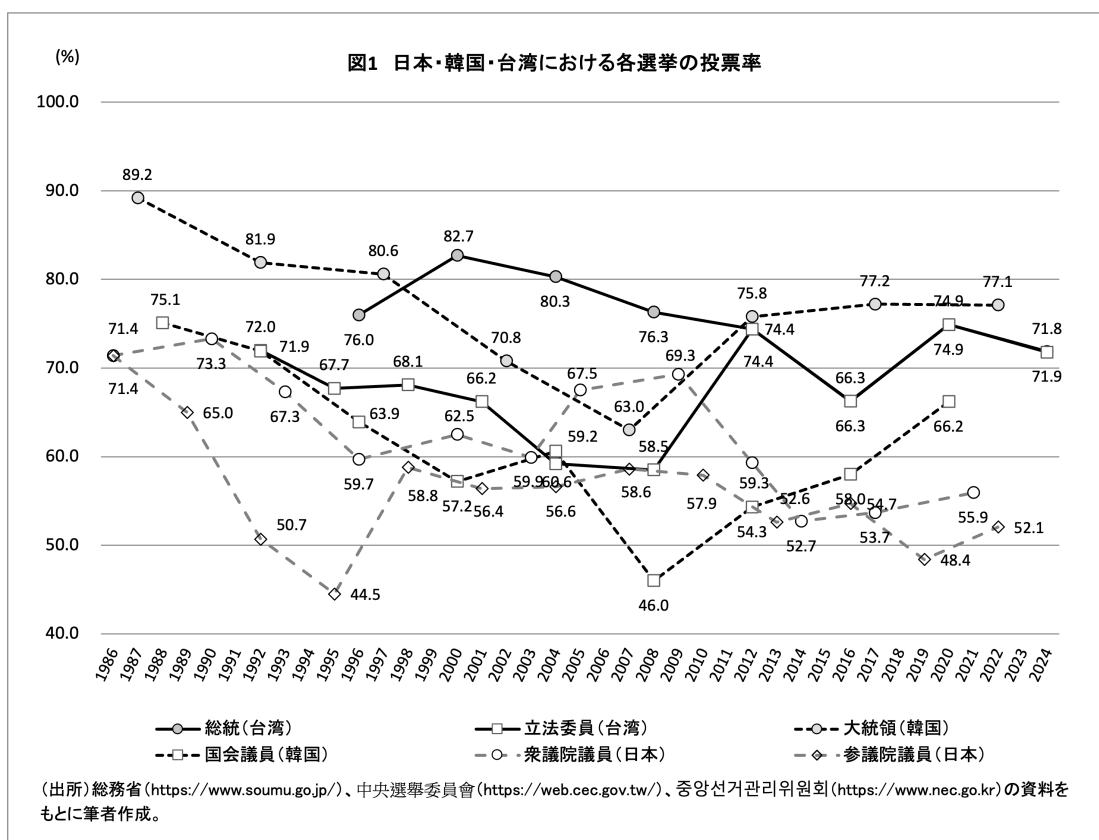
大統領選挙と議会選挙の選挙サイクルも異なっている。台湾では 2008 年から立法委員の任期が総統と同じ 4 年となり、2 つの選挙のサイクルが一致するようになった。さらに、2012 年からは 2 つの選挙が同日選挙で行われている。一方、韓国では大統領 (5 年) と国会議員 (4 年) の任期が異なるため、2 つの選挙はサイクルにズレが生じ、同じ日に行われることはない。

ところで、大統領制や半大統領制のもとでは、大統領選挙と同時に行われていない議会選挙において投票率が低くなる傾向がある。その理由は、有権者が議会選挙よりも、政権を選択する選挙である大統領選挙の方が重要だと考えがちだからである^{*16}。図 1 は、日本、台湾、韓国における各選挙の投票率である。韓国と台湾で民主化が始まった 1980 年代後半から最近までの投票率の推移を示している。

*14 第 1 回目の投票でどの候補も過半数 (絶対多数) の得票がない場合、上位 2 人の候補者による決選投票が行われる。フランスではこの制度が国民議会 (下院) 選挙でも採用されている。

*15 台湾では総統が欠位もしくは職務不能の場合、副総統がそれを後継もしくは代行する (中華民国憲法第 49 条)。韓国では副大統領が設けられておらず、大統領が職務不能となった際には国務総理が第 1 継承者と定められている (大韓民国憲法第 71 条)。

*16 詳しくは、レイプハルト/粕谷訳 (2014) を参照すること。



韓国と台湾の経験からも、大統領選挙の投票率は議会選挙に比べて相対的に高くなる傾向があることが確認できる。台湾では、同日選挙により立法委員選挙の投票率が引き上げられたことがわかる。日本でも、事実上政権選択の選挙となる衆議院議員総選挙^{*17}が、投票率で参議院議員通常選挙を上回るケースが多くなっている。

おわりに

本章では、東アジアの3つの国・地域——日本、韓国、台湾——の政治のあり方について、どこが似ていて、どこが違っているのかを見てきた。3つの国・地域には民主主義、その具体的な仕組みである代議制民主主義が根づいている。それを支えている政治制度、とくに執政制度と選挙制度に注目してみると、執政制度は3つの類型に分岐しているが、選挙制度は基本的に同一の制度に収斂していることがわかった。

ここまで話が進んだところで、皆さんのなかには「そもそも、なぜ執政制度が違っているの？」と疑問に思った人もいるだろう。それは「どの制度を取り入れるか」という制度の選択、もしくは「ある制度がどのように形成されたのか」という制度の生成にかかわる問題である。それぞれの国・地域に固有の、制度選択（もしくは制度生成）の歴史的背景を探ってみることが、疑問を解ききっかけになるだろう。

また、3つの国・地域のあいだで政治制度に違いがあるのなら、それぞれの制度がもたらす帰結は

^{*17} 議院内閣制の日本では首相を国会議員のなかから国会の議決で指名する。その際、衆議院の議決が参議院に優越するため、衆議院議員総選挙が有権者による事実上の政権選択の選挙になる。

どんなふうに違って来るのだろうかと考えた人がいるかもしれない。執政制度のバリエーションだけでなく、基本的には同じ議会選挙の選挙制度にも細かな違いが見られた。たとえば、ジェンダー・クオータの有無がそれである。果たして日本、韓国、台湾の議会における女性議員の数には明確な違いが生じているのだろうか。

逆に、制度が同じであっても、それによってもたらされる帰結が異なることもある。議会選挙が同じように小選挙区比例代表並立制のもとで行われていても、韓国と台湾では2つの大きな政党が競い合う二大政党制が定着しているのに対して、日本ではいわゆる「一強多弱」の状況が続いている。現在の日本では、政権を握っている自民党は衆参両院で過半数の議席を占める、大きくて強い与党である^{*18}。対する野党側は、与党に対抗できるだけの勢力結集がままならず、多数の政党に分裂している。同じ選挙制度が使われているのに、なぜそこから生み出される帰結が異なっているのか。選挙制度だけに目を向けては不十分ということなのだろうか。執政制度が違うからなのだろうか……とにかく、謎は尽きない。

本章を読んで、「いろいろ疑問がわいてきた!」、「なんだか気になってムズムズする!」なんていう人は、これからぜひ政治学関連の授業を履修したり、各国・各地域の政治にかんする書籍や新聞雑誌の記事を読んだりしてみしてほしい。尽きない謎を紐解いていくためのヒントを手にすることができるはずだから。

【課題】

日本の国会、韓国の国会、台湾の立法院における女性議員の数を調べてみよう。

参考文献

- 浅羽祐樹 (2010) 「首相がいる韓国の大統領制：首相の任命・解任をめぐる大統領と議会との関係」吉川洋子編『民主化過程の選挙：地域研究から見た政党・候補者・有権者』行路社。
- アレント・レイプハルト／粕谷祐子訳 (2014) 『民主主義対民主主義：多数決型とコンセンサス型の36か国比較研究』勁草書房。
- 建林正彦・曾我謙吾・待鳥聡史 (2008) 『比較政治制度論』有斐閣。
- 待鳥聡史 (2015) 『議院内閣制：「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論社 (中公新書)。
- 松本充豊 (2010) 「台湾の半大統領制：総統の『強さ』と政党リーダーシップ」粕谷裕子編著『アジアにおける大統領の比較政治学：憲法構造と政党政治からのアプローチ』ミネルヴァ書房。
- 松本充豊 (2013) 「小選挙区比例代表並立制による議会選挙と大統領選挙：台湾・韓国」岩崎正洋編『選挙と民主主義』吉田書店。
- 三浦まり・衛藤幹子編著 (2014) 『ジェンダー・クオータ：世界の女性議員はなぜ増えたのか』明石書店。

*18 正確には、自民党と公明党による連立政権（自公連立政権）であるため、自公両党が与党である。

編集：京都女子大学現代社会学部
発行：2024年4月1日